審査意見への対応を記載した書類（第一次）

（目次）保健学研究科　保健学専攻（M）

【大学等の設置の趣旨・必要性】
1 ＜養成する人材像とディプロマ・ポリシーの関係性が不明確＞
　養成する人材像の具体的な活動分野としてケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ分野の 3 分野が挙げられているが、ディプロマ・ポリシーは当該分野共通のものとして１つのみ掲げられており、関係性が不明確であるため、具体的に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

2 ＜養成する人材像と 3 ポリシー、教育課程の関係性が不明確＞
　養成する人材像の具体的な活動分野として（１）ケア提供システム分野、（２）人間発達ケア分野、（３）健康コミュニティ分野の 3 分野が挙げられているが、ディプロマ・ポリシーは当該分野共通のものとして１つのみ掲げられており、基礎となる学部の学問分野との関係も明記されていないため、人材像と 3 ポリシー、教育課程の整合性が不明確である。また、例えば（１）は医療機関及び地域の保健医療チームのマネジメント、（３）は公衆衛生の課題に多職種で協働するチームの核となるなど、その差異が曖昧である。これら不明確な点それぞれについて、具体的に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

3 ＜設置の趣旨・必要性が不明確＞
　本研究科を設置する必要性として長野県北信地域において医療専門職を養成する大学院が存在しないことを理由として挙げているが、地域内の医療従者へのアンケート調査において進学を勧奨したいという者が 3 割程度であるなど、具体的な活動分野としているケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ分野が長野県北信地域の人材ニーズと対応しているか、不明確である。同地域の高齢者ケアの現況も踏まえ、養成する人材像と地域ニーズの対応について具体的に説明すること。（是正事項）・・・・・・・・・・・　7

4 ＜アドミッション・ポリシーと入学者選抜の関係性が不明確＞
　アドミッション・ポリシーとして、「保健学領域に関する基礎的な学力と実務能力を有する」こと等を挙げているが、入学試験受験資格はそれらの条件を課していない。また、学力試験等においても保健学領域に関する基礎的な学力を問う試験が課されておらず、アドミッション・ポリシーに掲げる人材を選抜できるかや 3 分野との関係性が不明確である。受験資格や選考方法がアドミッション・ポリシーや 3 分野に対応したものとなるよう、適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　19

【教育課程等】
5 ＜基礎となる学部との教育課程の関係が不明確＞

基礎となる学部である看護学部・保健科学部の学問分野を統合した研究科を設置するとしているが、一方でケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ分野の 3 分野に専門科目が分類されており、関係性が不明確である。3 分野について、基礎となる学部の学問分野とどのように対応しているのか、明確にすること。（是正事項）・・・・・　24

6 ＜授業科目の必修・選択の設定が不適切＞

ディプロマ・ポリシー「研究・教育活動による後進を育成する能力」を修得するための授業とされている「保健医療教育論」「保健医療教育実践論」や、ディプロマ・ポリシー「高度専門的職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力」を修得するための授業とされている「英語文献購読」など、ディプロマ・ポリシーに位置付けられている授業科目の必修・選択の設定について、適切に改めること。

（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　28

7 ＜授業科目の内容等が不適切＞

授業科目の内容等について、以下の例の様に不適切と思われる点が散見されることから、全体について見直し、適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・　42

（1）ディプロマ・ポリシーとして挙げられている高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力に対応する履修科目として「医療倫理学」を必修としているが、同科目の履修内容で医療倫理観が修得できるか不明確である。

（2）「ケア提供システム演習Ⅱ」など、演習系の科目で研究計画書の作成まで行っている。

（3）「英語文献講読」について、単に文献を講読するのみでは大学院教育にふさわしい科目名称とは言えない。

（4）授業の到達目標について、例えば「医療倫理学」において、「自分の言葉で表現できる」など、大学院教育の到達目標として不適切であると思われる科目が散見される。

8 ＜授業科目の評価方法が不明確＞

授業科目の評価方法について、以下の点が不明確であることから、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・　79

（1）学修成果の評価方法について明確な方針の記載がなく、カリキュラム・ポリシーにも定められていないことから、適切に改めること。

（2）シラバスに記載されている評価方法について、以下の例のように不明確かつ客観的評価ではないと思われる科目が散見されるので、全体について見直し、適切に改めること。

・「多職種連携論」では評価項目としてグループワーク参加状況が挙げられている。

・「人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）」では、論理性・妥当性・新規性の観点から評価するとされており、特に「新規性」の項目は評価基準として不明確。

9 ＜修士論文の審査体制が不明確＞

審査会の構成において、例えば以下に示されるように不明確な点があるので、全体につい

て見直し、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・　85

（１）主査は研究指導教員（担当する研究課題を除く。）とあるが、具体的にどのような者が充てられるのか、副研究指導教員が充てられる可能性があるのか、など不明確である。

（２）論文の評価基準について「ディプロマ・ポリシーに該当する能力を有することを確認する」とあるのみで、具体的にどのような基準で審査を行うのか不明確である。

（３）審査員の仮決定後、正式な審査員の決定のタイミングが不明確である。

10 ＜シラバスの記載方法が不明確＞

シラバスの記載内容について、以下の例のように不明確又は不適切と思われる科目が散見されるので、全体について見直し、適切に改めること。(改善事項)・・・・・・・・・　89

（１）論理性・妥当性・新規性の観点から評価するとされているなど、評価基準が具体的でないもの（「人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学)」)。

（２）授業回数が目途も含め一切の記載がないもの（「保健学特別研究」)。

（３）到達目標について、「～を理解する」など観察可能な目標が一切記載されていないもの（「ケア提供システム特論」)。

（４）授業内容が標題のみで具体的に示されておらず、テキストも示されていないもの（「保健医療マネジメント論」)。

（５）授業内容の差異が分からないもの（「保健医療研究法」)。

【教員組織等】

11 ＜研究指導補助教員数が大学院設置基準を満たしていない＞

研究指導補助教員数について、大学院設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　111

12 ＜教員組織の将来構想が不明確＞

教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(是正事項)・・・・・・　112

【名称、その他】

13 ＜研究上必要な施設・設備が十分に整っているか不明確＞

大学院専用の施設・設備として挙げられているのは研究室のみであり、他は全て学部生と共用することとされている。大学院生が研究を実施するにあたり十分な研究スペースが確保されているか、研究に支障なく施設・設備を利用可能であるか不明確であるので、具体的に説明すること。(改善事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　115

14　審査意見への対応以外の変更

書類の不備の修正・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　118

（是正事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【大学等の設置の趣旨・必要性】
1 ＜養成する人材像とディプロマ・ポリシーの関係性が不明確＞
　養成する人材像の具体的な活動分野としてケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ分野の 3 分野が挙げられているが、ディプロマ・ポリシーは当該分野共通のものとして１つのみ掲げられており、関係性が不明確であるため、具体的に説明すること。

（対応）
　３分野共通のディプロマ・ポリシーとして以下の 5 点についてのみ掲げていたが、審査意見を考慮し改めて内容を見直したところ、養成する人材像に示している「ケア提供システム分野」、「人間発達ケア分野」、及び「健康コミュニティ分野」との関係性を明確にするため、新たに上記３分野別のディプロマ・ポリシーを設定することとした。また、3 分野共通の⑤については各分野との整合を図るため、マネジメントできる能力を発揮する組織について具体的に例示することとした。なお、④については、前後のつながりからより自然な字句になるよう「による」を「により」に修正した。

３分野共通のディプロマ・ポリシー
①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力
②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力
③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力
④　研究・教育活動により後進を育成する能力
⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力

　ケア提供システム分野については、A1 高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力、A2 専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力、A3 専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力の 3 つを加えることとした。

　人間発達ケア分野については、B1 専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力、B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力、B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力の３つを加えることとした。

　健康コミュニティ分野については、C1 地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力、C2 地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力、C3　地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛

生行政に反映できる能力の３つを加えることとした。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（7ページ）

新	旧
４　修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 本研究科のディプロマ･ポリシーを以下に示す。 （1）３分野共通のディプロマ・ポリシー ①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 ②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 ③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 ④　研究・教育活動により後進を育成する能力 ⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 (2) 分野別ディプロマ・ポリシー ア　ケア提供システム分野 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力 イ　人間発達ケア分野 B1　専門分野の発展のために必要な課	４　修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 本研究科では、以下の能力を修得した者に修士（保健学）の学位を授与する。 ①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 ②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 ③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 ④　研究・教育活動による後進を育成する能力 ⑤　医療機関、地域などでの保健医療福祉チームをマネジメントできる能力

題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力 ウ　コミュニティ分野 C1　地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2　地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3　地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力	

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類　資料９

新	旧
別紙１　資料９　保健学専攻履修プロセス概念図　新	別紙１　資料９　保健学専攻履修プロセス概念図　旧

（是正事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【大学等の設置の趣旨・必要性】
2 ＜養成する人材像と 3 ポリシー、教育課程の関係性が不明確＞
　養成する人材像の具体的な活動分野として（1）ケア提供システム分野、（2）人間発達ケア分野、（3）健康コミュニティ分野の 3 分野が挙げられているが、ディプロマ・ポリシーは当該分野共通のものとして 1 つのみ掲げられており、基礎となる学部の学問分野との関係も明記されていないため、人材像と 3 ポリシー、教育課程の整合性が不明確である。また、例えば（1）は医療機関及び地域の保健医療チームのマネジメント、（3）は公衆衛生の課題に多職種で協働するチームの核となるなど、その差異が曖昧である。これら不明確な点それぞれについて、具体的に説明すること。

（対応）
　審査意見 1 を考慮して全体を見直し、共通のディプロマ・ポリシーに分野別のディプロマ・ポリシーを加え明確にした。また、後述する審査意見 4 を考慮して全体を見直し、分野別のアドミッション・ポリシーを明示した。さらに、後述する審査意見 6 及び審査意見 7 を考慮して全体を見直し、必修・選択の履修要件の変更、授業科目の内容及びシラバスの修正などによりカリキュラム・ポリシーについても適切な内容とした。これらの見直しによる修正により、人材像と 3 つのポリシー、教育課程との整合性を明確にした。

　ケア提供システム分野については、「医療機関、地域などの保健医療チーム」としていたものを、「主として医療機関におけるチーム」を対象とすることとし、看護師、理学療法士、作業療法士の部門にあってチームマネジメントを行う人材を教育し、ひいてはそれぞれの職場にあって管理職に就く人材を養成することとした。

　人間発達ケア分野については、看護師、理学療法士、作業療法士それぞれの持つ専門性を高めることにより高度専門職業人として人間発達の様々なステージにおける健康課題について実践活動を行うとともに、多職種協働を推進できる人材を養成する。さらにそれぞれの専門性の深化、多職種協働チームに関連した研究を自ら行う人材であることも養成の要点とすることとした。

　健康コミュニティ分野については、「公衆衛生の課題に多職種協働チームを編成して取り組む」こととしていたものを、「保健師活動を主として、地域における公衆衛生上の課題に多職種協働チームを編成して取り組む」こととし、チームの中心的役割を担い業務を推進する人材であるとともに、専門性深化のための研究及び行政職務に通暁した人材を養成することとした。

　研究者・教員の養成については、上記のいずれかの分野の修得の後に、さらに大学院後期課程を目指し、それぞれの専門分野の研究職に就く人材並びに保健医療専門職養成機関で教

育職に就く人材を養成することとした。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（6ページから7ページ）

新	旧
3　養成する人材像 本研究科において養成する人材像は、基盤とする学部の看護学、理学療法学、作業療法学を統合した学際的視野に基づいて幅広い学識を涵養し、研究能力や高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培うことにより、高度な専門性や研究能力・教育能力を持ち、組織内、医療チーム内の枠を超えて、組織横断的に活動でき、調整力やマネジメント力を発揮できるような人材、及び専門職医療人を育成できる人材である。 具体的な活動分野と人材像は以下を想定している。 (1) ケア提供システム分野： 主として医療機関における看護師、理学療法士、作業療法士の部門にあってチームマネジメントを行う人材を３ポリシーの内容に従って教育し、ひいてはそれぞれの職場にあって管理職に就く人材を養成する。 (2) 人間発達ケア分野： 看護師、理学療法士、作業療法士それぞれの持つ専門性を高めることにより高度専門職業人として人間発達の様々なステージにおける健康課題について実践活動を行うとともに、多職種協働を推進できる人材を３ポリシーの内容に従って養成する。さらにそれぞれの専門性の深化、多職種協働チームに関連した研究を自ら行う人材であることも養成の要点とする。	3　養成する人材像 本研究科において養成する人材像は、基盤とする学部の看護学、理学療法学、作業療法学を統合した学際的視野に基づいて幅広い学識を涵養し、研究能力や高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培うことにより、高度な専門性や研究能力・教育能力を持ち、組織内、医療チーム内の枠を超えて、組織横断的に活動でき、調整力やマネジメント力を発揮できるような人材、及び専門職医療人を育成できる人材である。 具体的な活動分野と人材像は以下を想定している。 (1) ケア提供システム分野： 医療機関、地域などの保健医療チームのマネジメントを行う人材並びに前記保健医療チームのマネジメントに関する研究を行う人材。 (2) 人間発達ケア分野： それぞれの持つ専門性を高めて、人間発達の様々なステージにおける健康課題についてチームとして参加し、各々の専門性を発揮した活動を行うとともに、チームの核となり、多職種協働を推進できる人材並びに前記の課題についてそれぞれの専門性の深化、多職種協働チームに関連した研究を行う人材。 (3) 健康コミュニティ分野： 公衆衛生の課題に多職種協働チームを編成して取り組み、各々の専門性を発

(3) 健康コミュニティ分野： 保健師活動を主として、地域における公衆衛生上の課題に多職種協働チームを編成して取り組み、チームの中心的役割を担い業務を推進する人材であるとともに、専門性深化のための研究及び行政職務に通暁した人材を３ポリシーの内容に従って養成する。 (4) 研究者・教員の養成： 上記のいずれかの分野の学修・研究過程を通じて、研究職・教育職にとって基礎となる知識・技能を持つ人材を３ポリシーの内容に従って養成する。	揮した活動を行うとともに、チームの核となり、多職種協働を推進できる人材並びに前記の課題についてそれぞれの専門性の深化、多職種協働チームに関連した研究を行う人材。 (4) 教員養成： 上記のいずれかの分野の研究をおさめ、医療専門職を養成する教育職を目指す人材。

（是正事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【大学等の設置の趣旨・必要性】
3 ＜設置の趣旨・必要性が不明確＞
本研究科を設置する必要性として長野県北信地域において医療専門職を養成する大学院が存在しないことを理由として挙げているが、地域内の医療従者へのアンケート調査において進学を勧奨したいという者が 3 割程度であるなど、具体的な活動分野としているケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ分野が長野県北信地域の人材ニーズと対応しているか、不明確である。同地域の高齢者ケアの現況も踏まえ、養成する人材像と地域ニーズの対応について具体的に説明すること。

（対応）
県内の医療機関、看護師、理学療法士、作業療法士の勤務状況、教育環境の現状から、設置の必要性を述べていたが、審査意見を考慮し内容を全体的に見直したところ、「前文」において、社会の趨勢と専門職人材の重要性と専門性の分化と統合について記載することとした。
「ア　全国の動向」として、中央教育審議会答申にあるように大学院教育で養成が期待される人材は教育者、研究者、高度専門職業人、知識基盤社会を支える高度で知的素養のある人材な専門性の一層の向上を図るための深い知的学識の涵養する教育を基本としていること、看護系大学院において特定領域の高度専門職業人や保健・医療・福祉に携わる専門職の共同においてマネジメント能力を発揮できる人材の養成を目指していること、職能団体が大学院での教育の重要性を明確にしていることを記載することとした。
「イ　職能団体の専門分化の志向性」として、職能団体の専門資格制度について記載することとした。
「ウ　県内の人口減少・超高齢社会の現況」として、長野県の年齢３区分の人口構成と将来予測、長寿県ではあるが高齢者ケアにおける看護、介護、リハビリテーションサービスのニーズが高いこと、医療専門職業人の養成が求められていることを記載した。
「エ　県内の医療専門職従事者の進学意向」として、学生の確保等の見通しを記載した書類におけるアンケート結果から導き出される進学以降について記載した。
「オ　県内医療施設事業者の大学院教育に対する考え方」として、学生の確保等の見通しを記載した書類における県内の施設管理者に対するアンケート結果により、大学院設置についての意向について記載した。
既述の「※　長野県における医療機関、看護師、理学療法士、作業療法士の勤務状況、教育環境の現況」を「カ　長野県における医療機関、看護師、理学療法士、作業療法士の勤務状況、教育環境の現況」として、北信地方に大学院を設置する意味について記載した。
既述の「※　大学卒業者の進学状況」を「キ　大学卒業者の進学状況」として、学生の確保等の見通しを記載した書類において分析した学校基本調査の各種データから大学院志願者が存在することを記載した。
「ク　地域ニーズに対応する養成する人材像」として、アからキで記載した内容をまとめ、高齢者ケアの現況も踏まえ、ケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ

分野が北信地域の人材ニーズと対応していることについて具体的に記載することとした。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（5ページから6ページ）

新	旧
（2）設置の必要性 人口減少・超高齢化が進行する社会において、地域の保健・医療・福祉の基盤強化、発展に取り組み、社会の健康水準の維持・向上に貢献できる専門職人材の育成は重要な課題である。人口減少・超高齢社会となり子供を産み育て、健全な成長・発達を支援する少子化対策、成人の働き方改革、生活習慣病対策、治療と仕事の両立支援、障害者の就労支援、高齢者の健康増進、介護予防、認知症対策、終末期医療など人間発達の諸段階における保健・医療・福祉の課題への取り組みの重要性が増している。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミック発生により、新興感染症などに対する感染症対策の社会の持続性維持、発展にとっての重要性が再認識されている。 このような時代に、保健・医療・福祉の専門職は学問的専門性の深化・進歩により専門性を分化させ、その責務を果たそうとしている。専門分化した専門性を保健・医療・福祉サービスとして多様なニーズをもつクライアントに提供する際には、専門性を統合することが求められる。すなわち、今日の保健・医療・福祉サービスに関わる専門職には、専門性を高めるという分化と、多職種と連携して専門性を統合したサービスとして提供する能力が求められると考えられる。 理学療法学、作業療法学、看護学の領域において進められている分化による専門性の追求は、それぞれの職能団体における資格認定制度の中に具現化されている。	（2）設置の必要性 本学は、以下のデータに基づいて、大学院を設置する必要性を判断した。保健系大学院設置の必要性を判断する際に用いた資料は「学生の確保の見通し等を記載した書類」において詳述する。 ※　長野県における医療機関、看護師、理学療法士、作業療法士の勤務状況、教育環境の現況 ①　長野県は行政的に北信、東信、中信、南信の4地方分けられ、本学が位置する長野県北信地方は、県庁所在地であり、人口規模も県下で最大である。 ②　北信地方の看護師、理学療法士、作業療法士の勤務する医療機関は県内で最も多い。 ③　北信地方の病院に従事する看護師は他の県内3地方よりも多い。北信地方の病院に従事する理学療法士、作業療法士数は、他の県内3地方並みである。 ④　長野県内の看護系大学は５校あり、北信地方に本学を含め２校（1 学年入学定員：156 人）、東信地方、中信地方、南信地方に各１校（1 学年入学定員：計 240 人）ある。 看護学に関係する大学院は、東信地方に佐久大学（1学年入学定員：10人）、中信地方に信州大学（看護学、検査技術科学、理学・作業療法学を含む 14 人）、南信地方に長野県看護大学（1学年入学定：16人）があり、北信地方には看護系大学院がなく、北信地方の看護職で大学院への進学希望者は、東

近年、保健・医療・福祉専門職の養成大学が増えるとともに、専門職の専門性向上をめざした大学院教育の必要性が認識され、専門職の専門性向上の意欲も高まっている。

ア　全国の動向

中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」（平成 17 年 9 月）では、今後の大学院教育の基本的な考え方を①大学院教育の実質化、②国際的な通用性、信頼性の向上を通じ、世界規模での競争力の強化を図ることとしている。重要な視点として、教育研究機能強化の推進があげられ、教育の在り方としては、学部段階における教養教育と、これに十分裏打ちされた専門的素養の上に立ち、専門性の一層の向上を図るための、深い知的学識を涵養する教育を行うことが基本とされ、大学院教育で養成が期待される人材は教育者、研究者、高度専門職業人、知識基盤社会を支える高度で知的素養のある人材が挙げられている。

「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」（平成 23 年 3 月 11 日）では、看護系大学院における人材養成においては、看護学の学術研究を通じて社会に貢献できる研究者や教育者の養成、学士課程では養成困難な，特定領域の高度専門職業人や、保健、医療、福祉等に携わる専門職の協働においてマネジメント能力を発揮できる人材の養成を目指すとされている。

日本看護協会、日本理学療法士協会は大学院教育の推進を文部省あるいは文部科学省に要望している。日本作業療法士協会は、専門作業療法士養成制度において、効率性と質の保証を図るため、大学院教育との連携を推進することとしお

信地方の佐久大学、中信地方の信州大学、南信地方の長野県看護大学、隣接県である新潟県上越市の新潟県立看護大学に進学している。

リハビリテーションに関係する大学院は、中信地方の信州大学（看護学、検査技術学、理学・作業療法学を含め 1 学年入学定員 14 人）に設置されているのみである。

これらのことから、長野県北信地方は県内の 3 地方より、人口、看護及びリハビリテーション専門職数、これらの専門職が勤務する医療機関数、看護大学の入学定員数も多いが、県内の他の 3 地方にはある医療専門職が学ぶ大学院が、北信地方にはないために、この地方の大学院志望者は、他の地方のまたは隣接県にある大学院に在籍していることが明らかとなった。

※　大学卒業者の進学状況

後述する学校基本調査等の集計結果からは以下のことが読み取れる。

① 長野県の大学卒業者の年平均進学率は 22.9%で、全国の約 2 倍の進学率を示している。

② 私立大学大学院における入学志願者の志願者倍率は年平均 1.41 倍である。

③ 全国の保健系大学院における入学志願者にしめる当該大学卒業者の割合は年平均 42.7%、入学者に当該大学卒業者が占める割合は年平均 49.2%である。

④ 大学院在学者における社会人が占める割合は年平均 57.1%である。

⑤ 本学の前身である長野医療技術専門学校の 2 期生以降の卒業生は文部科学省の大学院入学資格認定（高度専門士）を受けている。長野保健医療大学卒業生を加えると 1,000 名を超える。

このことから、長野県北信地方は県内の

り、大学院での作業療法士教育の重要性を明確に示している。 イ　職能団体の専門資格制度 　今日の保健・医療・福祉の専門職には、科学の進歩、社会の変化により分化による学問性の深化、技術の進歩を図り、高められた専門性を多職種連携チームによる統合サービスとして提供することが求められている。理学療法学、作業療法学、看護学の領域における特定領域の高度専門職人の育成は、それぞれの職能団体における資格認定制度として推進されている。日本看護協会では大学院修士課程における専門看護師の育成、大学院修士課程修了者に一定の実務経験があれば認定試験の受験資格を与える認定看護管理者制度を運用している。日本理学療法士協会では、認定理学療法士、地域包括ケアシステムに関する推進リーダー、指定管理者、日本作業療法士協会では認定作業療法士の資格認定制度を整備している。多職種が連携してケアを提供する場面において、大学院修士課程での教育を通じ、論理的・科学的思考ができる能力が求められていることを示している。 ウ　県内の人口減少・超高齢社会の現況 　令和２年の長野県人口は 203.3 万人（0～14 歳：245 千人、15～64 歳：1,129 千人、65 歳以上：659 千人）、高齢化率は 32.4％である。令和 27（2045）年には、人口は 161.5 万人（0～14 歳：157 千人、15～64 歳：774 千人、65 歳以上：673 千人）高齢化 41.7％となると予測されている（日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）　－平成 27（2015）～	３地方より、人口、看護及びリハビリテーション専門職数、これらの専門職が勤務する医療機関数、看護大学の入学定員数も多い。県内の他の３地方にはある医療専門職が学ぶ大学院が、北信地方にはなく、この地方の大学院志望者は、他の地方の、または隣接県にある大学院に在籍している。 　このような状況を踏まえ、長野県の大学卒業者の進学率は全国の約２倍と、大学院進学志望者の割合が高いこと、全国的に入学定員を超える数の者が大学院に入学を志望していること、さらに、大学院入学者に占める当該大学卒業者が約５割、大学院在学生に占める社会人の割合が約６割であることから、北信地方には、社会人である本学の卒業生を含む大学院進学志望者が潜在しており、社会的背景ならびに専門職団体の要望等を総合的に勘案し、北信地方に大学院を設置する必要性があると考え、本学がその必要性に応えることとした。

57（2045）年ー　国立社会保障・人口問題研究所）。平成28年の出生数は15,169人、人口千対9.3人（全国順位30位）である（長野県の人口動態統計（平成28年確定数））。 　平均寿命は男が81.75歳（全国2位）、女が87.67歳（全国1位）（平成27年都道府県別生命表）、健康寿命「日常生活が自立している期間：介護度２以上の要介護状態の平均期間」は、男80.7年、女84.9年（全国1位）と長く（資料24）、「日常生活に制限のない期間」は男72.11年（全国20位）、女74.72年（全国27位）、「自分が健康であると自覚している期間」は、男72.25年（全国24位）、女75.59年（全国26位）と短い。（資料25）訪問看護ステーション利用者数は人口千人あたり18.91人（全国12位）である。（資料26） 　長野県は、長寿県で、自立した日常生活の期間は長く、介護サービスを利用する期間は短いが、日常生活に制限があって不健康と自覚して生活を送っている期間が長い。訪問看護ステーション利用者の割合が比較的高いことから、その間の健康の維持、日常生活制限の軽減は、看護、介護サービスの利用によりを図られており、高齢者ケアにおける看護、介護、リハビリテーションサービスのニーズは多く、サービスの向上、充実のためには医療専門職業人の養成が求められる状況にあると考えられる。 エ　県内の医療専門職従事者の進学意向 　長野県内の保健医療機関等に勤務する医療系専門職ならびに本学に在籍する学生に行った入学意向等に関するアンケート調査では、本学が大学院を設置するこ	

とは、これからの保健医療福祉の発展と向上に有益と思うかという質問に対して、回答者の 92.3%が「非常に有益だと思う」と「有益だと思う」と回答し、71.9%の回答者は自身の将来について「幅広い知識を修得し、専門性を高めたい」、「臨床現場での管理職につきたい」、「教職に就きたい」、と「研究職に就きたい」などの希望を表明していた。その内訳は「幅広い知識を修得し、専門性を高めたい」との回答者が最も多く（63.4%）、ついで「臨床現場での管理職につきたい」（12.8%）、「教職に就きたい」（5.3%）、と「研究職に就きたい」（3.1%）であった。

また、「幅広い知識を修得し、専門性を高めたい」との回答は 20 歳、30 歳代の看護師、理学療法士、作業療法士に多く、「臨床現場での管理職につきたい」は、看護師では 40 歳、50 歳代に漸増し、理学療法士、作業療法士は 20～40 歳代に多い。「教職に就きたい」は、看護師は 30～40 歳代に、理学療法士、作業療法士は 20～30 歳代に多く、「研究職に就きたい」は、看護師は 30～40 歳代に、理学療法士、作業療法士は 20～30 歳代に多かった。

オ　県内医療施設事業者の大学院教育に対する考え方

県内の施設管理者への調査では、構想大学院の設置には 92.3%の施設が有益と回答し、事業所内に大学院に進学する適当な人材がいる場合、「本人の意思に任せる」が 66.7%、「積極的に進学を勧めたい」と「勧めたい」が 33.3%であった。

構想大学院の修了生に関する採用意向については、「採用したい」及び「採用を検討したい」という回答が病院等で 15 施

設、介護老人保健施設で7施設、計22施設（56.4%）が寄せられた。 以上のエ、オから、長野県内の保健・医療・福祉専門職の専門性向上に関するニーズと関心が高く、施設管理者の職員の大学院教育についての理解はあり、専門職、施設管理者ともに大学院教育に期待を抱いていると考えられる。 カ　長野県における医療機関、看護師、理学療法士、作業療法士の勤務状況、教育環境の現況 ①　長野県は行政的に北信、東信、中信、南信の 4 地方分けられ、本学が位置する長野県北信地方は、県庁所在地であり、人口規模も県下で最大である。 ②　北信地方の看護師、理学療法士、作業療法士の勤務する医療機関は県内で最も多い。 ③　北信地方の病院に従事する看護師は他の県内 3 地方よりも多い。北信地方の病院に従事する理学療法士、作業療法士数は、他の県内 3 地方並みである。 ④　長野県内の看護系大学は５校あり、北信地方に本学を含め２校（1 学年入学定員：156 人）、東信地方、中信地方、南信地方に各１校（1 学年入学定員：計 240 人）ある。 ⑤　看護学に関係する大学院は、東信地方に佐久大学（1 学年入学定員：10 人）、中信地方に信州大学（看護学、検査技術科学、理学・作業療法学を含む 14 人）、南信地方に長野県看護大学（1 学年入学定：16 人）があり、北	

信地方には看護系大学院がない。 　北信地方の看護職で大学院への進学希望者は、東信地方の佐久大学、中信地方の信州大学、南信地方の長野県看護大学、隣接県である新潟県上越市の新潟県立看護大学に進学している。 ⑥　リハビリテーションに関係する大学院は、中信地方の信州大学（看護学、検査技術学、理学・作業療法学を含め１学年入学定員 14 人）に設置されているのみである。 　長野県北信地方は県内の３地方より、人口、看護及びリハビリテーション専門職数、これらの専門職が勤務する医療機関数、看護大学の入学定員数も多いが、この地方の大学院志望者は、県内の他地方、または隣接県にある大学院に在籍している。 　これらのことから、北信地方に大学院進学志望者がおり、大学院を設置することは、この地方の専門職の能力向上を志望する者に大学院教育の場の整備することを通して、高度専門職人材を育て、医療機関の機能向上、地域社会の保健・医療・福祉の基盤強化に貢献できると考えられる。 キ　大学卒業者の進学状況 　後述の学校基本調査等から読み取れる以下のことから、長野県内に相当数の大学院志願者が存在すると考えられる。 ①　長野県の大学卒業者の年平均進学率は 22.9%で、全国の約２倍の進学率を示している。 ②　私立大学大学院における入学志願	

者の志願者倍率は年平均 1.41 倍である。 ③　全国の保健系大学院における入学志願者にしめる当該大学卒業者の割合は年平均 42.7%、入学者に当該大学卒業者が占める割合は年平均 49.2%である。 ④　大学院在学者における社会人が占める割合は年平均 57.1%である。 ⑤　本学の前身である長野医療技術専門学校の２期生以降の卒業生は文部科学省の大学院入学資格認定（高度専門士）を受けている。長野保健医療大学卒業生を加えると 1,000 名を超える。 ク　地域ニーズに対応する養成する人材像 上記アからキまでの記述をまとめる。 ①　長野県の人口減少、超高齢化は進行しており、出生数は多くない。人間発達の諸段階における保健・医療・福祉ニーズに対応することが重要な課題である。 ②　長野県は、長寿県で、自立した日常生活の期間は長く、介護サービスを利用する期間は短いが、日常生活に制限をもっても自立した生活を送っている期間が長い。訪問看護ステーション利用者の割合が高いことから、その間の日常生活制限の軽減に、看護、介護サービスが利用されており、高齢者ケアにおける健康増進、看護、介護、リハビリテーションサービスのニーズは多く、サービスの向上、充実のために医療専門職業人の養成が求められると考え	

られる。 ③　長野県内の大学生、医療専門職従事者の進学意向は高く、「幅広い知識を修得し、専門性を高めたい」、「臨床現場での管理職につきたい」、「教職に就きたい」、と「研究職に就きたい」などの希望が多い。 ④　職員の大学院教育についての理解を示す医療施設事業者は少なくない。 ⑤　北信地域は令和２年４月１日現在の人口が 61 万人余（全県の 30%）であり県内で最も人口規模が大きい。65 歳以上人口も、19 万 6 千人（全県の 30.1%）と最も多い。 ⑥　北信地方は看護及びリハビリテーション専門職数、これらの専門職が勤務する医療機関数、看護大学の入学定員数も多い。 ⑦　北信地方には県内の他の３地方にはある医療専門職が学ぶ大学院がなく、この地方の大学院志望者は、県内の他地方の、または隣接県にある大学院に在籍している。 このような状況を踏まえると、北信地方には人間発達の諸段階（こども、成人、高齢者）における健康増進、保健・医療・福祉サービスの充実・発展が求められる状況にあるといえる。北信地方には、社会人である本学の卒業生を含む大学院進学志望者が潜在しているが、受け皿となる大学院がない。社会的背景ならびに専門職団体の要望等を総合的に勘案し、北信地方に大学院を設置する必要性があると考え、本学がその必要性に応えることとした。 本学の大学院は、看護学、理学療法学、	

作業療法学の専門職団体が指向する特定領域の専門性の深化を図る教育課程を設けることとし、看護管理者、施設管理者などケア提供システムの管理に関する課題を扱うケア提供システム分野、母子看護、ウィメンズ・ヘルス、成人の生活習慣、健康増進、高齢者の生活機能、青少年・成人のスポーツ傷害など人間発達の諸段階における健康に関する課題を扱う人間発達ケア分野、新型コロナウイルス感染症など新興感染症への対策、高齢者の健康増進、介護予防などコミュニティの健康課題を扱う健康コミュニティ分野を設けた。さらに、これら分化により深化した専門性をチームとして統合的に地域の健康課題の解決に活かす高度専門職人材を育成することを上位目標とし、保健学研究科のもとに上記3分野を置くこととした。 　大学院の基礎となる本学の学問分野が、理学療法学、作業療法学、看護学であり、卒業生が医療機関、老人福祉施設等に就職し活躍している。職能団体からの大学院設置要望（資料8）及び就業者や在学生からさらに高度な学問を究めたいというアンケート結果も踏まえ、本学の強みを活かしながらこうした要望に応えていくことも本学に課された責務であると考える。	
別紙2 設置の趣旨等を記載した書類 「資料24　都道府県別・男女別　健康寿命・平均寿命の比較」のとおり	―
別紙3 設置の趣旨等を記載した書類 「資料 25　健康状況等の都道府県比較」のとおり	―

別紙4 設置の趣旨等を記載した書類 「資料26　平成29年　介護サービス利用者数」のとおり	―

（是正事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【大学等の設置の趣旨・必要性】
4 ＜アドミッション・ポリシーと入学者選抜の関係性が不明確＞
　アドミッション・ポリシーとして、「保健学領域に関する基礎的な学力と実務能力を有する」こと等を挙げているが、入学試験受験資格はそれらの条件を課していない。また、学力試験等においても保健学領域に関する基礎的な学力を問う試験が課されておらず、アドミッション・ポリシーに掲げる人材を選抜できるかや 3 分野との関係性が不明確である。受験資格や選考方法がアドミッション・ポリシーや 3 分野に対応したものとなるよう、適切に改めること。

（対応）
　アドミッション・ポリシーとして、「保健学領域に関する基礎的な学力と実務能力を有する」としているのは、本大学院が基礎とする学部において養成している理学療法士、作業療法士、保健師、看護師の国家資格を有する者を念頭に置き、意欲的な学生を広く設定したものである。保健学領域に関する基礎的な学力と実務能力という表現が漠然とした内容であり、受験者に不明確な印象を与えるおそれがあることから、審査意見を考慮し、全体的に見直した結果、より具体的な「理学療法学、作業療法学、看護学などの医療、保健分野等において、学士程度以上の基礎的な学力と技術を有する者」として入学試験受験資格を明確化することとした。
　また、保健学領域に関する基礎的な学力を有すると認めるための方策として、一般入学試験及び社会人入学試験において保健学の学力試験を課すこととした。具体的な選抜方法として、一般入学試験では学力試験として「英語、小論文」であったものを「保健学、英語、小論文」に、社会人入学試験では学力試験として「小論文」であったものを「保健学、小論文」に修正することとした。学力試験に加え、個人面接及び出願書類により総合的に判断するとしていたが、個人面接並びに出願書類の⑤成績証明書、⑥志望理由書、及び⑦事前相談内容確認書により志望する分野、適性、意欲を確認し評価することにより総合的に合否を判定することを明確にした。
　さらに、アドミッション・ポリシーを３分野に対応するよう適切に改めるため、各分野におけるアドミッション・ポリシーを明確にすることとした。
　ケア提供システム分野では、「②の職場における管理者を目指す者、大学教員を目指す者、研究者を目指す者」を「②　保健・医療の職場における管理者を目指す者、大学教員を目指す者、研究者を目指す者」とした。
　人間発達ケア分野では、「③　地域の保健医療福祉に関心を持ち、その向上に寄与したいと志す者」を「③　人間発達の諸段階における健康課題に関心を持ち、医療専門職としてその学識、技術を深め、医療・保健の発展に貢献したいと志す者」とした。
　健康コミュニティ分野では、「③　地域の保健医療福祉に関心を持ち、その向上に寄与したいと志す者」を「④　地域の保健医療福祉に関心を持ち、その向上に寄与したいと志す者」とした。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（34 ページ）

新	旧
第９　入学者選抜の概要 １　入学者受け入れの基本方針（アドミッション・ポリシー） 本大学院は建学の精神である「徳風四海に洽（あまね）く」と「仁心妙術」を重んじ、保健学における学術の理論及び応用を教授研究し、多職種が協働した支援サービス提供の実践に求められる幅広い知識及び高度な専門技術を有する専門職医療人並びに専門職教育者を育成することを使命としている。 そこで本大学院では以下のような要件を備えた意欲的な学生を求める。 ①　理学療法学、作業療法学、看護学などの医療、保健分野等において、学士程度以上の基礎的な学力と技術を有する者 ②　保健・医療の職場における管理者を目指す者、大学教員を目指す者、研究者を目指す者 ③　人間発達の諸段階における健康課題に関心を持ち、医療専門職としてその学識、技術を深め、医療・保健の発展に貢献したいと志す者 ④　地域の保健医療福祉に関心を持ち、その向上に寄与したいと志す者	**第９　入学者選抜の概要** １　入学者受け入れの基本方針（アドミッション・ポリシー） 本大学院は建学の精神である「徳風四海に洽（あまね）く」と「仁心妙術」を重んじ、保健学における学術の理論及び応用を教授研究し、多職種が協働した支援サービス提供の実践に求められる幅広い知識及び高度な専門技術を有する専門職医療人並びに専門職教育者を育成することを使命としている。 そこで本大学院では以下のような要件を備えた意欲的な学生を求める。 ①　保健学領域に関する基礎的な学力と実務能力を有し、専門職としての学識と技能を深めたい者 ②　職場における管理者を目指す者、大学教員を目指す者、研究者を目指す者 ③　地域の保健医療福祉に関心を持ち、その向上に寄与したいと志す者
２　選抜方法及び選抜体制 前述のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な資質と大学院教育を受けるに相応しい能力や適性等を持つ入学者を選抜する観点から、複数の選抜方法を採用する。 入学者の選抜方法は、一般入試及び社会人入試である。一般入試は、「学力試験」、「志	２　選抜方法及び選抜体制 前述のアドミッション・ポリシーに基づき、多様な資質と大学院教育を受けるに相応しい能力や適性等を持つ入学者を選抜する観点から、複数の選抜方法を採用する。 入学者の選抜方法は、一般入試及び社会人入試である。一般入試は、「学力試験」、「志

望理由書」、「事前相談内容確認書」及び「面接」により選抜する。社会人入試は、小論文による「学力試験」、「志望理由書」、「事前相談内容確認書」及び「面接」により選抜する。 「事前相談内容確認書」は、大学院で学びたい研究内容や研究課題、相談した教員名、指導を希望する教員等について記入し、入学後に指導教員を決定する際の参考とするとともに、入学後のミスマッチを防ぐために、入学志願者に提出を求める。 本学学部入試では、入試委員会が主体となり適切な入学者選抜を実施してきている。本研究科の入学者の選抜に当たっても、入試についての経験が豊富な教員がそろう研究科委員会が主体となり入学者を選抜する。 2　選抜方法及び選抜体制 （1）一般入学試験 ア　入学試験受験資格 次のいずれかに該当する者を受験資格者とする。 ① 大学を卒業した者 ② 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者 ③ 外国において、学校教育（日本において、外国の大学が行う通信教育を履修する場合も含む）における 16 年の課程を修了した者 ④ 日本において、文部科学大臣が指定した外国大学日本校の 16 年の課程を修了した者 ⑤ 外国の大学等において、修業年限が 3 年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者 ⑥ 文部科学大臣が指定した専修学校の専門課程を修了した者	望理由書」、「事前相談内容確認書」及び「面接」により選抜する。社会人入試は、小論文による「学力試験」、「志望理由書」、「事前相談内容確認書」及び「面接」により選抜する。 「事前相談内容確認書」は、大学院で学びたい研究内容や研究課題、相談した教員名、指導を希望する教員等について記入し、入学後に指導教員を決定する際の参考とするとともに、入学後のミスマッチを防ぐために、入学志願者に提出を求める。 本学学部入試では、入試委員会が主体となり適切な入学者選抜を実施してきている。本研究科の入学者の選抜に当たっても、入試についての経験が豊富な教員がそろう研究科委員会が主体となり入学者を選抜する。 2　選抜方法及び選抜体制 （1）一般入学試験 ア　入学試験受験資格 次のいずれかに該当する者を受験資格者とする。 ① 大学を卒業した者 ② 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者 ③ 外国において、学校教育（日本において、外国の大学が行う通信教育を履修する場合も含む）における 16 年の課程を修了した者 ④ 日本において、文部科学大臣が指定した外国大学日本校の 16 年の課程を修了した者 ⑤ 外国の大学等において、修業年限が 3 年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者 ⑥ 文部科学大臣が指定した専修学校の専門課程を修了した者

⑦ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者 イ　出願手続 ①　入学願書（写真貼付） ②　受験票 ③　銀行振込通知書 ④　卒業証明書又は卒業見込み証明書、若しくは学位授与証明書、若しくは学位記（写）又は学位授与申請受理書（大学評価・学位授与機構発行） ⑤　成績証明書 ⑥　志望理由書（300 字程度にまとめる） ⑦　事前相談内容確認書 ウ　入学者選抜方法 一般入学試験では、学力試験（保健学、英語、小論文）、出願書類の⑤成績証明書、⑥志望理由書、⑦事前相談内容確認書の審査、及び個人面接による志望分野、適性、意欲の確認と評価を行い、総合的に合否を判定する。 エ　試験の実施時期 年に２回実施する。（原則として９月と３月、ただし開設初年度は 11 月と 3 月） （2）社会人入学試験 ア　入学試験受験資格 次の①から⑦のいずれかに該当する者で、入学時までに 2 年以上の就労経験がある者を受験資格者とする。 ①大学を卒業した者 ②学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者 ③外国において、学校教育（日本において、外国の大学が行う通信教育を履修する場合も含む）における 16 年の課程を修了した者	⑦ 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者 イ　出願手続 ①　入学願書（写真貼付） ②　受験票 ③　銀行振込通知書 ④　卒業証明書又は卒業見込み証明書、若しくは学位授与証明書、若しくは学位記（写）又は学位授与申請受理書（大学評価・学位授与機構発行） ⑤　成績証明書 ⑥　志望理由書（300 字程度にまとめる） ⑦　事前相談内容確認書 ウ　入学者選考方法 一般入学試験では、学力試験（英語、小論文）、個人面接及び出願書類により総合的に判断し、合否を判定する。 エ　試験の実施時期 年に２回実施する。（原則として９月と３月、ただし開設初年度は 11 月と 3 月） （2）社会人入学試験 ア　入学試験受験資格 次の①から⑦のいずれかに該当する者で、入学時までに 2 年以上の就労経験がある者を受験資格者とする。 ①大学を卒業した者 ②学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者 ③外国において、学校教育（日本において、外国の大学が行う通信教育を履修する場合も含む）における 16 年の課程を修了した者 ④日本において、文部科学大臣が指定した外国大学日本校の 16 年の課程を修了した者

④日本において、文部科学大臣が指定した外国大学日本校の 16 年の課程を修了した者 ⑤外国の大学等において、修業年限が 3 年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者 ⑥文部科学大臣が指定した専修学校の専門課程を修了した者 ⑦本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者 イ　出願手続 ① 入学願書（写真貼付） ② 受験票 ③ 銀行振込通知書 ④ 卒業証明書又は卒業見込み証明書、若しくは学位授与証明書、若しくは学位記（写）又は学位授与申請受理書（大学評価・学位授与機構発行） ⑤ 成績証明書 ⑥ 志望理由書（300 字程度にまとめる） ⑦ 事前相談内容確認書 ⑧ 推薦書（雇用を継続しながら修学する社会人のみ） ウ　入学者選考方法 社会人入試では、学力試験（保健学、小論文）、出願書類の⑤成績証明書、⑥志望理由書、⑦事前相談内容確認書の審査、及び個人面接による志望分野、適性、意欲の確認と評価を行い、総合的に合否を判定する。 エ　試験の実施日程 年に２回実施する。（原則として９月と３月、ただし開設初年度は 11 月と 3 月）	⑤外国の大学等において、修業年限が 3 年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者 ⑥文部科学大臣が指定した専修学校の専門課程を修了した者 ⑦本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者 イ　出願手続 ① 入学願書（写真貼付） ② 受験票 ③ 銀行振込通知書 ④ 卒業証明書又は卒業見込み証明書、若しくは学位授与証明書、若しくは学位記（写）又は学位授与申請受理書（大学評価・学位授与機構発行） ⑤ 成績証明書 ⑥ 志望理由書（300 字程度にまとめる） ⑦ 事前相談内容確認書 ⑧ 推薦書（雇用を継続しながら修学する社会人のみ） ウ　入学者選考方法 社会人入試では、学力試験（小論文）、個人面接及び出願書類等により総合的に判断し、合否を判定する。 エ　試験の実施日程 年に２回実施する。（原則として９月と３月、ただし開設初年度は 11 月と 3 月）

（是正事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【教育課程等】

5 ＜基礎となる学部との教育課程の関係が不明確＞

基礎となる学部である看護学部・保健科学部の学問分野を統合した研究科を設置するとしているが、一方でケア提供システム分野、人間発達ケア分野、健康コミュニティ分野の3分野に専門科目が分類されており、関係性が不明確である。3分野について、基礎となる学部の学問分野とどのように対応しているのか、明確にすること。

（対応）

3 分野と基礎となる学部である看護学部・保健科学部の教育課程の中の専門科目との関連について、審査意見を考慮し全体を見直した結果、以下のとおり整理する。

ケア提供システム分野については、看護学部の科目区分「看護の統合実践」の中の「看護提供システム論」、保健科学部理学療法学専攻の科目区分「理学療法倫理管理」の中の「理学療法倫理・管理学」、作業療法学専攻の科目区分「作業療法管理」の中の「作業療法管理学」と関連している。

人間発達ケア分野（理学療法学）については、保健科学部理学療法学専攻の科目区分「理学療法評価学」の中の「理学療法評価学Ⅰ～Ⅵ」及び科目区分「理学利用法治療学」の中の「運動利用法学Ⅰ・Ⅱ」、「物理療法学Ⅰ・Ⅱ」、「理学療法義肢装具学」、「理学利用法地理洋楽Ⅰ～Ⅵ」と関連している。

人間発達ケア分野（作業療法学）については、保健科学部作業療法学専攻の科目区分「作業療法評価学」の中の「身体系作業療法評価学」、「精神系作業療法評価学」、「発達系作業療法評価学」、科目区分「作業療法治療学」の中の「身体系作業療法学」、「発達系作業療法学」、「精神系作業療法学」、「高齢期作業療法学Ⅰ・Ⅱ」、「日常生活活動学Ⅰ・Ⅱ」、「身体系作業療法治療学Ⅰ・Ⅱ」、「精神系作業療法治療学Ⅰ・Ⅱ」、「発達系作業療法治療学Ⅰ・Ⅱ」、「高次脳機能系作業療法学Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法系義肢装具学Ⅰ・Ⅱ」、「職業前評価治療学」と関連している。

人間発達ケア分野（母子看護学）については、看護学部の科目区分「看護学専門科目」の中の「小児看護学」と「母性看護学」と関連している。

健康コミュニティ分野については、看護学部の科目区分「公衆衛生看護学関連科目」の中の「公衆衛生看護学Ⅰ～Ⅲ」、保健科学部理学療法学専攻の科目区分「地域理学療法学」の中の「地域理学利用法学Ⅰ・Ⅱ」、「生活環境学」、保健科学部作業療法学専攻の科目区分「地域作業療法学」の中の「地域作業療法学Ⅰ・Ⅱ」と関連している。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（33 ページ）

新	旧
第８　基礎となる学部との関係 本学は保健科学部と看護学部を有している。保健科学部はリハビリテーション学科が理学療法学専攻、作業療法学専攻の 2 つの専攻を持ち、看護学部は看護学科を持っている。保健科学部は理学療法士養成校及び作業療法士養成校の指定受け、看護学部は保健師養成校及び看護師養成校の指定を受けて医療専門職者を養成している。保健科学部の前身は長野医療技術専門学校である。長野医療技術専門学校は平成 17 年（2005）年に、文部科学省から「高度専門士の称号付与認定」をうけ、卒業生 960 名には学士の称号が付与されている。長野保健医療大学の卒業生 84 名を加え 1,044 名の卒業生の 85%が長野県内の医療機関等に勤務して地域社会を支えている。 保健科学部は、豊かな人間性と広い見識及び高い教養と専門知識、確たる技能を有する医療人（理学療法士・作業療法士）並びに研究者の育成を目的としている。看護学部は、医療において総合的な判断ができる質の高い看護職、保健学部リハビリテーション学科学生とともに IPE（多職種連携教育）について学び、豊かな人間性と広い見識を持って、地域住民の健康生活をサポートすることのできるケア提供者を育成することを教育目的としている。本学はこれらの教育目的に基づき、保健師、看護師、理学療法士または作業療法士の国家資格を取得し、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士として地域に貢献できる人材をより多く輩出する努力を重ねている。 保健科学部及び看護学部での教育及び研究は根底に看護・リハビリテーションという	**第８　基礎となる学部との関係** 本学は保健科学部と看護学部を有している。保健科学部はリハビリテーション学科が理学療法学専攻、作業療法学専攻の 2 つの専攻を持ち、看護学部は看護学科を持っている。保健科学部は理学療法士養成校及び作業療法士養成校の指定受け、看護学部は保健師養成校及び看護師養成校の指定を受けて医療専門職者を養成している。保健科学部の前身は長野医療技術専門学校である。長野医療技術専門学校は平成 17 年（2005）年に、文部科学省から「高度専門士の称号付与認定」をうけ、卒業生 960 名には学士の称号が付与されている。長野保健医療大学の卒業生 84 名を加え 1,044 名の卒業生の 85%が長野県内の医療機関等に勤務して地域社会を支えている。 保健科学部は、豊かな人間性と広い見識及び高い教養と専門知識、確たる技能を有する医療人（理学療法士・作業療法士）並びに研究者の育成を目的としている。看護学部は、医療において総合的な判断ができる質の高い看護職、保健学部リハビリテーション学科学生とともに IPE（多職種連携教育）について学び、豊かな人間性と広い見識を持って、地域住民の健康生活をサポートすることのできるケア提供者を育成することを教育目的としている。本学はこれらの教育目的に基づき、保健師、看護師、理学療法士または作業療法士の国家資格を取得し、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士として地域に貢献できる人材をより多く輩出する努力を重ねている。 保健科学部及び看護学部での教育及び研究は底流に看護・リハビリテーションという

学際的な視点があり、大学院で編成する教育課程と強いつながりを有している（資料20）。 具体的には、ケア提供システム分野については、看護学部の科目区分「看護の統合実践」の中の「看護提供システム論」、保健科学部理学療法学専攻の科目区分「理学療法倫理管理」の中の「理学療法倫理・管理学」、作業療法学専攻の科目区分「作業療法管理」の中の「作業療法管理学」と関連している。 人間発達ケア分野（理学療法学）については、保健科学部理学療法学専攻の科目区分「理学療法評価学」の中の「理学療法評価学Ⅰ～Ⅵ」及び科目区分「理学利用法治療学」の中の「運動利用法学Ⅰ・Ⅱ」、「物理療法学Ⅰ・Ⅱ」、「理学療法義肢装具学」、「理学利用法地理洋楽Ⅰ～Ⅵ」と関連している。 人間発達ケア分野（作業療法学）については、保健科学部作業療法学専攻の科目区分「作業療法評価学」の中の「身体系作業療法評価学」、「精神系作業療法評価学」、「発達系作業療法評価学」、科目区分「作業療法治療学」の中の「身体系作業療法学」、「発達系作業療法学」、「精神系作業療法学」、「高齢期作業療法学Ⅰ・Ⅱ」、「日常生活活動学Ⅰ・Ⅱ」、「身体系作業療法治療学Ⅰ・Ⅱ」、「精神系作業療法治療学Ⅰ・Ⅱ」、「発達系作業療法治療学Ⅰ・Ⅱ」、「高次脳機能系作業療法学Ⅰ・Ⅱ」、「作業療法系義肢装具学Ⅰ・Ⅱ」、「職業前評価治療学」と関連している。 人間発達ケア分野（母子看護学）については、看護学部の科目区分「看護学専門科目」の中の「小児看護学」と「母性看護学」と関連している。 健康コミュニティ分野については、看護学部の科目区分「公衆衛生看護学関連科目」の中の「公衆衛生看護学Ⅰ～Ⅲ」、保健科学部	学際的な視点があり、大学院で編成する教育課程と強いつながりを有している（資料20）。

理学療法学専攻の科目区分「地域理学療法学」の中の「地域理学利用法学Ⅰ・Ⅱ」、「生活環境学」、保健科学部作業療法学専攻の科目区分「地域作業療法学」の中の「地域作業療法学Ⅰ・Ⅱ」と関連している。	
設置の趣旨等を記載した書類の資料 20 別紙 5「資料 20　基礎となる学部との関係　新」のとおり	設置の趣旨等を記載した書類の資料 20 別紙 5「資料 20　基礎となる学部との関係　旧」のとおり

（是正事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【教育課程等】
6 ＜授業科目の必修・選択の設定が不適切＞
　ディプロマ・ポリシー「研究・教育活動による後進を育成する能力」を修得するための授業とされている「保健医療教育論」「保健医療教育実践論」や、ディプロマ・ポリシー「高度専門的職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力」を修得するための授業とされている「英語文献購読」など、ディプロマ・ポリシーに位置付けられている授業科目の必修・選択の設定について、適切に改めること。

（対応）
　審査意見 1 を考慮し全ての授業科目の内容とディプロマ・ポリシーとの関連について見直し必要な修正を加えた結果、共通科目でのディプロマ・ポリシーとの関係は以下のとおりとなった。

①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力
　関連する科目：「医療倫理学」

②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力
　関連する科目：「応用統計学」、「保健医療研究法」

③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力
　関連する科目：「多職種連携論」、「医療コミュニケーション論」、「保健医療マネジメント論」、「応用統計学」、「医療英語研究」、「保健医療教育論」、「保健医療教育実践論」

④　研究・教育活動により後進を育成する能力
　関連する科目：「保健医療教育論」、「保健医療教育実践論」

⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力
　関連する科目：「多職種連携論」、「医療コミュニケーション論」、「保健医療マネジメント論」

　審査意見 6 を考慮して必修・選択科目について見直した結果、①についての必修科目を「医療倫理学」、②についての必修科目を「保健医療研究法」、③についての必修科目を「医療英語研究」、④についての必修科目を「保健医療教育論」、⑤についての必修科目を「多職種連携論」と設定することとし、その結果「医療英語研究」及び「保健医療教育論」を必修科目に、「医療コミュニケーション論」を選択科目に履修要件を変更することとした。

　上記内容を踏まえて、設置の趣旨等を記載した書類の第 4　教育課程の編成の考え方及び特色の１　教育課程の編成の考え方・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）の（1）共通科目、及び２　教育課程の編成の特色の（1）共通科目の記述内容を修正する。

（新旧対照表）教育課程等の概要

新	旧
共通科目　単位数 医療コミュニケーション論　選択　2 医療英語研究　必修　2 保健医療教育論　必修　2 小計（ 9 科目）　必修　10　選択　8	共通科目　単位数 医療コミュニケーション論　必修　2 英語文献講読　選択　2 保健医療教育論　選択　2 小計（ 9 科目）　必修　8　選択　10
合計（24 科目）　必修　22　選択　34	合計（24 科目）　必修　20　選択　36
修了要件及び履修方法 共通科目から 12 単位以上（必修 10 単位、選択 2 単位以上）、専門科目から 8 単位（必修 2 単位、選択必修 6 単位）、特別研究 10 単位（必修）の合計 30 単位以上を修得し、かつ修士論文の審査に合格すること。	修了要件及び履修方法 共通科目から 12 単位以上（必修 8 単位、選択 4 単位以上）、専門科目から 8 単位（必修 2 単位、選択必修 6 単位）、特別研究 10 単位（必修）の合計 30 単位以上を修得し、かつ修士論文の審査に合格すること。
別紙 6　教育課程等の概要　新	別紙 6　教育課程等の概要　旧

（新旧対照表）学則　別表 1

新	旧
第 26 条　修士課程の修了要件は、次のとおりとする。 ア　共通科目のうち必修 10 単位、選択 2 単位以上、合わせて 12 単位以上	第 26 条　修士課程の修了要件は、次のとおりとする。 ア　共通科目のうち必修 8 単位、選択 4 単位以上、合わせて 12 単位以上
共通科目　単位数 医療コミュニケーション論　選択　2 医療英語研究　必修　2 保健医療教育論　必修　2 小計（ 9 科目）　必修　10　選択　8	共通科目　単位数 医療コミュニケーション論　必修　2 英語文献講読　選択　2 保健医療教育論　選択　2 小計（ 9 科目）　必修　8　選択　10
合計（24 科目）　必修　22　選択　34	合計（24 科目）　必修　20　選択　36
別紙 7　学則　別表 1　新	別紙 7　学則　別表 1　旧

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類　資料 12　履修モデル

新	旧
共通科目　単位数 医療コミュニケーション論　選択　2 医療英語研究　必修　2 保健医療教育論　必修　2	共通科目　単位数 医療コミュニケーション論　必修　2 英語文献講読　選択　2 保健医療教育論　選択　2

小計（ 9科目）　必修　10　選択　8	小計（ 9科目）　必修　8　選択　10
合計（24科目）　必修　22　選択　34	合計（24科目）　必修　20　選択　36
科目別授業時間等 　医療英語研究	科目別授業時間等 　英語文献講読
別紙８　履修モデル　新	別紙８　履修モデル　旧

（新旧対照表）シラバス　ディプロマ・ポリシーとの関連（評価の視点）

新	旧
医療倫理学 DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力	医療倫理学 　保健学研究科ディプロマポリシーの高い倫理観をもって取り組む能力の修得に関連する。
多職種連携論 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力	多職種連携論 　保健学研究科ディプロマポリシーの専門的基礎知識と技能の修得に関連する。
医療コミュニケーション論 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力	医療コミュニケーション論 　保健学研究科ディプロマポリシーの専門的基礎知識と技能の修得に関連する。
保健医療マネジメント論 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力	保健医療マネジメント論 保健学研究科ディプロマポリシーの、高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力に関連する。
応用統計学 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力	応用統計学 　ディプロマポリシー1,2に関連（科学的な根拠に基づき実践する能力、高度専門職業人に必要な広範な知識と質の高い専門職業務を実践できる能力）
医療英語研究	英語文献講読

DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力	保健学研究科ディプロマポリシーの、高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力に関連する。
保健医療教育論 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力	保健医療教育論 保健医療の高度専門職に求められる高い倫理観を陶冶するとともに、保健医療教育に関する基礎的知識と科学的知見を修得し、保健医療の専門職養成機関における、高度専門職としての教育者にふさわしい人格識見を涵養する。
保健医療教育実践論 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力	保健医療教育実践論 保健医療の高度専門職に求められる高い倫理観を陶冶するとともに、保健医療教育に関する基礎的知識と科学的知見を修得し、保健医療の専門職養成機関において、高度専門職を養成する教育者にふさわしい人格識見を涵養する。
保健医療研究法 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力	保健医療研究法 ディプロマポリシーの、科学的な根拠に基づき実践する能力に関連する。
保健学総論 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力	保健学総論 地域社会が抱える課題を適切に把握し、医療福祉に係る制度を理解した上で高度専門職業人として課題解決の道筋を立てる能力を身に付ける。 保健学研究科ディプロマポリシーの、高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力に関連する。
ケア提供システム特論 DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する	ケア提供システム特論 保健学研究科ディプロマポリシーの、２．高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力、及び３．地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動による後進育成、職場でのマネジメント向上を通じて地域に貢献

能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力	できる能力に関連する。
ケア提供システム演習Ⅰ DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力	ケア提供システム演習Ⅰ 保健学研究科ディプロマポリシーの２.高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力、及び３.地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動による後進育成、職場でのマネジメント向上を通じて地域に貢献できる能力に関連する。
ケア提供システム演習Ⅱ DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力	ケア提供システム演習Ⅱ 保健学研究科ディプロマポリシーの２.高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力、及び３.地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動による後進育成、職場

DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力	でのマネジメント向上を通じて地域に貢献できる能力に関連する。
人間発達ケア特論 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動による後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力	人間発達ケア特論 　保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） 　保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。

〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力	
人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 　保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） 　保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。

切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力	
人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 　保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 　保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） 　保健学研究科ディプロマポリシーの専門

野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力	的知識と技能の習得に関連する。
健康コミュニティ特論 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動による後進を育成する能力に関連 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈健康コミュニティ分野〉 C1　地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2　地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3　地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力	健康コミュニティ特論 　保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する
健康コミュニティ演習Ⅰ DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動による後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力	健康コミュニティ演習Ⅰ 　保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。

C1　地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2　地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3　地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力	
健康コミュニティ演習Ⅱ DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動による後進を育成する能力に関連 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈健康コミュニティ分野〉 C1　地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2　地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3　地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力	健康コミュニティ演習Ⅱ 　保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
保健学特別研究 DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野にお	保健学特別研究 　保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解

いて自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力 〈健康コミュニティ分野〉 C1　地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2　地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3　地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力	
別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

※DP：ディプロマ・ポリシー

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類　（12 ページ）

新	旧
1　教育課程の編成の考え方･実施の方針（カリキュラム・ポリシー） （1）共通科目 本研究科の３分野共通のディプロマ・ポリシーに記載した能力の修得を目指し、以下の科目を１年次前期に配置した。 ①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力に関連する科目：「医療倫理学」 ②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力に関連する科目：「応用統計学」、「保健医療研究法」	1　教育課程の編成の考え方･実施の方針（カリキュラム・ポリシー） （1）共通科目 本研究科のディプロマ・ポリシーに記載した能力の修得を目指し、以下の科目を１年次前期に配置した。 ①　高い倫理観を修得するために「医療倫理学」を配置した。 ②　科学的根拠に基づく実践能力を修得するために「応用統計学」及び「保健医療研究法」を配置した。 ③　高度専門職業人に必要となる広範な

③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力に関連する科目：「多職種連携論」、「医療コミュニケーション論」、「保健医療マネジメント論」、「応用統計学」、「医療英語研究」、「保健医療教育論」、「保健医療教育実践論」 ④　研究・教育活動により後進を育成する能力に関連する科目：「保健医療教育論」、「保健医療教育実践論」 ⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力に関連する科目：「多職種連携論」、「医療コミュニケーション論」、「保健医療マネジメント論」 ①高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力については「医療倫理学」を、②科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力については「保健医療研究法」を、③高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力については「医療英語研究」を、④研究・教育活動により後進を育成する能力については「保健医療教育論」を、⑤地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力については「多職種連携論」を必修科目に設定した。「医療コミュニケーション論」、「保健医療マネジメント論」、「応用統計学」、「保健医療教育実践論」を選択科目とした。	知識を修得するために「英語文献講読」を配置した。 ④　他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力を修得するために「医療コミュニケーション論」を配置した。 ⑤　後進を育成する能力を修得するために「保健医療教育論」及び「保健医療教育実践論」を配置した。 ⑥　保健医療福祉チームをマネジメントできる能力を修得するために「保健医療マネジメント論」及び「多職種連携論」である。 このうち、「医療倫理学」、「多職種連携論」、「医療コミュニケーション論、「保健医療研究法」を必修科目とし、「保健医療マネジメント論」、「応用統計学」、「英語文献購読」、「保健医療教育論」、「保健医療教育実践論」は選択科目とした。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類　（15 ページ）

新	旧
2　教育課程の編成の特色 本研究科では、「誰一人として取り残さな	2　教育課程の編成の特色 本研究科では、「誰一人として取り残さな

い地域社会」の構築を志向する保健医療福祉関連職が備えるべき資質として、ディプロマ・ポリシーに掲げた高い倫理観、科学的な根拠に基づく実践、広範な知識とコミュニケーション能力、後進指導能力、マネジメント能力を重視し、それらについて学修するために、共通科目 9 科目、専門科目 14 科目、特別研究科目 1 科目を配置した。 （1）共通科目 共通科目には 9 科目を配置し、5 科目を必修とした。「医療倫理学」では、保健医療の専門職医療人おける職業的倫理性を涵養する。「多職種連携論」では、学際的なチーム医療の中核となる多職種連携についての理論と実践能力を学修する。「医療英語研究」では、文献により医療・医学についての基礎的・専門的知識や特有の規則を学修し、英語文献を講読し、知識を広げる。「保健医療教育論」では、教育学の基本を学修する。「保健医療研究法」では、研究活動を行うための基礎的知識、研究技法、研究倫理について学修する。これらの必修共通科目の履修により、倫理性、学際性、協調性、教育能力、科学的研究能力を養う。 選択科目は 4 科目である。「医療コミュニケーション論」では、高度な専門職業人として求められる他者とのコミュニケーションを通して、合意、共通理解を得る能力、表現能力、交渉能力について学修する。「保健医療マネジメント論」では、保健医療現場での基本となる医療制度、政策、倫理、会計の理解を深めリーダーシップとマネジメントを学修する。「応用統計学」では、研究活動で必要となる統計解析の手法や手順について学修する。「保健医療教育実践論」では、高度専門職の養成に当たる教育者に求められる専門的知識と指導力を身に着ける。なお、	い地域社会」の構築を志向する保健医療福祉関連職が備えるべき資質として、ディプロマ・ポリシーに掲げた高い倫理観、科学的な根拠に基づく実践、広範な知識、コミュニケーション能力、後進指導能力、マネジメント能力を重視し、それらについて学修するために、共通科目 9 科目、専門科目 14 科目、特別研究科目 1 科目を配置した。 （1）共通科目 共通科目には 9 科目を配置し、4 科目を必修とした。「医療倫理学」では、保健医療の専門職医療人おける職業的倫理性を涵養する。「多職種連携論」では、学際的なチーム医療の中核となる多職種連携についての理論と実践能力を学修する。「医療コミュニケーション論」では、高度な専門職業人として求められる他者とのコミュニケーションを通して、合意、共通理解を得る能力、表現能力、交渉能力について学修する。「保健医療研究法」では、研究活動を行うための基礎的知識、研究技法、研究倫理について学修する。これらの必修共通科目の履修により、倫理性、学際性、協調性、科学的研究能力を養う。 選択科目は 5 科目である。「保健医療マネジメント論」では、保健医療現場での基本となる医療制度、政策、倫理、会計の理解を深めリーダーシップとマネジメントを学修する。「応用統計学」では、研究活動で必要となる統計解析の手法や手順について学修する。「英語文献講読」では、文献により医療・医学についての基礎的・専門的知識や特有の規則を学修し、英語文献を講読し、知識を広げる。「保健医療教育論」及び「保健医療教育実践論」では、教育学の基本を学修し、高度専門職の養成に当たる教育者に求められる専門的知識と指導力を身に着ける。な

「保健医療教育論」及び「保健医療教育実践論」の教育２科目は、理学療法士・作業療法士が養成校の教員となるために必要な教育課程４単位にも対応する。これらの選択共通科目履修により、マネジメント能力、解析研究能力、情報収集能力、教育能力を養う。	お、この教育２科目は、理学療法士・作業療法士が養成校の教員となるために必要な教育課程４単位にも対応する。これらの選択共通科目履修により、マネジメント能力、解析研究能力、情報収集能力、教育能力を養う。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類　（27 ページ）

新	旧
５　修士課程修了要件 修士課程の修了要件は次のとおりとする。 （1）本研究科に２年以上在学すること。 （2）次の授業科目を履修し、合わせて 30 単位以上を取得すること。 ア　共通科目から 12 単位以上（必修科目 10 単位、選択科目２単位以上）の科目単位を取得すること。 イ　専門科目から 8 単位（必修２単位、選択科目 4 単位）の科目単位を取得すること。 ウ　特別研究科目の 必修 10 単位の科目単位を取得すること。 （3）必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する修士論文審査及び最終試験に合格すること。	５　修士課程修了要件 修士課程の修了要件は次のとおりとする。 （1）本研究科に２年以上在学すること。 （2）次の授業科目を履修し、合わせて 30 単位以上を取得すること。 ア　共通科目から 12 単位以上（必修科目 8 単位、選択科目 4 単位以上）の科目単位を取得すること。 イ　専門科目から 8 単位（必修２単位、選択科目 4 単位）の科目単位を取得すること。 ウ　特別研究科目の 必修 10 単位の科目単位を取得すること。 （3）必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する修士論文審査及び最終試験に合格すること。

（是正事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【教育課程等】

7 ＜授業科目の内容等が不適切＞

授業科目の内容等について、以下の例の様に不適切と思われる点が散見されることから、全体について見直し、適切に改めること。

(1) ディプロマ・ポリシーとして挙げられている高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力に対応する履修科目として「医療倫理学」を必修としているが、同科目の履修内容で医療倫理観が修得できるか不明確である。

(2)「ケア提供システム演習Ⅱ」など、演習系の科目で研究計画書の作成まで行っている。

(3)「英語文献講読」について、単に文献を講読するのみでは大学院教育にふさわしい科目名称とは言えない。

(4) 授業の到達目標について、例えば「医療倫理学」において、「自分の言葉で表現できる」など、大学院教育の到達目標として不適切であると思われる科目が散見される。

（対応）

(1) 必修「医療倫理学」の履修内容で医療倫理観が修得できるか不明確

ディプロマ・ポリシーとして挙げている高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力に対応する履修科目として「医療倫理学」を必修としている。審査意見を考慮し改めて全体を見直したところ、医療倫理としては偏りがあったことから、我々日本人の考え方を作っている思想を歴史的に捉えるため、神道、仏教及び儒教、西洋近代思想を概観したうえで、その理解に基づいて、現代医学の諸問題、具体的には、インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、出生前診断と遺伝病、遺伝子技術と認知症治療、伝染病・感染症の歴史的経過と現代の問題について学修し、グループディスカッションにより考察し、理解を深め、医療倫理観を修得することとした。これに伴い授業科目の概要、及びシラバスの授業計画・キーワードを修正するとともに、保健学総論のキーワードに不適切な表現があったことから適切な内容に修正することとした。

（新旧対照表）授業科目の概要

新	旧
医療倫理学 我々日本人の考え方を作っている思想を歴史的に捉えるため、(1) 日本固有の思想として神話に基づく神道、(2) 外来思想として日本に影響を与えた仏教と儒教、(3) 日本の近代化を促した西洋近代思想を概説し、その理解に基づいて、医療における現代的な諸問	医療倫理学 日本人がこれまでにどんなことを考えてきたかを概観し、我々の考え方を作っている思想を歴史的に捉えることを第一の目的とする。その理解に基づいて、医療における現代的な諸問題、すなわち、インフォームド・コンセント、尊厳死などの問題を考察する。

題、すなわち、インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、出生前診断と遺伝病、遺伝子技術と認知症治療、伝染病・感染症の歴史的経過と現代の問題について、講義及び小グループによるディスカッションによりを考察し理解を深める。	内容的には、（1）日本固有の思想として神話に基づく神道、（2）外来思想として日本に影響を与えた仏教と儒教、（3）日本の近代化を促した西洋近代思想、をとりあげる。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行うこともある。

（新旧対照表）シラバス　授業計画

新	旧
医療倫理学 1. 日本固有の思想（1）　日本神話概観、神話的思惟の特質、世界解釈の方法 2. 日本固有の思想（2）　グループディスカッション及び小テスト 3. 仏教思想（1）　釈迦の説いたこと、日本における仏教受容の諸相、仏教的思惟の特質 4. 仏教思想（2）　他の東洋思想（儒教・道教）、グループディスカッション及び小テスト 5. 近世・近代の思想（1）　朱子学と国学、町人思想の諸相と職業観、西洋思想の受け入れ 6. 近世・近代の思想（2）　グループディスカッション及び小テスト 7. 現代医学の諸問題（1）　インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死 8. 現代医学の諸問題（1）　グループディスカッション及び小テスト. 9. 現代医学の諸問題（2）　脳死と臓器移植 10. 現代医学の諸問題（2）　グループディスカッション及び小テスト 11. 現代医学の諸問題（3）　出生前診断と遺伝病 12. 現代医学の諸問題（3）　グループディ	医療倫理学 1. 日本固有の思想（1）　日本神話概観 2. 日本固有の思想（2）　神話的思惟の特質 3. 日本固有の思想（3）　世界解釈の方法ー一起源説話 4. 仏教思想（1）　釈迦の説いたこと 5. 仏教思想（2）　日本における初期の仏教受容の様相 6. 仏教思想（3）　仏教的思惟の特質　輪廻転生の世界観 7. 仏教思想（4）　仏教的思惟の特質　四苦八苦の人生観 8. 仏教思想（5）　四苦（生老病死）の現代的様相. 9. 仏教思想（6）　四苦（生老病死）の現代的様相（2） 10. 儒教思想（1）　朱子学概観 11. 儒教思想（2）　武士と町人の世界観 12. 儒教思想（3）　儒教への反発と国学の死生観 13. 西洋の近代思想（1）　明治維新の世界観 14. 西洋の近代思想（2）　福沢諭吉の人間観 15. まとめと討論

スカッション及び小テスト 13. 現代医学の諸問題（４）　遺伝子技術と認知症治療、伝染病・感染症の歴史的経過と現代の問題 14. 現代医学の諸問題（４）　グループディスカッション及び小テスト 15. まとめと討論	
医療倫理学 キーワード 倫理学、保健学、科学技術倫理、生命倫理、東洋思想	医療倫理学 キーワード 神話的思惟、仏教的世界観、儒教的世界観、西洋近代思想
保健学総論 キーワード 保健学　障害科学　看護学　理学療法学作業療法学	保健学総論 キーワード 研究方法、文献検討、研究方法、研究デザイン、研究計画書

(2) 審査意見を考慮して全体を見直した結果、研究計画書の作成については保健学特別研究の範疇であることから記述から削除することとし、以下のように修正することとした。

演習Ⅰ系の科目（「ケア提供システム演習Ⅰ」、「人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）」、「人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）」、「人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）」、「健康コミュニティ演習Ⅰ」）については、文献検索を通してエビデンスを構築する過程を学修することとし、演習Ⅱ系の科目（「ケア提供システム演習Ⅱ」、「人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）」、「人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）」、「人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）」、「健康コミュニティ演習Ⅱ」）については、実践の場における支援方法の問題点を明らかする過程を学修することとし、全体として研究に必要なプロセスを演習Ⅰ・Ⅱにより修得することとした。

演習Ⅰ系科目の授業計画の内容として、

1. それぞれの分野のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー（1～10 回）
2. 文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む、）（11～20 回）
3. それぞれの分野における有用なエビデンスの検討（21～25 回）
4. 先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議（26～30 回）

を基本とした。

演習Ⅱ系の授業計画の内容として、

1. それぞれの分野に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解（1～4 回）
2. それぞれの分野の学問に関わる動向の理解（5～8 回）
3. それぞれの分野に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求（9～16 回）
4. それぞれの分野に関わる支援方法と課題の探求（17～24 回）
5. それぞれの分野に関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議（25～30 回）

を基本とした。

また、保健学特別研究について、設置の趣旨等を記載した書類の資料 13「履修指導及び研究指導の方法・日程案」に記載したとおり、1 年後期から研究の方向性を絞り込み、研究課題の検討、研究計画の立案、研究計画書の提出と研究倫理審査の申請を目指し、2 年次からは研究計画の実施、修士論文の作成という日程案があるにもかかわらず、配当年次を 2 年次通年とする齟齬がありこれとの整合を図るため、配当年次を「1 年次～2 年次」、配当学期を「後期（1 年次）通期（2 年次）」とするとともに、授業科目の概要については「専門分野の研究課題について作成した研究計画に沿って研究方法を探求したうえで研究を実践し、」という適切でない表現があるため、「専門分野の研究課題を練り上げ、研究計画を研究指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文としてまとめる。」という内容に修正した。

教員審査結果を受けて、保健学特別研究に関する授業科目の内容で、⑮水嵜知子がMマル合の判定であったため、授業担当内容について「医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題の研究過程において、

文献調査、先行研究の整理、収集したデータの分析についての研究を補助する。」としていたものを「医療現場においてケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。」に修正した。これに伴い、①井部俊子の授業担当内容を「医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。」に修正し、それぞれ独立したシラバスとした。

これらに伴い、カリキュラム・ポリシーの記載内容を上記の内容に修正することとし、シラバスについては、授業の到達目標、授業科目の概要、授業時間外の学習情報も含めて適正となるよう修正した。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（13 ページ）

新	旧
1　教育課程編成の考え方・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） （2）専門科目 「看護・リハビリテーション領域」として、保健医療福祉関連職に必要となる基礎知識を、学際的視野に基づいて医学、看護学、理学療法学、作業療法学の基本的学理を学修する必修科目の「保健学総論」を基盤として、養成する人材像において述べた「ケア提供システム」、「人間発達ケア」、「健康コミュニティ」の 3 分野の人材を養成するために、分野別のディプロマ・ポリシーに記載した能力の修得を目指して、専門分化した各分野の１年次前期に特論を、１年次後期に演習Ⅰ、演習Ⅱを配置した。 各分野の「特論」において各分野の内容を概括的に学修し、分野ごとの「演習Ⅰ」では、文献検索を通してエビデンスを構築する過程を学修する。分野ごとの「演習Ⅱ」では、実践の場における支援方法の問題点を明らかにする過程を学修する。専門分化した内容を体系的に履修するため、同じ分野の特論、演習Ⅰ、演習Ⅱを選択必修科目とした。研究に必要なプロセスを演習Ⅰ・Ⅱにより修得す	1　教育課程編成の考え方・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） （2）専門科目 「看護・リハビリテーション領域」として、保健医療福祉関連職に必要となる基礎知識を、学際的視野に基づいて医学、看護学、理学療法学、作業療法学の基本的学理を学修する必修科目の「保健学総論」を基盤として、養成する人材像において述べた「ケア提供システム」、「人間発達ケア」、「健康コミュニティ」の 3 分野の人材を養成するために専門分化した分野ごとの特論を１年次前期に、演習Ⅰ、演習Ⅱを１年次後期に配置した。 各分野の「特論」において各分野の内容を概括的に学修し、分野ごとの「演習Ⅰ」では、修士論文の研究課題の策定に向けて、研究デザイン、研究プロトコルの作成、研究課題の抽出までを学修する。分野ごとの「演習Ⅱ」では、学生が選択した研究課題について研究計画仕上げ、研究倫理審査までの過程を学修する。専門分化した内容を体系的に履修するため、同じ分野の特論、演習Ⅰ、演習Ⅱを選択必修科目とした。

る。 ア　ケア提供システム分野 「ケア提供システム特論」により、保健医療福祉システム、システムマネジメントについて学修し、「ケア提供システム演習Ⅰ」、「ケア提供システム演習Ⅱ」により、文献検索を通してエビデンスを構築する過程の学修、実践の場における支援方法の問題点を明らかにする過程の学修を通して研究に必要なプロセスを修得する。研究に必要なプロセスを演習Ⅰ・Ⅱにより修得する。 イ　人間発達ケア分野 「人間発達ケア特論」により人間の発達段階における諸課題を共通に学修したうえで、演習では理学療法学、作業療法学、母子看護学の専門分野に分化して担当教員による指導を通して、それぞれの専門分野に関連した様々な人間の発達段階における健康について学修する。 ①　理学療法学系 「人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）」により、発達過程における理学療法学に関連する文献検索を通してエビデンスを構築する過程を学修する。また、「人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）」により、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、実践の場における支援方法の問題点を明らかにする過程の学修を通して研究に必要なプロセスを修得する。研究に必要なプロセスを演習Ⅰ・Ⅱにより修得する。 ②　作業療法学系 「人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）」により、発達過程における作業療法学に関連する文献検索を通してエビデンスを構築する過程を学修する。また、「人間発達ケア	ア　ケア提供システム分野 「ケア提供システム特論」、「ケア提供システム演習Ⅰ」、「ケア提供システム演習Ⅱ」を通して、保健医療福祉システム、システムマネジメントに関する問題を発見し、課題を設定し、文献検索、批判的吟味を行い、研究計画を立案し倫理審査を受ける。 イ　人間発達ケア分野 「人間発達ケア特論」により人間の発達段階における諸課題を共通に学修したうえで、演習では理学療法学、作業療法学、母子看護学の専門分野に分化して担当教員による指導を通して、それぞれの専分野域に関連した様々な人間の発達段階における健康に関する研究課題を設定し、文献検索、批判的吟味を行い、研究計画を立案し倫理審査を受ける。 ①　理学療法学系 「人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）」により、発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。また、「人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）」により、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、研究計画の立案、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 ②　作業療法学系 「人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）」により、発達過程における作業療法学に関連する研究課題を明確化し、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。また、「人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）」により、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、研究計画の立案、研究倫理審査までの過程を取り上げる。

演習Ⅱ（作業療法学）」により、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、実践の場における支援方法の問題点を明らかにする過程の学修を通して研究に必要なプロセスを修得する。研究に必要なプロセスを演習Ⅰ・Ⅱにより修得する。 ③　母子看護学系 「人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）」により、発達過程における母子看護学に関連する文献検索を通してエビデンスを構築する過程を学修する。また、「人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）」により、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、実践の場における支援方法の問題点を明らかにする過程の学修を通して研究に必要なプロセスを修得する。研究に必要なプロセスを演習Ⅰ・Ⅱにより修得する。 ウ　健康コミュニティ分野 「健康コミュニティ特論」により、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた特定集団の健康への支援と研究に必要な理論と方法論を学修する。「健康コミュニティ演習Ⅰ」により、文献検索を通してエビデンスを構築する過程を学修する。「健康コミュニティ演習Ⅱ」により、実践の場における支援方法の問題点を明らかにする過程の学修を通して研究に必要なプロセスを修得する。研究に必要なプロセスを演習Ⅰ・Ⅱにより修得する。 (3) 特別研究科目 特別研究科目は、共通科目と専門科目を基礎として、１年次後期から２年次通期に履修する。学生は、自身の研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の下に立案、実施し、一	③　母子看護学系 「人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）」により、発達過程における母子看護学に関連する研究課題を明確化し、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。また、「人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）」により、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、研究計画の立案、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 ウ　健康コミュニティ分野 「健康コミュニティ特論」、「健康コミュニティ演習Ⅰ」、「健康コミュニティ演習Ⅱ」演習を通して、公衆衛生分野又は社会調査に関する研究課題を設定し、文献検索、批判的吟味を行い、研究計画を立案し倫理審査を受ける。 (3) 特別研究科目 特別研究科目は、２年次通期の履修とし、学生は、作成した研究計画に基づき、研究指導教員の指導の下に研究手法を学修し、データ収集、入力、解析を行い、その結果を修士論文としてまとめ、修士論文審査を受ける。

連の成果を論文としてまとめ、修士論文審査を受ける。	
2　教育課程の編成の特色 (2) 専門科目 専門科目には次のとおり3種類の養成する人材像に沿った専門職を育成するため、医学、看護学、理学療法学、作業療法学などを基盤にした看護・リハビリテーション領域の 14 科目と特別研究を配置し、それぞれの専門分野の研究を深める科目を配置している。 「保健学総論」は、必修科目で、多職種協働による「誰一人として取り残さない地域社会」の構築を志向する保健医療福祉関連職に必要となる基礎知識を学修するために、学際的視野に基づいて医学、看護学、理学療法学、作業療法学の基本的学理を学修することとしている。 養成する人材像に沿った「ケア提供システム分野」、「人間発達ケア分野」、「健康コミュニティ分野」の専門職を育成するため、それぞれ特論、それに関連する演習Ⅰ、演習Ⅱの3科目を配置し、選択必修科目として、自ら選択した研究課題に応じることとしている。 ア　ケア提供システム分野 「ケア提供システム特論」では、わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論、ならびに地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学修する。 「ケア提供システム演習Ⅰ」では、医療	2　教育課程の編成の特色 (2) 専門科目 専門科目には次のとおり3種類の養成する人材像に沿った専門職を育成するため、医学、看護学、理学療法学、作業療法学などを基盤にした看護・リハビリテーション領域の 14 科目と特別研究を配置し、それぞれの専門分野の研究を深める科目を配置している。 「保健学総論」は、必修科目で、多職種協働による「誰一人として取り残さない地域社会」の構築を志向する保健医療福祉関連職に必要となる基礎知識を学修するために、学際的視野に基づいて医学、看護学、理学療法学、作業療法学の基本的学理を学修することとしている。 養成する人材像に沿った「ケア提供システム分野」、「人間発達ケア分野」、「健康コミュニティ分野」の専門職を育成するため、それぞれ特論、それに関連する演習Ⅰ、演習Ⅱの3科目を配置し、選択必修科目として、自ら選択した研究課題に応じることとしている。 ア　ケア提供システム分野 「ケア提供システム特論」では、わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論、ならびに地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学修する。 「ケア提供システム演習Ⅰ」では、医療

現場における組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題、後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題を選択した学生は、テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。また、関連する先行研究のレビューレポートを作成し発表する。 「ケア提供システム演習Ⅱ」では、医療現場における組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題、後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題を選択した学生は、実践の場における支援方法の問題点を明らかにするため、保健統計や施策を含めて幅広く理解し、必要な支援方法と課題について理解する。	現場における組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題、後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手して自らの研究テーマの抽出につなげる。選択した課題を実証的に検証する方法について検討し、研究を進めるための条件を整える。 「ケア提供システム演習Ⅱ」では、医療現場における組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題、後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、学生が選択した自己の研究課題について、研究計画書を完成させて、研究倫理審査を受ける。
イ　人間発達ケア分野 「人間発達ケア特論」では、様々なライフステージ（発達段階）において健康課題を持つ人々の生活を支える包摂的な支援を多職種連携チームにより提供する際の問題に関する研究を行う上で必要となる知識、理論、方法論を学修する。 「人間発達ケア特論」を選択した者は、理学療法学、作業療法学、母子看護学の視点から様々なライフステージにおける健康課題（例えば妊娠出産、乳幼児保育、壮年期の生活習慣病、スポーツ活動、高齢者の運動器機能障害、担癌、循環器疾患、神経疾患患者のリハビリテーションなど）を持つ人々の機能回復、健康増進、生活を支える包摂的な支援に関する研究を行うため、3つのコース別に演習Ⅰ及び演習Ⅱを	イ　人間発達ケア分野 「人間発達ケア特論」では、様々なライフステージ（発達段階）において健康課題を持つ人々の生活を支える包摂的な支援を多職種連携チームにより提供する際の問題に関する研究を行う上で必要となる知識、理論、方法論を学修し、研究課題設定につなげる。 「人間発達ケア特論」を選択した者は、理学療法学、作業療法学、母子看護学の視点から様々なライフステージにおける健康課題（例えば妊娠出産、乳幼児保育、壮年期の生活習慣病、スポーツ活動、高齢者の運動器機能障害、担癌、循環器疾患、神経疾患患者のリハビリテーションなど）を持つ人々の機能回復、健康増進、生活を支える包摂的な支援に関する研究を行うた

配置している。 ① 「人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）」では、実務経験から捉えた理学療法学に関連する発達過程における研究課題を選択した学生は、テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。担当教員の専門性に応じて、人間の発達過程における肢体不自由に関連する研究課題、人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題、運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した理学療法学の研究課題、動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームなどに関連した理学療法学の研究課題を設定する。「人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）」では、実践の場における支援方法の問題点を明らかにするため、保健統計や施策を含めて幅広く理解し、必要な支援方法と課題について理解する。 ② 「人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）」では、実務経験から捉えた作業療法学に関連する発達過程における研究課題を選択した学生は、テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。自らの研究対象に応じて、作業療法の介入と効果の研究分野、脳機能と作業療法に関する研究分野、超高齢化社会における社会参加に関する研究分野、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究分野に関連する研究課題、人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連	め、3つのコース別に演習Ⅰ及び演習Ⅱを配置している。 ① 「人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）」では、実務経験から捉えた理学療法学に関連する発達過程における研究課題を明確化し、関連文献をレビューし、仮説設定、概念の操作的定義、研究フィールド、研究デザインの選定、対象の選定基準、測定変数、測定評価尺度、統計的解析方法などを検討し、プロトコルを作成するまでの過程を学修する。担当教員の専門性に応じて、人間の発達過程における肢体不自由に関連する研究課題、人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題、運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した理学療法学の研究課題、動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームなどに関連した理学療法学の研究課題を設定する。「人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）」では、演習Ⅰで専門分化した研究課題について研究計画を仕上げ、人を対象とする研究における倫理規程等に沿って作成し、研究倫理審査を受審し、プロトコルを完成させる。 ② 「人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）」では、実務経験から捉えた作業療法学に関連する発達過程における研究課題を明確化し、関連文献をレビューし、仮説設定、概念の操作的定義、研究フィールド、研究デザインの選定、対象の選定基準、測定変数、測定評価尺度、統計的解析方法などを検討し、プロトコルを作成するまでの過程を学修する。自らの研究対象に応じて、作業療法の介入と効果の研究分野、脳機能と作業療法に関する研究分野、超高齢化社会における社会参加に関

する研究課題に分かれて実践的研究手法に結び付ける演習を行う。「人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）」では、実践の場における支援方法の問題点を明らかにするため、保健統計や施策を含めて幅広く理解し、必要な支援方法と課題について理解する。 ③　「人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）」では、発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題を選択した学生は、テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。自らの研究対象に応じて、発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、及び発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題、乳幼児期・小児期に関連する研究課題に分かれて研究・実務経験を活かした演習を行う。「人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）」では、実践の場における支援方法の問題点を明らかにするため、保健統計や施策を含めて幅広く理解し、必要な支援方法と課題について理解する。発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、及び発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題については、教員が共同で演習を行う。 ウ　健康コミュニティ分野 「健康コミュニティ特論」では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的（inclusive）支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論を学修し、関心領	する研究分野、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究分野に関連する研究課題、人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学、応用健康科学に関連する研究課題に分かれて実践的研究手法に結び付ける演習を行う。「人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）」では、演習Ⅰで専門分化した研究課題ごとに、研究計画を作成し、研究倫理審査を受審し、プロトコルを完成させる。 ③　「人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）」では、発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮説の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。自らの研究対象に応じて、発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、及び発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題、乳幼児期・小児期に関連する研究課題に分かれて研究・実務経験を活かした演習を行う。「人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）」では、演習Ⅰで専門分化した研究課題ごとに、研究計画を仕上げ、研究倫理審査を受審し、プロトコルを完成させる。発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、及び発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題については、教員が共同で演習を行う。 ウ　健康コミュニティ分野 「健康コミュニティ特論」では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働

域の研究につなげる。 「健康コミュニティ演習Ⅰ」では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な（inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討し、コミュニティにおける包摂的な（inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。 「健康コミュニティ演習Ⅱ」では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援策の開発や、効果的な支援方法に関連する研究課題について、既存の施策や実際の支援内容・支援方法を含めて幅広く理解する。そのうえで、学生自身の研究・実務経験を活かして、学生自身が関心をもつ対象集団に必要とされる支援策や支援内容・効果的な支援方法を、演習により探求する。 (3) 特別研究科目 「保健学特別研究」では、共通科目、保健学総論、保健学専攻の講義科目、演習を踏まえ、実践・研究・教育を発展させるための専門分野の研究課題を練り上げ、研究計画を研究指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文としてまとめる。論文作成過程を通じて、情報活用力、データ解析力、問題発見と解決能力、研究開発能力、研究者としての判断力、文章作成能力、プレゼンテーション能力を養い、保健学における高度な知識・技術の集大成を図る。	による包摂的（inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論、を学修し、関心分野の研究につなげる。 「健康コミュニティ演習Ⅰ」では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な（inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論を学修し、関心分野の研究につなげる。 「健康コミュニティ演習Ⅱ」では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題の中から、学生が選択した自己の研究課題について、公衆衛生学の視点や社会調査や評価指標の開発などの手法を用い、演習Ⅰで研究プロトコルを検討した研究の研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を学修する。 (3) 特別研究科目 「保健学特別研究」では、共通科目、保健学総論、保健学専攻の講義科目、演習を踏まえ、実践・研究・教育を発展させるための専門分野の研究課題について作成した研究計画に沿って、研究指導教員により、研究方法を探求した上で研究を実践し、修士論文を作成するための指導を行う。論文作成過程を通じて、情報活用力、データ解析力、問題発見と解決能力、研究開発能力、研究者としての判断力、文章作成能力、プレゼンテーション能力を養い、保健学における高度な知識・技術の集大成を図る。

（新旧対照表）教育課程等の概要

新	旧
特別研究科目 配当年次　1後～2通	特別研究科目 配当年次　2通
別紙6　教育課程等の概要　新	別紙6　教育課程等の概要　旧

（新旧対照表）授業科目の概要

新	旧
ケア提供システム演習Ⅰ 　医療サービス・マネジメントに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 　本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。	ケア提供システム演習Ⅰ 　テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手して自らの研究テーマの抽出につなげる。選択した課題を実証的に検証する方法について検討し、研究を進めるための条件を整える。 　本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。
ケア提供システム演習Ⅱ 授業科目の概要 　医療サービス・マネジメントに関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 　本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。	ケア提供システム演習Ⅱ 授業科目の概要 　学生が選択した自己の研究課題について、研究計画書を完成させて、研究倫理審査を受ける。 　本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。
人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） 　　発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 　本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） 　発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 　本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。
人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）

授業科目の概要 　発達過程における理学療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 　本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。	授業科目の概要 　発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 　本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。
人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） 　発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 　本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） 　発達過程における作業療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 　本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。
人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 授業科目の概要 　発達過程における作業療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 　本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 授業科目の概要 　発達過程における作業療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 　本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。
人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 　発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 　本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 　発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 　本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、講義や学生支援を行う。
人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） 授業科目の概要	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） 授業科目の概要

発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連する研究課題について保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。	発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。
健康コミュニティ演習Ⅰ 本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な（inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な（inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。	健康コミュニティ演習Ⅰ 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、フィールドワーク、研究枠組みの明確化、概念定義および仮説の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習では、公衆衛生学の視点からの研究および社会調査や評価指標の開発などの手法を用いた研究を対象とするため、開講前に学生の研究課題もしくは関心のある課題についてヒアリングし、該当する課題を研究する教員を中心に進める。
健康コミュニティ演習Ⅱ 授業科目の概要 本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援策の開発や、効果的な支援方法に関連する研究課題について、既存の施策や実際の支援内容・支援方法を含めて幅広く理解する。そのうえで、学生自身の研究・実務経験を活かして、学生自身が関心をもつ対象集団に必要とされる支援策や支援内容・効果的な支援方法を、演習	健康コミュニティ演習Ⅱ 授業科目の概要 本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題の中から、学生が選択した自己の研究課題について、公衆衛生学の視点や社会調査や評価指標の開発などの手法を用い、演習Ⅰで研究プロトコルを検討した研究の研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を学修する。

により探求する。	本演習は、人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、学生自身の研究・実務経験を活かして演習を行う。
保健学特別研究 研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。	保健学特別研究 共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。
別紙 9　授業科目の概要　新	別紙 9　授業科目の概要　旧

（新旧対照表）シラバス（保健学特別研究）

新	旧
配当年次　1 年次～2 年次 配当学期　後期（1 年次）通期（2 年次）	配当年次　2 年次 配当学期　通期
別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

（新旧対照表）シラバス

新	旧
ケア提供システム演習Ⅰ 授業科目の概要 医療サービス・マネジメントに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究テーマに基づき、担当する教員の指導により進める。	ケア提供システム演習Ⅰ 授業科目の概要 テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手して自らの研究テーマの抽出につなげる。選択した課題を実証的に検証する方法について検討し、研究を進めるための条件を整える。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。
ケア提供システム演習Ⅱ 授業科目の概要 医療サービス・マネジメントに関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅	ケア提供システム演習Ⅱ 授業科目の概要 学生が選択した自己の研究課題について、研究計画書を完成させて、研究倫理審査を受

広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 　本演習は、研究テーマに基づき、担当する教員の指導により進める。	ける。 　本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。
人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） 授業科目の概要 　発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 　本演習は研究テーマに基づき、担当する教員の指導により進める。	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） 授業科目の概要 　発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 　本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。
人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 授業科目の概要 　発達過程における理学療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 　本演習は、研究テーマに基づき、担当する教員の指導により進める。	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 授業科目の概要 　発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 　本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。
人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） 授業科目の概要 　発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 　本演習は研究テーマに基づき、担当する教員の指導により進める。	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） 授業科目の概要 　発達過程における作業療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 　本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。
人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 授業科目の概要 　発達過程における作業療法学に関連する	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 授業科目の概要 　発達過程における作業療法学に関連する

研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 　本演習は、研究テーマに基づき、担当する教員の指導により進める。	研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 　本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。
人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 授業科目の概要 　発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 　本演習は研究テーマに基づき、担当する教員の指導により進める。	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 授業科目の概要 　発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 　本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、講義や学生支援を行う。
人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） 授業科目の概要 　　発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連する研究課題について保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 　本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） 授業科目の概要 　発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 　本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。
健康コミュニティ演習Ⅰ 授業科目の概要 　本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な（inclusive）支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。	健康コミュニティ演習Ⅰ 授業科目の概要 　本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な（inclusive）支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論を学修し、関心領域の研究につなげる。 　プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な

プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な(inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。	(inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。
健康コミュニティ演習Ⅱ 授業科目の概要 本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、学生自身の研究・実務経験を活かして演習を行う。	健康コミュニティ演習Ⅱ 授業科目の概要 本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題の中から、学生が選択した自己の研究課題について、公衆衛生学の視点や社会調査や評価指標の開発などの手法を用い、演習Ⅰで研究プロトコルを検討した研究の研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を学修する。 本演習は、人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、学生自身の研究・実務経験を活かして演習を行う。
健康コミュニティ演習Ⅱ 授業時間外の学習情報（事前学習） 演習は、学生と教員とのディスカッション、学生のプレゼンテーション、フィールドでの演習により進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。	健康コミュニティ演習Ⅱ 授業時間外の学習情報（事前学習） 演習は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
保健学特別研究 授業科目の概要 研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文としてまとめる。論文作成過程を通じて、保健学における高度な知識・技術の集大成を図る。	保健学特別研究 授業科目の概要 共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。

別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

（新旧対照表）シラバス　授業計画

新	旧
ケア提供システム演習Ⅰ 1～10. 医療サービスマネジメントのリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー 11～20. 文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む） 21～25. 医療サービスマネジメントにおける有用なエビデンスの検討 26～30. 先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	ケア提供システム演習Ⅰ 1～4. 課題の明確化とその範囲の特定 5～10. 関心のある領域の系統的文献レビュー 11～16. 研究テーマに適した研究方法の検討 17～22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化 23～30. 研究デザインを元にプロトコルの作成
ケア提供システム演習Ⅱ 1～4. 医療サービスマネジメントに関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解 5～8. 医療サービスマネジメントに関する学問の動向の理解 9～16. 医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求 17～24. 医療サービスマネジメントに関わる支援方法と課題の探求 25～30. 医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議	ケア提供システム演習Ⅱ 1～4. 研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成 5～8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化 9～18. 研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練 19～24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25～30. 研究計画書の作成
人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） 1～10. 発達過程における理学療法学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー 11～20. 文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む） 21～25. 発達過程における理学療法学におけ	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） 1～4. 課題の明確化とその範囲の限定 5～10. 関連文献のレビュー 11～16. 臨床フィールドワークの着手 17～22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化 23～26. 研究デザインと研究計画 27～28. デザインの選択 29～30. 介入のためのプロトコル作成

る有用なエビデンスの検討 26～30. 先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	
人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 1～4. 理学療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解 5～8. 理学療法学の動向の理解 9～16. 理学療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求 17～24. 理学療法学に関わる支援方法と課題の探求 25～30. 理学療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 1～4. 研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成 5～8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化 9～18. 研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練 19～24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25～30. 研究計画書の作成
人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） 1～10. 発達過程における作業療法学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー 11～20. 文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む） 21～25. 発達過程における作業療法学における有用なエビデンスの検討 26～30. 先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） 1～4. 課題の明確化とその範囲の限定 5～10. 関連文献のレビュー 11～16. 臨床フィールドワークの着手 17～22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化 23～24. . 研究デザインと研究計画 25～26. デザインの選択 27～30. 介入のためのプロトコル作成
人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 1～4. 作業療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解 5～8. 作業療法学の動向の理解 9～16. 作業療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求 17～24. 作業療法学に関わる支援方法と課題の探求 25～30. 作業療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 1～4. 研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成 5～8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化 9～18. 研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練 19～24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25～30. 研究計画書の作成
人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 1～10. 発達過程における母子･家族を中心と	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 1～4. 課題の明確化とその範囲の限定

した看護学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー 11～20. 文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む） 21～25. 発達過程における母子・家族を中心とした看護学における有用なエビデンスの検討 26～30. 先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	5～10. 関連文献のレビュー 11～16. 臨床フィールドワークの着手 17～22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化 23～26. 研究デザインと研究計画 27～28. データ分析の予備的検討 29～30. 介入のためのプロトコル作成
人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） （坂口・林） 1～4. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる母子保健・医療・福祉の動向と現状の理解 5～8. リプロダクティブヘルス（性感染症）の動向の理解 9～16. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求 17～24. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる支援方法と課題の探求 25～30. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） （坂口・林） 1～4. 研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成 5～8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化 9～18. 研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練 19～24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25～30. 研究計画書の作成
人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） （樋貝） 1～4. 乳幼児期・小児期に関わる母子保健・医療・福祉の動向と現状の理解 5～8. 小児看護学の動向の理解 9～16. 乳幼児期・小児期に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求 17～24. 乳幼児期・小児期に関わる支援方法と課題の探求 25～30. 乳幼児期・小児期に関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） （樋貝） 1～4. 研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成 5～8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化 9～18. 研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練 19～24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25～30. 研究計画書の作成

健康コミュニティ演習Ⅰ 1. オリエンテーション 2～6. 関心のあるリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー 7～10.　〃　プレゼンテーション 11～16. 文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む） 17～20.　〃　プレゼンテーション 21. 関心のあるリサーチクエスチョンにおける有用なエビデンスの検討 22～25.　〃　プレゼンテーション 26～29. 先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議. 30. まとめ	健康コミュニティ演習Ⅰ 1. オリエンテーション 2. 課題の明確化とその範囲の限定 3.　〃 4～6. 関連文献のレビュー 7～10.　〃 11～14. フィールドワーク（プレ調査、フィールドの選定と確保） 15～17.　〃 18～20. 研究枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化. 21～24.　〃　最終報告 25～28. 研究デザインの選定と研究プロトコルの作成 29～30.　〃　最終報告
健康コミュニティ演習Ⅱ 1. オリエンテーション 2～3. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への施策の動向、現状と課題の理解 4～5.　〃　プレゼンテーション・ディスカッション 6～10. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援内容・支援方法に関する現状と課題の理解 11～15.　〃　プレゼンテーション・ディスカッション 16～18. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援内容と効果的な支援方法に関する研究の現状と課題の探求 19～20.　〃　プレゼンテーション・ディスカッション 21～22. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への必要な支援内容と効果的な支援方法の探求. 23～24.　〃　プレゼンテーション・ディスカ	健康コミュニティ演習Ⅱ 1. オリエンテーション 2～3. 研究目的、研究対象者（選考基準、除外基準）の特定 4.　〃 5～6. 研究デザインの特定と研究プロトコルの作成 7～8.　〃 9～14. 研究方法の具体化(測定法、 15～20.　〃 21～22. 研究倫理について:依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成. 23～24.　〃 25～27. 研究計画書の作成 28～29.　〃 30. 研究計画書の発表

ッション 25～27.健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々に求められる支援策、必要とされる研究の探求 28～29.　〃　プレゼンテーション・ディスカッション 30.まとめ	
保健学特別研究 1～30.研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請 31～78.研究の実施：調査・実験、データ収集 79～94.データ入力 95～110.データ解析と考察 111～142.論文作成 143～150.修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備	保健学特別研究 .研究計画書に基づく研究の実施 .データの収集、データの入力及びデータの解析 .データ結果の取りまとめ .論文作成 .プレゼンテーションの準備 .修士論文の提出
別紙11　シラバス　新	別紙11　シラバス　旧

（新旧対照表）学則　別表1　教育課程

新	旧
特別研究科目 配当年次　1後～2通	特別研究科目 配当年次　2通
別紙7　学則　別紙1　新	別紙7　学則　別紙1　旧

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類　資料17　時間割表

新	旧
大学院1年目時間割表（後期） 土曜日　1、2限　保健学特別研究	大学院1年目　時間割表（後期） 土曜日　　（空欄）
設置の趣旨等を記載した書類 別紙10　資料17　時間割表　新	設置の趣旨等を記載した書類 別紙10　資料17　時間割表　旧

(3)「英語文献講読」について、大学院教育にふさわしい科目名称、内容について

審査意見を考慮し、科目の内容を全体的に見直した結果、授業科目の概要について、「リハビリテーション学と看護学に関する論文紹介のプレゼンテーションをグループで行うことによりクリティカルに読む姿勢を養う。」としていたものを、「英語の文献検討力を養うため、リハビリテーション学及び看護学に関する論文をクリティカルに読み論理的かつ的確に発表できる力を養う。」と修正し、科目名称を「医学英語研究」に修正した。

また、理学療法学、作業利用法学、看護学に関する英語論文をクリティカルに読みプレゼンテーションにより討議する講義では、担当する理学療法学、作業療法学、看護学の専任教員がこの科目の担当教員と一部共同により行い授業効果を上げることとした。

また、「医療コミュニケーション論」について、審査意見を考慮し内容を検討した結果、大学院教育にふさわしい内容とするため、授業計画に「論文発表のための英語によるプレゼンテーションの基礎」を取り上げることとした。

（新旧対照表）教育課程等の概要

新	旧
共通科目 医療英語研究	共通科目 英語文献講読
別紙６　教育課程等の概要　新	別紙６　教育課程等の概要　旧

（新旧対照表）授業科目の概要

新	旧
共通科目 医療英語研究	共通科目 英語文献講読
内容 医療・医学に関する英語文献を講読し、その読解力を養うとともに、医療・医学に関わる基礎的・専門的知識およびその英語特有の規則等も学ぶ。特に前半は基礎的な内容の英語を規則等にも注目して読み、後半は英語の文献検討力を養うため、リハビリテーション学と看護学に関する英語論文をクリティカルに読み、その内容を論理的かつ的確に発表できる力を養う。	内容 医療・医学に関する英語文献を講読し、その読解力を養うとともに、医療・医学に関わる基礎的・専門的知識およびその英語特有の規則等も学ぶ。特に前半は基礎的な内容の英語を規則等にも注目して読み、後半はリハビリテーション学と看護学に関する論文紹介のプレゼンテーションをグループで行うことによりクリティカルに読む姿勢を養う。
別紙９　授業科目の概要　新	別紙９　授業科目の概要　旧

（新旧対照表）シラバス

新	旧
目次 　医療英語研究	目次 　英語文献講読
6 ページ 　授業科目　医療英語研究	6 ページ 　授業科目　英語文献講読
別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

（新旧対照表）学則　別表 1

新	旧
共通科目 　医療英語研究	共通科目 　英語文献講読
別紙 7　学則　別表 1　新	別紙 7　学則　別表 1　旧

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類　資料 17

新	旧
1 ページ　大学院 1 年目 土曜日　5 時限　医療英語研究	1 ページ　大学院 1 年目 土曜日　5 時限　英語文献講読
3 ページ　科目別授業時間等 共通科目　医療英語研究	3 ページ　科目別授業時間等 共通科目　英語文献講読
設置の趣旨等を記載した書類 別紙 10　資料 17　時間割表　新	設置の趣旨等を記載した書類 別紙 10　資料 17　時間割表　旧

（新旧対照表）シラバス　授業計画

新	旧
医療英語研究 1. 医学用語の構成要素をつなぐ規則を理解し、Cell, Organ, and System を読む。 2. ラテン語またはギリシャ語に由来する複数形の作り方を理解し、Circulatory System を読む。 3. Respiratory System を読み、呼吸器系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。 4. Digestive System を読み、消化器系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。 5. Urinary System を読み、泌尿器系に関す	英語文献講読 1. 医学用語の構成要素をつなぐ規則を理解し、Cell, Organ, and System を読む。 2. ラテン語またはギリシャ語に由来する複数形の作り方を理解し、Circulatory System を読む。 3. Respiratory System を読み、呼吸器系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。 4. Digestive System を読み、消化器系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。 5. Urinary System を読み、泌尿器系に関す

る語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。 6.Nervous System と Musculoskeletal System を読み、神経系と筋骨格系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。 7.英語文献について、アブストラクト、本文、文献リストの構成および結論が導かれるプロセスを理解するとともに、ESP の観点から医療分野に特有の語彙、表現についても学ぶ。また、文献検索の方法も学ぶ。 8.保健学分野の基本的な英語文献 1 編を読み、前回の内容を具体的に確認、理解する。 9.前回扱った論文について授業担当者のプレゼンテーションを聴き、理解を深めるとともに、内容についてディスカッションする。 10.理学療法学に関する英語文献を選択し、その研究論文の目的、研究計画、結果、考察のまとめ方を、語彙. 表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。 11.前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。 12.作業療法学に関する英語文献を選択し、その研究論文の目的、研究計画、結果、考察のまとめ方を、語彙. 表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。 13.前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。 14.看護学に関する英語文献を選択し、その研究論文の目的、研究計画、結果、考察のまとめ方を、語彙. 表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。 15.前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。	る語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。 6.Nervous System と Musculoskeletal System を読み、神経系と筋骨格系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。 7.英語文献について、アブストラクト、本文、文献リストの構成および結論が導かれるプロセスを理解するとともに、ESP の観点から医療分野に特有の語彙、表現についても学ぶ。また、文献検索の方法も学ぶ。 8.保健学分野の基本的な英語文献 1 編を読み、前回の内容を具体的に確認、理解する。 9.前回扱った論文について授業担当者のプレゼンテーションを聴き、理解を深めるとともに、内容についてディスカッションする。 10.作業療法学分野の英語文献 1 編を語彙・表現・構成に注目しながら読み、内容を理解する。 11.前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。 12.理学療法学分野の英語文献 1 編を語彙・表現・構成に注目しながら読み、内容を理解する。 13.前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。 14.看護学分野の英語文献 1 編を語彙・表現・構成に注目しながら読み、内容を理解する。 15.前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。
医療コミュニケーション論 1. 医療コミュニケーション概論科学	医療コミュニケーション論 1. 医療コミュニケーション概論科学

2.　技術コミュニケーション-最新科学を一般の人に伝える。 3.　臨床コミュニケーション　①-疾病を患者・家族に理解させる。 4.　臨床コミュニケーション②-個人の病態を本人・家族に伝える。 5. ヘルスライティング①-患者・家族に向けた支援文書作成 6.　ヘルスライティング②-保健医療文書の作成 7. ヘルスライティング③-発表会・総合討論 8. ヘルスコミュニケーション①-個人の行動変容を促すコミュニケーション 9.　ヘルスコミュニケーション②-集団の行動変容を促すコミュニケーション 10.　ヘルスコミュニケーション③-他職種連携コミュニケーション 11.　ヘルスコミュニケーション④-外国人患者とのコミュニケーション 12.　<u>論文発表のための英語によるプレゼンテーションの基礎</u> 13. グループ組織のコミュニケーション 14. 患者・市民の啓発 15. まとめとグループ討論	2.　技術コミュニケーション-最新科学を一般の人に伝える。 3.　臨床コミュニケーション　①-疾病を患者・家族に理解させる。 4.　臨床コミュニケーション②-個人の病態を本人・家族に伝える。 5. ヘルスライティング①-患者・家族に向けた支援文書作成 6.　ヘルスライティング②-保健医療文書の作成 7. ヘルスライティング③-発表会・総合討論 8. ヘルスコミュニケーション①-個人の行動変容を促すコミュニケーション 9.　ヘルスコミュニケーション②-集団の行動変容を促すコミュニケーション 10.　ヘルスコミュニケーション③-他職種連携コミュニケーション 11.　ヘルスコミュニケーション④-外国人患者とのコミュニケーション 12.　ヘルスコミュニケーション⑤-まとめと発表会 13. グループ組織のコミュニケーション 14. 患者・市民の啓発 15. まとめとグループ討論
別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

（新旧対照表）授業科目の概要　医療コミュニケーション論

新	旧
本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにより、医療・保健領域において患者、市民といったさまざまな個人・集団に向けて適切なコミュニケーションを可能にすることにある。その結果として医療・保健情報を正しく伝えるだけでなく、正しく情報収集することに役立てることに	本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにより、医療・保健領域において患者、市民といったさまざまな個人・集団に向けて適切なコミュニケーションを可能にすることにある。その結果として医療・保健情報を正しく伝えるだけでなく、正しく情報収集することに役立てることに

ある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的なコミュニケーションのために（1）コミュニケーションの基本理論（2）コミュニケーションの具体的方法とスキル(3)コミュニケーションの評価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコミュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。 （③　中島八十一／7回） 　疾病の理解に必要な基礎科学を医療従事者ではない患者、家族、一般市民に話すことと書くことで伝える技法を学ぶ。加えて保健医療文書作成や論文発表のための英語によるプレゼンテーションの基礎を修得する。	ある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的なコミュニケーションのために（1）コミュニケーションの基本理論（2）コミュニケーションの具体的方法とスキル(3)コミュニケーションの評価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコミュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。 （3　中島八十一／7回） 　疾病の理解に必要な基礎科学を医療従事者ではない患者、家族、一般市民に話すことと書くことで伝える技法を学ぶ。加えて保健医療文書作成の実務を修得する。

(4) 授業の到達目標についての審査意見を考慮してシラバスを全体的に見直した結果、到達目標は箇条書きとし、「自分の言葉で表現できる」、「できるようになる」、「理解する」、「使用法が分かる」、「修得する」など大学院教育の到達目標として不適切なものについて、「～を理解し、説明できる」、「～が行える」、「～を説明できる」、「～を論述できる」のように修正した。

また、演習と特別研究については、審査意見７（2）の審査意見を考慮して全体的に見直した結果、到達目標を授業科目の概要に合わせて全面的に修正した。

（新旧対照表）シラバス　到達目標

新	旧
医療倫理学 1. 保健・医療・福祉の実践活動に必要となる倫理原則、行動規範を理解し、説明できる。 2. 保健学の研究に必要となる倫理原則、行動規範を理解し、説明できる。 3. 保健学研究、保健・医療・福祉の実践活動において生じた倫理問題について整理し、倫理原則、行動規範をどのように当てはめるかについて論述できる。 4. 倫理問題に関係する他者の立場、価値観を共感的に理解し、関係者と話し合い合意に達することができる。	医療倫理学 １. 講義を聞いて理解したことを自分の言葉で表現できる。 ２．学んだことを課題解決に反映できる。 ３. 学んだことを知りたい人に適切に伝えることができる。
医療コミュニケーション論 １. 出来事を他人が理解できる日本文として記述できる。 ２. 多くの人に分かりやすく日本語で話すことができる。 ３. 他人の考えていることを正確に文書として記録できる。	医療コミュニケーション論 １．出来事を即座に日本語で書き、他人に理解させることができるようになる。 ２. 多くの人を対象に等しく同じような理解に至るように日本語で話すことができるようになる。 ３．他人の考えていることを適切に引き出し、記録することができるようになる。
保健医療マネジメント論 1. わが国における社会保障制度の特性を理解し、説明できる。 2. 人口減少時代における保健医療福祉制度・政策を説明できる。 3. 高度実践家に求められるマネジメント論について論述できる。	保健医療マネジメント論 1. わが国における社会保障制度の特性を理解する。 2. 人口減少時代における保健医療福祉制度・政策を理解する。 3. 高度実践家にもとめられるマネジメント論を学習する。

応用統計学 1. 統計学の基礎的な事項を理解し、説明できる。 2. 医学統計（疫学統計、生物統計）の概念と解析結果を理解し、説明できる。 3. 心理統計（多変量解析、尺度構成）の概念と解析結果を理解し、説明できる。 4. 表計算ソフト、統計解析ソフトを用いて、基本的な統計解析が行える。	応用統計学 1. 統計学の基礎的な事項が理解できる。 2. 医学統計（疫学統計、生物統計）の概念と解析結果が理解できる。 3. 心理統計（多変量解析、尺度構成）の概念と解析結果が理解できる。 4. 表計算ソフト、統計解析ソフトの基本的な使用法がわかる。
医療英語研究 1. 大部分がギリシャ語またはラテン語に由来する英語の医学用語の構造的特徴を、音韻、形態素、語彙に関して理解し、説明できる。 2. やさしい英語で書かれた人体の構造、機能、疾病について理解し、説明できる。 3. 英語で書かれた医療分野の文献を ESP（English for Specific Purposes：専門分野別英語）の観点も踏まえ、構成と論理に注目しながら的確に理解し表現できる。	英語文献講読 大部分がギリシャ語またはラテン語に由来する英語の医学用語の構造的特徴を、音韻、形態素、語彙に関して理解し、やさしい英語で書かれた人体の構造、機能、疾病について読めるようになった後に、英語で書かれた医療分野の文献を ESP（English for Specific Purposes：専門分野別英語）の観点も踏まえ、構成と論理に注目しながら的確に理解できるようになることを目標とする。
保健医療教育論 1. 学部での基礎教育、卒後教育、現任教育における保健医療教育の歴史的変遷、並びに保健医療教育の理論と実践についての知識を体系的・系統的に理解し、説明できる。 2. この理論と実践の往還作業を通して、保健医療教育論の系譜と今日的課題について説明できる。	保健医療教育論 学部での基礎教育、卒後教育、現任教育における保健医療教育の歴史的変遷、並びに保健医療教育の理論と実践についての基礎的知識を修得する。この理論と実践の学びを通して、保健医療教育の原理を探究し、人間理解を深める。
保健医療教育実践論 1. 保健医療専門職を目指す人々を指導できる教育力を身に付けるために、保健医療教育の様々な実践事例における教育方法の特色を理解し、活用できる。 2. 実践事例における保健医療の専門知識と科学的な根拠を、保健医療教育実践の教材として再構成できる。	保健医療教育実践論 本講義では、保健医療専門職を目指す人々を指導できる教育力を身に付けるために、保健医療教育の様々な実践事例における教育方法の特色を理解し、活用できるようになる。また、実践事例における保健医療の専門知識を理解し、教授できる指導力を修得する。
保健学総論	保健学総論

1.　医学、医療の動向を説明できる。 2.　看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解し、説明できる。 3.　各発達段階における健康課題を理解し、説明できる。 4.　障害者の健康について説明できる。 5.　地域社会の健康課題について説明できる。 6.　多職種連携チームの構成、活動、マネジメントについて理解し、説明できる。	1.　医学、医療の動向を説明できる。 2.　看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解する。 3.　各発達段階における健康課題を理解する。 4.　障害者の健康について説明できる。 5.　地域社会の健康課題について説明できる。 6.　多職種連携チームの構成、活動、マネジメントについて理解する。
ケア提供システム特論 1. わが国における保健医療福祉の制度・政策を説明できる。 2. ケア提供システムを構築し、機能させるためのサービスマネジメントを論述できる。	ケア提供システム特論 1. わが国における保健医療福祉の制度・政策を理解する。 2. ケア提供システムを構築し、機能させるためのサービスマネジメントを理解する。
ケア提供システム演習Ⅰ １. 医療サービスマネジメントに関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２. 様々な研究手法と特徴を理解できる。 ３. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５. 関連する文献のクリティークによって、医療サービスマネジメントに有用なエビデンスを検討できる。	ケア提供システム演習Ⅰ １. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２. 自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールドと調整することができる。 ４. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定義・仮説を明確にできる。 ５. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
ケア提供システム演習Ⅱ 1. 医療サービスマネジメントに関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 医療サービスマネジメントに関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解	ケア提供システム演習Ⅱ 1.　自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2.　研究対象となる母集団を特定する過程

し、説明できる。 3. 医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 医療サービスマネジメントに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。	を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3.　研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4.　人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5.　研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） １. 発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解できる。 ３. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、理学療法に有用なエビデンスを検討できる。	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） １. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 1. 発達過程における理学療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 理学療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 理学療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 理学療法学に関わる支援方法について理	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学

解するとともに、課題について探求できる。	び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） １. 発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５. 関連する文献のクリティークによって、作業療法学に有用なエビデンスを検討できる。	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） １. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２. 自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 1. 発達過程における作業療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 作業療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 作業療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 作業療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学

	び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） １．発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解できる。 ３. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、津瀬明できる。 ４. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、母子・家族への看護に有用なエビデンスを検討できる。	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） １. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） 1. 母子保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 母子保健に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） 1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提

	出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
健康コミュニティ演習Ⅰ １．コミュニティとそこに暮らす人々への支援に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解できる。 ３．研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４．リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、コミュニティとそこに暮らす人々への支援に有用なエビデンスを検討できる。	健康コミュニティ演習Ⅰ １．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、文献レビューを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールドと調整することができる。 ４．研究枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、自己の研究を遂行するためのプロトコルを作成できる。
健康コミュニティ演習Ⅱ 1. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関連する保健･医療･福祉･教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。	健康コミュニティ演習Ⅱ １．自己の研究課題について研究デザインを選択し、自己の課題に係る計画を作成できる。 ２．人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 ３．研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
保健学特別研究 1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。	保健学特別研究 1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。

5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。	
別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

（是正事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【教育課程等】

8 ＜授業科目の評価方法が不明確＞

授業科目の評価方法について、以下の点が不明確であることから、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(1) 学修成果の評価方法について明確な方針の記載がなく、カリキュラム・ポリシーにも定められていないことから、適切に改めること。

(2) シラバスに記載されている評価方法について、以下の例のように不明確かつ客観的評価ではないと思われる科目が散見されるので、全体について見直し、適切に改めること。

・「多職種連携論」では評価項目としてグループワーク参加状況が挙げられている。

・「人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）」では、論理性・妥当性・新規性の観点から評価するとされており、特に「新規性」の項目は評価基準として不明確。

（対応）

(1) 学修成果の評価方法について

審査意見を考慮して見直した結果、学修評価について学生の理解を深めるため、期末試験、レポート、グループワークでの課題のプレゼンテーション・ディスカッションの内容等を個別に評価し、個別の評価結果を重みづけして総合評価する。重みづけの程度は、シラバスに明記することを方針とし、学修評価基準として適切な表現に修正した。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（12 ページ）

新	旧
1　教育課程編成の考え方・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 本研究科の教育目的は、地域の健康に関する課題を、科学的かつ包括的に分析し対応できる高度な専門職医療人及び専門職教育者を養成するとともに、保健医療福祉システムを学際的な視点から地域に貢献できる人材を育成することとしている。 本研究科におけるカリキュラム・ポリシーは、教育課程を高度な専門職医療人の基盤となる科目を配置する「共通科目」、看護・リハビリテーション領域として医学、看護学、	1　教育課程編成の考え方・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 本研究科の教育目的は、地域の健康に関する課題を、科学的かつ包括的に分析し対応できる高度な専門職医療人及び専門職教育者を養成するとともに、保健医療福祉システムを学際的な視点から地域に貢献できる人材を育成することとしている。 本研究科におけるカリキュラム・ポリシーは、教育課程を高度な専門職医療人の基盤となる科目を配置する「共通科目」、看護・リハビリテーション領域として医学、看護学、

理学療法学、作業療法学を統合した学際的な保健学の知識を学修し、専門分化した内容をさらに探求するための「専門科目」、共通科目と専門科目で培った能力により科学的かつ包括的に分析し修士論文の作成として集大成を図る「特別研究科目」の科目区分とし、詳細を以下に示す。（資料 9） 学修評価については、期末試験、レポート、課題のプレゼンテーションやディスカッションの内容等を個別に評価し、個別の評価結果を重みづけして総合評価する。重みづけの程度は、シラバスに明記する。	理学療法学、作業療法学を統合した学際的な保健学の知識を学修し、専門分化した内容をさらに探求するための「専門科目」、共通科目と専門科目で培った能力により科学的かつ包括的に分析し修士論文の作成として集大成を図る「特別研究科目」の科目区分とし、詳細を以下に示す。（資料 9）

(2) シラバスに記載されている評価方法について

審査意見で「グループワーク参加状況」が評価方法として不明確との指摘を受けており、単なる出席状況と誤解を与えるような表現は適切でないため、本来意図していた「グループワークでのプレゼンテーション・討議の内容」に改めることとした。また、演習科目において用いていた客観的評価ではないとの指摘を受けた「論理性・妥当性・新規性の観点から評価」という表現については、評価基準として相応しくないため削除することとし、「プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。」に修正することとした。

不明確かつ客観的評価ではないと思われる科目が散見されるという審査意見を考慮し、かつ、審査意見８（1）の内容も踏まえ全体を見直した結果、カリキュラム・ポリシーで評価方法の方針を示したうえで、シラバス全体について適切となるよう、期末試験、レポート、グループワークでの課題のプレゼンテーション・ディスカッションの内容等を個別に評価し、複数の評価項目を採用する場合は、評価に当たっての構成比をシラバスに明記し、複数の評価項目を採用する場合は、評価に当たっての構成比をシラバスに明記するよう修正した。

また、評価方法の明確化に伴い、健康コミュニティ特論では、授業時間外の学習情報の内容を修正した。

（新旧対照表）シラバス

新	旧
医療倫理学 成績評価基準 試験(50%)、レポート(20%)、小テスト(30%)により総合評価する。	医療倫理学 成績評価基準 成績評価は、試験、レポート、小テストに基づいて総合的に行う。
多職種連携論 成績評価基準 グループワークでのプレゼンテーション・討議の内容（40％）及びレポートの内容（60％）を総合評価する。	多職種連携論 成績評価基準 グループワーク参加状況、プレゼンテーションやレポート内容等の総合評価
応用統計学 成績評価基準 授業において提示する課題の理解度と達成度で総合評価する。	応用統計学 成績評価基準 授業における課題の理解度と達成度で評価する
保健医療教育論 成績評価基準 毎授業時の事前事後学習 200 字原稿 30 枚の考察（50％）、800 字小論文（50％）で総合評価する。	保健医療教育論 成績評価基準 毎授業時の事前事後学習 200 字原稿 30 枚の考察（50 点）、800 字小論文（50 点）、合計 100 点（担当土井）

保健医療教育実践論 成績評価基準 　毎授業時の事前事後学習 200 字原稿 30 枚の考察（50%）、800 字小論文（50%）で総合評価する。	保健医療教育実践論 成績評価基準 　毎授業時の事前事後学習 200 字原稿 30 枚の考察（50 点）、800 字小論文（50 点）、合計 100 点（担当土井）
保健医療研究法 成績評価基準 　プレゼンテーション（40%）及びレポート（60%）により総合評価する。	保健医療研究法 成績評価基準 　グループワークの参加状況、プレゼンテーションやレポート内容等を総合評価する。
ケア提供システム演習Ⅰ 成績評価基準 　プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	ケア提供システム演習Ⅰ 成績評価基準 　課題のプレゼンテーションとディスカッションの内容に基づき、総括的に評価する。
ケア提供システム演習Ⅱ 成績評価基準 　プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	ケア提供システム演習Ⅱ 成績評価基準 　研究計画書の完成度。 課題のプレゼンテーションとディスカッションの内容に基づき、総括的に評価する。
人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） 成績評価基準 　プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） 成績評価基準 　学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性（不明確）の観点から評価する。
人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 成績評価基準 　プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 成績評価基準 　学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。
人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） 成績評価基準 　プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） 成績評価基準 　学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性（不明確）の観点から評価する。
人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 成績評価基準 　プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 成績評価基準 　学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。

人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 成績評価基準 プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 成績評価基準 学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性（不明確）の観点から評価する。
人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 成績評価基準 プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 成績評価基準 学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性（不明確）の観点から評価する。
健康コミュニティ特論 成績評価基準 グループワークでのプレゼンテーション・討議の内容（40%）及び課題レポートの内容（60%）を総合評価する。	健康コミュニティ特論 成績評価基準 出席状況、（不適切）授業における課題レポート、プレゼンテーションの内容
健康コミュニティ特論 授業時間外の学習情報（事前学習） 講義内容に関する知見を検索・整理すること。プレゼンテーションの準備を通して知識を広げ、自己の学習課題に気づくこと。 （事後学習） 事前学習と授業で講義内容に関する自己の知見を深め整理すること。プレゼンテーション、ディスカッションを通して知識の統合を行うこと。	健康コミュニティ特論 授業時間外の学習情報（事前学習） 健康支援に関する情報を検索整理し、プレゼンテーション、ディスカッションで積極的に発言すること （事後学習） 新たな知識を整理すること
健康コミュニティ演習Ⅰ プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	健康コミュニティ演習Ⅰ 学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性（不明確）の観点から評価する。
健康コミュニティ演習Ⅱ 成績評価基準 プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	健康コミュニティ演習Ⅱ 成績評価基準 学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。
保健学特別研究 研究計画を実行できていれば「水準にある（可）」、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、分析結果を論理	保健学特別研究 研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究

的に考察し口頭発表できていれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。	結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。
別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

（是正事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【教育課程等】

9 ＜修士論文の審査体制が不明確＞

審査会の構成において、例えば以下に示されるように不明確な点があるので、全体について見直し、必要に応じて適切に改めること。《是正事項》

（１）主査は研究指導教員（担当する研究課題を除く。）とあるが、具体的にどのような者が充てられるのか、副研究指導教員が充てられる可能性があるのか、など不明確である。

（２）論文の評価基準について「ディプロマ・ポリシーに該当する能力を有することを確認する」とあるのみで、具体的にどのような基準で審査を行うのか不明確である。

（３）審査員の仮決定後、正式な審査員の決定のタイミングが不明確である。

（対応）

(1) 審査意見を考慮して改めて修士論文の審査体制について見直したところ、主査は、担当する修士論文の研究指導教員及び副研究指導教員を除き、原則として関連する専門領域の研究指導教員を充てるよう明確化した。

(2) 論文は、それぞれの分野で設定したディプロマ・ポリシーの内容、ケア提供システム分野では、倫理観、リーダーシップ、社会変革に対応した考察力、人間発達ケア分野では、課題の抽出・知見の探求・論理的な整理能力、課題解決のために適正な方法を実施計画に活かせる能力、治験収集の成果を実践に結び付ける能力、健康コミュニティ分野では、地域の現象分析力、ニーズと理論の統合力、施策の実現力について、設置の趣旨等を記載した書類の資料 9 で例示した情報活用力、データ解析力、問題発見・解決の能力、研究開発能力、プレゼンテーション能力、研究者としての判断力、文章作成能力に基づいて審査し、その評価基準は、研究計画を実行できていれば「水準にある（可)」、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良)」、分析に基づいて論理的に考察し口頭発表できていれば「かなり上にある（優)」、論理的な研究論文が執筆できていれば「卓越している（秀)」と評価する。

なお、保健学特別研究のシラバスにおける成績評価基準の中で、「結果に基づいて研究結果を口頭発表できていれば「かなり上にある（優)」」については内容が不適切であったため、「分析に基づいて論理的に考察し口頭発表できていれば「かなり上にある（優)」」に修正した。

「ディプロマ・ポリシーに該当する能力を有することを確認する。」については、最終試験において、高い倫理観、科学的妥当性、専門職としての広範な知識、後進の育成やマネジメントに関する十分な知識と能力の有無について確認し学位の授与について総合判断することとした。

(3) 審査員の決定については、修士論文が提出された時点で担当する研究指導教員が主査を推薦し、研究科委員会において正式決定することとした。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（25 ページから 26 ページ）

新	旧
４　修士論文の審査体制 （1）修士論文の審査の流れ 学生は、修士論文の提出に先立ち、研究科委員会に修士論文の題目を提出する。研究科委員会では、提出された題目により、審査員（主査・副査）を仮決定し、円滑な論文審査に備える。 学生は、研究指導教員の確認を受けた修士論文を、所定の期日までに研究科委員会に提出する。研究科委員会は、審査会を組織し、3 名以上の審査員を選出する。審査員は、当該論文の審査を行う。 （2）審査会の構成 審査会の審査員は、研究科委員会において選出する。審査会には、主査 1 名及び副査 2 名以上の委員を置き、主査には研究指導教員（担当する修士論文の研究指導教員及び副研究指導教員を除く。）を充てる。審査員の決定は、修士論文が提出された時点で担当する研究指導教員が主査を推薦し、研究科委員会の承認を得て正式決定する。また、研究科委員会は、修士論文の審査に当たり必要な場合には、他の大学院等の教員等を委員に加えることができる。 （3）審査会の審査・口頭試問 審査会は、論文を審査し、提出された修士論文に基づき口頭試問を行う。 論文審査は、計画に沿って研究が行われたか、データの解析が適切に行われたか、分析結果の考察、結論が論理的で適切か、論文の構成，記述が適切かを総合的に評価する。	４　修士論文の審査体制 （1）学位論文の審査の流れ 学生は、修士論文の提出に先立ち、研究科委員会に修士論文の題目を提出する。研究科委員会では、提出された題目により、審査員（主査・副査）を仮決定し、円滑な論文審査に備える。 学生は、研究指導教員の確認を受けた修士論文を、所定の期日までに研究科委員会に提出する。研究科委員会は、審査会を組織し、3 名以上の審査員を選出する。審査員は、当該論文の審査を行う。 （2）審査会の構成 審査会の審査員は、研究科委員会において選出する。審査会には、主査 1 名及び副査 2 名以上の委員を置き、主査には研究指導教員（担当する研究課題を除く）を充てる。また、研究科委員会は、修士論文の審査に当たり必要な場合には、他の大学院等の教員等を委員に加えることができる。 （3）審査会の審査・口頭試問 審査会は、論文を審査し、提出された修士論文に基づき口頭試問を行う。口頭試問は、論文提出者が広い視野に立ち、専攻の学問分野について精深な学識と精緻な研究を遂行する能力を有することを確認するため、提出論文を中心にこれに関連する研究分野について行う。 論文提出者は、審査会で指摘された事項がある場合は、指摘事項を踏まえて修士論文を修正し研究科委員会に提出する。

口頭試問は、研究論文のプレゼンテーションと質疑を通して、提出者の倫理性、論理性、学力、課題解決力などを評価する。 評価基準は、研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができれていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。 論文提出者は、審査会で指摘された事項がある場合は、指摘事項を踏まえて修士論文を修正し研究科委員会に提出する。	
（4）修士論文発表会 審査会は、審査及び口頭試問を終了したとき、論文審査の要旨、口頭試問の結果を添えて、研究科委員会に報告する。研究科委員会は修士論文発表会（最終試験）を開催し、審査会からの報告及び提出された修士論文に基づき発表内容について、質疑を行い、必要な場合は、指摘事項の修正を求めることがある。 （5）合否の判定及び学位の授与 論文提出者は、修士論文発表会で指摘事項がある場合は、指摘の内容を踏まえて修士論文（最終）を研究科委員会に再提出する。研究科委員会は、修士論文報告会での質疑及び提出された修士論文に基づいて審議を行い、高い倫理観、科学的妥当性、専門職としての広範な知識、後進の育成やマネジメントに関する十分な知識と能力の有無について確認し、学位の授与について総合的に検討し合否の判定を行う。研究科委員会は、合格した学生について学位を授与すべきものと決定した者として学長に報告する。（資料 16）	（4）修士論文発表会 審査会は、審査及び口頭試問を終了したとき、論文審査の要旨、口頭試問の結果を添えて、研究科委員会に報告する。研究科委員会は修士論文発表会（最終試験）を開催し、審査会からの報告及び提出された修士論文に基づき、本研究科が掲げるディプロマ・ポリシーに該当する能力を有することを確認する。 （5）合否の判定及び学位の授与 論文提出者は、修士論文発表会で指摘事項がある場合は、指摘の内容を踏まえて修士論文（最終）を研究科委員会に再提出する。研究科委員会は、修士論文報告会での質疑及び提出された修士論文に基づいて審議を行い合否について判定を行う。研究科委員会は、合格した学生について学位を授与すべきものと決定した者として学長に報告する。（資料 16）

（新旧対照表）シラバス

新	旧
保健学特別研究 成績評価の基準 　研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ解析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表が出きれていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。	保健学特別研究 成績評価の基準 　研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。

（改善事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【教育課程等】

10 ＜シラバスの記載方法が不明確＞

シラバスの記載内容について、以下の例のように不明確又は不適切と思われる科目が散見されるので、全体について見直し、適切に改めること。

(1) 論理性・妥当性・新規性の観点から評価するとされているなど、評価基準が具体的でないもの（「人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）」）。

(2) 授業回数が目途も含め一切の記載がないもの（「保健学特別研究」）。

(3) 到達目標について、「～を理解する」など観察可能な目標が一切記載されていないもの（「ケア提供システム特論」）。

(4) 授業内容が標題のみで具体的に示されておらず、テキストも示されていないもの（「保健医療マネジメント論」）。

(5) 授業内容の差異が分からないもの（「保健医療研究法」）。

（対応）

(1) シラバスの具体的な評価基準について

論理性・妥当性・新規性の観点から評価するとされているなど、評価基準が具体的でないという審査意見を考慮してシラバス全てを見直した結果、演習科目における評価項目として「プレゼンテーション及び討議の内容」を具体的に掲げ、評価の観点として倫理性、論理性、妥当性を掲げて総合評価するよう修正した。

（新旧対照表）シラバス　成績評価基準

新	旧
ケア提供システム演習Ⅰ プレゼンテーション及び討議の内容を、倫理性、論理性、妥当性の観点から総合評価する。	ケア提供システム演習Ⅰ 課題のプレゼンテーションとディスカッションの内容に基づき、総括的に評価する。
ケア提供システム演習Ⅱ プレゼンテーション及び討議の内容を、倫理性、論理性、妥当性の観点から総合評価する。	ケア提供システム演習Ⅱ 研究計画書の完成度。 課題のプレゼンテーションとディスカッションの内容に基づき、総括的に評価する。
人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） プレゼンテーション及び討議の内容を、倫理性、論理性、妥当性の観点から総合評価する。	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） 学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性（不明確）の観点から評価する。
人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）

プレゼンテーション及び討議の内容を、倫理性、論理性、妥当性の観点から総合評価する。	学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。
人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） プレゼンテーション及び討議の内容を、倫理性、論理性、妥当性の観点から総合評価する。	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） 学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性（不明確）の観点から評価する。
人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） プレゼンテーション及び討議の内容を、倫理性、論理性、妥当性の観点から総合評価する。	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。
人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） プレゼンテーション及び討議の内容を、倫理性、論理性、妥当性の観点から総合評価する。	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性（不明確）の観点から評価する。
人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） プレゼンテーション及び討議の内容を、倫理性、論理性、妥当性の観点から総合評価する。	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） 学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。
健康コミュニティ演習Ⅰ プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	健康コミュニティ演習Ⅰ 学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性（不明確）の観点から評価する。
健康コミュニティ演習Ⅱ プレゼンテーション及び討議の内容を、倫理性、論理性、妥当性の観点から総合評価する。	健康コミュニティ演習Ⅱ 学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。
別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

(2) シラバスの授業回数が目途も含め一切の記載がないもの

「保健学特別研究」について

授業内容を、「研究計画書に基づく研究の実施」、「データの収集・データの入力及びデータの解析」、「データ結果の取りまとめ」、「論文作成」、「プレゼンテーションの準備」、「修士論文の提出」とし授業回数については目途も含め記載がないという審査意見を考慮し見直した結果、審査意見 7 (2) の対応により修正した授業概要に沿って授業回数及び授業内容について、以下のように修正した。

1～30 回：研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請

31～78 回：研究の実施：調査・実験、データ収集

79～94 回：データ入力

95～110 回：データ解析と考察

111～142 回：論文作成

143～150 回：修士論文の提出、プレゼンテーション等発表準備

(新旧対照表) シラバス (保健学特別研究)

<table>
<tr><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>授業計画
<table>
<tr><th>回</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td>1～30</td><td>研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請</td></tr>
<tr><td>31～78</td><td>研究の実施：調査・実験、データ収集</td></tr>
<tr><td>79～94</td><td>データ入力</td></tr>
<tr><td>95～110</td><td>データ解析と考察</td></tr>
<tr><td>111～142</td><td>論文作成</td></tr>
<tr><td>143～150</td><td>修士論文の提出、プレゼンテーション等発表準備</td></tr>
</table></td><td>授業計画
<table>
<tr><th>回</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td></td><td>研究計画書に基づく研究の実施</td></tr>
<tr><td></td><td>データの収集、データの入力及びデータの解析</td></tr>
<tr><td></td><td>データ結果の取りまとめ</td></tr>
<tr><td></td><td>論文作成</td></tr>
<tr><td></td><td>プレゼンテーションの準備</td></tr>
<tr><td></td><td>修士論文の提出</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>別紙 11　シラバス　新</td><td>別紙 11　シラバス　旧</td></tr>
</table>

(3) シラバスの到達目標について

到達目標について、観察可能な目標が一切記載されていないものがあるという審査意見を踏まえ、すべてのシラバスを見直した結果、審査意見７(4) に記載のとおり、到達目標は箇条書きとし、「自分の言葉で表現できる」、「できるようになる」、「理解する」、「使用法が分かる」、「修得する」など大学院教育の到達目標として不適切なものについて、「～を理解できる」、「～が行える」、「～を説明できる」、「～を論述できる」のように修正した。

また、演習と特別研究については、審査意見７(2) の審査意見を考慮して全体的に見直した結果、到達目標を授業科目の概要に合わせて全面的に修正した。

（新旧対照表）シラバス　到達目標

新	旧
医療倫理学 1. 保健・医療・福祉の実践活動に必要となる倫理原則、行動規範を理解し、説明できる。 2. 保健学の研究に必要となる倫理原則、行動規範を理解し、説明できる。 3. 保健学研究、保健・医療・福祉の実践活動において生じた倫理問題について整理し、倫理原則、行動規範をどのように当てはめるかについて論述できる。 4. 倫理問題に関係する他者の立場、価値観を共感的に理解し、関係者と話し合い合意に達することができる。	医療倫理学 １. 講義を聞いて理解したことを自分の言葉で表現できる。 ２. 学んだことを課題解決に反映できる。 ３. 学んだことを知りたい人に適切に伝えることができる。
医療コミュニケーション論 １. 出来事を他人が理解できる日本文として記述できる。 ２. 多くの人に分かりやすく日本語で話すことができる。 ３. 他人の考えていることを正確に文書として記録できる。	医療コミュニケーション論 １. 出来事を即座に日本語で書き、他人に理解させることができるようになる。 ２. 多くの人を対象に等しく同じような理解に至るように日本語で話すことができるようになる。 ３. 他人の考えていることを適切に引き出し、記録することができるようになる。
保健医療マネジメント論 1. わが国における社会保障制度の特性を理解し、説明できる。 2. 人口減少時代における保健医療福祉制度・政策を説明できる。 3. 高度実践家にもとめられるマネジメント	保健医療マネジメント論 1. わが国における社会保障制度の特性を理解する。 2. 人口減少時代における保健医療福祉制度・政策を理解する。 3. 高度実践家にもとめられるマネジメント

論について論述できる。	論を学習する。
応用統計学 1. 統計学の基礎的な事項を理解し、説明できる。 2. 医学統計（疫学統計、生物統計）の概念と解析結果を理解し、説明できる。 3. 心理統計（多変量解析、尺度構成）の概念と解析結果を理解し、説明できる。 4. 表計算ソフト、統計解析ソフトを用いて、基本的な統計解析が行える。	応用統計学 1. 統計学の基礎的な事項が理解できる。 2. 医学統計（疫学統計、生物統計）の概念と解析結果が理解できる。 3. 心理統計（多変量解析、尺度構成）の概念と解析結果が理解できる。 4. 表計算ソフト、統計解析ソフトの基本的な使用法がわかる。
医療英語研究 1. 大部分がギリシャ語またはラテン語に由来する英語の医学用語の構造的特徴を、音韻、形態素、語彙に関して理解し、説明できる。 2. 簡潔な英語で書かれた人体の構造、機能、疾病について読むことができる。 3. 英語で書かれた医療分野の文献を ESP（English for Specific Purposes：特定の目的のための英語）の観点も踏まえ、構成と論理に注目しながら的確に理解し表現できる。	英語文献講読 大部分がギリシャ語またはラテン語に由来する英語の医学用語の構造的特徴を、音韻、形態素、語彙に関して理解し、やさしい英語で書かれた人体の構造、機能、疾病について読めるようになった後に、英語で書かれた医療分野の文献を ESP（English for Specific Purposes：専門分野別英語）の観点も踏まえ、構成と論理に注目しながら的確に理解できるようになることを目標とする。
保健医療教育論 1. 学部での基礎教育、卒後教育、現任教育における保健医療教育の歴史的変遷、並びに保健医療教育の理論と実践についての知識を体系的・系統的に理解し、説明できる。 2. この理論と実践の往還作業を通して、保健医療教育論の系譜と今日的課題について説明できる。	保健医療教育論 学部での基礎教育、卒後教育、現任教育における保健医療教育の歴史的変遷、並びに保健医療教育の理論と実践についての基礎的知識を修得する。この理論と実践の学びを通して、保健医療教育の原理を探究し、人間理解を深める。
保健医療教育実践論 1. 保健医療専門職を目指す人々を指導できる教育力を身に付けるために、保健医療教育の様々な実践事例における教育方法の特色を理解し、活用できる。 2. 実践事例における保健医療の専門知識と科学的な根拠を、保健医療教育実践の教材と	保健医療教育実践論 本講義では、保健医療専門職を目指す人々を指導できる教育力を身に付けるために、保健医療教育の様々な実践事例における教育方法の特色を理解し、活用できるようになる。また、実践事例における保健医療の専門知識を理解し、教授できる指導力を修得す

して再構成できる。	る。
保健学総論 1.　医学、医療の動向を説明できる。 2.　看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解し、説明できる。 3.　各発達段階における健康課題を理解し、説明できる。 4.　障害者の健康について説明できる。 5.　地域社会の健康課題について説明できる。 6.　多職種連携チームの構成、活動、マネジメントについて理解し、説明できる。	保健学総論 1.　医学、医療の動向を説明できる。 2.　看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解する。 3.　各発達段階における健康課題を理解する。 4.　障害者の健康について説明できる。 5.　地域社会の健康課題について説明できる。 6.　多職種連携チームの構成、活動、マネジメントについて理解する。
ケア提供システム特論 1. わが国における保健医療福祉の制度・政策を説明できる。 2. ケア提供システムを構築し、機能させるためのサービスマネジメントを論述できる。	ケア提供システム特論 1. わが国における保健医療福祉の制度・政策を理解する。 2. ケア提供システムを構築し、機能させるためのサービスマネジメントを理解する。
ケア提供システム演習Ⅰ １. 医療サービスマネジメントに関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５. 関連する文献のクリティークによって、医療サービスマネジメントに有用なエビデンスを検討できる。	ケア提供システム演習Ⅰ １. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２. 自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールドと調整することができる。 ４. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定義・仮説を明確にできる。 ５. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
ケア提供システム演習Ⅱ 1. 医療サービスマネジメントに関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。	ケア提供システム演習Ⅱ 1.　自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題

2. 医療サービスマネジメントに関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 医療サービスマネジメントに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。	に係る計画を作成できる。 2.　研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3.　研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4.　人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5.　研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） １．発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３．研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４．リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、理学療法に有用なエビデンスを検討できる。	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） １．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 1. 発達過程における理学療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 理学療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 理学療法学に関わる実践・教育・研究の課	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定でき

題を探求できる。 4. 理学療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。	る。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） １. 発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５. 関連する文献のクリティークによって、作業療法学に有用なエビデンスを検討できる。	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） １. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２. 自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４. 自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５. 研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 1. 発達過程における作業療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 作業療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 作業療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 作業療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定で

	きる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） １．発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解できる。 ３. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解できる。 ４. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、母子・家族への看護に有用なエビデンスを検討できる。	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） １. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） 1. 母子保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 母子保健に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） 1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮

	を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
健康コミュニティ演習Ⅰ １. コミュニティとそこに暮らす人々への支援に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２. 様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３. 研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４. リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５. 関連する文献のクリティークによって、コミュニティとそこに暮らす人々への支援に有用なエビデンスを検討できる。	健康コミュニティ演習Ⅰ １. 自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２. 自己の研究課題に関連する文献を収集し、文献レビューを作成できる。 ３. 自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールドと調整することができる。 ４. 研究枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にできる。 ５. 研究デザインを選択し、自己の研究を遂行するためのプロトコルを作成できる。
健康コミュニティ演習Ⅱ 1. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。	健康コミュニティ演習Ⅱ １. 自己の研究課題について研究デザインを選択し、自己の課題に係る計画を作成できる。 ２. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 ３. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
保健学特別研究 1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。	保健学特別研究 1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。

2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。	3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。
別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

(4) 授業内容が標題のみで具体的に明示されていない

授業内容が標題のみで具体的に明示されていないという審査意見を考慮して全体を見直した結果、保健医療マネジメント論、保健医療研究法、ケア提供システム特論について、学生が理解しやすいように修正した。

また、テキストの記載がないものや「随時紹介する」や「適宜紹介する」についても、修正した。演習科目については、原則として学生自らが各種文献データベース等から文献を選ぶこととし、教員が必要と認めた文献等をその都度紹介することとした。

（新旧対照表）シラバス「保健医療マネジメント論」授業計画

新	旧
1　人口減少時代における社会保障 2　医療制度・政策の基礎となる法令 3　福祉制度・政策の基礎となる法令 4　保健医療における看護師の役割と機能 5　保健医療における理学療法士・作業療法士の役割と機能 6　保健医療福祉における倫理　Ⅰ：実践における倫理的課題と高度専門実践者の役割 7　保健医療福祉における倫理　Ⅱ：事例に基づいた討議 8　医療機関の収入の仕組みと経営管理　Ⅰ（診療報酬） 9　医療機関の収入の仕組みと経営管理　Ⅱ（財務分析、経営管理） 10　福祉施設の収入の仕組みと経営管理　Ⅰ（介護報酬） 11　福祉施設の収入の仕組みと経営管理　Ⅱ（財務分析、経営管理） 12　医療の質保証と医療安全 13　人材開発と経験学習 14　リーダーシップとマネジメント 15　組織開発の手法	1　人口減少時代における社会保障 2　保健医療福祉制度・政策　Ⅰ 3　保健医療福祉制度・政策　Ⅱ 4　保健医療福祉に関連した法規　Ⅰ 5　保健医療福祉に関連した法規　Ⅱ 6　保健医療福祉における倫理　Ⅰ 7　保健医療福祉における倫理　Ⅱ 8　診療報酬制度と財務会計・管理会計　Ⅰ 9　診療報酬制度と財務会計・管理会計　Ⅱ 10　介護報酬制度と財務会計・管理会計　Ⅰ 11　介護報酬制度と財務会計・管理会計　Ⅱ 12　医療の質保証と医療安全 13　人材開発と経験学習 14　リーダーシップとマネジメント 15　組織開発の手法
別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

（新旧対照表）シラバス「保健医療研究法」授業計画

新	旧
1　授業の概要：研究の目的、実践との関連	1　授業の概要：研究の目的、実践との関連

2　エビデンスベースドメディスン (Evidence Based Nedicine: EBM) 3　責任ある研究活動：研究倫理と行動規範 4　文献検討の方法：文献の位置づけ、文献検索、論文の種類と構成 5　研究のプロセス、研究テーマ、研究デザイン 6　研究方法論 1：実験研究 7　研究方法論 2：調査研究 8　研究方法論 3：疫学研究 9　研究方法論 4：質的研究 1（定義と種類、プロセス、データ収集方法、評価基準） 10　研究方法論 5：質的研究 2（インタビュー法） 11　研究方法論 6：質的研究 3（参加観察法） 12　研究方法論 7：質的研究 4（データの分析と解釈） 13　文献クリティークの方法 14　研究計画書：作成上の注意 15　まとめ　研究の計画に向けて	2　エビデンスベースドメディスン (Evidence Based Nedicine: EBM) 3　責任ある研究活動：研究倫理と行動規範 4　文献検討の方法：文献の位置づけ、文献検索、論文の種類と構成 5　研究のプロセス、研究テーマ、研究デザイン 6　研究方法論 1：実験研究 7　研究方法論 2：調査研究 8　研究方法論 3：疫学研究 9　研究方法論 4：質的研究 1 10　研究方法論 5：質的研究 2 11　研究方法論 6：質的研究 3 12　研究方法論 7：質的研究 4 13　文献クリティークの方法 14　研究計画書：作成上の注意 15　まとめ　研究の計画に向けて
別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

（新旧対照表）シラバス「ケア提供システム特論」授業計画

新	旧
1　人口減少時代の社会保障 2　保健医療福祉制度と政策 3　保健医療福祉に関連した法規 4　サービスマネジメント論 5　組織論と組織管理に関する基礎理論 6　組織論と組織管理についての現組織への適用と考察 7　人材育成とマネジメントに関する基礎理論 8　人材育成とマネジメント論の現組織への適用と考察 9　経営資源（人、物、金、情報）の管理と効率化に関する基礎的理論	1　人口減少時代の社会保障 2　保健医療福祉制度と政策 3　保健医療福祉に関連した法規 4　サービスマネジメント論 5　組織論と組織管理 Ⅰ 6　組織論と組織管理 Ⅱ 7　人材育成とマネジメント Ⅰ 8　人材育成とマネジメント Ⅱ 9　資源管理と効率化 Ⅰ 10　資源管理と効率化 Ⅱ 11　質の保証 Ⅰ 12　質の保証 Ⅱ 13　地域包括ケアシステムの理念

10　経営資源管理と効率化に関する現組織への適用と考察 11　提供するサービスの質の保証に関する基礎理論 12　提供するサービスの質の改善 13　地域包括ケアシステムの理念 14　多職種協働論 15　まとめ	14　多職種協働論 15　まとめ
別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

（新旧対照表）シラバス「ケア提供システム演習Ⅰ」授業計画

新	旧
1～10. 医療サービスマネジメントのリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー 11～20. 文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む） 21～25. 医療サービスマネジメントにおける有用なエビデンスの検討	1～4. 課題の明確化とその範囲の特定 5～10. 関心のある領域の系統的文献レビュー 11～16. 研究テーマに適した研究方法の検討 17～22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化 23～30. 研究デザインを元にプロトコルの作成

（新旧対照表）シラバス「ケア提供システム演習Ⅱ」授業計画

新	旧
1～4. 医療サービスマネジメントに関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解 5～8. 医療サービスマネジメントに関する学問の動向の理解 9～16. 医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求 17～24. 医療サービスマネジメントに関わる支援方法と課題の探求 25～30. 医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議	1～4. 研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成 5～8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化 9～18. 研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練 19～24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25～30. 研究計画書の作成

（新旧対照表）シラバス「人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）」授業計画

新	旧
1～10. 発達過程における理学療法学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー 11～20. 文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む） 21～25. 発達過程における理学療法学における有用なエビデンスの検討 26～30. 先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	1～4. 課題の明確化とその範囲の限定 5～10. 関連文献のレビュー 11～16. 臨床フィールドワークの着手 17～22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化 23～26. 研究デザインと研究計画 27～28. デザインの選択 29～30. 介入のためのプロトコル作成

（新旧対照表）シラバス「人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）」授業計画

新	旧
1～4. 理学療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解 5～8. 理学療法学の動向の理解 9～16. 理学療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求 17～24. 理学療法学に関わる支援方法と課題の探求 25～30. 理学療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議	1～4. 研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成 5～8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化 9～18. 研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練 19～24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25～30. 研究計画書の作成

（新旧対照表）シラバス「人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）」授業計画

新	旧
1～10. 発達過程における作業療法学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー 11～20. 文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む） 21～25. 発達過程における作業療法学における有用なエビデンスの検討	1～4. 課題の明確化とその範囲の限定 5～10. 関連文献のレビュー 11～16. 臨床フィールドワークの着手 17～22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化 23～24. . 研究デザインと研究計画 25～26. デザインの選択 27～30. 介入のためのプロトコル作成

26～30. 先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	

（新旧対照表）シラバス「人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）」授業計画

新	旧
1～4. 作業療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解 5～8. 作業療法学の動向の理解 9～16. 作業療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求 17～24. 作業療法学に関わる支援方法と課題の探求 25～30. 作業療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議	1～4. 研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成 5～8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化 9～18. 研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練 19～24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25～30. 研究計画書の作成

新旧対照表）シラバス「人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）」授業計画

新	旧
1～10. 発達過程における母子･家族を中心とした看護学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー 11～20. 文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む） 21～25. 発達過程における母子・家族を中心とした看護学における有用なエビデンスの検討 26～30. 先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	1～4. 課題の明確化とその範囲の限定 5～10. 関連文献のレビュー 11～16. 臨床フィールドワークの着手 17～22. 枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化 23～26. 研究デザインと研究計画 27～28. データ分析の予備的検討 29～30. 介入のためのプロトコル作成

（新旧対照表）シラバス「人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）」授業計画

新	旧
（坂口・林） 1～4. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる母子保健・医療・福祉の動向と現状の理解 5～8. リプロダクティブヘルス（性感染症）	（坂口・林） 1～4. 研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成 5～8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化

の動向の理解 9～16. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求 17～24. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる支援方法と課題の探求 25～30. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議	9～18. 研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練 19～24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25～30. 研究計画書の作成
（樋貝） 1～4. 乳幼児期・小児期に関わる母子保健・医療・福祉の動向と現状の理解 5～8. 小児看護学の動向の理解 9～16. 乳幼児期・小児期に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求 17～24. 乳幼児期・小児期に関わる支援方法と課題の探求 25～30. 乳幼児期・小児期に関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議	（樋貝） 1～4. 研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成 5～8. 研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化 9～18. 研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練 19～24. 研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成 25～30. 研究計画書の作成

（新旧対照表）シラバス「健康コミュニティ演習Ⅰ」授業計画

新	旧
1. オリエンテーション 2～6. 関心のあるリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー7～ 10.　〃　プレゼンテーション 11～16. 文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む） 17～20.　〃 プレゼンテーション 21. 関心のあるリサーチクエスチョンにおける有用なエビデンスの検討 22～25.　〃 プレゼンテーション 26～29. 先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議. 30. まとめ	健康コミュニティ演習Ⅰ 1. オリエンテーション 2. 課題の明確化とその範囲の限定 3.　〃 4～6. 関連文献のレビュー 7～10.　〃 11～14. フィールドワーク （プレ調査、フィールドの選定と確保） 15～17.　〃 18～20. 研究枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化. 21～24.　〃　　最終報告 25～28. 研究デザインの選定と研究プロトコルの作成 29～30.　〃　　最終報告

（新旧対照表）シラバス「健康コミュニティ演習Ⅱ」授業計画

新	旧
1. オリエンテーション 2～3. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への施策の動向、現状と課題の理解 4～5.　〃　プレゼンテーション・ディスカッション 6～10. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援内容・支援方法に関する現状と課題の理解 11～15.　〃　プレゼンテーション・ディスカッション 16～18. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援内容と効果的な支援方法に関する研究の現状と課題の探求 19～20.　〃　プレゼンテーション・ディスカッション 21～22. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への必要な支援内容と効果的な支援方法の探求. 23～24.　〃　プレゼンテーション・ディスカッション 25～27. 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々に求められる支援策、必要とされる研究の探求 28～29.　〃　プレゼンテーション・ディスカッション 30. まとめ	1. オリエンテーション 2～3. 研究目的、研究対象者（選考基準、除外基準）の特定 4.　〃 5～6. 研究デザインの特定と研究プロトコルの作成 7～8.　〃 9～14. 研究方法の具体化(測定法、 15～20.　〃 21～22. 研究倫理について:依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成. 23～24.　〃 25～27. 研究計画書の作成 28～29.　〃 30. 研究計画書の発表

（新旧対照表）シラバス「保健学特別研究」授業計画

新	旧
1～30. 研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請 31～78. 研究の実施：調査・実験、データ収集 79～94. データ入力	. 研究計画書に基づく研究の実施 . データの収集、データの入力及びデータの解析 . データ結果の取りまとめ . 論文作成

95～110.データ解析と考察 111～142.論文作成 143～150.修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備	.プレゼンテーションの準備 .修士論文の提出

（新旧対照表）シラバス　テキスト・参考図書

新	旧
医療倫理学 『古事記』、『論語』、大林太良『神話学入門』、中村元訳『ブッダのことば』、湯浅泰雄『日本人の宗教意識』、福沢諭吉『学問のすすめ』、新渡戸稲造『武士道』、宮川俊行『安楽死の論理と倫理』、今井通夫『生命倫理学入門』、その他随時紹介する。	医療倫理学 随時紹介する。
保健医療マネジメント論 テキスト：入山章栄，世界標準の経営理論，ダイヤモンド社，2019 年 参考図書：リハビリテーション看護（改訂第 2 版）：障害をもつ人の可能性とともに歩む，南江堂，2015 年，酒井 郁子 （編集），金城 利雄 （編集），1 章：中島八十一：リハビリテーション看護と法律	保健医療マネジメント論 テキスト：随時、提示する 参考図書：
応用統計学 参考図書：「メタアナリシス入門　エビデンスの統合を目指す統計手法」丹後俊郎（朝倉書店）	応用統計学 適宜紹介する。
保健学総論 テキスト：「健康科学」本間日臣、古谷博、丸井英二編集（医学書院）	保健学総論 テキスト：適宜紹介する。 参考図書：
ケア提供システム特論 テキスト：島崎謙治，日本の医療制度と政策〔増補改訂版〕，東京大学出版会，2020	ケア提供システム特論 テキスト：随時、提示する 参考図書：
ケア提供システム演習Ⅰ 各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	ケア提供システム演習Ⅰ 適宜紹介する。
ケア提供システム演習Ⅱ	ケア提供システム演習Ⅱ

各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	随時、提示する。
人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） 各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学） 随時紹介する。各学生の研究テーマに関連する理論を用いる。
人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学） 随時紹介する。各学生の研究テーマに関連する理論を用いる。
人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） 各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学） 随時紹介する。各学生の研究テーマに関連する理論を用いる。
人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学） 適宜紹介する。
人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学） 随時紹介する。各学生の研究テーマに関連する理論を用いる。
人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） 各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学） 適宜紹介する。
健康コミュニティ特論 参考図書：公衆衛生看護学テキスト2「公衆衛生看護技術」. 医歯薬出版. 2014、堀公俊他. チームビルディング-人と人を「つなぐ」技法-. 日本経済出版社. 2007、福原宏幸. 社会的排除・包摂と社会政策. 法律文化社. 2007、篠田道子. チームマネジメントの知識とスキル. 医学書院. 2011、真山達志他. 政策実施の理論と実像. ミネルヴァ書房. 2016、國井修. 災害時の公衆衛生-私たちにできること-. 南山堂. 2012、京極真, 信念対立解明アプローチ. 中央法規. 2012、吉浦輪. 地域における連携・協働 事例集-対人援助の臨床から学ぶIP-. 協同医書出版社. 2018、河野眞編. 地域包括リハビリテーション実践マニュアル. 羊土社. 2018、河野眞編. 国際リハビリテーショ	健康コミュニティ特論 適宜紹介する。

ン学―国境を越える PT・OT・ST. 羊土社. 2016	
健康コミュニティ演習Ⅰ 　各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	健康コミュニティ演習Ⅰ 　適宜紹介する。
健康コミュニティ演習Ⅱ 　各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	健康コミュニティ演習Ⅱ 　適宜紹介する。
保健学特別研究 　各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	保健学特別研究 　適宜紹介する。
保健学特別研究（外里　冨佐江） 　アメリカ心理学会.APA 論文作成マニュアル 第2版.医学書院.2011 その他、随時紹介する。	保健学特別研究（外里　冨佐江） 適宜紹介する。
保健学特別研究（川崎千恵） アメリカ心理学会.APA 論文作成マニュアル 第2版.医学書院.2011 その他、随時紹介する。	保健学特別研究（川崎千恵） 適宜紹介する。
別紙11　シラバス　新	別紙11　シラバス　旧

(5) 授業内容の差異が不明

「保健医療研究法」の第 9 回から 12 回までの質的研究にについて、授業内容が表題のみであったため、学生が理解者数用に、「研究方法論 4：質的研究 1」では（定義と種類、プロセス、データ収集方法、評価基準)、「研究方法論 5：質的研究 2」では（インタビュー法)、「研究方法論 6：質的研究 3」では（参加観察法)」、「研究方法論 7：質的研究 4」では（データの分析と解釈)」を追記し明確にした。

（新旧対照表）シラバス「保健医療研究法」授業計画

新	旧
1　授業の概要：研究の目的、実践との関連 2　エビデンスベースドメディスン（Evidence Based Nedicine: EBM) 3　責任ある研究活動：研究倫理と行動規範 4　文献検討の方法：文献の位置づけ、文献検索、論文の種類と構成 5　研究のプロセス、研究テーマ、研究デザイン 6　研究方法論 1：実験研究の方法 7　研究方法論 2：調査研究の方法 8　研究方法論 3：疫学研究の方法 9　研究方法論 4：質的研究 1（定義と種類、プロセス、データ収集方法、評価基準） 10　研究方法論 5：質的研究 2（インタビュー法） 11　研究方法論 6：質的研究 3（参加観察法） 12　研究方法論 7：質的研究 4（データの分析と解釈） 13　文献クリティークの方法 14　研究計画書：作成上の注意 15　まとめ　研究の計画に向けて	1　授業の概要：研究の目的、実践との関連 2　エビデンスベースドメディスン（Evidence Based Nedicine: EBM) 3　責任ある研究活動：研究倫理と行動規範 4　文献検討の方法：文献の位置づけ、文献検索、論文の種類と構成 5　研究のプロセス、研究テーマ、研究デザイン 6　研究方法論 1：実験研究の方法 7　研究方法論 2：調査研究の方法 8　研究方法論 3：疫学研究の方法 9　研究方法論 4：質的研究 1 10　研究方法論 5：質的研究 2 11　研究方法論 6：質的研究 3 12　研究方法論 7：質的研究 4 13　文献クリティークの方法 14　研究計画書：作成上の注意 15　まとめ　研究の計画に向けて
別紙 11　シラバス　新	別紙 11　シラバス　旧

（是正事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【教員組織等】 11 ＜研究指導補助教員数が大学院設置基準を満たしていない＞ について、大学院設置基準の規定を満たしていないため、適切に改めること。

（対応）

研究指導補助教員数が１名不足しているため、この不足分の補充として保健学特別研究の研究指導教員候補として博士　飛松好子（国立障害者リハビリセンター総長）を新規に採用することとし、併せて授業科目不可となった教員の専任補充として、人間発達ケア特論、人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）、人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）について同教員の担当予定授業科目として専任教員資格審査を申請することとした。

同氏は、東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻運動障害学講座肢体不自由学分野において、広島大学大学院医系科学研究科総合健康科学専攻心身機能生活制御学講座において教育研究の経験が豊富であり、臨床現場に在籍する現在においても研究活動を続けている。

（新旧対照表）基本計画書　教員組織の概要

新	旧
教授　13 人、准教授　4 人、計　17 人	教授　13 人、准教授　3 人、計　16 人

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（19 ページ）

新	旧
1　教員組織編成の考え方及び特色 「誰一人として取り残さない地域社会」の構築を目指して、基礎となる学部の枠にとらわれず、大学院教育の中で必要な者に必要な知識と技術を伝授するために必要とされる知見と経験を有する医師、義肢装具士、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士の資格を有する教員により組織を編成している。専任教員の配置は、教授 13 人、准教授 4 人の計 17 人を配置する。	1　教員組織編成の考え方及び特色 「誰一人として取り残さない地域社会」の構築を目指して、基礎となる学部の枠にとらわれず、大学院教育の中で必要な者に必要な知識と技術を伝授するために必要とされる知見と経験を有する医師、義肢装具士、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士の資格を有する教員により組織を編成している。専任教員の配置は、教授 13 人、准教授 3 人の計 16 人を配置する。

（新旧対照表）専任教員の年齢構成・学位保有状況

新	旧
別紙 12　専任教員の年齢構成・学位保有状況　新	別紙 12　専任教員の年齢構成・学位保有状況　旧

（是正事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【教員組織等】
12 ＜教員組織の将来構想が不明確＞
　教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。《是正事項》

（対応）
　補正申請においては、豊かな経験と業績を有する教授を 1 名補充し、適切な内容に修正した。「2　教員の年齢構成」については、審査意見を考慮して見直した結果、教員組織の将来構想を明確にするために「3　教員の採用計画」という項目を起こし、現況、将来採用計画、後進の育成について記載することとした。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（19 ページから 20 ページ）

新	旧
2　教員の年齢構成 　完成年度末における職位別の教員の年齢構成は、教授は 50 歳代が 5 人、60 歳代が 3 人、70 歳代が 6 人、准教授は 50 歳代が 1 人、60 歳代が 2 人である。大学院にふさわしい質の高い教育と研究を実践するため、専門分野での豊富な教育経験と研究業績を有する教員を優先したことにより、70 歳以上が 31.3%を占め高年齢の傾向にある。本学における定年は満 65 歳と定めているが、満 70 歳まで再雇用でき、特に学園が認めた者に対しては満 73 歳まで延長して継続任用が可能となっている。また、大学院の完成年度までに定年を迎える教員がいる場合は、定年年齢にかかわらず（70 歳を超える場合も）完成年度（令和 5 年 3 月）まで在籍させる方針である。（資料 10） 3　教員の採用計画 　専任教員は、大学院発足時の令和 3 年 4 月に 17 人を確保し、完成年度までこの体制を	2　教員の年齢構成 　完成年度末における職位別の教員の年齢構成は、教授は 50 歳代が 5 人、60 歳代が 3 人、70 歳代が 5 人、准教授は 50 歳代が 1 人、60 歳代が 2 人である。大学院としての教育の質を担保するために、研究業績と経験が豊富な教員を配置した結果、70 歳以上が 31.3%を占め高年齢の傾向にある。本学における定年は 65 歳と定めているが、70 歳まで再雇用でき、特に学園が認めた者に対しては満 73 歳まで延長して継続任用が可能となっている。また、大学院の完成年度までに定年を迎える教員がいる場合は、定年年齢にかかわらず（70 歳を超える場合も）完成年度（令和 5 年 3 月）まで在籍させる方針である。（資料 10） 　本研究科の完成年度後も定年退職する教員を補充するため、研究科開設後から職位、年齢等を考慮して該当科目担当者の後任となる教員を確保するための準備を始める。同時に、学部において教育研究業績の積み上げ

維持するものとする。 保健学研究科の専任教員の定年は大学と同じ満 65 歳であり、本研究科の完成年度後においてこれを超える専任教員 7 人については、定年の特例に関する規程の適用により満 70 歳まで専任教員として雇用することとし、本研究科の状況を考慮してさらに 1 年間延長し 3 回まで更新できることとしている。 更新限度までの満 73 歳まで雇用した場合、完成年度後 6 年間に毎年度 1 人以上の退職者があることから、本研究科の完成年度後に退職する教員の補充について、研究科開設後から、大学院にふさわしい教育と研究を維持・向上するため、後任となる教員を確保するための準備を計画的に進める。 後任者の採用に当たっては、教育研究の質の継続を図るため、既存の授業科目継続を基本として、該当する授業科目を担当するのに適した教員を採用する。また、本研究科の教育研究の維持・向上のために、学部から昇格できる者がある場合はこれを優先し、該当者がいない場合は公募により広く候補者を求め、適任者を確保する。さらに、教員の採用は、バランスのとれた年齢構成となるよう該当者の年齢を考慮するものとし、教育研究の継続性のため、原則として定年特例の満 70 歳まで 4 年以上の期間がある者とする。 こうした状況を踏まえ、学部においては、令和 2 年度に 30 歳代教員を 2 名、20 歳代教員を 1 名採用している。これらを含む若手教員に対して、令和元年度に立ち上げた地域保健医療研究センターを中心として、発達障害研究班、スポーツ健康班、高齢者健康増進班、リハビリテーション看護研究班の設置により、教員自らの教育研究業績の積	に取り組む教員に対して、研究者として自立して研究活動を行い、高度な専門的業務に従事するために必要となる研究能力や基礎となる豊かな学識を身に着けられるよう全学を上げて支援し、大学院の教育研究指導教員として登用を図る計画である。このような取り組みにより、年齢構成のバランスを図りながら教育研究が継続的に発展できるよう教育研究環境の整備に努める。

み上げの取り組みを支援している。さらに、飯山市や地元長野市川中島町住民自治協議会との連携協定を基本として研究フィールドを設定している。このような教育研究環境の充実に取り組むとともに、年齢構成のバランスを図りながら教育研究が継続的に発展できるよう努め、大学の中から大学院の教育研究指導教員にふさわしい人材を登用していく計画である。	

（改善事項）保健学研究科　保健学専攻（M）

【名称、その他】 13 ＜研究上必要な施設・設備が十分に整っているか不明確＞ 大学院専用の施設・設備として挙げられているのは研究室のみであり、他は全て学部生と共用することとされている。大学院生が研究を実施するにあたり十分な研究スペースが確保されているか、研究に支障なく施設・設備を利用可能であるか不明確であるので、具体的に説明すること。

（対応）

大学院生の研究環境について

大学院専用の施設・設備は南館の研究室のみであり、他は全て学部生と共用することとしているが、研究スペースについて審査意見を考慮し内容を見直した結果、教室以外に研究スペースとして想定する演習室における大学院研究の内容や使用見込み、使用できる時間のほか、図書館の利用についての説明をさらに書き加えることとした。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（29 ページから 30 ページ）

新	旧
第７　施設、設備等の整備計画 １　大学院生研究室 本大学院の施設は、新幹線長野駅からＪＲ信越線を利用して 10 分の今井駅前に位置し、本館の保健科学部及び南館の看護学部の講義室、実習室、研究室を共有利用する計画である。学生専用スペースとして、南館の３階に大学院生研究室を配置した。同室の隣にある少人数授業に対応したセミナー室４室を大学院の主な講義室として使用し、演習、特別研究では本館・南館の実習室も利用することとした。大学院生研究室は、60.8 ㎡、入学定員以上のスペースを確保して最大 18 人が収容可能で、机、椅子、個人用ロッカー、複写機等を配置する計画である。専用スペースがある南館の全館に Wi-Fi 環境を整え、ハードの面において学生の研究活動をサポートできる環境を整えている。（資料 18）	**第７　施設、設備等の整備計画** １　大学院生研究室 本大学院の施設は、新幹線長野駅からＪＲ信越線を利用して 10 分の今井駅前に位置し、本館の保健科学部及び南館の看護学部の講義室、実習室、研究室を共有利用する計画である。学生専用スペースとして、南館の３階に大学院生研究室を配置した。同室の隣にある少人数授業に対応したセミナー室４室を大学院の主な講義室として使用し、演習、特別研究では本館・南館の実習室も利用することとした。大学院生研究室は、60.8 ㎡、入学定員以上のスペースを確保して最大 18 人が収容可能で、机、椅子、個人用ロッカー、複写機等を配置する計画である。専用スペースがある南館の全館に Wi-Fi 環境を整え、ハードの面において学生の研究活動をサポートできる環境を整えている。（資料 18）

2　講義室・演習室 学生が主に利用する講義室は、看護学部と共用する南館３階セミナー室４室（21.37㎡×4室）である。このセミナー室は少人数によるゼミ形式及び10人規模の講義に対応できる。このセミナー室は、授業外においても教員、学生によるグループ・ディスカッション、ワークスペース等の目的での活用を想定している。 実技を取り入れる必要がある授業では、南館２階の第２看護実習室（小児・母性看護実習室）を必要に応じて看護学部と、本館１階の日常生活活動室、水治療室、２階の運動療法室、徒手物理療法室、基礎医学実習室、義肢装具室、３階の第１作業療法室、第２作業療法室を、必要に応じて保健科学部と共用により使用する計画である。 共用するセミナー室及び実習室を使用する場合は、学部授業と重ならないよう時間的な配慮を行なう。また、各講義室、セミナー室及び実習室の現在の稼働率は下表の通りであり、大学院の講義等と共有が可能な状況にある。 学部生と共用する施設・設備として、人の動作計測機器を用いた研究を想定する運動療法室、排泄・入浴などのシミュレーター、和式生活を関連した研究を想定する日常生活活動室、水治療に関連した研究を想定する水治療室、物理療法機器を用いた研究を想定する徒手物理療法室、電気生理学の測定機器を備えた基礎医学実習室、妊娠中の母子のモニターなどの研究を想定した第 2 看護実習室（小児・母性看護学実習室）など、休日、夜間、又は曜日により終日研究に利用でき、学部教育と調整を図りながら、大学院生にとって十分な研究スペースを確保できる状況にある。また、南館に併設する図書館の利用	2　講義室・演習室 学生が主に利用する講義室は、看護学部と共用する南館３階セミナー室４室（21.37㎡×4室）である。このセミナー室は少人数によるゼミ形式及び10人規模の講義に対応できる。このセミナー室は、授業外においても教員、学生によるグループ・ディスカッション、ワークスペース等の目的での活用を想定している。 実技を取り入れる必要がある授業では、南館２階の第２看護実習室（小児・母性看護実習室）を必要に応じて看護学部と、本館１階の日常生活活動室、水治療室、２階の運動療法室、徒手物理療法室、基礎医学実習室、義肢装具室、３階の第１作業療法室、第２作業療法室を、必要に応じて保健科学部と共用により使用する計画である。 共用するセミナー室及び実習室を使用する場合は、学部授業と重ならないよう時間的な配慮を行なう。また、各講義室、セミナー室及び実習室の現在の稼働率は下表の通りであり、大学院の講義等と共有が可能な状況にある。

については、原則として平日 19 時 30 分まで開館することとしており、大学院生の便宜を図るため、授業時間帯に夜間を希望する者がいる場合においては、必要に応じて開館時間を 21 時 30 分まで延長する計画である。	

保健学研究科　保健学専攻（M）

14　審査意見への対応以外の変更 　　書類の不備の修正

（対応）

当初申請において、関係資料間の整合性を十分図るべきところ、一部に不突合等があるため修正する。

① 基礎とする学部の教育課程等の概要の一部に重複があるため修正する。

（新旧対照表）保健科学部の教育課程等の概要

<table>
<tr><th colspan="3">新</th><th colspan="3">旧</th></tr>
<tr><td colspan="3">導入科目
<table><tr><td rowspan="6">導入科目</td><td>大学基礎セミナー</td></tr><tr><td>理学療法基礎セミナー</td></tr><tr><td>作業療法基礎セミナー</td></tr><tr><td>アカデミックリテラシー</td></tr><tr><td>自然科学の基礎</td></tr><tr><td>情報リテラシー</td></tr></table></td><td colspan="3">導入科目
<table><tr><td rowspan="2">導入科目
（理学療法学関係）</td><td>大学基礎セミナー</td></tr><tr><td>理学療法基礎セミナー</td></tr><tr><td rowspan="2">導入科目
（作業療法学関係）</td><td>大学基礎セミナー</td></tr><tr><td>作業療法基礎セミナー</td></tr><tr><td rowspan="3">導入科目</td><td>アカデミックリテラシー</td></tr><tr><td>自然科学の基礎</td></tr><tr><td>情報リテラシー</td></tr></table></td></tr>
<tr><td colspan="3">教養科目小計（30 科目）
　選択科目単位数小計　28</td><td colspan="3">教養科目小計（31 科目）
　選択科目単位数小計　29</td></tr>
<tr><td colspan="3"><table><tr><td rowspan="13">専門基礎科目</td><td rowspan="13">基礎医学</td><td>解剖学Ⅰ（総合）</td></tr><tr><td>解剖学Ⅱ（総合）</td></tr><tr><td>解剖学実習（人体解剖観察）</td></tr><tr><td>解剖学演習Ⅰ（骨格系）</td></tr><tr><td>解剖学演習Ⅱ（筋・神経系）</td></tr><tr><td>運動器系解剖学Ⅰ</td></tr><tr><td>運動器系解剖学Ⅱ</td></tr><tr><td>体表解剖学演習</td></tr><tr><td>ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのための人体構造（運動器）</td></tr><tr><td>ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのための人体構造（神経系）</td></tr><tr><td>生理学Ⅰ</td></tr><tr><td>生理学Ⅱ</td></tr><tr><td>生理学実習</td></tr></table></td><td colspan="3"><table><tr><td rowspan="15">専門基礎科目</td><td rowspan="7">基礎医学</td><td>解剖学Ⅰ（総合）</td></tr><tr><td>解剖学Ⅱ（総合）</td></tr><tr><td>解剖学実習（人体解剖観察）</td></tr><tr><td>生理学Ⅰ</td></tr><tr><td>生理学Ⅱ</td></tr><tr><td>生理学実習</td></tr><tr><td>人間発達学</td></tr><tr><td rowspan="7">基礎医学
（理学療法学関係）</td><td>解剖学演習Ⅰ（骨格系）</td></tr><tr><td>解剖学演習Ⅱ（筋・神経系）</td></tr><tr><td>理学療法基礎運動学Ⅰ</td></tr><tr><td>理学療法基礎運動学Ⅱ</td></tr><tr><td>運動学実習</td></tr><tr><td rowspan="1">基礎医学</td><td>運動器系解剖学Ⅰ</td></tr></table></td></tr></table>

<table>
<tr><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>
<table>
<tr><td></td><td></td><td>理学療法基礎運動学Ⅰ</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>理学療法基礎運動学Ⅱ</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>作業療法基礎運動学Ⅰ</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>作業療法基礎運動学Ⅱ</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>運動学実習</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>人間発達学</td></tr>
</table>
</td><td>
<table>
<tr><td></td><td>（作業療法学関係）</td><td>運動器系解剖学Ⅱ</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>体表解剖学演習</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのための人体構造（運動器）</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのための人体構造（神経系）</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>作業療法基礎運動学Ⅰ</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>作業療法基礎運動学Ⅱ</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>運動学実習</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目小計（44 科目）
選択科目単位数小計　20</td><td>専門基礎科目小計（45 科目）
選択科目単位数小計　22</td></tr>
<tr><td>合計（170 科目）
選択科目単位数合計　198</td><td>合計（172 科目）
選択科目単位数合計　201</td></tr>
<tr><td>別紙 13　基礎となる学部の教育課程等の概要　3～6 ページ　新</td><td>別紙 13　基礎となる学部の教育課程等の概要　3～6 ページ　旧</td></tr>
</table>

②　設置の趣旨等を記載した書類及び教育課程の概要との整合を図るため修正する。

（新旧対照表）授業科目の概要

新	旧
専門科目 6 ページから 12 ページ 看護・リハビリテーション領域	専門科目 6 ページから 12 ページ 看護・リハビリテーション分野
別紙 9　授業科目の概要　新	別紙 9　授業科目の概要　旧

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類　資料 12　履修モデル

新	旧
専門科目 看護・リハビリテーション領域	専門科目 看護・リハビリテーション分野
別紙 8　資料 12　履修モデル　新	別紙 8　資料 12　履修モデル　旧

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類　資料 17　時間割表　3 ページ～4 ページ

新	旧
保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野） 保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）領域） 保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）領域）

新	旧
保健学特別研究（健康コミュニティ分野） 保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野） 保健学特別研究（ケア提供システム分野）	保健学特別研究（健康コミュニティ領域） 保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）領域） 保健学特別研究（ケア提供システム領域）
科目別授業時間 科目区分　看護リハビリテーション領域 科目区分　特別研究 　保健学特別研究 　ケア提供システム分野 　人間発達ケア（理学療法学）分野 　人間発達ケア（作業療法学）分野 　人間発達ケア（母子看護学）分野 健康コミュニティ分野	科目別授業時間等 科目区分　看護リハビリテーション分野 科目区分　特別研究 　保健学特別研究 　ケア提供システム領域 　人間発達ケア（理学療法学領域） 　人間発達ケア（作業療法学領域） 　人間発達ケア（母子看護学領域） 　健康コミュニティ領域
別紙 10　資料 17　時間割表　新	別紙 10　資料 17　時間割表　旧

③　添付した規程（案）関係について、設置の趣旨等を記載した書類との整合を図るため修正する。

（新旧対照表）長野保健医療大学大学院研究科委員会規程（案）

新	旧
第 9 条　この規程の改廃は、運営会議の議決により行う。	第 9 条　この規程の改廃は、運営委員会の議決により行う。
別紙 14　長野保健医療大学大学院研究科委員会規程（案）　新	別紙 14　長野保健医療大学大学院研究科委員会規程（案）　旧

（新旧対照表）長野保健医療大学大学院履修規程（案）

新	旧
第 18 条　この規程の改廃は、研究科委員会の発議により、教授会の議を経て運営会議の議決により行う。	第 18 条　この規程の改廃は、研究科委員会の発議により、教授会の議を経て運営委員会の議決により行う。
別紙 15　長野保健医療大学大学院履修規程（案）　新	別紙 15　長野保健医療大学大学院履修規程（案）　旧

審査意見への対応を記載した書類
別紙目次

別紙 1　資料 9　保健学専攻履修プロセス概念図

別紙 2　資料 24　都道府県別・男女別　健康寿命・平均寿命の比較

別紙 3　資料 25　健康状況等の都道府県比較

別紙 4　資料 26　平成 29 年　介護サービス利用者数

別紙 5　資料 20　基礎となる学部との関係

別紙 6　教育課程等の概要

別紙 7　長野保健医療大学大学院学則（案）別紙 1

別紙 8　資料 12　履修モデル

別紙 9　授業科目の概要

別紙 10 資料 17　時間割表

別紙 11　シラバス

別紙 12　専任教員の年齢構成・学位保有状況

別紙 13 基礎となる学部の教育課程の概要（保健科学部）

別紙 14 研究科委員会規程（案）

別紙 15 資料 11　長野保健医療大学大学院履修規程（案）

別紙1　資料9　新

保健学専攻履修プロセス概念図

ディプロマ・ポリシー

1　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力
2　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力
3　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力
4　研究・教育活動により後進を育成する能力
5　医療機関、行政機関、保健福祉施設、地域などにおいてマネジメントできる能力

ケア提供システム分野のディプロマ・ポリシー
人間発達ケア分野のディプロマ・ポリシー
健康コミュニティ分野のディプロマ・ポリシー

修士（保健学）　学位授与

合　格

研究科委員会
最終試験

合否判定
修士論文発表会

修士論文（最終）
修士論文の修正

2年次

30単位以上を修得

特別研究科目10単位（必修）：保健学特別研究
研究手法の修得、論文執筆

文章作成能力
研究開発能力
研究者としての判断力
プレゼンテーション能力
データ解析力
問題発見解決能力
情報活用力

演習Ⅱ
演習Ⅰ
特論

理学療法学
作業療法学
母子看護学
ケア提供マネジメント
人間発達ケア
健康コミュニティ

1年次

専門科目から8単位　　2単位（必修）：保健学総論

共通科目から12単位以上
8単位（必修）　：医療倫理学、多職種連携論、医療コミュニケーション論、保健医療研究法
4単位以上（選択）：保健医療マネジメント論、応用統計学、英語文献講読、保健医療教育論、保健医療教育実践論

高い倫理観
情報分析能力
コミュニケーション能力
保健学に関する幅広い知識

審査会　委員の審査・口頭試問
修士論文提出
論文作成
データ収集入力・解析
研究倫理審査申請
研究計画書提出
研究課題の決定
研究手法の修得
指導教員の決定

アドミッション・ポリシー

本大学院では以下のような要件で意欲的な学生を求める。
1　保健学領域に関する基礎的な学力と実務能力を有し、専門職としての学識と技能を深めたい者
2　職場における管理者を目指す者、大学教員を目指す者、研究者を目指す者
3　地域の保健医療福祉全般に関心を持ち、その向上に寄与したいと志す者

別紙1　資料9　旧

保健学専攻履修プロセス概念図

ディプロマ・ポリシー

1　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力
2　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力
3　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力
4　研究・教育活動による後進を育成する能力
5　医療機関、地域などでの保健医療福祉チームをマネジメントできる能力

修士（保健学）　学位授与

合　格

研究科委員会
最終試験

合否判定

修士論文発表会

修士論文（最終）

修士論文の修正

2年次

1年次

30単位以上を修得

特別研究科目10単位（必修）：保健学特別研究
研究手法の修得、論文執筆

文章作成能力
研究開発能力
研究者としての判断力
プレゼンテーション能力
データ解析力
問題発見解決能力
情報活用力

審査会　委員の審査・口頭試問
修士論文提出
論文作成
データ収集入力・解析

演習Ⅱ
演習Ⅰ
特論

理学療法学
作業療法学
母子看護学
ケア提供マネジメント
人間発達ケア
健康コミュニティ

研究倫理審査申請
研究計画書提出
研究課題の決定

専門科目から8単位　　2単位（必修）：保健学総論

共通科目から12単位以上
8単位（必修）　：医療倫理学、多職種連携論、医療コミュニケーション論、保健医療研究法
4単位以上（選択）：保健医療マネジメント論、応用統計学、英語文献講読、保健医療教育論、保健医療教育実践論

高い倫理観
情報分析能力
コミュニケーション能力
保健学に関する幅広い知識

研究手法の修得
指導教員の決定

アドミッション・ポリシー

本大学院では以下のような要件で意欲的な学生を求める。
1　保健学領域に関する基礎的な学力と実務能力を有し、専門職としての学識と技能を深めたい者
2　職場における管理者を目指す者、大学教員を目指す者、研究者を目指す者
3　地域の保健医療福祉全般に関心を持ち、その向上に寄与したいと志す者

別紙２　資料24

都道府県別・男女別 健康寿命・平均寿命の比較

	健康寿命（年）				【参考】平均寿命（年）			
	男性	順位	女性	順位	男性	順位	女性	順位
全国	79.47	－	83.84	－	80.77	－	87.01	－
北海道	78.98	35	83.87	25	80.28	34	86.77	37
青森	77.44	47	82.66	47	78.67	47	85.93	47
岩手	78.44	43	83.17	43	79.86	45	86.44	42
宮城	79.69	17	84.12	9	80.99	15	87.16	20
秋田	78.12	46	82.82	46	79.51	46	86.38	44
山形	79.11	33	83.77	32	80.52	29	86.96	29
福島	78.71	41	83.12	44	80.12	41	86.40	43
茨城	79.17	31	83.24	42	80.28	34	86.33	45
栃木	79.00	34	83.33	39	80.10	42	86.24	46
群馬	79.20	30	83.76	33	80.61	27	86.84	33
埼玉	79.68	18	83.78	31	80.82	22	86.66	39
千葉	79.70	16	84.01	14	80.96	16	86.91	30
東京	79.72	15	84.06	11	81.07	11	87.26	15
神奈川	79.98	5	83.91	21	81.32	5	87.24	17
新潟	79.27	28	83.83	27	80.69	24	87.32	11
富山	79.36	25	83.99	18	80.61	27	87.42	8
石川	79.58	20	84.06	11	81.04	12	87.28	13
福井	79.79	10	84.01	14	81.27	6	87.54	5
山梨	79.75	14	83.82	28	80.85	20	87.22	18
長野	80.55	1	84.60	1	81.75	2	87.67	1
岐阜	79.81	9	83.74	34	81.00	14	86.82	34
静岡	79.89	7	84.39	4	80.95	17	87.10	24
愛知	80.01	4	84.00	16	81.10	8	86.86	32
三重	79.56	23	83.91	21	80.86	19	86.99	27
滋賀	80.39	2	84.44	3	81.78	1	87.57	4
京都	79.90	6	83.64	37	81.40	3	87.35	9
大阪	78.85	36	83.25	41	80.23	38	86.73	38
兵庫	79.77	11	84.14	8	80.92	18	87.07	25
奈良	80.27	3	83.90	23	81.36	4	87.25	16
和歌山	78.38	44	82.92	45	79.94	44	86.47	41
鳥取	78.80	38	83.95	20	80.17	39	87.27	14
島根	79.57	21	84.20	7	80.79	23	87.64	3
岡山	79.57	21	84.23	6	81.03	13	87.67	1
広島	79.82	8	84.05	13	81.08	9	87.33	10
山口	79.27	28	83.80	29	80.51	30	86.88	31
徳島	79.15	32	83.27	40	80.32	33	86.66	39
香川	79.77	11	83.89	24	80.85	20	87.21	19
愛媛	78.72	40	83.61	38	80.16	40	86.82	34
高知	78.61	42	83.79	30	80.26	37	87.01	26
福岡	79.34	26	84.09	10	80.66	25	87.14	21
佐賀	79.53	24	84.29	5	80.65	26	87.12	22
長崎	79.29	27	83.85	26	80.38	31	86.97	28
熊本	79.76	13	83.98	19	81.22	7	87.49	6
大分	79.63	19	84.57	2	81.08	9	87.31	12
宮崎	78.82	37	84.00	16	80.34	32	87.12	22
鹿児島	78.73	39	83.72	35	80.02	43	86.78	36
沖縄	78.36	45	83.68	36	80.27	36	87.44	7

注:健康寿命は 2016 年、平均寿命は 2015 年　※健康寿命は、日常生活に制限のない期間として計算

出典:「健康寿命の全国推移の算定・評価に関する研究」厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）分担研究報告書　研究分担者:橋本修二（藤田保健衛生大学医学部衛生学講座・教授）、厚生労働省「都道府県別生命表（2015 年）」をもとに作成

別紙３　資料25

健康状況等の都道府県比較

日常生活に制限のない期間の平均（2016年）

番号	都道府県	男性 推定値	男性 順位	女性 推定値	女性 順位
	全国	72.14		74.79	
1	北海道	71.98	25	73.77	45
2	青森	71.64	35	75.14	20
3	岩手	71.85	28	74.46	34
4	宮城	72.39	12	74.43	36
5	秋田	71.21	47	74.53	33
6	山形	72.61	7	75.06	23
7	福島	71.54	37	75.05	24
8	茨城	72.50	9	75.52	8
9	栃木	72.12	19	75.73	6
10	群馬	72.07	22	75.20	15
11	埼玉	73.10	2	74.67	29
12	千葉	72.37	13	75.17	18
13	東京	72.00	24	74.24	38
14	神奈川	72.30	16	74.63	31
15	新潟	72.45	10	75.44	11
16	富山	72.58	8	75.77	4
17	石川	72.67	5	75.18	16
18	福井	72.45	10	75.26	14
19	山梨	73.21	1	76.22	3
20	長野	72.11	20	74.72	27
21	岐阜	72.89	4	75.65	7
22	静岡	72.63	6	75.37	13
23	愛知	73.06	3	76.32	1
24	三重	71.79	31	76.30	2
25	滋賀	72.30	16	74.07	42
26	京都	71.85	28	73.97	44
27	大阪	71.50	40	74.46	34
28	兵庫	72.08	21	74.23	39
29	奈良	71.39	42	74.10	41
30	和歌山	71.36	44	74.42	37
31	鳥取	71.69	33	74.14	40
32	島根	71.71	32	75.74	5
33	岡山	71.54	37	75.09	21
34	広島	71.97	27	73.62	46
35	山口	72.18	18	75.18	16
36	徳島	71.34	45	74.04	43
37	香川	72.37	13	74.83	26
38	愛媛	71.33	46	74.59	32
39	高知	71.37	43	75.17	18
40	福岡	71.49	41	74.66	30
41	佐賀	71.60	36	75.07	22
42	長崎	71.83	30	74.71	28
43	熊本	71.68	－		－
44	大分	71.54	37	75.38	12
45	宮崎	72.05	23	74.93	25
46	鹿児島	72.31	15	75.51	9
47	沖縄	71.98	25	75.46	10

自分が健康であると自覚している期間の平均（2016年）

番号	都道府県	男性 推定値	男性 順位	女性 推定値	女性 順位
	全国	72.31		75.58	
1	北海道	71.65	36	74.92	40
2	青森	71.03	46	75.45	29
3	岩手	71.52	41	74.60	44
4	宮城	72.50	16	75.52	27
5	秋田	71.71	35	75.78	22
6	山形	72.67	12	76.11	14
7	福島	72.12	27	74.47	45
8	茨城	72.82	10	75.34	33
9	栃木	71.97	30	76.23	11
10	群馬	72.13	25	75.83	20
11	埼玉	73.12	4	75.90	18
12	千葉	73.09	5	75.38	32
13	東京	72.53	15	75.45	29
14	神奈川	73.08	6	75.93	17
15	新潟	72.29	21	76.32	9
16	富山	72.56	14	76.52	7
17	石川	73.15	3	76.05	15
18	福井	73.21	2	76.81	4
19	山梨	74.14	1	77.04	3
20	長野	72.25	24	75.59	26
21	岐阜	72.97	9	75.62	25
22	静岡	72.31	20	76.36	8
23	愛知	72.77	11	76.24	10
24	三重	71.79	34	77.33	2
25	滋賀	72.57	13	75.76	23
26	京都	73.03	7	75.02	39
27	大阪	71.34	44	74.37	46
28	兵庫	71.99	29	75.33	34
29	奈良	72.26	23	75.80	21
30	和歌山	71.49	42	75.09	37
31	鳥取	71.65	36	75.30	35
32	島根	72.32	18	76.65	6
33	岡山	71.84	32	76.15	13
34	広島	72.13	25	74.89	41
35	山口	71.86	31	75.64	24
36	徳島	71.62	38	74.36	47
37	香川	72.28	22	75.09	37
38	愛媛	71.00	47	75.48	28
39	高知	71.32	45	74.80	43
40	福岡	71.49	42	75.26	36
41	佐賀	71.83	33	75.99	16
42	長崎	72.04	28	75.42	31
43	熊本	71.56	－	74.82	42
44	大分	71.56	39	75.88	19
45	宮崎	72.42	17	76.77	5
46	鹿児島	73.01	8	76.22	12
47	沖縄	72.32	18	78.04	1

出典：「健康寿命の全国推移の算定・評価に関する研究」厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）分担研究報告書　研究分担者：橋本修二（藤田保健衛生大学医学部衛生学講座・教授）

基礎資料として、健康情報は介護保険関係の統計情報を、死亡情報は人口動態統計を用いた。

別紙４　資料26

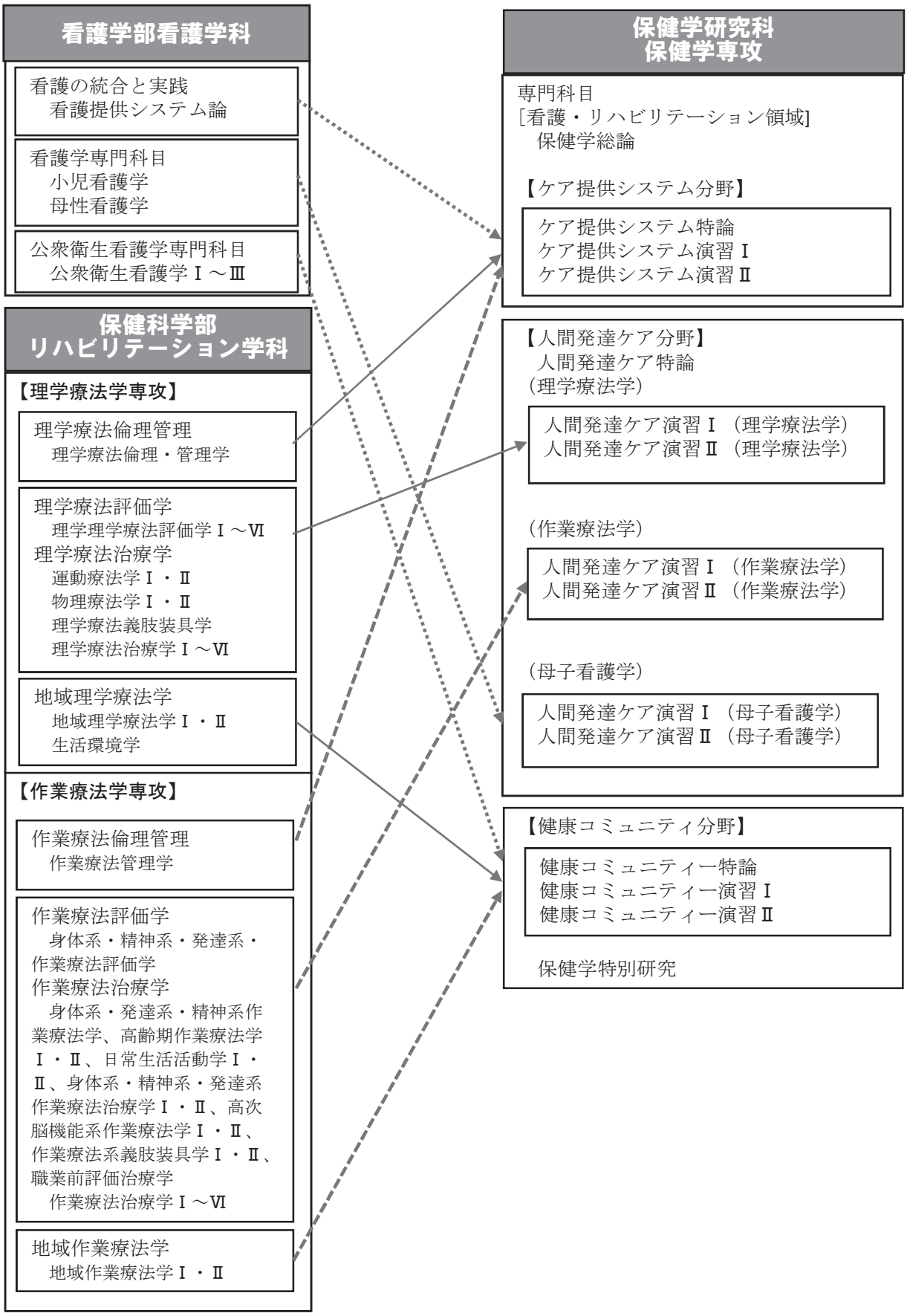
平成29年　介護サービス利用者数

都道府県	訪問看護系	人口千人当たり利用者数	順位	リハビリ系	人口千人当たり利用者数	順位	合計	人口千人当たり利用者数	順位	H29.10.1 65歳以上人口（千人）
全国	658,448	18.73		540,265	15.37		1,198,713	34.10		35,151
北海道	28,303	17.33	16	21,484	13.16	37	49,787	30.49	34	1,633
青森県	6,347	15.56	23	8,417	20.63	13	14,764	36.19	16	408
岩手県	5,429	13.57	34	8,125	20.31	14	13,554	33.89	23	400
宮城県	9,898	15.71	22	8,863	14.07	34	18,761	29.78	36	630
秋田県	3,044	8.57	47	2,942	8.29	47	5,986	16.86	47	355
山形県	4,632	13.01	38	6,934	19.48	15	11,566	32.49	27	356
福島県	8,611	15.13	28	10,287	18.08	16	18,898	33.21	26	569
茨城県	9,127	11.14	45	11,988	14.64	30	21,115	25.78	44	819
栃木県	6,221	11.61	42	6,991	13.04	38	13,212	24.65	46	536
群馬県	9,396	16.57	19	8,362	14.75	29	17,758	31.32	30	567
埼玉県	26,794	14.09	30	25,302	13.31	36	52,096	27.40	39	1,901
千葉県	22,769	13.46	36	20,724	12.25	42	43,493	25.71	45	1,692
東京都	82,723	26.17	3	28,282	8.95	45	111,005	35.12	19	3,161
神奈川県	51,620	22.70	6	19,482	8.57	46	71,102	31.27	31	2,274
新潟県	9,858	13.88	32	8,978	12.65	41	18,836	26.53	42	710
富山県	3,738	11.19	44	5,569	16.67	22	9,307	27.87	38	334
石川県	5,387	16.27	21	4,948	14.95	28	10,335	31.22	32	331
福井県	5,122	21.98	8	4,036	17.32	18	9,158	39.30	11	233
山梨県	3,568	14.56	29	3,103	12.67	40	6,671	27.23	41	245
長野県	12,253	18.91	12	10,005	15.44	26	22,258	34.35	21	648
岐阜県	10,598	17.96	14	7,077	11.99	43	17,675	29.96	35	590
静岡県	14,259	13.35	37	13,767	12.89	39	28,026	26.24	43	1,068
愛知県	35,004	18.90	13	30,145	16.28	23	65,149	35.18	18	1,852
三重県	7,949	15.26	25	7,032	13.50	35	14,981	28.75	37	521
滋賀県	7,477	20.89	9	4,008	11.20	44	11,485	32.08	28	358
京都府	18,106	24.40	5	10,563	14.24	32	28,669	38.64	12	742
大阪府	72,732	30.33	1	33,775	14.08	33	106,507	44.41	3	2,398
兵庫県	42,041	26.98	2	23,952	15.37	27	65,993	42.36	7	1,558
奈良県	8,173	20.03	10	6,565	16.09	24	14,738	36.12	17	408
和歌山県	7,579	24.85	4	5,088	16.68	21	12,667	41.53	8	305
鳥取県	2,707	15.38	24	4,068	23.11	8	6,775	38.49	13	176
島根県	4,424	19.23	11	3,346	14.55	31	7,770	33.78	24	230
岡山県	9,236	16.29	20	12,104	21.35	11	21,340	37.64	15	567
広島県	18,140	22.42	7	17,521	21.66	9	35,661	44.08	4	809
山口県	6,411	13.88	33	7,992	17.30	19	14,403	31.18	33	462
徳島県	3,658	15.18	27	6,057	25.13	6	9,715	40.31	9	241
香川県	2,706	8.96	46	7,451	24.67	7	10,157	33.63	25	302
愛媛県	7,569	17.28	17	7,489	17.10	20	15,058	34.38	20	438
高知県	2,827	11.54	43	3,880	15.84	25	6,707	27.38	40	245
福岡県	23,844	17.23	18	28,948	20.92	12	52,792	38.14	14	1,384
佐賀県	2,803	11.63	41	6,688	27.75	4	9,491	39.38	10	241
長崎県	5,700	13.48	35	13,289	31.42	1	18,989	44.89	2	423
熊本県	9,222	17.37	15	16,675	31.40	2	25,897	48.77	1	531
大分県	5,587	15.22	26	10,123	27.58	5	15,710	42.81	6	367
宮崎県	4,696	13.89	31	6,100	18.05	17	10,796	31.94	29	338
鹿児島県	6,339	12.65	39	15,176	30.29	3	21,515	42.94	5	501
沖縄県	3,821	12.57	40	6,564	21.59	10	10,385	34.16	22	304

出典：厚生労働省「平成29年介護サービス施設・事業所調査」

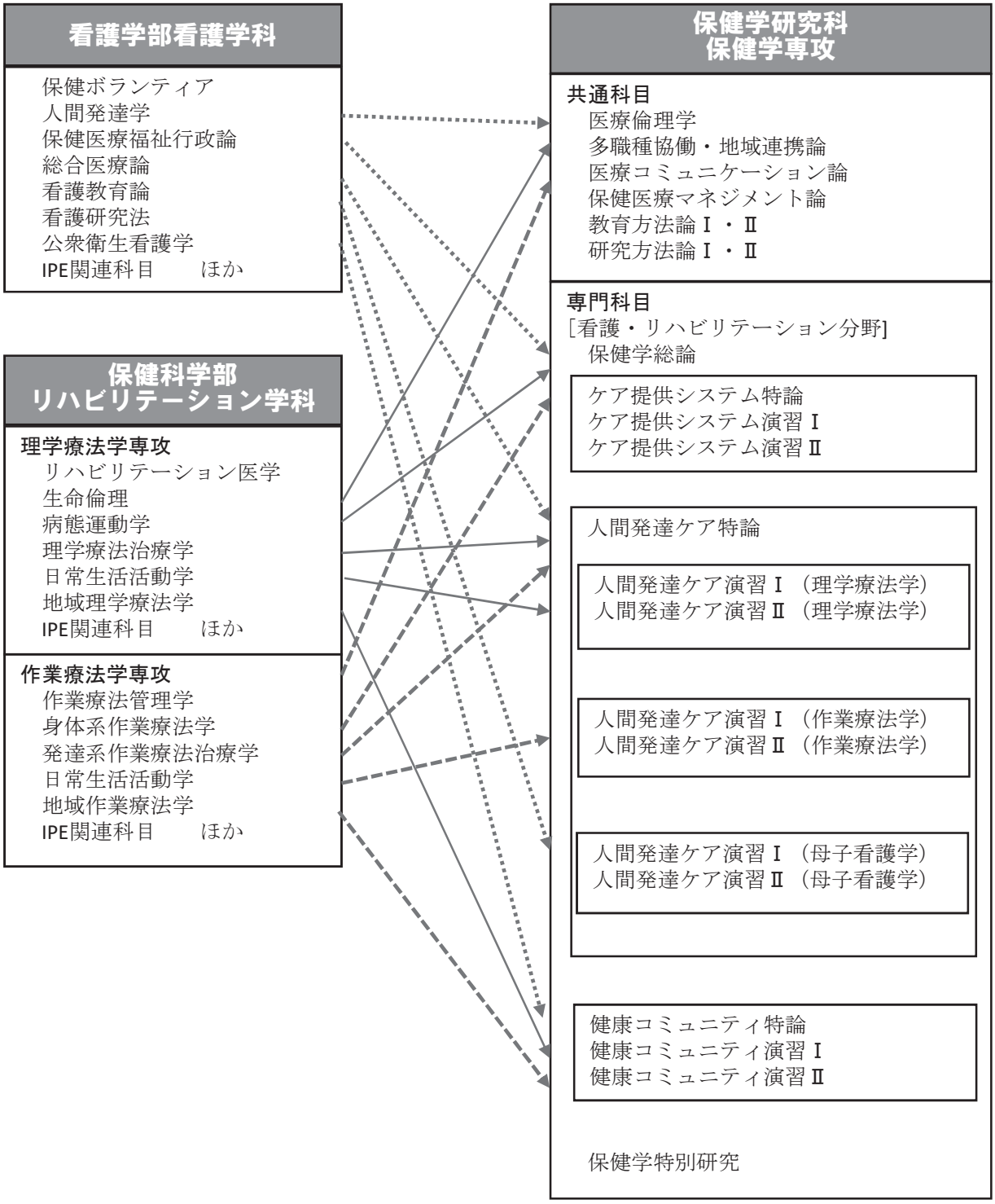
別紙5　資料20　新

基礎となる学部との関係



別紙5　資料20　旧

基礎となる学部との関係



別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本[illegible]）

別紙6　新

教　育　課　程　等　の　概　要

（保健学研究科保健学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通科目		医療倫理学	１前	2			○								兼1
		多職種連携論	１前	2			○			2	2				兼1 オムニバス・一部共同
		医療コミュニケーション論	１前		2		○			4					兼1 オムニバス
		保健医療マネジメント論	１前		2		○			2	1				オムニバス
		応用統計学	１前		2		○			1					兼3 オムニバス
		医療英語研究	１前	2			○			3					兼2 オムニバス・一部共同
		保健医療教育論	１前	2			○			4					兼1 一部共同
		保健医療教育実践論	１前		2		○			4					兼1 一部共同
		保健医療研究法	１前	2			○			3	1				兼2 オムニバス
		小計（ 9科目）	－	10	8		－			10	3				兼9
専門科目	看護・リハビリテーション領域	保健学総論	１前	2			○			10	1				兼3 オムニバス・一部共同
		ケア提供システム特論	１前		2		○			2	1				オムニバス・一部共同
		ケア提供システム演習Ⅰ	１後		2			○		2	1				一部共同
		ケア提供システム演習Ⅱ	１後		2			○		2	1				一部共同
		人間発達ケア特論	１前		2		○			7	1				兼1 オムニバス
		人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	１後		2			○		3					
		人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	１後		2			○		3					
		人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	１後		2			○		1	1				
		人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	１後		2			○		1	1				
		人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）	１後		2			○		3					オムニバス
		人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	１後		2			○		3					オムニバス
		健康コミュニティ特論	１前		2		○			2	2				オムニバス・一部共同
		健康コミュニティ演習Ⅰ	１後		2			○		2					オムニバス・一部共同
		健康コミュニティ演習Ⅱ	１後		2			○		2					オムニバス・一部共同
		小計（ 14科目）	－	2	26		－			12	4				兼4
特別研究科目		保健学特別研究	1後～2通	10				○		11	1				
		小計（ 1科目）	－	10			－			11	1				
合計（ 24科目）			－	22	34		－			13	4				兼12

学位又は称号	修士（保健学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係） 保健衛生学関係（看護学関係）

<table>
<tr><th>修　了　要　件　及　び　履　修　方　法</th><th colspan="2">授業期間等</th></tr>
<tr><td rowspan="4">共通科目から12単位以上（必修10単位、選択2単位以上）、専門科目から8単位（必修2単位、選択必修6単位）、特別研究10単位（必修）の合計30単位以上を取得し、かつ修士論文の審査に合格すること。

※１　選択必修科目は「ケア提供システム分野」、「人間発達ケア分野」、「健康コミュニティ分野」の３分野のうちから希望する研究課題に最も相応しい分野を選択すること。

※２　上記の選択必修科目は、それぞれの選択した分野に応じて「ケア提供システム特論」、「人間発達ケア特論」、「健康コミュニティ特論」の3科目のうちから１科目（2単位）を選択し、それぞれの特論に繋がる演習Ⅰ（2単位）及び演習Ⅱ（2単位）を履修し合計6単位を取得すること。

※３　「人間発達ケア特論」（2単位）を選択した者は、理学療法学、作業療法学、母子看護学のうちから人間発達ケア演習Ⅰ（2単位）及び人間発達ケア演習Ⅱ（2単位）を選択履修し合計6単位を取得すること。</td><td>１学年の学期区分</td><td>2期</td></tr>
<tr><td>１学期の授業期間</td><td>15週</td></tr>
<tr><td>１時限の授業時間</td><td>90分</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
</table>

別記様式第２号（その２の１）

別紙6　旧

教　育　課　程　等　の　概　要

（保健学研究科保健学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
共通科目		医療倫理学	1前	2			○								兼1
		多職種連携論	1前	2			○			3	1				兼1 オムニバス・一部共同
		医療コミュニケーション論	1前	2			○			5					兼1 オムニバス
		保健医療マネジメント論	1前		2		○			2	1				オムニバス
		応用統計学	1前		2		○			1					兼3 オムニバス
		英語文献講読	1前		2		○								兼2 オムニバス
		保健医療教育論	1前		2		○			4					兼1 一部共同
		保健医療教育実践論	1前		2		○			4					兼1 一部共同
		保健医療研究法	1前	2			○			3	1				兼2 オムニバス
		小計（ 9科目）	－	8	10		－			11	2				兼9
専門科目	看護・リハビリテーション領域	保健学総論	1前	2			○			10	1				兼3 オムニバス・一部共同
		ケア提供システム特論	1前		2		○			2	1				オムニバス・一部共同
		ケア提供システム演習Ⅰ	1後		2			○		2	1				一部共同
		ケア提供システム演習Ⅱ	1後		2			○		2	1				一部共同
		人間発達ケア特論	1前		2		○			9					兼1 オムニバス
		人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	1後		2			○		4					
		人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	1後		2			○		4					
		人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	1後		2			○		2					
		人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	1後		2			○		2					
		人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）	1後		2			○		3					オムニバス
		人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	1後		2			○		3					オムニバス
		健康コミュニティ特論	1前		2		○			2	2				オムニバス・一部共同
		健康コミュニティ演習Ⅰ	1後		2			○		2					オムニバス・一部共同
		健康コミュニティ演習Ⅱ	1後		2			○		2					オムニバス・一部共同
		小計（ 14科目）	－	2	26		－			13	3				兼4
特別研究科目		保健学特別研究	2通	10				○		13	1				
		小計（ 1科目）	－	10			－			13	1				
合計（ 24科目）			－	20	36		－			13	3				兼12

学位又は称号	修士（保健学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係） 保健衛生学関係（看護学関係）

<table>
<tr><th>修　了　要　件　及　び　履　修　方　法</th><th colspan="2">授業期間等</th></tr>
<tr><td rowspan="4">共通科目から12単位以上（必修8単位、選択4単位以上）、専門科目から8単位（必修2単位、選択必修6単位）、特別研究10単位（必修）の合計30単位以上を取得し、かつ修士論文の審査に合格すること。

※１　選択必修科目は「ケア提供システム分野」、「人間発達ケア分野」、「健康コミュニティ分野」の３分野のうちから希望する研究課題に最も相応しい分野を選択すること。

※２　上記の選択必修科目は、それぞれの選択した分野に応じて「ケア提供システム特論」、「人間発達ケア特論」、「健康コミュニティ特論」の3科目のうちから１科目（2単位）を選択し、それぞれの特論に繋がる演習Ⅰ（2単位）及び演習Ⅱ（2単位）を履修し合計6単位を取得すること。

※３　「人間発達ケア特論」（2単位）を選択した者は、理学療法学、作業療法学、母子看護学のうちから人間発達ケア演習Ⅰ（2単位）及び人間発達ケア演習Ⅱ（2単位）を選択履修し合計6単位を取得すること。</td><td>１学年の学期区分</td><td>2期</td></tr>
<tr><td>１学期の授業期間</td><td>15週</td></tr>
<tr><td>１時限の授業時間</td><td>90分</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
</table>

別紙7　新

別表１　教育課程

科目区分		授業科目名	単位		配当年次
			必修	選択	
共通科目		医療倫理学	2		1前
		多職種連携論	2		1前
		医療コミュニケーション論		2	1前
		保健医療マネジメント論		2	1前
		応用統計学		2	1前
		医療英語研究	2		1前
		保健医療教育論	2		1前
		保健医療教育実践論		2	1前
		保健医療研究法	2		1前
		小計	10	8	
専門科目	看護・リハビリテーション領域	保健学総論	2		1前
		ケア提供システム特論		2	1前
		ケア提供システム演習Ⅰ		2	1後
		ケア提供システム演習Ⅱ		2	1後
		人間発達ケア特論		2	1前
		人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）		2	1後
		人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）		2	1後
		人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）		2	1後
		人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）		2	1後
		人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）		2	1後
		人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）		2	1後
		健康コミュニティ特論		2	1前
		健康コミュニティ演習Ⅰ		2	1後
		健康コミュニティ演習Ⅱ		2	1後
		小計	2	26	
特別研究		保健学特別研究		10	1後～2通

別紙7　旧

別表１　教育課程

科目区分		授業科目名	単位		配当年次
			必修	選択	
共通科目		医療倫理学	2		1前
		多職種連携論	2		1前
		医療コミュニケーション論	2		1前
		保健医療マネジメント論		2	1前
		応用統計学		2	1前
		英語文献講読		2	1前
		保健医療教育論		2	1前
		保健医療教育実践論		2	1前
		保健医療研究法	2		1前
		小計	8	10	
専門科目	看護・リハビリテーション分野	保健学総論	2		1前
		ケア提供システム特論		2	1前
		ケア提供システム演習Ⅰ		2	1後
		ケア提供システム演習Ⅱ		2	1後
		人間発達ケア特論		2	1前
		人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）		2	1後
		人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）		2	1後
		人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）		2	1後
		人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）		2	1後
		人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）		2	1後
		人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）		2	1後
		健康コミュニティ特論		2	1前
		健康コミュニティ演習Ⅰ		2	1後
		健康コミュニティ演習Ⅱ		2	1後
		小計	2	26	
特別研究		保健学特別研究		10	2通

別紙8　資料12　新

履修モデル

科目区分		授業科目名	単位 必修	単位 選択	配当	ケア提供システム分野 管理者志望者	人間発達ケア分野 理学療法士等	人間発達ケア分野 作業療法士等	人間発達ケア分野 看護師等	健康コミュニティ分野 保健師等	研究系 ケア提供システム分野	研究系 人間発達ケア分野 理学	研究系 人間発達ケア分野 作業	研究系 人間発達ケア分野 看護	研究系 健康コミュニティ分野	教育系 ケア提供システム分野	教育系 人間発達ケア分野 理学	教育系 人間発達ケア分野 作業	教育系 人間発達ケア分野 看護	教育系 健康コミュニティ分野
共通科目		医療倫理学	2		1前	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
共通科目		多職種連携論	2		1前	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
共通科目		医療コミュニケーション論		2	1前	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
共通科目		保健医療マネジメント論		2	1前	◇														
共通科目		応用統計学		2	1前		◇	◇	◇		◇	◇	◇	◇	◇					
共通科目		医療英語研究	2		1前	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
共通科目		保健医療教育論	2		1前	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
共通科目		保健医療教育実践論		2	1前					◇						◇	◇	◇	◇	◇
共通科目		保健医療研究方法論	2		1前	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
専門科目	看護・リハビリテーション領域	保健学総論	2		1前	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
専門科目	看護・リハビリテーション領域	ケア提供システム特論		2	1前	○					○					○				
専門科目	看護・リハビリテーション領域	ケア提供システム演習Ⅰ		2	1後	○					○					○				
専門科目	看護・リハビリテーション領域	ケア提供システム演習Ⅱ		2	1後	○					○					○				
専門科目	看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア特論		2	1前		○	○	○			○	○	○			○	○	○	
専門科目	看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）		2	1後		○					○					○			
専門科目	看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）		2	1後		○					○					○			
専門科目	看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）		2	1後			○					○					○		
専門科目	看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）		2	1後			○					○					○		
専門科目	看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）		2	1後				○					○					○	
専門科目	看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）		2	1後				○					○					○	
専門科目	看護・リハビリテーション領域	健康コミュニティー特論		2	1前					○					○					○
専門科目	看護・リハビリテーション領域	健康コミュニティー演習Ⅰ		2	1後					○					○					○
専門科目	看護・リハビリテーション領域	健康コミュニティー演習Ⅱ		2	1後					○					○					○
専門科目	特別研究	保健学特別研究	10		1後～2通	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
修了必要単位：30単位以上			22	34		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30

（注）　●：必修　○：選択必修　◇：選択

（注）　研究教育系の専門科目は、特論・演習Ⅰ・Ⅱを同系統で選択

共通科目：12単位以上（必修10単位、選択2単位以上）

専門科目：18単位以上（必修12単位、選択必修6単位）

修了必要単位：30単位以上（必修22単位、選択2単位以上、選択必修6単位）

別紙8　資料12　旧

履修モデル

科目区分		授業科目名	単位 必修	単位 選択	配当	ケア提供システム分野 管理者志望者	人間発達ケア分野 理学療法士等	人間発達ケア分野 作業療法士等	人間発達ケア分野 看護師等	健康コミュニティ分野 保健師等	研究系 ケア提供システム分野	研究系 人間発達ケア分野 理学	研究系 人間発達ケア分野 作業	研究系 人間発達ケア分野 看護	研究系 健康コミュニティ分野	教育系 ケア提供システム分野	教育系 人間発達ケア分野 理学	教育系 人間発達ケア分野 作業	教育系 人間発達ケア分野 看護	教育系 健康コミュニティ分野
共通科目		医療倫理学	2		1前	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
共通科目		多職種連携論	2		1前	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
共通科目		医療コミュニケーション論	2		1前	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
共通科目		保健医療マネジメント論		2	1前	◇	◇	◇	◇	◇										
共通科目		応用統計学		2	1前		◇	◇	◇		◇	◇	◇	◇	◇					
共通科目		英語文献講読		2	1前						◇	◇	◇	◇	◇					
共通科目		保健医療教育論		2	1前											◇	◇	◇	◇	◇
共通科目		保健医療教育実践論		2	1前	◇				◇						◇	◇	◇	◇	◇
共通科目		保健医療研究方法論	2		1前	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
専門科目	看護・リハビリテーション分野	保健学総論	2		1前	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
専門科目	看護・リハビリテーション分野	ケア提供システム特論		2	1前	○					○					○				
専門科目	看護・リハビリテーション分野	ケア提供システム演習Ⅰ		2	1後	○					○					○				
専門科目	看護・リハビリテーション分野	ケア提供システム演習Ⅱ		2	1後	○					○					○				
専門科目	看護・リハビリテーション分野	人間発達ケア特論		2	1前		○	○	○			○	○	○			○	○	○	
専門科目	看護・リハビリテーション分野	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）		2	1後		○					○					○			
専門科目	看護・リハビリテーション分野	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）		2	1後		○					○					○			
専門科目	看護・リハビリテーション分野	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）		2	1後			○					○					○		
専門科目	看護・リハビリテーション分野	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）		2	1後			○					○					○		
専門科目	看護・リハビリテーション分野	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）		2	1後				○					○					○	
専門科目	看護・リハビリテーション分野	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）		2	1後				○					○					○	
専門科目	看護・リハビリテーション分野	健康コミュニティー特論		2	1前					○					○					○
専門科目	看護・リハビリテーション分野	健康コミュニティー演習Ⅰ		2	1後					○					○					○
専門科目	看護・リハビリテーション分野	健康コミュニティー演習Ⅱ		2	1後					○					○					○
専門科目	特別研究	保健学特別研究	10		2通	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
修了必要単位：30単位以上			20	36		30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30

（注）　●：必修　○：選択必修　◇：選択

（注）　研究教育系の専門科目は、特論・演習Ⅰ・Ⅱを同系統で選択

共通科目：12単位以上（必修8単位、選択4単位以上）

専門科目：18単位以上（必修12単位、選択必修6単位）

修了必要単位：30単位以上（必修20単位、選択4単位以上、選択必修6単位）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）　別紙9 新

授　業　科　目　の　概　要

（保健学研究科保健学専攻）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	医療倫理学	我々日本人の考え方を作っている思想を歴史的に捉えるため、(1) 日本固有の思想として神話に基づく神道、(2) 外来思想として日本に影響を与えた仏教と儒教、(3) 日本の近代化を促した西洋近代思想を概説し、その理解に基づいて、医療における現代的な諸問題、すなわち、インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、出生前診断と遺伝病、遺伝子技術と認知症治療、伝染病・感染症の歴史的経過と現代の問題について、講義及び小グループによるディスカッションにより考察し理解を深める。	
	多職種連携論	Interprofessional Work;IPW(専門職連携実践)について、概念と理論、発展の歴史を学び、現在の地域包括ケアにおける多職種連携の役割について議論する。さらにグループワークを通して、実践に必要なチーム形成スキルやコミュニケーションスキルを習得し、自らの業務上の課題や社会的課題についてIPWの視点から分析考察し、その課題解決のために他職種と協働し検討する力を養う。さらに、事例検討を通して多職種連携における実践力を養う。 （オムニバス方式　全15回） （⑪　大町かおり／1回） チーム形成や問題解決に求められるファシリテータの役割とスキルについて考える。 （16　宮越幸代／1回） チーム形成及び問題解決に向けた過程での葛藤とリフレクションの重要性について考える。 （20　星文彦／8回） ＩＰＷについての概要と歴史、基盤となるヒューマンケア、必要性、仕組みの理解を深め、グループワークを通じて他者理解と説明スキルを学ぶとともに、自己の受講活動と自己の業務活動や社会活動を振り返る。 （⑧　樋貝繁香、⑭　宮脇利幸／1回）（共同） 多職種連携について；地域包括ケアに求められるIPWについて考える。 （20　星文彦、⑧　樋貝繁香、⑭　宮脇利幸／2回）（共同） ＩＰＷ研究論文についてグループワークにより考察する。 （20　星文彦、⑪　大町かおり、16　宮越幸代／2回）（共同） 学生の業務事例を通して多職種連携を検討する。	オムニバス方式、一部共同

共通科目	医療コミュニケーション論	本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにより、医療・保健領域において患者、市民といったさまざまな個人・集団に向けて適切なコミュニケーションを可能にすることにある。その結果として医療・保健情報を正しく伝えるだけでなく、正しく情報収集することに役立てることにある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的なコミュニケーションのために（1）コミュニケーションの基本理論（2）コミュニケーションの具体的方法とスキル（3）コミュニケーションの評価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコミュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。 （オムニバス方式全15回） （①　井部俊子／4回） 個人の病態を本人や家族に伝える臨床コミュニケーション、患者や家族に向けた支援のための文書作成、他職種連携コミュニケーションについて学修する。さらにグループ組織におけるコミュニケーションについて学修する。 （③　中島八十一／7回） 疾病の理解に必要な基礎科学を医療従事者ではない患者、家族、一般市民に話すことと書くことで伝える技法を学ぶ。加えて保健医療文書作成や論文発表のための英語によるプレゼンテーションの基礎を修得する。 （④　外里冨佐江／2回） 個人の行動変容を促すコミュニケーションおよび患者・市民の啓発について学ぶ。 （⑨　川崎千恵／1回） 集団の行動変容を促すコミュニケーションについて学ぶ。 （⑰　奥村信彦／1回） 外国人患者とのコミュニケーションについて学ぶ。	オムニバス方式
	保健医療マネジメント論	本講義の目的は、人口減少の現代、保健医療領域で高度専門実践者として必要なマネジメントの知識を体系的に学ぶ。まず、わが国における保健医療制度・政策を理解し、保健医療に関連した法規と倫理を学ぶ。さらに、財務会計・管理会計と診療報酬制度・介護報酬制度を概観する。そして、保健医療福祉サービスを提供する人材開発・人材育成を学び、保健医療福祉における質を考察する。 （オムニバス方式全15回） （①　井部俊子／4回） 医療の質保証と医療安全、人材開発と経験学修、リーダーシップとマネジメント、組織開発の手法について概説する。 （③　中島八十一／9回） 人口減少時代における社会保障、保健医療制度・政策保健医療福祉に関連した法規について理解する。 （⑮　水嵜知子／2回） 保健医療福祉における倫理について理解する。	オムニバス方式

共通科目	応用統計学	本講義は、保健・医療の分野において科学的根拠に基づいた実践を行うために、科学的情報の理解に必要となる統計知識を習得すること、および保健医療分野の研究を進める上で有用となる統計処理が行えるようになることを目的とする。そのため、統計学の基礎を理解し、医学統計および心理統計の手法について学ぶとともに、表計算ソフトおよび統計解析ソフトによる統計解析の手順や出力結果の読み方についても学ぶ。 （オムニバス方式全15回） （⑦　熊本圭吾／9回） 記述統計、推測統計、心理統計を学び、統計手法の適用について理解する。 （21　林邦彦／2回） 医学研究における統計学について概説し、観察研究の研究計画における統計学について理解する。 （22　井手野由季／2回） 観察研究のデータ解析における統計学とメタアナリシスについて学ぶ。 （23　長井万恵／2回） 介入研究の研究計画における統計学とデータ解析における統計学について学ぶ。	オムニバス方式
	医療英語研究	医療・医学に関する英語文献を講読し、その読解力を養うとともに、医療・医学に関わる基礎的・専門的知識およびその英語特有の規則等も学ぶ。特に前半は基礎的な内容の英語を規則等にも注目して読み、後半は英語の文献検討力を養うため、リハビリテーション学と看護学に関する英語論文をクリティカルに読み、その内容を論理的かつ的確に発表できる力を養う。 （オムニバス方式全15回） （⑯　伊原巧／6回） 細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 （⑰　奥村信彦／3回） ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。 〈⑰　奥村信彦、④　外里冨佐江／2回〉（共同） 作業療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 〈⑰　奥村信彦、⑤　坂口けさみ／2回〉（共同） 看護学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。 〈⑰　奥村信彦、⑩　福谷保／2回〉（共同） 理学療法学分野の英語文献を選択し、クリティカルに読み、グループでのプレゼンテーションによりその内容を論理的かつ的確に表現する力を養う。	オムニバス方式 一部共同

共通科目	保健医療教育論	教育学の視点から保健医療専門教育の理論と実践の検証、古典にみる養生思想の現代的意義の考察に立って、今日の保健医療専門職教育の原理を探究し、教育技法、教材などについて理解を深める。 （24　土井進／12回） 教育者、学習者、保健医療の基礎知識について学び、日本及び西洋の養生思想についての現代的意義について考察する。 （24　土井進、④　外里冨佐江／1回）（共同） 教育の基礎的知識を踏まえ、作業療法の実践と理論について学び、理解を深める。 （24　土井進、⑧　樋貝繁香、⑫　林かおり／1回）（共同） 教育の基礎的知識を踏まえ、看護の実践と理論について学び、理解を深める。 （24　土井進、⑩　福谷保／1回）（共同） 教育の基礎的知識を踏まえ、理学療法の実践と理論について学び、理解を深める。	一部共同
	保健医療教育実践論	学部での基礎教育、卒業後の教育、保健医療教育の歴史的変遷、ならびに保健医療教育の理論と実践について、実践例を通して学ぶ。 本講義では、保健医療の専門職養成機関において高度専門職の養成に当たる教育者に求められる、保健医療の専門的知識を教授できる指導力を身に付ける。 （24　土井進／10回） シラバス作成の意義、指導計画の作成、教育者の要件、学習形態、学習評価などの理論について学ぶ。 （24　土井進、④　外里冨佐江、⑧　樋貝繁香、⑩　福谷保、⑫　林かおり／5回）（共同） 保健医療専門科目における単元の指導計画、指導案の作成、板書計画、評価方法について具体的に学ぶ。	一部共同

共通科目	保健医療研究法	本講義は、保健医療分野の実践の場において研究活動を行うために必要となる基礎的な知識、態度、手順を修得することを目的とする。そのために、保健医療分野における研究を実践する上で活用される多様な研究法について紹介し、その基礎と特徴を学ぶ。また、保健医療分野における研究の過程について、研究テーマと研究デザインの検討、研究における倫理的配慮、研究の実施と報告までの一連の流れを学ぶ。 （オムニバス方式全15回） （⑦　熊本圭吾／5回） 責任ある研究活動を行うために、研究倫理と行動規範を学ぶとともに、調査研究、研究計画書を作成するに当たっての注意点、研究テーマを決定するために必要な事項について学ぶ。 （⑨　川崎千恵／1回） 研究の目的、実践との関連について理解し、研究のプロセス、研究テーマ、研究デザインの基本的な知識を修得する。 （⑫　林かおり／1回） 研究の方法として、実験研究について学ぶ。 （⑮　水嵜知子／2回） 論文作成に必要な文献検討について、その位置づけ、文献検索方法、論文の種類と構成について修得したうえで、文献検討に必要な文献クリティークの方法について学ぶ。 （21　林邦彦／2回） 研究の方法として、疫学研究について学ぶ。 （25　麻原きよみ／4回） 研究の方法として、質的研究について学ぶ。	オムニバス方式

専門科目	看護・リハビリテーション領域	保健学総論	「誰一人として取り残さない地域社会」の構築を志向する保健医療福祉関連職に必要となる基礎知識を学ぶ。 （オムニバス方式全15回） （①　井部俊子／1回） 看護学の現在について概説する。 （②　金物壽久／1回） EBM、生命医療倫理、患者中心医療、医療事故防止（ヒューマンエラー）について学ぶ。 （③　中島八十一／3回） 看護学、リハビリテーション科学の現代的な位置付けを歴史学、社会学等多面的な視点で考察し、その上で直近解決せねばならない課題とその解決について学ぶ。 （⑤　坂口けさみ／1回） women’s health、reproductive healthについて概説する。 （⑧　樋貝繁香／1回） 小児・学童の健康：母子、児童、学校保健の現状と課題について概説する。 （⑨　川崎千恵／2回） 加齢と高齢者の心身機能特性を踏まえて高齢者の健康について概説する。また、家族、住まい、住民の健康状態、自治体などによる健康増進活動を通じた地域社会の健康について学ぶ。 （16　宮越幸代／1回） 災害がおよぼす人々の暮らしや健康について考え、防災・減災から復興に至る一連の災害サイクルにおける保健上の課題について考察する。 （20　星文彦／1回） 多職種連携のための、チームの構成、活動目標設定、プログラム管理、マネジメントについて学ぶ。 （26　中村秀一／1回） 保健医療福祉制度の現在と課題ならびに政策の動向について概説する。 （27　野見山哲生／1回） 働き世代の健康として、産業医学・衛生、健診事業、労働安全、働き方改革、両立支援について学ぶ。 （③　中島八十一、④　外里冨佐江、⑩　福谷保／1回）（共同） リハビリテーション医学、理学療法学、作業療法学について概説する。 （⑥　高嶋孝倫、⑦　熊本圭吾／1回）（共同） 支援工学、ケースワーク、臨床心理について学ぶ。	オムニバス方式、一部共同

専門科目	看護・リハビリテーション領域	ケア提供システム特論	わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学ぶ。さらに、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学ぶ。 （オムニバス方式　全15回） （①　井部俊子、⑮　水嵜知子／12回）（共同） ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学び、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制の構築、リーダーシップを発揮した効率的なマネジメント手法について学ぶ。 （③　中島八十一／3回） わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、関連した法規についての理解を深める。	オムニバス方式、一部共同
		ケア提供システム演習Ⅰ	医療サービス・マネジメントに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （①　井部俊子、⑮　水嵜知子）（共同） 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （③　中島八十一） 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。	一部共同
		ケア提供システム演習Ⅱ	医療サービス・マネジメントに関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （①　井部俊子、⑮　水嵜知子）（共同） 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 （③　中島八十一） 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	一部共同

専門科目	看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア特論	発達とは、分化（Specialization）と統合（Integration）が繰り返されて進展し、相互作用をもって特定の方向に向かう変化である。人間の発達とは、生物として地球上に存在し、社会の生活者として、心理・社会的任務を遂行しながら、未来に向けて生涯成長していくことである。 本講義は、妊娠・出産期における家族、母性、乳幼児期、青年期、成人期、高齢期それぞれの時期により迎える課題に対して、社会環境を含めて医学、看護、リハビリテーションの側面から講義し、科学的根拠に基づく研究につなげる。 （オムニバス方式／全15回） （④　外里冨佐江／4回） 吾々をとりまく環境と人間発達について概括的に解説する。生涯発達の概要と各時期における発達課題について概観し、青年期から成人期における発達課題について、特に「健康づくり」および「学校生活と心身の変化」を意識したケアの在り方と実際について理解する。 （⑤　坂口けさみ／1回） リプロダクティブヘルス・ライツの主要概念を理解するとともに、諸外国及び我が国における情勢を含めた臨床的課題について、ジェンダー、暴力、格差等を中心に分析し、社会の在り方を探求する。また母子関係並び父子関係形成過程に関する諸理論や研究的裏付けについて、心理学的、分子生物学的観点をふまえ理解するとともに、臨床的課題について探求する。 （⑥　高嶋孝倫／1回） 肢体不自由を中心とした発達過程における障害の工学的理解を深める。 （⑧　樋貝繁香／2回） 乳幼児期における課題について、健全な発達を支えることや障がいをもちながら生活することを多角的に理解する。 （⑩　福谷保／1回） 青年期から成人期における発達課題について、特に「健康づくり」および「産業保健的見地」を意識したケアの在り方と実際について理解する。 （⑫　林かおり／1回） 発達過程の各時期で課題となる感染症の特徴、生活習慣から罹患しうる感染症とその予防方法について理解を深める。さらに、急速に変化する現代社会情勢・環境変化の面から増加しうる感染症を知り、各発達段階の人々の健康を守る医療従事者として、専門的な立場から感染対策の方法を学ぶ。 （⑬　飛松好子／1回） 発達過程におけるさまざまな疾病あるいは外傷によって障害を負うことがある。幼児期から高齢期にいたるどの時点でも起こりうることであるが、その対応、ケア、予後予測は発生時期により違ってくる。ここでは運動器の発達を基礎とした肢体不自由（上肢、下肢、体幹）に関する医学的理解を深める。 （⑭　宮脇利幸／2回） 加齢・老化に伴う高齢期の心身の特徴および生じやすい症候を踏まえ、ライフステージの最終段階である高齢期の社会生活のあり方について学修・理解する。 （28　福田恵美子／2回） 発達障害児支援の地域の取り組みについて理解を深める。	オムニバス方式

専門科目	看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （⑥　高嶋孝倫） 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （⑩　福谷保） 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （⑬　飛松好子） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。	
		人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	発達過程における理学療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （⑥　高嶋孝倫） 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 （⑩　福谷保） 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 （⑬　飛松好子） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	

専門科目	看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （④　外里冨佐江） 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （⑭　宮脇利幸） 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。	
		人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	発達過程における作業療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （④　外里冨佐江） 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 （⑭　宮脇利幸） 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学に関連する研究課題ついて、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	
		人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （⑤　坂口けさみ、⑫　林かおり／オムニバス方式全30回） 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （⑤　坂口けさみ／25回） リサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー、文献クリティーク、先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議 （⑫　林かおり／5回） 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する有用なエビデンスの検討 （⑧　樋貝繁香） 乳幼児期・小児期に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。	オムニバス方式

専門科目	看護・リハビリテーション領域	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連する研究課題について保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （⑤　坂口けさみ、⑫　林かおり／オムニバス方式全30回） 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題に取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 （⑤　坂口けさみ／20回） リプロダクティブヘルス・ライツに関わる母子保健・医療・福祉・教育の動向と現状の理解、実践・教育・研究の現状と課題の探求、支援方法と課題の探求、現状と課題発表および討議 （⑫　林かおり／10回） リプロダクティブヘルス（性感染症）の動向の理解 （⑧　樋貝繁香） 乳幼児期・小児期に関連する研究課題取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	オムニバス方式
		健康コミュニティ特論	本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な（inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論を学修し、関心領域の研究につなげる。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な（inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。 （オムニバス方式／全15回） （⑦　熊本圭吾／2回） 主に、コミュニティにおける包摂的な支援とは（Social Inclusionや Community-Based Rehabilitation等の主要概念）、協働による包摂的支援（３）/コミュニティの人々と資源を総動員したコミュニティ組織化とコミュニティオーガニゼーションなどの講義・演習を担当する。 （⑨　川崎千恵／5回） 主に、コミュニティの人々の健康と社会的要因、コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援（コミュニティ・アセスメントの理論、モデル、方法論等）、コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援（事業化・施策化/施策提言）などの講義・事例検討・演習を担当する。 （15　春原るみ／1回） 主に、在宅療養患者の包摂的支援に関する講義・事例検討、演習を担当する。 （16　宮越幸代／4回） 主に、コミュニティと人々の特性（多様性と多文化共生社会）、協働による包摂的支援（１）（２）/パートナーシップの形成、チームビルディングなどの講義・事例検討・演習を担当する。 （⑦　熊本圭吾、⑨　川崎千恵、15　春原るみ、16　宮越幸代／3回）（共同） 学生のプレゼンテーション演習への助言・指導を担当する。	オムニバス方式・一部共同

専門科目	看護・リハビリテーション領域	健康コミュニティ演習Ⅰ	本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な（inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な（inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。 （オムニバス方式全30回） （⑦　熊本圭吾／10回） 文献クリティークについて学修し、そのプレゼンテーションをする。 （⑨　川崎千恵／10回） 関心のあるリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビューとプレゼンテーション、有用なエビデンスの検討について学修する。 （⑨　川崎千恵、⑦　熊本圭吾／10回）（共同） 関心のあるリサーチクエスチョンにおける有用なエビデンスについてプレゼンテーションにより理解を深め、先行研究のレビューレポートを作成し、発表・討議する。	オムニバス方式 一部共同
		健康コミュニティ演習Ⅱ	本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援策の開発や、効果的な支援方法に関連する研究課題について、既存の施策や実際の支援内容・支援方法を含めて幅広く理解する。そのうえで、学生自身の研究・実務経験を活かして、学生自身が関心をもつ対象集団に必要とされる支援策や支援内容・効果的な支援方法を、演習により探求する。 （オムニバス方式全30回） （⑦　熊本圭吾／13回） 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への施策の動向、及び支援内容・支援方法に関する現状と課題の理解、支援内容と効果的な支援方法に関する研究の現状と課題の探求、支援内容と効果的な支援方法の探求、支援策と必要とされる研究の探求についてプレゼンテーション・ディスカッションする。 （⑨　川崎千恵／15回） 健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への施策の動向、及び支援内容・支援方法に関する現状と課題の理解、支援内容と効果的な支援方法に関する研究の現状と課題の探求、支援内容と効果的な支援方法の探求、支援策と必要とされる研究の探求について担当する。 （⑨　川崎千恵、⑦　熊本圭吾／2回）（共同） 演習のオリエンテーション及びまとめ	オムニバス方式 一部共同

特別研究	保健学特別研究	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （①　井部俊子） 医療現場において人材育成及び組織を動かすことに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （②　金物壽久） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。 （③　中島八十一） 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （④　外里冨佐江） 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （⑤　坂口けさみ） リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。 （⑧　樋貝繁香） 乳幼児期・小児期に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。 （⑨　川崎千恵） 公衆衛生の視点から人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、論文作成のための研究指導を行う。 （⑩　福谷保） 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （⑪　大町かおり） 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （⑫　林かおり） リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題の研究過程において、調査・実験、データ収集、データ入力についての研究を補助する。 （⑬　飛松好子） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （⑮　水嵜知子） 医療現場においてケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

別紙9 旧

授　業　科　目　の　概　要

（保健学研究科保健学専攻）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	医療倫理学	日本人がこれまでにどんなことを考えてきたかを概観し、我々の考え方を作っている思想を歴史的に捉えることを第一の目的とする。その理解に基づいて、医療における現代的な諸問題、すなわち、インフォームド・コンセント、尊厳死などの問題を考察する。内容的には、（１）日本固有の思想として神話に基づく神道、（２）外来思想として日本に影響を与えた仏教と儒教、（３）日本の近代化を促した西洋近代思想、をとりあげる。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行うこともある。	
	多職種連携論	Interprofessional Work;IPW(専門職連携実践)について、概念と理論、発展の歴史を学び、現在の地域包括ケアにおける多職種連携の役割について議論する。さらにグループワークを通して、実践に必要なチーム形成スキルやコミュニケーションスキルを習得し、自らの業務上の課題や社会的課題についてIPWの視点から分析考察し、その課題解決のために他職種と協働し検討する力を養う。さらに、事例検討を通して多職種連携における実践力を養う。 （オムニバス方式　全15回） （12　大町かおり／1回） チーム形成や問題解決に求められるファシリテータの役割とスキルについて考える。 （16　宮越幸代／1回） チーム形成及び問題解決に向けた過程での葛藤とリフレクションの重要性について考える。 （20　星文彦／8回） ＩＰＷについての概要と歴史、基盤となるヒューマンケア、必要性、仕組みの理解を深め、グループワークを通じて他者理解と説明スキルを学ぶとともに、自己の受講活動と自己の業務活動や社会活動を振り返る。 （7　宮脇利幸、9　樋貝繁香／1回）（共同） 多職種連携について；地域包括ケアに求められるIPWについて考える。 （20　星文彦、7　宮脇利幸、9　樋貝繁香／2回）（共同） ＩＰＷ研究論文についてグループワークにより考察する。 （20　星文彦、12　大町かおり、16　宮越幸代／2回）（共同） 学生の業務事例を通して多職種連携を検討する。	オムニバス方式、一部共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	医療コミュニケーション論	本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにより、医療・保健領域において患者、市民といったさまざまな個人・集団に向けて適切なコミュニケーションを可能にすることにある。その結果として医療・保健情報を正しく伝えるだけでなく、正しく情報収集することに役立てることにある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的なコミュニケーションのために（1）コミュニケーションの基本理論（2）コミュニケーションの具体的方法とスキル（3）コミュニケーションの評価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコミュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。 （オムニバス方式全15回） （1　井部俊子／3回） 個人の病態を本人や家族に伝える臨床コミュニケーション、患者や家族に向けた支援のための文書作成について学ぶ。さらにグループ組織におけるコミュニケーションについて学修する。 （3　中島八十一／7回） 疾病の理解に必要な基礎科学を医療従事者ではない患者、家族、一般市民に話すことと書くことで伝える技法を学ぶ。加えて保健医療文書作成の実務を修得する。 （4　外里冨佐江／2回） 個人の行動変容を促すコミュニケーションおよび患者・市民の啓発について学ぶ。 （10　川崎千恵／1回） 集団の行動変容を促すコミュニケーションについて学ぶ。 （12　大町かおり／1回） 他職種との連携に際してのコミュニケーションについて学ぶ。 （18　奥村信彦／1回） 外国人患者とのコミュニケーションについて学ぶ。	オムニバス方式
	保健医療マネジメント論	本講義の目的は、人口減少の現代、保健医療領域で高度専門実践者として必要なマネジメントの知識を体系的に学ぶ。まず、わが国における保健医療制度・政策を理解し、保健医療に関連した法規と倫理を学ぶ。さらに、財務会計・管理会計と診療報酬制度・介護報酬制度を概観する。そして、保健医療福祉サービスを提供する人材開発・人材育成を学び、保健医療福祉における質を考察する。 （オムニバス方式全15回） （1　井部俊子／4回） 医療の質保証と医療安全、人材開発と経験学修、リーダーシップとマネジメント、組織開発の手法について概説する。 （3　中島八十一／9回） 人口減少時代における社会保障、保健医療制度・政策保健医療福祉に関連した法規について理解する。 （14　水嵜知子／2回） 保健医療福祉における倫理について理解する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	応用統計学	本講義は、保健・医療の分野において科学的根拠に基づいた実践を行うために、科学的情報の理解に必要となる統計知識を習得すること、および保健医療分野の研究を進める上で有用となる統計処理が行えるようになることを目的とする。そのため、統計学の基礎を理解し、医学統計および心理統計の手法について学ぶとともに、表計算ソフトおよび統計解析ソフトによる統計解析の手順や出力結果の読み方についても学ぶ。 （オムニバス方式全15回） （8　熊本圭吾／9回） 記述統計、推測統計、心理統計を学び、統計手法の適用について理解する。 （21　林邦彦／2回） 医学研究における統計学について概説し、観察研究の研究計画における統計学について理解する。 （22　井手野由季／2回） 観察研究のデータ解析における統計学とメタアナリシスについて学ぶ。 （23　長井万恵／2回） 介入研究の研究計画における統計学とデータ解析における統計学について学ぶ。	オムニバス方式
	英語文献講読	医療・医学に関する英語文献を講読し、その読解力を養うとともに、医療・医学に関わる基礎的・専門的知識およびその英語特有の規則等も学ぶ。特に前半は基礎的な内容の英語を規則等にも注目して読み、後半はリハビリテーション学と看護学に関する論文紹介のプレゼンテーションをグループで行うことによりクリティカルに読む姿勢を養う。 （オムニバス方式全15回） （17　伊原巧／6回） 細胞、器官及び系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経・筋骨格系について、やさしい英語で書かれたテキストを読む中で、その内容理解と共に、医学用語の語根、連結母音、接頭辞、接尾辞といった構成要素をつなぐ規則、医学用語の複数形の作り方、および語根、接頭辞、接尾辞、単語の意味について理解する。 （18　奥村信彦／9回） ESPの観点も踏まえ、英語文献を構成と論理に注目しながら読み、その内容をグループでプレゼンすることによりさらに理解を深める。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	保健医療教育論	教育学の視点から保健医療専門教育の理論と実践の検証、古典にみる養生思想の現代的意義の考察に立って、今日の保健医療専門職教育の原理を探究し、教育技法、教材などについて理解を深める。 （24　土井進／12回） 教育者、学習者、保健医療の基礎知識について学び、日本及び西洋の養生思想についての現代的意義について考察する。 （24　土井進、4　外里冨佐江／1回）（共同） 教育の基礎的知識を踏まえ、作業療法の実践と理論について学び、理解を深める。 （24　土井進、9　樋貝繁香、13　林かおり／1回）（共同） 教育の基礎的知識を踏まえ、看護の実践と理論について学び、理解を深める。 （24　土井進、11　福谷保／1回）（共同） 教育の基礎的知識を踏まえ、理学療法の実践と理論について学び、理解を深める。	一部共同
	保健医療教育実践論	学部での基礎教育、卒業後の教育、保健医療教育の歴史的変遷、ならびに保健医療教育の理論と実践について、実践例を通して学ぶ。 本講義では、保健医療の専門職養成機関において高度専門職の養成に当たる教育者に求められる、保健医療の専門的知識を教授できる指導力を身に付ける。 （24　土井進／10回） シラバス作成の意義、指導計画の作成、教育者の要件、学習形態、学習評価などの理論について学ぶ。 （24　土井進、4　外里冨佐江、9　樋貝繁香、11　福谷保、13　林かおり／5回）（共同） 保健医療専門科目における単元の指導計画、指導案の作成、板書計画、評価方法について具体的に学ぶ。	一部共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	保健医療研究法	本講義は、保健医療分野の実践の場において研究活動を行うために必要となる基礎的な知識、態度、手順を修得することを目的とする。そのために、保健医療分野における研究を実践する上で活用される多様な研究法について紹介し、その基礎と特徴を学ぶ。また、保健医療分野における研究の過程について、研究テーマと研究デザインの検討、研究における倫理的配慮、研究の実施と報告までの一連の流れを学ぶ。 （オムニバス方式全15回） （6　高嶋孝倫／1回） 研究の方法として、実験研究について学ぶ。 （8　熊本圭吾／5回） 責任ある研究活動を行うために、研究倫理と行動規範を学ぶとともに、調査研究、研究計画書を作成するに当たっての注意点、研究テーマを決定するために必要な事項について学ぶ。 （10　川崎千恵／1回） 研究の目的、実践との関連について理解し、研究のプロセス、研究テーマ、研究デザインの基本的な知識を修得する。 （14　水嵜知子／2回） 論文作成に必要な文献検討について、その位置づけ、文献検索方法、論文の種類と構成について修得したうえで、文献検討に必要な文献クリティークの方法について学ぶ。 （21　林邦彦／2回） 研究の方法として、疫学研究について学ぶ。 （25　麻原きよみ／4回） 研究の方法として、質的研究について学ぶ。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護・リハビリテーション分野	保健学総論	「誰一人として取り残さない地域社会」の構築を志向する保健医療福祉関連職に必要となる基礎知識を学ぶ。 （オムニバス方式全15回） （1　井部俊子／1回） 看護学の現在について概説する。 （2　金物壽久／1回） EBM、生命医療倫理、患者中心医療、医療事故防止（ヒューマンエラー）について学ぶ。 （3　中島八十一／3回） 看護学、リハビリテーション科学の現代的な位置付けを歴史学、社会学等多面的な視点で考察し、その上で直近解決せねばならない課題とその解決について学ぶ。 （5　坂口けさみ／1回） women’s health、reproductive healthについて概説する。 （9　樋貝繁香／1回） 小児・学童の健康：母子、児童、学校保健の現状と課題について概説する。 （10　川崎千恵／2回） 加齢と高齢者の心身機能特性を踏まえて高齢者の健康について概説する。また、家族、住まい、住民の健康状態、自治体などによる健康増進活動を通じた地域社会の健康について学ぶ。 （16　宮越幸代／1回） 災害がおよぼす人々の暮らしや健康について考え、防災・減災から復興に至る一連の災害サイクルにおける保健上の課題について考察する。 （20　星文彦／1回） 多職種連携のための、チームの構成、活動目標設定、プログラム管理、マネジメントについて学ぶ。 （26　中村秀一／1回） 保健医療福祉制度の現在と課題ならびに政策の動向について概説する。 （27　野見山哲生／1回） 働き世代の健康として、産業医学・衛生、健診事業、労働安全、働き方改革、両立支援について学ぶ。 （3　中島八十一、4　外里冨佐江、11　福谷保／1回）（共同） リハビリテーション医学、理学療法学、作業療法学について概説する。 （6　高嶋孝倫、8　熊本圭吾／1回）（共同） 支援工学、ケースワーク、臨床心理について学ぶ。	オムニバス方式、一部共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護・リハビリテーション分野	ケア提供システム特論	わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学ぶ。さらに、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学ぶ。 （オムニバス方式　全15回） （1　井部俊子、14　水嵜知子／12回）（共同） ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学び、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制の構築、リーダーシップを発揮した効率的なマネジメント手法について学ぶ。 （3　中島八十一／3回） わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、関連した法規についての理解を深める。	オムニバス方式、一部共同
		ケア提供システム演習Ⅰ	テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手して自らの研究テーマの抽出につなげる。選択した課題を実証的に検証する方法について検討し、研究を進めるための条件を整える。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （1　井部俊子、14　水嵜知子）（共同） 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （3　中島八十一） 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。	一部共同
		ケア提供システム演習Ⅱ	学生が選択した自己の研究課題について、研究計画書を完成させて、研究倫理審査を受ける。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （1　井部俊子、14　水嵜知子）（共同） 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 （3　中島八十一） 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	一部共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護・リハビリテーション分野	人間発達ケア特論	発達とは、分化（Specialization）と統合（Integration）が繰り返されて進展し、相互作用をもって特定の方向に向かう変化である。人間の発達とは、生物として地球上に存在し、社会の生活者として、心理・社会的任務を遂行しながら、未来に向けて生涯成長していくことである。 本講義は、妊娠・出産期における家族、母性、乳幼児期、青年期、成人期、高齢期それぞれの時期により迎える課題に対して、社会環境を含めて医学、看護、リハビリテーションの側面から講義し、科学的根拠に基づく研究につなげる。 （オムニバス方式／全15回） （2　金物壽久／1回） 発達過程におけるさまざまな疾病あるいは外傷によって障害を負うことがある。幼児期から高齢期にいたるどの時点でも起こりうることであるが、その対応、ケア、予後予測は発生時期により違ってくる。ここでは運動器の発達を基礎とした肢体不自由（上肢、下肢、体幹）に関する医学的理解を深める。 （4　外里冨佐江／3回） 吾々をとりまく環境と人間発達について概括的に解説する。生涯発達の概要と各時期における発達課題について概観する。 （5　坂口けさみ／1回） リプロダクティブヘルス・ライツの主要概念を理解するとともに、諸外国及び我が国における情勢を含めた臨床的課題について、ジェンダー、暴力、格差等を中心に分析し、社会の在り方を探求する。また母子関係並び父子関係形成過程に関する諸理論や研究的裏付けについて、心理学的、分子生物学的観点をふまえ理解するとともに、臨床的課題について探求する。 （6　高嶋孝倫／1回） 肢体不自由を中心とした発達過程における障害の工学的理解を深める。 （7　宮脇利幸／2回） 加齢・老化に伴う高齢期の心身の特徴および生じやすい症候を踏まえ、ライフステージの最終段階である高齢期の社会生活のあり方について学修・理解する。 （9　樋貝繁香／2回） 乳幼児期における課題について、健全な発達を支えることや障がいをもちながら生活することを多角的に理解する。 （11　福谷保／1回） 青年期から成人期における発達課題について、特に「健康づくり」および「産業保健的見地」を意識したケアの在り方と実際について理解する。 （12　大町かおり／1回） 青年期から成人期における発達課題について、特に「健康づくり」および「学校生活と心身の変化」を意識したケアの在り方と実際について理解する。 （13　林かおり／1回） 発達過程の各時期で課題となる感染症の特徴、生活習慣から罹患しうる感染症とその予防方法について理解を深める。さらに、急速に変化する現代社会情勢・環境変化の面から増加しうる感染症を知り、各発達段階の人々の健康を守る医療従事者として、専門的な立場から感染対策の方法を学ぶ。 （28　福田恵美子／2回） 発達障害児支援の地域の取り組みについて理解を深める。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護・リハビリテーション分野	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 （2　金物壽久） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （6　高嶋孝倫） 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （11　福谷保） 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （12　大町かおり） 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。	
		人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （2　金物壽久） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 （6　高嶋孝倫） 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 （11　福谷保） 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 （12　大町かおり） 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護・リハビリテーション分野	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	発達過程における作業療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 （4　外里冨佐江） 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （7　宮脇利幸） 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。	
		人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	発達過程における作業療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （4　外里冨佐江） 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 （7　宮脇利幸） 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学に関連する研究課題ついて、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	
		人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）	発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、講義や学生支援を行う。 （5　坂口けさみ、13　林かおり／オムニバス方式全30回） 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （5　坂口けさみ／22回） 課題の明確化、関連文献レビュー、枠組みの明確化を通して研究デザイン、研究計画の策定に向けて学修する。 （13　林かおり／8回） 臨床フィールドワーク、データ分析の予備的検討について学ぶ。 （9　樋貝繁香） 乳幼児期・小児期に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護・リハビリテーション分野	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （5　坂口けさみ、13　林かおり／オムニバス方式全30回） 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題に取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。 （5　坂口けさみ／22回） 研究デザインの選択、プロトコルの作成を経て、研究倫理を踏まえた研究計画書を作成する過程を学ぶ。 （13　林かおり／8回） 量的研究のデータ解析手法を習得する。 （9　樋貝繁香） 乳幼児期・小児期に関連する研究課題取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。	オムニバス方式
		健康コミュニティ特論	本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な（inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論を学修し、関心領域の研究につなげる。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な（inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。 （オムニバス方式／全15回） （8　熊本圭吾／2回） 主に、コミュニティにおける包摂的な支援とは（Social InclusionやCommunity-Based Rehabilitation等の主要概念）、協働による包摂的支援（３）/コミュニティの人々と資源を総動員したコミュニティ組織化とコミュニティオーガニゼーションなどの講義・演習を担当する。 （10　川崎千恵／5回） 主に、コミュニティの人々の健康と社会的要因、コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援（コミュニティ・アセスメントの理論、モデル、方法論等）、コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援（事業化・施策化/施策提言）などの講義・事例検討・演習を担当する。 （15　春原るみ／1回） 主に、在宅療養患者の包摂的支援に関する講義・事例検討、演習を担当する。 （16　宮越幸代／4回） 主に、コミュニティと人々の特性（多様性と多文化共生社会）、協働による包摂的支援（１）（２）/パートナーシップの形成、チームビルディングなどの講義・事例検討・演習を担当する。 （8　熊本圭吾、10　川崎千恵、15　春原るみ、16　宮越幸代／3回）（共同） 学生のプレゼンテーション演習への助言・指導を担当する。	オムニバス方式・一部共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護・リハビリテーション分野	健康コミュニティ演習Ⅰ	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、フィールドワーク、研究枠組みの明確化、概念定義および仮説の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習では、公衆衛生学の視点からの研究および社会調査や評価指標の開発などの手法を用いた研究を対象とするため、開講前に学生の研究課題もしくは関心のある課題についてヒアリングし、該当課題を研究する教員が中心に進める。 （オムニバス方式全30回） （8　熊本圭吾／8回） 人々の健康を支援するための社会調査に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （10　川崎千恵／15回） 公衆衛生の視点から人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （10　川崎千恵、8　熊本圭吾／7回）（共同） 演習導入のオリエンテーション及び研究デザイン・研究プロトコルの最終報告を行う。	オムニバス方式 一部共同
		健康コミュニティ演習Ⅱ	本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題の中から、学生が選択した自己の研究課題について、公衆衛生学の視点や社会調査や評価指標の開発などの手法を用い、演習Ⅰで研究プロトコルを検討した研究の研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を学修する。 本演習は、人々の健康への支援に関連する研究課題について、学生自身の研究・実務経験を活かして演習を行う。 （オムニバス方式全30回） （8　熊本圭吾／13回） 人々の健康を支援するための社会調査に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （10　川崎千恵／15回） 公衆衛生の視点から人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、研究・実務経験を活かして演習を行う。 （10　川崎千恵、8　熊本圭吾／2回）（共同） 演習導入のオリエンテーション及び研究計画の発表を行う。	オムニバス方式 一部共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	保健学特別研究	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （1　井部俊子） 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （2　金物壽久） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。 （3　中島八十一） 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （4　外里冨佐江） 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （5　坂口けさみ） リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。 （6　高嶋孝倫） 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （7　宮脇利幸） 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学に関連する研究課題ついて、論文作成するための研究指導を行う。 （8　熊本圭吾） 人々の健康への支援のための社会調査に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （9　樋貝繁香） 乳幼児期・小児期に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。 （10　川崎千恵） 公衆衛生の視点から人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、論文作成のための研究指導を行う。 （11　福谷保） 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （12　大町かおり） 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （13　林かおり） リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題の研究過程において、文献調査、先行研究の整理、収集したデータの分析についての研究を補助する。 （14　水嵜知子） 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題の研究過程において、文献調査、先行研究の整理、収集したデータの分析についての研究を補助する。	

大学院1年目：2021(令和3年)年度　大学院　時間割表(前期)

区分		1時限 9:00～10:30		2時限 10:40～12:10		3時限 13:00～14:30		4時限 14:40～16:10		5時限 16:20～17:50		6時限 18:00～19:30		7時限 19:40～21:10	
		科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室
1年	月														
	火											【選択必修】 人間発達ケア特論	S303	【選択】 健医療マネジメント論	S304
	水											【必修】 保健学総論	S304	【選択必修】 健康コミュニティ特論	S303
	木											【選択必修】 ケア提供システム特論	S304	【選択】 医療コミュニケーション論	S303
	金											【必修】 保健医療教育論	S304	【選択】 保健医療教育実践論	S304
	土	【必修】 保健医療研究法	S304	【選択】 応用統計学	S303	【必修】 医療倫理	S304	【必修】 多職種連携論	S303	【必修】 医療英語研究	S302				

別紙10 資料17 新

大学院1年目：2021（令和3年）年度　大学院　時間割表（後期）

区分		1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限	
		9:00～10:30		10:40～12:10		13:00～14:30		14:40～16:10		16:20～17:50		18:00～19:30		19:40～21:10	
		科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室
1年	月	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）	S302	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）	S302	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	S302	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	S302						
	火							人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	S303	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	S303	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	S303	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	S303
	水											人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	S304	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	S304
												健康コミュニティ演習Ⅰ	S301	健康コミュニティ演習Ⅰ	S301
	木							ケア提供システム演習Ⅰ	S302	ケア提供システム演習Ⅰ	S302	ケア提供システム演習Ⅱ	S302	ケア提供システム演習Ⅱ	S302
												人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	S304	人間達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	S304
												健康コミュニティ演習Ⅱ	S301	健康コミュニティ演習Ⅱ	S301
	金														
	土	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304										
		保健学特別研究（人間発達ケア分野理学療法学）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア分野理学療法学）	S303										
		保健学特別研究（人間発達ケア分野作業療法学）	S302	保健学特別研究（人間発達ケア分野作業療法学）	S302										
		保健学特別研究（人間発達ケア分野母子看護学）	第2看護実習室	保健学特別研究（人間発達ケア分野母子看護学）	第2看護実習室										
		保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301										

大学院2年目：2022(令和4年)年度　大学院　時間割表(前期)

区分		1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限	
		9:00～10:30		10:40～12:10		13:00～14:30		14:40～16:10		16:20～17:50		18:00～19:30		19:40～21:10	
		科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室
2年	月	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303				
	火					保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303
	水					保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301
	木					保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303
						保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304
	金														
	土														

大学院2年目：2022(令和4年)年度　大学院　時間割表(後期)

区分		1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限	
		9:00～10:30		10:40～12:10		13:00～14:30		14:40～16:10		16:20～17:50		18:00～19:30		19:40～21:10	
		科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室
2年	月	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303				
	火					保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303
	水					保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301
	木					保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303
						保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304
	金														
	土														

科目別授業時間等　新

科目区分		授業科目名		配当	曜日	時限	教室	担当教員
共通科目		医療倫理学		1前	土	3	S304	茂木
		多職種連携論		1前	土	4	S303	宮脇／樋貝／大町／宮越／星
		医療コミュニケーション論		1前	木	7	S303	井部／中島／外里／川崎／奥村
		保健医療マネジメント論		1前	火	7	S304	井部／中島／水嵜
		応用統計学		1前	土	2	S303	熊本／林く／井手野／長井
		医療英語研究		1前	土	5	S302	伊原／奥村／外里／坂口／福谷
		保健医療教育論		1前	金	6	S304	外里／樋貝／福谷／林か／土井
		保健医療教育実践論		1前	金	7	S304	外里／樋貝／福谷／林か／土井
		保健医療研究法		1前	土	1	S304	熊本／川崎／水嵜／林か／林く／麻原
専門科目	看護・リハビリテーション領域	保健学総論		1前	水	6	S304	井部／金物／中島／外里／坂口／高嶋／熊本／樋貝／川崎／福谷／宮越／星／中村／野見山
		ケア提供システム特論		1前	木	6	S304	井部・水嵜／中島
		ケア提供システム演習Ⅰ		1後	木	4・5	S302	井部・水嵜／中島
		ケア提供システム演習Ⅱ		1後	木	6・7	S302	井部／中島／水嵜
		人間発達ケア特論		1前	火	6	S303	外里／坂口／高嶋／宮脇／樋貝／福谷／林か／飛松／福田
		理学療法学	人間発達ケア演習Ⅰ	1後	水	6・7	S304	高嶋／福谷／飛松
			人間発達ケア演習Ⅱ	1後	木	6・7	S304	高嶋／福谷／飛松
		作業療法学	人間発達ケア演習Ⅰ	1後	火	4・5	S303	外里／宮脇
			人間発達ケア演習Ⅱ	1後	火	6・7	S303	外里／宮脇
		母子看護学	人間発達ケア演習Ⅰ	1後	月	1・2	S302	坂口・林か／樋貝
			人間発達ケア演習Ⅱ	1後	月	3・4	S302	坂口・林か／樋貝
		健康コミュニティ特論		1前	水	7	S303	熊本／川崎／春原／宮越
		健康コミュニティ演習Ⅰ		1後	水	6・7	S301	熊本／川崎
		健康コミュニティ演習Ⅱ		1後	木	6・7	S301	熊本／川崎
	特別研究	保健学特別研究	ケア提供システム分野	1後	土	1～2	S304	井部／水嵜／中島
				2通	木	3～7	S304	
			人間発達ケア（理学療法学）分野	1後	土	1～2	S303	金物／福谷／大町／飛松
				2通	木	3～7	S303	
			人間発達ケア（作業療法学）分野	1後	土	1～2	S302	外里
				2通	火	3～7	S303	
			人間発達ケア（母子看護学）分野	1後	土	1～2	2看護	坂口・林か／樋貝
				2通	月	1～5	S303	
			健康コミュニティ分野	1後	土	1～2	S301	川崎
				2通	水	3～7	S301	

大学院1年目：2021(令和3年)年度　大学院　時間割表(前期)

区分		1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限	
		9:00～10:30		10:40～12:10		13:00～14:30		14:40～16:10		16:20～17:50		18:00～19:30		19:40～21:10	
		科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室
1年	月														
	火											【選択必修】 人間発達ケア特論	S303	保健医療マネジメント論	S304
	水											【必修】 保健学総論	S304	【選択必修】 健康コミュニティ特論	S303
	木											【選択必修】 ケア提供システム特論	S304	【必修】 医療コミュニケーション論	S303
	金											保健医療教育論	S304	保健医療教育実践論	S304
	土	【必修】 保健医療研究法	S304	応用統計学	S303	【必修】 医療倫理	S304	【必修】 多職種連携論	S303	英語文献購読	S302				

別紙10 資料17 旧

大学院1年目：2021（令和3年）年度　大学院　時間割表（後期）

区分		1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限	
		9:00～10:30		10:40～12:10		13:00～14:30		14:40～16:10		16:20～17:50		18:00～19:30		19:40～21:10	
		科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室
1年	月	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）	S302	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）	S302	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	S302	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	S302						
	火							人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	S303	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	S303	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	S303	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	S303
	水											人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	S304	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	S304
												健康コミュニティ演習Ⅰ	S301	健康コミュニティ演習Ⅰ	S301
	木							ケア提供システム演習Ⅰ	S302	ケア提供システム演習Ⅰ	S302	ケア提供システム演習Ⅱ	S302	ケア提供システム演習Ⅱ	S302
												人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	S304	人間達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	S304
												健康コミュニティ演習Ⅱ	S301	健康コミュニティ演習Ⅱ	S301
	金														
	土														

大学院2年目：2022（令和4年）年度　大学院　時間割表（前期）

区分		1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限	
		9:00～10:30		10:40～12:10		13:00～14:30		14:40～16:10		16:20～17:50		18:00～19:30		19:40～21:10	
		科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室
2年	月	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303				
	火					保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303
	水					保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301
	木					保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303
						保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304
	金														
	土														

大学院2年目：2022(令和4年)年度　大学院　時間割表(後期)

区分		1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限		7時限	
		9:00～10:30		10:40～12:10		13:00～14:30		14:40～16:10		16:20～17:50		18:00～19:30		19:40～21:10	
		科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室	科　目	教室
2年	月	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（母子看護学）分野）	S303				
	火					保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（作業療法学）分野）	S303
	水					保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301	保健学特別研究（健康コミュニティ分野）	S301
	木					保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303	保健学特別研究（人間発達ケア（理学療法学）分野）	S303
						保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304	保健学特別研究（ケア提供システム分野）	S304
	金														
	土														

科目別授業時間等　旧

科目区分		授業科目名		配当	曜日	時限	教室	担当教員
共通科目		医療倫理学		１前	土	3	S304	茂木
		多職種連携論		１前	土	4	S303	宮脇／樋貝／大町／宮越／星
		医療コミュニケーション論		１前	木	7	S303	井部／中島／外里／川崎／大町／奥村
		保健医療マネジメント論		１前	火	7	S304	井部／中島／水嵜
		応用統計学		１前	土	2	S303	熊本／林く／井手野／長井
		英語文献講読		１前	土	5	S302	伊原／奥村
		保健医療教育論		１前	金	6	S304	外里／樋貝／福谷／林か／土井
		保健医療教育実践論		１前	金	7	S304	外里／樋貝／福谷／林か／土井
		保健医療研究法		１前	土	1	S304	高嶋／熊本／川崎／水嵜／林く／麻原
専門科目	看護・リハビリテーション分野	保健学総論		１前	水	6	S304	井部／金物／中島／外里／坂口／高嶋／熊本／樋貝／川崎／福谷／宮越／星／中村／野見山
		ケア提供システム特論		１前	木	6	S304	井部・水嵜／中島
		ケア提供システム演習Ⅰ		１後	木	4・5	S302	井部・水嵜／中島
		ケア提供システム演習Ⅱ		１後	木	6・7	S302	井部／中島／水嵜
		人間発達ケア特論		１前	火	6	S303	金物／外里／坂口／高嶋／宮脇／樋貝／福谷／大町／林か／福田
		理学療法学	人間発達ケア演習Ⅰ	１後	水	6・7	S304	金物／高嶋／福谷／大町
			人間発達ケア演習Ⅱ	１後	木	6・7	S304	金物／高嶋／福谷／大町
		作業療法学	人間発達ケア演習Ⅰ	１後	火	4・5	S303	外里／宮脇
			人間発達ケア演習Ⅱ	１後	火	6・7	S303	外里／宮脇
		母子看護学	人間発達ケア演習Ⅰ	１後	月	1・2	S302	坂口・林か／樋貝
			人間発達ケア演習Ⅱ	１後	月	3・4	S302	坂口・林か／樋貝
		健康コミュニティ特論		１前	水	7	S303	熊本／川崎／春原／宮越
		健康コミュニティ演習Ⅰ		１後	水	6・7	S301	熊本／川崎
		健康コミュニティ演習Ⅱ		１後	木	6・7	S301	熊本／川崎
	特別研究	保健学特別研究	ケア提供システム領域	2通	木	3～7	S304	井部・水嵜／中島
			人間発達ケア（理学療法学領域）	2通	木	3～7	S303	金物／高嶋／福谷／大町
			人間発達ケア（作業療法学領域）	2通	火	3～7	S303	外里／宮脇
			人間発達ケア（母子看護学領域）	2通	月	1～5	S303	坂口・林か／樋貝
			健康コミュニティ領域	2通	水	3～7	S301	熊本／川崎

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	医療倫理学			共通・専門科目の別	共通
担当教員	茂木秀淳				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義

授業の到達目標	1. 保健・医療・福祉の実践活動に必要となる倫理原則、行動規範を理解し、説明できる。 2. 保健学の研究に必要となる倫理原則、行動規範を理解し、説明できる。 3. 保健学研究、保健・医療・福祉の実践活動において生じた倫理問題について整理し、倫理原則、行動規範をどのように当てはめるかについて論述できる。 4. 倫理問題に関係する他者の立場、価値観を共感的に理解し、関係者と話し合い合意に達することができる。
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力
授業科目の概要	我々日本人の考え方を作っている思想を歴史的に捉えるため、（1）日本固有の思想として神話に基づく神道、（2）外来思想として日本に影響を与えた仏教と儒教、（3）日本の近代化を促した西洋近代思想を概説し、その理解に基づいて、医療における現代的な諸問題、すなわち、インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、出生前診断と遺伝病、遺伝子技術と認知症治療、伝染病・感染症の歴史的経過と現代の問題について、講義及び小グループによるディスカッションにより考察し理解を深める。

授業計画	回	内容	担当
	1	日本固有の思想(1)　日本神話概観、神話的思惟の特質、 世界解釈の方法	茂木
	2	日本固有の思想(2)　グループディスカッション及び小テスト	茂木
	3	仏教思想(1)　釈迦の説いたこと、日本における仏教受容の諸相、仏教的思惟の特質	茂木
	4	仏教思想(2)　他の東洋思想(儒教・道教)、グループディスカッション及び小テスト	茂木
	5	近世・近代の思想(1)　朱子学と国学、 町人思想の諸相と職業観、西洋思想の受け入れ	茂木
	6	近世・近代の思想(2)　グループディスカッション及び小テスト	茂木
	7	現代医学の諸問題(1)　インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死	茂木
	8	現代医学の諸問題(1)　グループディスカッション及び小テスト	茂木
	9	現代医学の諸問題(2)　脳死と臓器移植	茂木
	10	現代医学の諸問題(2)　グループディスカッション及び小テスト	茂木
	11	現代医学の諸問題(3)　出生前診断と遺伝病	茂木
	12	現代医学の諸問題(3)　グループディスカッション及び小テスト	茂木
	13	現代医学の諸問題(4)　遺伝子技術と認知症治療、伝染病・感染症の歴史的経過と現代の問題	茂木
	14	現代医学の諸問題(4)　グループディスカッション及び小テスト	茂木
	15	まとめと討論	茂木

テキスト・参考図書	『古事記』、　『論語』、　大林太良『神話学入門』、　中村元訳『ブッダのことば』、　湯浅泰雄『日本人の宗教意識』、　福沢諭吉『学問のすすめ』、　新渡戸稲造『武士道』、　宮川俊行『安楽死の論理と倫理』、　今井通夫『生命倫理学入門』、　その他随時紹介する。	
成績評価基準	試験（50%）、レポート（20%）、小テスト（30%）により総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	配布資料に目を通しておく
	事後学習	新たに得た知識を整理しておく
その他(履修上の留意点)	特記事項なし。	
キーワード	倫理学、保健学、科学技術倫理、生命倫理、東洋思想	

新

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	多職種連携論			共通・専門科目の別	共通
担当教員	星文彦　宮脇利幸　樋貝繁香　大町かおり　宮越幸代				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	1. Interprofessional Work;IPW(専門職連携実践)について、概念と理論を説明できる。 2. IPWの発展過程の概要を説明できる。 3. グループワークにおいて、チーム形成や議論に主体的に参加し、役割を果たすことができる。 4. 自らの業務や社会的課題をIPWの視点から分析考察し、問題点を説明できる。 5. 地域包括ケアにおける多職種連携の意義を説明できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力				
授業科目の概要	Interprofessional Work;IPW(専門職連携実践)について、概念と理論、発展の歴史を学び、現在の地域包括ケアにおける多職種連携の役割について議論する。さらにグループワークを通して、実践に必要なチーム形成スキルやコミュニケーションスキルを習得し、自らの業務上の課題や社会的課題についてIPWの視点から分析考察し、その課題解決のために他職種と協働し検討する力を養う。さらに、事例検討を通して多職種連携における実践力を養う。				

授業計画	回	内容	担当
	1	オリエンテーション、科目ついて担当教員と受講生との相互理解を図る	星
	2	ＩＰＷの概要と歴史について	星
	3	ＩＰＷの基盤となるヒューマンケアについて；専門分野や支援者・被支援者の関係性を越えて基盤となるヒューマンケア及び利用者中心主義について考える。	星
	4	保健医療におけるＩＰＷの必要性について；保健医療においてIPWが求められる背景や多職種連携の持つコンピテンシーについて考える。	星
	5	ＩＰＷの仕組みについて；IPWの持つ二重構造や協働、チーム形成について考える。	星
	6	ＩＰＷにおけるファシリテーションスキル；チーム形成や問題解決に求められるファシリテーターの役割とスキルについて考える。	大町
	7	ＩＰＷにおける葛藤とリフレクションの意義；チーム形成及び問題解決に向けた過程での葛藤とリフレクションの重要性について考える。	宮越
	8	多職種連携について；地域包括ケアに求められるIPWについて考える。	宮脇、樋貝
	9	グループワーク1：相互理解～他者紹介などを通して他者理解と説明スキルを学ぶ。KJ法を用いた問題解決法について学ぶ。	星
	10	グループワーク2：事例検討～院生の業務事例を通して多職種連携を検討する	星、大町、宮越
	11	グループワーク3：事例検討～院生の業務事例を通して多職種連携を検討する	星、大町、宮越
	12	グループワーク4：ＩＰＷ研究論文考察	星、宮脇、樋貝
	13	グループワーク5：ＩＰＷ研究論文考察	星、宮脇、樋貝
	14	グループワーク6：リフレクション～本科目修了にあたって自己の受講活動と自己の業務活動や社会活動を振り返る。	星
	15	まとめ	星

テキスト・参考図書	テキスト：指定しない 参考図書：ＩＰＷを学ぶ；利用者中心の保健医療福祉連携（中央法規出版社） Patient-Centered Medicine Transforming the Clinical Method(CRC Press)	
成績評価基準	グループワークでのプレゼンテーション・討議の内容（40%）及びレポート内容（60%）を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	ＩＰＷに関する事項を、職場や生活環境の中で検索情報収集すること。
	事後学習	新たに得た知識を整理しておくこと。
その他(履修上の留意点)	俯瞰的視点から自分自身の生活行動や社会情報を考察し、積極的な議論ができるように準備し授業に臨むこと。	
キーワード	ＩＰＷ、保健医療福祉、地域連携、多職種協働、地域包括ケア、リハビリテーション、利用者中心主義	

新

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	医療コミュニケーション論			共通・専門科目の別	共通
担当教員	中島　八十一、井部　俊子、外里冨佐江、川崎千恵、奥村信彦				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択	１年次	前期	１５回	２単位	講義

授業の到達目標	１．出来事を他人が理解できる日本文として記述できる。 ２．多くの人に分かりやすく日本語で話すことができる。 ３．他人の考えていることを正確に文書として記録できる。
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力
授業科目の概要	本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにより、医療・保健領域において患者、市民といったさまざまな個人・集団に向けて適切なコミュニケーションを可能にすることにある。その結果として医療・保健情報を正しく伝えるだけでなく、正しく情報収集することに役立てることにある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的なコミュニケーションのために（1）コミュニケーションの基本理論（2）コミュニケーションの具体的方法とスキル（3）コミュニケーションの評価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコミュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。

授業計画	回	内容	担当
	1	医療コミュニケーション概論	中島
	2	科学技術コミュニケーション-最新科学を一般の人に伝える。	中島
	3	臨床コミュニケーション ①-疾病を患者・家族に理解させる。	中島
	4	臨床コミュニケーション②-個人の病態を本人・家族に伝える。	井部
	5	ヘルスライティング①-患者・家族に向けた支援文書作成	井部
	6	ヘルスライティング②-保健医療文書の作成	中島
	7	ヘルスライティング③-発表会・総合討論	中島
	8	ヘルスコミュニケーション①-個人の行動変容を促すコミュニケーション	外里
	9	ヘルスコミュニケーション②-集団の行動変容を促すコミュニケーション	川崎
	10	ヘルスコミュニケーション③-他職種連携コミュニケーション	井部
	11	ヘルスコミュニケーション④-外国人患者とのコミュニケーション	奥村
	12	論文発表のための英語によるプレゼンテーションの基礎	中島
	13	グループ組織のコミュニケーション	井部
	14	患者・市民の啓発	外里
	15	まとめとグループ討論	中島

テキスト・参考図書	Athena du Pre. Communicating about health - Current Issues and Perspectives, 5th ed. 2016	
成績評価基準	討議状況、プレゼンテーションの内容等の総合評価 評価配分：レポート80%、プレゼンテーションの内容等 20%	
授業時間外の学習情報	事前学習	医療コミュニケーションについて情報を検索し、基本的な用語の意味を知っておくこと。
	事後学習	専門職としての自らの職分にあって得た知識をどのように活用するか考えること。
その他（履修上の留意点）	適切なコミュニケーションのために自らが日本語で話すこと、書くことに細心の注意を払うこと。	
キーワード	コミュニケーション、会話、文書作成、会議、日本語	

新

保健学研究科保健学専攻　シラバス案

授業科目	保健医療マネジメント論			共通・専門科目の別	共通
担当教員	井部　俊子　　中島　八十一　　水嵜　知子				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	1. わが国における社会保障制度の特性を理解し、説明できる。 2. 人口減少時代における保健医療福祉制度・政策を説明できる。 3. 高度実践家にもとめられるマネジメント論について論述できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力				
授業科目の概要	本講義の目的は、人口減少の現代、保健医療領域で高度専門実践者として必要なマネジメントの知識を体系的に学ぶ。まず、わが国における保健医療制度・政策を理解し、保健医療に関連した法規と倫理を学ぶ。さらに、財務会計・管理会計と診療報酬制度・介護報酬制度を概観する。そして、保健医療福祉サービスを提供する人材開発・人材育成を学び、保健医療福祉における質を考察する。				

授業計画

回	内容	担当
1	人口減少時代における社会保障	中島
2	医療制度・政策の基礎となる法令	中島
3	福祉制度・政策の基礎となる法令	中島
4	保健医療における看護師の役割と機能	中島
5	保健医療における理学療法士・作業療法士の役割と機能	中島
6	保健医療福祉における倫理 Ⅰ：実践における倫理的課題と高度専門実践者の	水嵜
7	保健医療福祉における倫理 Ⅱ：事例に基づいた討議	水嵜
8	医療機関の収入の仕組みと経営管理 Ⅰ（診療報酬）	中島
9	医療機関の収入の仕組みと経営管理 Ⅱ（財務分析、経営管理）	中島
10	福祉施設の収入の仕組みと経営管理 Ⅰ（介護報酬）	中島
11	福祉施設の収入の仕組みと経営管理 Ⅱ（財務分析、経営管理）	中島
12	医療の質保証と医療安全	井部
13	人材開発と経験学習	井部
14	リーダーシップとマネジメント	井部
15	組織開発の手法	井部

テキスト・参考図書	テキスト：入山章栄, 世界標準の経営理論, ダイヤモンド社, 2019年 参考図書：リハビリテーション看護(改訂第2版)： 障害をもつ人の可能性とともに歩む, 南江堂, 2015年, 酒井 郁子（編集）, 金城 利雄（編集）, 1章：中島八十一：リハビリテーション看護と法律	
成績評価基準	評価配分：レポート100％	
授業時間外の学習情報	事前学習	授業内容に関する文献を検索し、読んでおくこと。
	事後学習	新たに得た知識を整理しておくこと。
その他(履修上の留意点)	時事問題に関心を持ち、授業で発言すること。	
キーワード	保健医療制度、保健医療政策、マネジメント	

新

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	応用統計学			共通・専門科目の別	共通
担当教員	熊本　圭吾　　林　邦彦　　井手野　由季　　長井　万恵				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	1. 統計学の基礎的な事項を理解し、説明できる。 2. 医学統計（疫学統計、生物統計）の概念と解析結果を理解し、説明できる。 3. 心理統計（多変量解析、尺度構成）の概念と解析結果を理解し、説明できる。 4. 表計算ソフト、統計解析ソフトを用いて、基本的な統計解析が行える。				
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力				
授業科目の概要	本講義は、保健・医療の分野において科学的根拠に基づいた実践を行うために、科学的情報の理解に必要となる統計知識を習得すること、および保健医療分野の研究を進める上で有用となる統計処理が行えるようになることを目的とする。そのため、統計学の基礎を理解し、医学統計および心理統計の手法について学ぶとともに、表計算ソフトおよび統計解析ソフトによる統計解析の手順や出力結果の読み方についても学ぶ。				

授業計画	回	内容	担当
	1	オリエンテーション　データ処理と機器類の準備	熊本
	2	記述統計、尺度水準	熊本
	3	推測統計、検定の基礎	熊本
	4	医学統計・医学研究における統計学概説	林
	5	医学統計・観察研究の研究計画における統計学	林
	6	医学統計・観察研究のデータ解析における統計学	井手野
	7	医学統計・介入研究の研究計画における統計学	長井
	8	医学統計・介入研究のデータ解析における統計学	長井
	9	医学統計・メタアナリシス	井手野
	10	心理統計・テスト理論　信頼性	熊本
	11	心理統計・テスト理論　妥当性　項目の分析	熊本
	12	心理統計・尺度構成	熊本
	13	心理統計・質問紙調査　テキストマイニング	熊本
	14	心理統計・構造方程式モデリング	熊本
	15	まとめ　統計手法の適用	熊本

テキスト・参考図書	参考図書：「メタアナリシス入門　エビデンスの統合を目指す統計手法」丹後俊郎（朝倉書店）	
成績評価基準	授業において提示する課題の理解度と達成度を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	授業で指定するテキスト類を読了する。自身で使用可能なデータを授業用に準備する。
	事後学習	授業で課された課題を行う。
その他(履修上の留意点)	PCの基本的な操作はできること。	
キーワード	介入研究、観察研究、メタアナリシス、尺度、信頼性、妥当性	

新

保健学研究科保健学専攻　シラバス案

授業科目	医療英語研究			共通・専門科目の別	共通
担当教員	伊原　巧　奥村信彦　福谷保　外里冨佐江　坂口けさみ				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	1.大部分がギリシャ語またはラテン語に由来する英語の医学用語の構造的特徴を、音韻、形態素、語彙に関して理解し、説明できる。 2.簡潔な英語で書かれた人体の構造、機能、疾病について読むことができる。 3.英語で書かれた医療分野の文献をESP（English for Specific Purposes：特定の目的のための英語）の観点も踏まえ、構成と論理に注目しながら的確に理解し表現できる。				
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力				
授業科目の概要	医療・医学に関する英語文献を講読し、その読解力を養うとともに、医療・医学に関わる基礎的・専門的知識およびその英語特有の規則等も学ぶ。特に前半は基礎的な内容の英語を規則等にも注目して読み、後半は英語の文献検討力を養うため、リハビリテーション学と看護学に関する英語論文をクリティカルに読み、その内容を論理的かつ的確に発表できる力を養う。				

授業計画

回	内容	担当
1	医学用語の構成要素をつなぐ規則を理解し、Cell, Organ, and Systemを読む。	伊原
2	ラテン語またはギリシャ語に由来する複数形の作り方を理解し、Circulatory Systemを読む。	伊原
3	Respiratory Systemを読み、呼吸器系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。	伊原
4	Digestive Systemを読み、消化器系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。	伊原
5	Urinary Systemを読み、泌尿器系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。	伊原
6	Nervous SystemとMusculoskeletal Systemを読み、神経系と筋骨格系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。	伊原
7	英語文献について、アブストラクト、本文、文献リストの構成および結論が導かれるプロセスを理解するとともに、ESPの観点から医療分野に特有の語彙、表現についても学ぶ。また、文献検索の方法も学ぶ。	奥村
8	保健学分野の基本的な英語文献1編を読み、前回の内容を具体的に確認、理解する。	奥村
9	前回扱った論文について授業担当者のプレゼンテーションを聴き、理解を深めるとともに、内容についてディスカッションする。	奥村
10	理学療法学に関する英語文献を選択し、その研究論文の目的、研究計画、結果、考察のまとめ方を、語彙．表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。	奥村・福谷
11	前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。	奥村・福谷
12	作業療法学に関する英語文献を選択し、その研究論文の目的、研究計画、結果、考察のまとめ方を、語彙．表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。	奥村・外里
13	前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。	奥村・外里
14	看護学に関する英語文献を選択し、その研究論文の目的、研究計画、結果、考察のまとめ方を、語彙．表現をふくめてクリティカルに読み、内容を理解する。	奥村・坂口
15	前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。	奥村・坂口

テキスト・参考図書	テキスト：Introduction to Medical English、 英語文献については適切かつ可能な限り新しいものを選択し、初回に配布する。 参考図書：「APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール」前田樹海・江藤裕之著：医学書院	
成績評価基準	評価配分：テキストの練習問題の解答提出40%（伊原）、 プレゼンテーションの内容を学生が相互に、また授業担当者が観点別に評価し、総合点を60%とする。（奥村）	
授業時間外の学習情報	事前学習	初回に配布される論文を事前に読んでおくこと。（奥村）
	事後学習	毎週の復習として練習問題の解答を提出すること。（伊原）
その他（履修上の留意点）	人体の構造と機能・疾病に関する医学英語の用語を覚えること。 初回に配布される論文を事前に読んでおくこと。	
キーワード	Medical English	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健医療教育論			共通・専門科目の別	共通
担当教員	土井　進、外里　冨佐江、福谷　保、樋貝　繁香、林　かおり				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	1. 学部での基礎教育、卒後教育、現任教育における保健医療教育の歴史的変遷、並びに保健医療教育の理論と実践についての知識を体系的・系統的に理解し、説明できる。 2. この理論と実践の往還作業を通して、保健医療教育論の系譜と今日的課題について説明できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力				
授業科目の概要	教育学の視点から保健医療専門教育の理論と実践の検証、古典にみる養生思想の現代的意義の考察に立って、今日の保健医療専門職教育の原理を探究し、教育技法、教材などについて理解を深める。				

授業計画	回	内容	担当
	1	保健医療教育における「目的・目標論」と「内容・方法論」	土井
	2	保健医療教育における「教授の三角形」、教育者・学習者・保健医療の基礎的知識	土井
	3	保健医療教育における看護の実践と理論	土井、樋貝、林
	4	保健医療教育における理学療法の実践と理論	土井、福谷
	5	保健医療教育における作業療法の実践と理論	土井、外里
	6	生涯学習社会における保健医療教育の役割	土井
	7	貝原益軒の道徳教育論と養生思想の現代的意義	土井
	8	西洋における養生思想『サレルノ養生訓』の現代的意義	土井
	9	仏教的人間像に見る「知の教師」・「情の教師」・「意の教師」	土井
	10	いじめ問題への指導力を高める『塵劫記』の「三容器の協力関係」の問題	土井
	11	内村鑑三が代表的日本人として評価した二宮尊徳の保健医療の実学思想	土井
	12	「田定規」の問題を通して課題の把握、解法の発見、応用の問題解決の流れを掴む	土井
	13	物心一如”もの”と”こころ”の相即の妙を”もの”を通して洞察する実物教育	土井
	14	学生が主体的・対話的で深い学びを実現するアクティブ・ラーニングの開発	土井
	15	大学と地域社会が連携した保健医療教育の実践による大学院生の力量形成	土井

テキスト・参考図書	テキスト：土井進『唐澤富太郎と教育博物館の研究』（2020）ジダイ社、土井進・塩原孝茂編著『実践から学ぶ総合的な学習の時間の指導と授業づくり』（2019）ジダイ社 参考図書：貝原益軒『養生訓・和俗童子訓』2001、岩波書店、 大槻真一郎『サレルノ養生訓』とヒポクラテス―医療の原点』2017、星雲社	
成績評価基準	毎授業時の事前事後学習200字原稿30枚の考察（50%）、800字小論文（50%）で総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	毎回、テキストの1章づつを読み、心に残った箇所を引用し、200字原稿に考察を書く。
	事後学習	本日の授業による「まなび」を200字原稿に記述する。
その他(履修上の留意点)	毎回、事前学習と事後学習の200字原稿をグループで読み合わせ、小コメントを相互に欄外に書き署名する。	
キーワード	保健医療教育論、教職倫理観、実践と理論	

保健学研究科保健学専攻　シラバス案 3次案

授業科目	保健医療教育実践論	共通・専門科目の別	共通
担当教員	土井　進、外里　冨佐江、福谷　保、樋貝　繁香、林　かおり		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択	１年次	前期	１５回	２単位	講義

授業の到達目標	1.保健医療専門職を目指す人々を指導できる教育力を身に付けるために、保健医療教育の様々な実践事例における教育方法の特色を理解し、活用できる。 2.実践事例における保健医療の専門知識と科学的な根拠を、保健医療教育実践の教材として再構成できる。
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力
授業科目の概要	学部での基礎教育、卒業後の教育、保健医療教育の歴史的変遷、ならびに保健医療教育の理論と実践について、実践例を通して学ぶ。 本講義では、保健医療の専門職養成機関において高度専門職の養成に当たる教育者に求められる、保健医療の専門的知識を教授できる指導力を身に付ける。

授業計画

回	内容	担当
1	シラバス(授業計画)作成の意義、授業の到達目標、ディプロマポリシーとの関連等	土井
2	総合的な学習の手法、大学院教育の目標を踏まえた保健医療教育の指導計画の作成	土井
3	保健医療専門科目における単元の指導計画、本時の指導過程	土井、外里、福谷、樋貝、林
4	〃	土井、外里、福谷、樋貝、林
5	保健医療専門科目における本時の指導案の作成、教材構成、板書計画、評価方法	土井、外里、福谷、樋貝、林
6	〃	土井、外里、福谷、樋貝、林
7	教育者の要件、温故知新、声・腰・脚、ソクラテスの青年との問答法	土井
8	保健医療教育実践におけるアクティブ・ラーニングの構想をグループで練り上げる。	土井
9	3種類の学習形態、個別学習形態・相互学習形態・一斉学習形態	土井
10	学習評価の三段階、診断的評価・形成的評価・総括的評価、到達度評価	土井
11	ルーブリック評価、パフォーマンス評価、省察による実践と理論の往還作業	土井
12	高度専門職を養成する教育者の力量、教材の本質・学生の内面がみえる慧眼	土井
13	保健医療を担う「高度専門職」を育成する上で欠かせない学生との「事上錬磨」	土井
14	直観の原理、自発性の原理、内発的動機づけの理論、練習(ドリル)の原理	土井
15	自ら開発した各種教材を活用した模擬授業を1人15分実践する。	土井、外里、福谷、樋貝、林

テキスト・参考図書	テキスト：土井進『唐澤富太郎と教育博物館の研究』2020、ジダイ社、土井進・塩原孝茂編著『実践から学ぶ総合的な学習の時間の指導と授業づくり』2019、ジダイ社、 参考図書：貝原益軒『養生訓・和俗童子訓』2001、岩波書店、 大槻真一郎『サレルノ養生訓』とヒポクラテス―医療の原点』2017、星雲社
成績評価基準	毎授業時の事前事後学習200字原稿30枚の考察（50%）、800字小論文（50%）で総合評価する。
授業時間外の学習情報	事前学習　毎回、テキストの1章づつを読み、心に残った箇所を引用し、200字原稿に考察を書く。 事後学習　本日の授業による「まなび」を200字原稿に記述する。
その他(履修上の留意点)	毎回、事前学習と事後学習の200字原稿をグループで読み合わせ、小コメントを相互に欄外に書き署名する。
キーワード	保健医療教育実践論、シラバス（授業計画）、教育者の力量

新

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健医療研究法			共通・専門科目の別	共通
担当教員	熊本　圭吾　川崎　千恵　林　かおり　水嵜　知子　林　邦彦　麻原　きよみ				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	1. 保健医療分野における実践と研究との関連性を理解し研究の意義を述べることができる。 2. 研究に必要となる過程を理解し述べることができる。 3. 研究における文献の意義を理解し、検索、入手し批判的に吟味することができる。 4. 研究方法の相違点を理解し、研究目的に合わせた適用について述べることができる。 5. 研究倫理について理解し、研究計画書作成における留意点を述べることができる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力				
授業科目の概要	本講義は、保健医療分野の実践の場において研究活動を行うために必要となる基礎的な知識、態度、手順を修得することを目的とする。そのために、保健医療分野における研究を実践する上で活用される多様な研究法について紹介し、その基礎と特徴を学ぶ。また、保健医療分野における研究の過程について、研究テーマと研究デザインの検討、研究における倫理的配慮、研究の実施と報告までの一連の流れを学ぶ。				

授業計画	回	内容	担当
	1	授業の概要：研究の目的、実践との関連	熊本
	2	エビデンスベースドメディスン（Evidence Based Nedicine: EBM）	林　邦彦
	3	責任ある研究活動：研究倫理と行動規範	熊本
	4	文献検討の方法：文献の位置づけ、文献検索、論文の種類と構成	水嵜
	5	研究のプロセス、研究テーマ、研究デザイン	川崎
	6	研究方法論1：実験研究の方法	林　かおり
	7	研究方法論2：調査研究の方法	熊本
	8	研究方法論3：疫学研究の方法	林　邦彦
	9	研究方法論4：質的研究1（定義と種類、プロセス、データ収集方法、評価基準	麻原
	10	研究方法論5：質的研究2（インタビュー法）	麻原
	11	研究方法論6：質的研究3（参加観察法）	麻原
	12	研究方法論7：質的研究4（データの分析と解釈）	麻原
	13	文献クリティークの方法	水嵜
	14	研究計画書：作成上の注意	熊本
	15	まとめ　研究の計画に向けて	熊本

テキスト・参考図書	参考図書：現代の医学的研究方法:質的・量的方法,ミクストメソッド,EBP.メディカルサイエンスインターナショナル.2012、ウヴェフリック. よくわかる質的研究の進め方・まとめ方　第2版、医歯薬出版株式会社	
成績評価基準	プレゼンテーション（40%）及びレポート（60%）により総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	参考図書の関連箇所を読んでくる。
	事後学習	新たな知識を整理する。
その他(履修上の留意点)	特になし	
キーワード	研究方法、文献検討、研究方法、研究デザイン、研究計画書	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学総論			共通・専門科目の別	専門
担当教員	中島八十一、金物壽久、井部俊子、外里冨佐江、坂口けさみ、高嶋孝倫、福谷保、熊本圭吾、樋貝繁香、川崎千恵、宮越幸代、星文彦、中村秀一、野見山哲生				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	1.　医学、医療の動向を説明できる。 2.　看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解し、説明できる。 3.　各発達段階における健康課題を理解し、説明できる。 4.　障害者の健康について説明できる。 5.　地域社会の健康課題について説明できる。 6.　多職種連携チームの構成、活動、マネジメントについて理解し、説明できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力				
授業科目の概要	「誰一人として取り残さない地域社会」の構築を志向する保健医療福祉関連職に必要となる基礎知識を学ぶ				

授業計画	回	内容	担当
	1	今日の医学：生物医学の進歩とその臨床応用　現状と課題	中島
	2	今日の医療：EBM、生命医療倫理、患者中心医療、医療事故防止（ヒューマンエラー）	金物
	3	保健医療福祉制度と政策：制度の現在と課題ならびに政策の動向	中村
	4	看護学の現在	井部
	5	リハビリテーション科学の現在１；リハビリテーション医学、理学療法学、作業療法学	中島、福谷、外里
	6	リハビリテーション科学の現在２：支援工学、ケースワーク、臨床心理	高嶋、熊本
	7	女性の健康：women’s health、reproductive health	坂口
	8	小児・学童の健康：母子、児童、学校保健の現状と課題	樋貝
	9	働き世代の健康：産業医学・衛生、健診事業、労働安全、働き方改革、両立支援	野見山
	10	高齢者の健康：加齢と高齢者の心身機能特性	川崎
	11	障害者の健康：障害種別と障害特性、医学的、社会的、職業リハビリテーション	中島
	12	地域社会の健康：家族、住まい、住民の健康状態、自治体などによる健康増進活動	川崎
	13	災害と健康	宮越
	14	介護：介護保険制度、各種施設、介護保険外施設、利用者の現状と課題	中島
	15	多職種協働：チームの構成、活動目標設定、プログラム管理、マネジメント	星

テキスト・参考図書	テキスト：「健康科学」本間日臣、古谷博、丸井英二編集（医学書院）	
成績評価基準	レポート80%、グループワークの内容20%により総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	参考図書の関連箇所を読んでくる。
	事後学習	新たな知識を整理する。
その他（履修上の留意点）	特になし	
キーワード	保健学　障害科学　看護学　理学療法学　作業療法学	

新

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	ケア提供システム特論			共通・専門科目の別	専門
担当教員	井部　俊子　　中島　八十一　　水嵜　知子				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	1.わが国における保健医療福祉の制度・政策を説明できる。 2.ケア提供システムを構築し、機能させるためのサービスマネジメントを論述できる。				
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動による後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力				
授業科目の概要	わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学ぶ。さらに、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学ぶ。				

授業計画	回	内容	担当
	1	人口減少時代の社会保障	中島
	2	保健医療福祉制度と政策	中島
	3	保健医療福祉に関連した法規	中島
	4	サービスマネジメント論	井部・水嵜
	5	組織論と組織管理に関する基礎理論	井部・水嵜
	6	組織論と組織管理についての現組織への適用と考察	井部・水嵜
	7	人材育成とマネジメントに関する基礎理論	井部・水嵜
	8	人材育成とマネジメント論の現組織への適用と考察	井部・水嵜
	9	経営資源（人、物、金、情報）の管理と効率化に関する基礎的理論	井部・水嵜
	10	経営資源管理と効率化に関する現組織への適用と考察	井部・水嵜
	11	提供するサービスの質の保証に関する基礎理論	井部・水嵜
	12	提供するサービスの質の改善	井部・水嵜
	13	地域包括ケアシステムの理念	井部・水嵜
	14	多職種協働論	井部・水嵜
	15	まとめ	井部・水嵜

テキスト・参考図書	テキスト：日本の医療　制度と政策〔増補改訂版〕, 島崎謙治, 東京大学出版会, 2020	
成績評価基準	討議状況、プレゼンテーションの内容等の総合評価 評価配分：レポート80%、プレゼンテーションの内容等 20%	
授業時間外の学習情報	事前学習	組織管理について情報を検索し、資料等を読んでおくこと
	事後学習	新たな知識を整理しておくこと
その他(履修上の留意点)	組織管理に関連した記事、ニュースなど最新の社会的知見に触れ、積極的にディスカッションに参加できるよう心掛けること	
キーワード	保健医療制度、保健医療政策、人材育成、組織管理	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	ケア提供システム演習Ⅰ	共通・専門科目の別	専門
担当教員	井部　俊子　　水嵜　知子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．医療サービスマネジメントに関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３．研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４．リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、医療サービスマネジメントに有用なエビデンスを検討できる。
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力
授業科目の概要	医療サービス・マネジメントに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （井部俊子、水嵜知子）（共同） 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～10	医療サービスマネジメントのリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー	井部、水嵜
	11～20	文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む）	井部、水嵜
	21～25	医療サービスマネジメントにおける有用なエビデンスの検討	井部、水嵜
	26～30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	井部、水嵜

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	関連文献を事前に概観したうえで授業に臨む。
	事後学習	授業の中で疑問を感じたり、自身の智識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復讐するよう取り組む。
その他（履修上の留意点）	自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組む。	
キーワード	看護管理学、看護政策・行政、看護倫理学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	ケア提供システム演習Ⅰ	共通・専門科目の別	専門
担当教員	中島　八十一		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．医療サービスマネジメントに関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３．研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４．リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、医療サービスマネジメントに有用なエビデンスを検討できる。
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力
授業科目の概要	医療サービス・マネジメントに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （中島八十一） 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～10	医療サービスマネジメントのリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー	中島
	11～20	文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む）	中島
	21～25	医療サービスマネジメントにおける有用なエビデンスの検討	中島
	26～30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	中島

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	関連文献を事前に概観したうえで授業に臨む。
	事後学習	授業の中で疑問を感じたり、自身の智識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復讐するよう取り組む。
その他（履修上の留意点）	自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組む。	
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、脳計測科学、神経生理学、神経内科学、精神神経科学、	

新

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	ケア提供システム演習Ⅱ	共通・専門科目の別	専門
担当教員	井部　俊子　　水嵜　知子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 医療サービスマネジメントに関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 医療サービスマネジメントに関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 医療サービスマネジメントに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力
授業科目の概要	医療サービス・マネジメントに関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （井部俊子、　水嵜知子）（共同） 医療現場において組織を動かすことに及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	医療サービスマネジメントに関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解	井部、水嵜
	5～8	医療サービスマネジメントに関する学問の動向の理解	井部、水嵜
	9～16	医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求	井部、水嵜
	17～24	医療サービスマネジメントに関わる支援方法と課題の探求	井部、水嵜
	25～30	医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議	井部、水嵜

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	関連文献を事前に概観したうえで授業に臨む。
	事後学習	授業の中で疑問を感じたり、自身の智識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復讐するよう取り組む。
その他（履修上の留意点）	自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組む。	
キーワード	看護管理学、看護政策・行政、看護倫理学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	ケア提供システム演習Ⅱ	共通・専門科目の別	専門
担当教員	中島　八十一		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 医療サービスマネジメントに関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 医療サービスマネジメントに関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 医療サービスマネジメントに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力
授業科目の概要	医療サービス・マネジメントに関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （中島八十一） 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	医療サービスマネジメントに関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解	中島
	5～8	医療サービスマネジメントに関する学問の動向の理解	中島
	9～16	医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求	中島
	17～24	医療サービスマネジメントに関わる支援方法と課題の探求	中島
	25～30	医療サービスマネジメントに関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議	中島

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	関連文献を事前に概観したうえで授業に臨む。
	事後学習	授業の中で疑問を感じたり、自身の智識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復讐するよう取り組む。
その他(履修上の留意点)	自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組む。	
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、脳計測科学、神経生理学、神経内科学、精神神経科学、	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア特論	共通・専門科目の別	専門
担当教員	外里冨佐江、飛松好子、高嶋孝倫、坂口けさみ、樋貝繁香、宮脇利幸、 福谷保、林かおり、福田恵美子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義

授業の到達目標	１．人間の発達過程を述べることができる。 ２．リプロダクティブヘルス・ライツに関する主要概念と臨床的課題について述べることができる。 ３．乳幼児期の発達において重視すべき課題について多様な側面から述べることができる。 ４．生涯発達の視点から青年期、成人期の発達課題について多様な側面から述べることができる。 ５．高齢期における発達課題と社会とのかかわりについて述べることができる。
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達とは、分化（Specialization）と統合（Integration）が繰り返されて進展し、相互作用をもって特定の方向に向かう変化である。人間の発達とは、生物として地球上に存在し、社会の生活者として、心理・社会的任務を遂行しながら、未来に向けて生涯成長していくことである。 本講義は、妊娠・出産期における家族、母性、乳幼児期、青年期、成人期、高齢期それぞれの時期により迎える課題に対して、社会環境を含めて医学、看護、リハビリテーションの側面から講義し、科学的根拠に基づく研究につなげる。（オムニバス方式／全15回）

授業計画

回	内容	担当
1	オリエンテーション　環境と人間発達	外里
2	生涯発達の概要と青年期、成人期及における発達課題	外里
3	肢体不自由を中心とした発達過程における障害の医学的理解	飛松
4	肢体不自由を中心とした発達過程における障害の支援機器論的理解	高嶋
5	リプロダクティブヘルス・ライツにおける臨床的課題	坂口
6	乳幼児期における発達課題①：健全な発達を支えること。	樋貝
7	乳幼児期における発達課題②：障がいをもって生活すること。	樋貝
8	青年期、成人期における発達課題①：青年期における発達課題（学校生活と心身の変化）	外里
9	青年期、成人期における発達課題②：成人期における発達課題（産業保健的視点から）	福谷
10	発達障害児支援の地域の取り組みの紹介①	福田
11	発達障害児支援の地域の取り組みの紹介②	福田
12	高齢期における発達課題①：心理機能、身体機能の低下や障害について	宮脇
13	高齢期における発達課題②：高齢期の社会生活のあり方	宮脇
14	発達過程における特徴的な感染症とその予防	林
15	まとめ	外里

テキスト・参考図書	テキスト：適宜紹介する 参考図書：福田恵美子監修　人間発達学第5版　中外医学社
成績評価基準	討議状況、プレゼンテーションの内容等の総合評価 評価配分：レポート80%、プレゼンテーションの内容等 20%
授業時間外の学習情報	事前学習　生涯人間発達について情報を検索し、資料等に眼を通すこと。 事後学習　新たな知識を整理すること。
その他（履修上の留意点）	新聞記事、ニュースなど最新の社会的な知見に触れ、積極的に議論できるように授業に臨むこと。
キーワード	生涯人間発達　ウィメンズヘルス　障害科学　リハビリテーション　保健活動　環境

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	飛松好子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３．研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４．リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、理学療法に有用なエビデンスを検討できる。
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （飛松好子） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～10	発達過程における理学療法学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー	飛松
	11～20	文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む）	飛松
	21～25	発達過程における理学療法学における有用なエビデンスの検討	飛松
	26～30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	飛松

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	整形外科学、スポーツ科学、医療社会学、肢体不自由	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	福谷保		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３．研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４．リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、理学療法に有用なエビデンスを検討できる。
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （福谷保） 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～10	発達過程における理学療法学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー	福谷
	11～20	文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む）	福谷
	21～25	発達過程における理学療法学における有用なエビデンスの検討	福谷
	26～30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	福谷

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	高嶋孝倫		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解できる。 ３．研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解できる。 ４．リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、理学療法に有用なエビデンスを検討できる。
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （高嶋孝倫） 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～10	発達過程における理学療法学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー	高嶋
	11～20	文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む）	高嶋
	21～25	発達過程における理学療法学における有用なエビデンスの検討	高嶋
	26～30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	高嶋

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	生活支援技術、義肢装具、運動解析、福祉用具・支援機器	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	飛松　好子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 発達過程における理学療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 理学療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 理学療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 理学療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （飛松好子） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	理学療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解	飛松
	5～8	理学療法学の動向の理解	飛松
	9～16	理学療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求	飛松
	17～24	理学療法学に関わる支援方法と課題の探求	飛松
	25～30	理学療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議	飛松

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	整形外科学、スポーツ科学、医療社会学、肢体不自由	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	福谷保		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 発達過程における理学療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 理学療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 理学療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 理学療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （福谷保） 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	理学療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解	福谷
	5～8	理学療法学の動向の理解	福谷
	9～16	理学療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求	福谷
	17～24	理学療法学に関わる支援方法と課題の探求	福谷
	25～30	理学療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議	福谷

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	高嶋孝倫		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 発達過程における理学療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 理学療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 理学療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 理学療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （高嶋孝倫） 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画

回	内容	担当
1～4	理学療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解	高嶋
5～8	理学療法学の動向の理解	高嶋
9～16	理学療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求	高嶋
17～24	理学療法学に関わる支援方法と課題の探求	高嶋
25～30	理学療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議	高嶋

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	生活支援技術、義肢装具、運動解析、福祉用具・支援機器	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	外里冨佐江		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３．研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４．リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、作業療法学に有用なエビデンスを検討できる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （外里冨佐江） 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～10	発達過程における作業療法学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー	外里
	11～20	文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む）	外里
	21～25	発達過程における作業療法学における有用なエビデンスの検討	外里
	26～30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	外里

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	作業療法の介入と効果、脳機能と作業療法、超高齢化社会における社会参加、メディカルスタッフによる多職種連携の効果	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	宮脇利幸		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３．研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４．リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、作業療法学に有用なエビデンスを検討できる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における作業療法学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （宮脇利幸） 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～10	発達過程における作業療法学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー	宮脇
	11～20	文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む）	宮脇
	21～25	発達過程における作業療法学における有用なエビデンスの検討	宮脇
	26～30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	宮脇

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	外里冨佐江		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 発達過程における作業療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 作業療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 作業療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 作業療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における作業療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （外里冨佐江） 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	作業療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解	外里
	5～8	作業療法学の動向の理解	外里
	9～16	作業療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求	外里
	17～24	作業療法学に関わる支援方法と課題の探求	外里
	25～30	作業療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議	外里

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	作業療法の介入と効果、脳機能と作業療法、超高齢化社会における社会参加、メディカルスタッフによる多職種連携の効果	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	宮脇利幸		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 発達過程における作業療法学に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 作業療法学に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. 作業療法学に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. 作業療法学に関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における作業療法学に関連する研究課題について、保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （宮脇利幸） 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学に関連する研究課題ついて、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	作業療法学に関わる保健・医療・福祉の動向と現状の理解	宮脇
	5～8	作業療法学の動向の理解	宮脇
	9～16	作業療法学に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求	宮脇
	17～24	作業療法学に関わる支援方法と課題の探求	宮脇
	25～30	作業療法学に関わる実践・教育・研究・支援方法と課題発表および討議	宮脇

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	坂口けさみ、林かおり		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３．研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４．リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、母子・家族への看護に有用なエビデンスを検討できる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （坂口けさみ、林かおり） 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～10	発達過程における母子・家族を中心とした看護学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー	坂口
	11～20	文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む）	坂口
	21～25	発達過程における母子・家族を中心とした看護学における有用なエビデンスの検討	林
	26～30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	坂口

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	リプロダクティブヘルス・ライツ、母性看護学、助産学、感染症予防	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	樋貝繁香		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３．研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４．リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、母子・家族への看護に有用なエビデンスを検討できる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （樋貝繁香） 乳幼児期・小児期に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～10	発達過程における母子・家族を中心とした看護学のリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー	樋貝
	11～20	文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む）	樋貝
	21～25	発達過程における母子・家族を中心とした看護学における有用なエビデンスの検討	樋貝
	26～30	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	樋貝

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	小児看護学、家族看護学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	坂口けさみ、林かおり		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 母子保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 母子保健に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連する研究課題について保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （坂口けさみ、林かおり） 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題に取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画

回	内容	担当
1～4	リプロダクティブヘルス・ライツに関わる母子保健・医療・福祉の動向と現状の理解	坂口
5～8	リプロダクティブヘルス（性感染症）の動向の理解	林
9～16	リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求	坂口
17～24	リプロダクティブヘルス・ライツに関わる支援方法と課題の探求	坂口
25～30	リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議	坂口

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。
授業時間外の学習情報	事前学習：講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。 事後学習：プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。
キーワード	リプロダクティブヘルス・ライツ、母性看護学、助産学、感染症予防

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	樋貝繁香		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 母子保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2. 母子保健に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4. リプロダクティブヘルス・ライツに関わる支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP⑤　医療機関、行政機関、保健福祉施設、地域などにおいてマネジメンできる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	発達過程における母子・家族を中心とした看護学に関連する研究課題について保健統計や施策を含めて幅広く理解するとともに、必要な支援方法と課題について理解する。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （樋貝繁香） 乳幼児期・小児期に関連する研究課題取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	乳幼児期・小児期に関わる母子保健・医療・福祉の動向と現状の理解	樋貝
	5～8	小児看護学の動向の理解	樋貝
	9～16	乳幼児期・小児期に関わる実践・教育・研究の現状と課題の探求	樋貝
	17～24	乳幼児期・小児期に関わる支援方法と課題の探求	樋貝
	25～30	乳幼児期・小児期に関わる実践・教育・研究・支援方法の課題発表および討議	樋貝

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	小児看護学、家族看護学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	健康コミュニティ特論	共通・専門科目の別	専門
担当教員	川崎　千恵、熊本　圭吾、宮越　幸代、春原　るみ		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義

授業の到達目標	１．コミュニティにおける包摂的な（inclusive)支援のあり方を述べることができる ２．コミュニティにおける包摂的な（inclusive)支援を展開する上で必要な理論、方法論を述べることができる ３．コミュニティ・人々がもつ特性を述べることができる ４．コミュニティの健康課題と関連要因を述べることができる
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動による後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈健康コミュニティ分野〉 C1　地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2　地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3　地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力
授業科目の概要	本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な（inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論を学修し、関心領域の研究につなげる。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な（inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。

授業計画

回	内容	担当
1	オリエンテーション	川崎
2	コミュニティにおける包摂的な支援とは	熊本
3	コミュニティと人々の特性 -多様性と多文化共生社会-	宮越
4	コミュニティの人々の健康と社会的要因	川崎
5	コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援 -コミュニティ・アセスメントの理論、モデル、方法論等-	川崎
6	コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援 -事業化・施策化/施策提言-	川崎
7	協働による包摂的支援（１）-パートナーシップの形成-	宮越
8	協働による包摂的支援（２）-チーム・ビルディング-	宮越
9	協働による包摂的支援（３）-コミュニティの人々と資源を総動員したコミュニティ組織化とコミュニティオーガニゼーション-	熊本
10	講義・事例検討　-在宅療養者・生活上困難を抱えた住民への包摂的な支援-	春原
11	講義・事例検討　-関係機関や住民との協働による包摂的な支援-	川崎
12	講義・事例検討　-災害時における協働と住民支援（応急対策期・復興復旧期）	宮越
13	プレゼンテーションのオリエンテーション	川崎、熊本、宮越、春原
14	演習（プレゼンテーション準備）	〃
15	プレゼンテーション、ディスカッション、まとめ	〃

テキスト・参考図書	参考図書：公衆衛生看護学テキスト2「公衆衛生看護技術」. 医歯薬出版. 2014、堀公俊他. チームビルディング-人と人を「つなぐ」技法-. 日本経済出版社. 2007、福原宏幸. 社会的排除・包摂と社会政策. 法律文化社. 2007、篠田道子. チームマネジメントの知識とスキル. 医学書院. 2011、真山達志他. 政策実施の理論と実像. ミネルヴァ書房. 2016、國井修. 災害時の公衆衛生-私たちにできること-. 南山堂. 2012、京極真, 信念対立解明アプローチ. 中央法規. 2012、吉浦輪. 地域における連携・協働 事例集-対人援助の臨床から学ぶIP-. 協同医書出版社. 2018、河野眞編. 地域包括リハビリテーション実践マニュアル. 羊土社. 2018、河野眞編. 国際リハビリテーション学―国境を越えるPT・OT・ST. 羊土社. 2016
成績評価基準	グループワークでのプレゼンテーション・討議の内容（40%）及び課題レポートの内容（60%）を総合評価する。
授業時間外の学習情報	事前学習：講義内容に関する知見を検索・整理すること。プレゼンテーションの準備を通して知識を広げ、自己の学習課題に気づくこと。 事後学習：事前学習と授業で講義内容に関する自己の知見を深め整理すること。プレゼンテーション、ディスカッションを通して知識の統合を行うこと。
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。
キーワード	コミュニティ、包摂的支援（Inclusive support)、コミュニティ・アセスメント、協働、臨床科学、統計科学、社会福祉学

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	健康コミュニティ演習Ⅰ	共通・専門科目の別	専門
担当教員	川崎　千恵　　熊本　圭吾		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．コミュニティとそこに暮らす人々への支援に関連するリサーチクエスチョンを明確にするステップを理解し、説明できる。 ２．様々な研究手法と特徴を理解し、説明できる。 ３．研究を進める上で必要な倫理的配慮について理解し、説明できる。 ４．リサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューができる。 ５．関連する文献のクリティークによって、コミュニティとそこに暮らす人々への支援に有用なエビデンスを検討できる。
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動による後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 C1　地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2　地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3　地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力
授業科目の概要	本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な（inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連するリサーチクエスチョンに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手し有用なエビデンスを検討する。またリサーチクエスチョンに関連する先行研究のレビューレポートを作成し、発表する。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な（inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。

授業計画	回	内容	担当
	1	オリエンテーション	川崎、熊本
	2～6	関心のあるリサーチクエスチョンに沿った系統的文献レビュー	川崎
	7～10	〃　　プレゼンテーション	川崎
	11～16	文献クリティーク（リサーチクエスチョン、研究デザイン、研究手法の信頼性と妥当性、倫理的配慮、分析手法、まとめ方、ディスカッションを含む)	熊本
	17～20	〃　　プレゼンテーション	熊本
	21	関心のあるリサーチクエスチョンにおける有用なエビデンスの検討	川崎
	22～25	〃　　プレゼンテーション	川崎、熊本
	26～29	先行研究のレビューレポートの作成と発表、討議	川崎、熊本
	30	まとめ	川崎、熊本

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生のプレゼンテーションを主体として進める。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修することで、目標到達を目指す。
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	公衆衛生看護学、保健師現任教育、社会的包摂、健康の社会的決定要因、 臨床心理学、統計科学、社会福祉学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	健康コミュニティ演習Ⅱ	共通・専門科目の別	専門
担当教員	川崎　千恵　　熊本　圭吾		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1.健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関連する保健・医療・福祉・教育の動向と現状について理解し、説明できる。 2.健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関わる関係法規や様々な施策、取り組みについて理解し、説明できる。 3.健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法に関わる実践・教育・研究の課題を探求できる。 4.健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援方法について理解するとともに、課題について探求できる。
ディプロマポリシー(DP)との関連(評価の観点)	DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動による後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈健康コミュニティ分野〉 C1　地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2　地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3　地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力
授業科目の概要	本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援策の開発や、効果的な支援方法に関連する研究課題について、既存の施策や実際の支援内容・支援方法を含めて幅広く理解する。そのうえで、学生自身の研究・実務経験を活かして、学生自身が関心をもつ対象集団に必要とされる支援策や支援内容・効果的な支援方法を、演習により探求する。

授業計画

回	内容	担当
1	オリエンテーション	川崎、熊本
2～3	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への施策の動向、現状と課題の理解	川崎
4～5	〃　　プレゼンテーション・ディスカッション	熊本
6～10	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援内容・支援方法に関する現状と課題の理解	川崎
11～15	〃　　プレゼンテーション・ディスカッション	熊本
16～18	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への支援内容と効果的な支援方法に関する研究の現状と課題の探求	川崎
19～20	〃　　プレゼンテーション・ディスカッション	熊本
21～22	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々への必要な支援内容と効果的な支援方法の探求	川崎
23～24	〃　　プレゼンテーション・ディスカッション	熊本
25～27	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々に求められる支援策、必要とされる研究の探求	川崎
28～29	〃　　プレゼンテーション・ディスカッション	熊本
30	まとめ	川崎、熊本

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	プレゼンテーション及び討議の内容を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	演習は、学生と教員とのディスカッション、学生のプレゼンテーション、フィールドでの演習により進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他(履修上の留意点)	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	公衆衛生看護学、保健師現任教育、社会的包摂、健康の社会的決定要因、 臨床心理学、統計科学、社会福祉学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究	共通・専門科目の別	専門
担当教員	井部俊子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～２年次	後期（1年次） 通期（2年次）	―	10単位	演習

授業の到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （井部俊子） 医療現場において人材育成及び組織を動かすことに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請	井部
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集	〃
	79～94	データ入力	〃
	95～110	データ解析と考察	〃
	111～142	論文作成	〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備	〃

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。	
キーワード	看護管理学、看護政策・行政、看護倫理学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究	共通・専門科目の別	専門
担当教員	金物　壽久		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～２年次	後期（1年次） 通期（2年次）	―	10単位	演習

授業の到達目標	1.研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2.研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3.収集したデータを入力し整理できる。 4.整理したデータを解析できる。 5.データに基づいた考察ができる。 6.テーマに沿った修士論文を作成できる。 7.修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （金物尋久） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請	金物
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集	〃
	79～94	データ入力	〃
	95～110	データ解析と考察	〃
	111～142	論文作成	〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備	〃

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。

授業時間外の学習情報		
	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。

その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。
キーワード	整形外科学、スポーツ科学、医療社会学、肢体不自由

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究	共通・専門科目の別	専門
担当教員	中島　八十一		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～２年次	後期（1年次） 通期（2年次）	―	10単位	演習

授業の到達目標	1.研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2.研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3.収集したデータを入力し整理できる。 4.整理したデータを解析できる。 5.データに基づいた考察ができる。 6.テーマに沿った修士論文を作成できる。 7.修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （中島八十一） 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請	中島
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集	〃
	79～94	データ入力	〃
	95～110	データ解析と考察	〃
	111～142	論文作成	〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備	〃

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。

授業時間外の学習情報		
	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。

その他(履修上の留意点)	日程については、個別相談の上調整する。
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、脳計測科学、神経生理学、神経内科学、精神神経科学、

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究	共通・専門科目の別	専門
担当教員	外里　冨佐江		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～２年次	後期（1年次） 通期（2年次）	―	10単位	演習

授業の到達目標	1.研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2.研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3.収集したデータを入力し整理できる。 4.整理したデータを解析できる。 5.データに基づいた考察ができる。 6.テーマに沿った修士論文を作成できる。 7.修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （外里冨佐江） 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域の研究課題について、、論文作成のための研究指導を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請	外里
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集	〃
	79～94	データ入力	〃
	95～110	データ解析と考察	〃
	111～142	論文作成	〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備	〃

テキスト・参考図書	アメリカ心理学会.APA論文作成マニュアル 第2版.医学書院.2011 その他、随時紹介する。
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。

授業時間外の学習情報		
	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。

その他(履修上の留意点)	日程については、個別相談の上調整する。
キーワード	作業療法の介入と効果、脳機能と作業療法、超高齢化社会における社会参加、メディカルスタッフによる多職種連携の効果

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	坂口けさみ　　林かおり				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～２年次	後期（1年次） 通期（2年次）	―	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。				
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （坂口けさみ） リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題題について、論文作成するための研究指導を行う。 （林かおり） リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究過程において、調査・実験、データ収集、データ入力についての研究を補助する。				
授業計画	回	内容			担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請			坂口
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集			林
	79～94	データ入力			林
	95～110	データ解析と考察			坂口
	111～142	論文作成			坂口
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備			坂口
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	リプロダクティブヘルス・ライツ、母性・女性看護学、助産学、感染症予防				

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究	共通・専門科目の別	専門
担当教員	樋貝　繁香		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～２年次	後期（1年次） 通期（2年次）	―	10単位	演習

授業の到達目標	1.研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2.研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3.収集したデータを入力し整理できる。 4.整理したデータを解析できる。 5.データに基づいた考察ができる。 6.テーマに沿った修士論文を作成できる。 7.修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （樋貝繁香） 乳幼児期・小児期に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請	樋貝
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集	〃
	79～94	データ入力	〃
	95～110	データ解析と考察	〃
	111～142	論文作成	〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備	〃

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。

授業時間外の学習情報		
	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。

その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。
キーワード	小児看護学、家族看護学

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究	共通・専門科目の別	専門
担当教員	川崎　千恵		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～２年次	後期（1年次） 通期（2年次）	―	10単位	演習

授業の到達目標	1.研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2.研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3.収集したデータを入力し整理できる。 4.整理したデータを解析できる。 5.データに基づいた考察ができる。 6.テーマに沿った修士論文を作成できる。 7.修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈健康コミュニティ分野〉 C1　地域住民の健康増進、疾病予防、福祉の向上のために、地域の現状を分析できる能力 C2　地域のニーズを的確に把握し、理論と統合して根拠に基づく実践を展開できる能力 C3　地域課題解決に向けて、根拠に基づき必要な施策を衛生行政に反映できる能力
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （川崎千恵） 公衆衛生の視点から人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、論文作成のための研究指導を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請	川崎
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集	〃
	79～94	データ入力	〃
	95～110	データ解析と考察	〃
	111～142	論文作成	〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備	〃

テキスト・参考図書	アメリカ心理学会.APA論文作成マニュアル 第2版.医学書院.2011 その他、随時紹介する。
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。

授業時間外の学習情報		
	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。

その他(履修上の留意点)	日程については、個別相談の上調整する。
キーワード	コミュニティ、包摂的支援（Inclusive support)、コミュニティ・アセスメント、協働

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究	共通・専門科目の別	専門
担当教員	福谷　保		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～２年次	後期（1年次） 通期（2年次）	―	10単位	演習

授業の到達目標	1.研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2.研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3.収集したデータを入力し整理できる。 4.整理したデータを解析できる。 5.データに基づいた考察ができる。 6.テーマに沿った修士論文を作成できる。 7.修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （福谷保） 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請	福谷
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集	〃
	79～94	データ入力	〃
	95～110	データ解析と考察	〃
	111～142	論文作成	〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備	〃

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。

授業時間外の学習情報		
	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。

その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。
キーワード	理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	大町　かおり				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～２年次	後期（1年次） 通期（2年次）	―	10単位	演習
授業の到達目標	1.研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2.研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3.収集したデータを入力し整理できる。 4.整理したデータを解析できる。 5.データに基づいた考察ができる。 6.テーマに沿った修士論文を作成できる。 7.修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。				
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力				
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （大町かおり） 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、論文作成過程におけるデータ分析、文献検討などの研究指導を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請			大町
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集			〃
	79～94	データ入力			〃
	95～110	データ解析と考察			〃
	111～142	論文作成			〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備			〃
テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム				

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究	共通・専門科目の別	専門
担当教員	飛松　好子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～２年次	後期（1年次） 通期（2年次）	―	10単位	演習

授業の到達目標	1.研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2.研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3.収集したデータを入力し整理できる。 4.整理したデータを解析できる。 5.データに基づいた考察ができる。 6.テーマに沿った修士論文を作成できる。 7.修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。
ディプロマポリシー(DP)との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈人間発達ケア分野〉 B1　専門分野の発展のために必要な課題を抽出し、関連する既存の知見を探求し、論理的に整理できる能力 B2　専門分野における課題解決のために適切な方法を実施計画に活かせる能力 B3　専門分野の知見収集の成果を教育及び職業実践に結びつける能力
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （飛松好子） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム及び障害に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請	飛松
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集	〃
	79～94	データ入力	〃
	95～110	データ解析と考察	〃
	111～142	論文作成	〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備	〃

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。

授業時間外の学習情報		
	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。

その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。
キーワード	整形外科学、スポーツ科学、医療社会学、肢体不自由

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究	共通・専門科目の別	専門
担当教員	水嵜知子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	1年次～２年次	後期（1年次） 通期（2年次）	―	10単位	演習

授業の到達目標	1. 研究プロセスに則り、研究しようとする課題を明確化してテーマを選定し、研究計画書を作成して倫理審査を申請できる。 2. 研究計画書に基づいた研究を展開できる。 3. 収集したデータを入力し整理できる。 4. 整理したデータを解析できる。 5. データに基づいた考察ができる。 6. テーマに沿った修士論文を作成できる。 7. 修士論文を提出し、発表のためのプレゼンテーション等の準備ができる。
ディプロマポリシー（DP）との関連（評価の観点）	DP①　高い倫理観をもって保健医療福祉分野に関する専門職として取り組む能力 DP②　科学的な根拠に基づき専門技能を発揮できる能力 DP③　高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、他の専門職と議論を通じて考えを共有できる能力 DP④　研究・教育活動により後進を育成する能力 DP⑤　地域の医療・行政・保健福祉組織のマネジメントに参画・参加できる能力 〈ケア提供システム分野〉 A1　高い倫理観を専門教育や医療現場における複雑な倫理的課題に取り組む能力 A2　専門教育やケア提供システム分野において自らが組織に参画し、リーダーシップを発揮できる能力 A3　専門教育や医療現場において社会の変革に対応したケア提供システムを考察できる能力
授業科目の概要	研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案、実施し、一連の成果を論文にまとめる。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （水嵜知子） 医療現場においてケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～30	研究計画書の作成：研究課題の決定、研究計画書の作成、倫理審査申請	水嵜
	31～78	研究の実施：調査・実験、データ収集	〃
	79～94	データ入力	〃
	95～110	データ解析と考察	〃
	111～142	論文作成	〃
	143～150	修士論文の提出：プレゼンテーション等発表準備	〃

テキスト・参考図書	各種文献データベース等から、各自文献を選ぶ。必要な文献等はその都度紹介する。	
成績評価基準	研究計画を実行できていれば「水準にある（可）、加えて正確なデータ分析ができていれば「やや上にある（良）」、さらに分析結果を論理的に考察し、説得力をもった口頭発表ができていれば「かなり上にある（優）」、さらに構成、記述が論理的で適正な研究論文を執筆できていれば「卓越している（秀）」と評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。	
キーワード	看護管理学、看護政策・行政、看護倫理学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	医療倫理学			共通・専門科目の別	共通
担当教員	茂木秀淳				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	１．講義を聞いて理解したことを自分の言葉で表現できる。 ２．学んだことを課題解決に反映できる。 ３．学んだことを知りたい人に適切に伝えることができる。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの高い倫理観をもって取り組む能力の修得に関連する。				
授業科目の概要	日本人がこれまでにどんなことを考えてきたかを概観し、我々の考え方を作っている思想を歴史的に捉えることを第一の目的とする。その理解に基づいて、医療における現代的な諸問題、すなわち、インフォームド・コンセント、尊厳死などの問題を考察する。内容的には、（１）日本固有の思想として神話に基づく神道、（２）外来思想として日本に影響を与えた仏教と儒教、（３）日本の近代化を促した西洋近代思想、をとりあげる。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行うこともある。				

授業計画	回	内容	担当
	1	日本固有の思想(1)　日本神話概観	茂木
	2	日本固有の思想(2)　神話的思惟の特質	茂木
	3	日本固有の思想(3)　世界解釈の方法――起源説話	茂木
	4	仏教思想(1)　釈迦の説いたこと	茂木
	5	仏教思想(2)　日本における初期の仏教受容の様相	茂木
	6	仏教思想(3)　仏教的思惟の特質　輪廻転生の世界観	茂木
	7	仏教思想(4)　仏教的思惟の特質　四苦八苦の人生観	茂木
	8	仏教思想(5)　四苦(生老病死)の現代的様相	茂木
	9	仏教思想(6)　四苦(生老病死)の現代的様相(2)	茂木
	10	儒教思想(1)　朱子学概観	茂木
	11	儒教思想(2)　武士と町人の世界観	茂木
	12	儒教思想(3)　儒教への反発と国学の死生観	茂木
	13	西洋の近代思想(1)　明治維新の世界観	茂木
	14	西洋の近代思想(2)　福沢諭吉の人間観	茂木
	15	まとめと討論	茂木

テキスト・参考図書	随時紹介する。	
成績評価基準	成績評価は、試験、レポート、小テストに基づいて総合的に行う。	
授業時間外の学習情報	事前学習	配布資料に目を通しておく
	事後学習	新たに得た知識を整理しておく
その他（履修上の留意点）	特記事項なし。	
キーワード	神話的思惟、仏教的世界観、儒教的世界観、西洋近代思想	

旧

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	多職種連携論			共通・専門科目の別	共通
担当教員	星文彦　宮脇利幸　樋貝繁香　大町かおり　宮越幸代				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	1. Interprofessional Work;IPW(専門職連携実践)について、概念と理論を説明できる。 2. IPWの発展過程の概要を説明できる。 3. グループワークにおいて、チーム形成や議論に主体的に参加し、役割をは果たすことができる。 4. 自らの業務や社会的課題をIPWの視点から分析考察し、問題点を説明できる。 5. 地域包括ケアにおける多職種連携の意義を説明できる。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的基礎知識と技能の修得に関連する。				
授業科目の概要	Interprofessional Work;IPW(専門職連携実践)について、概念と理論、発展の歴史を学び、現在の地域包括ケアにおける多職種連携の役割について議論する。さらにグループワークを通して、実践に必要なチーム形成スキルやコミュニケーションスキルを習得し、自らの業務上の課題や社会的課題についてIPWの視点から分析考察し、その課題解決のために他職種と協働し検討する力を養う。さらに、事例検討を通して多職種連携における実践力を養う。				

授業計画	回	内容	担当
	1	オリエンテーション、科目ついて担当教員と受講生との相互理解を図る	星
	2	ＩＰＷの概要と歴史について	星
	3	ＩＰＷの基盤となるヒューマンケアについて；専門分野や支援者・被支援者の関係性を越えて基盤となるヒューマンケア及び利用者中心主義について考える。	星
	4	保健医療におけるＩＰＷの必要性について；保健医療においてIPWが求められる背景や多職種連携の持つコンピテンシーについて考える。	星
	5	ＩＰＷの仕組みについて；IPWの持つ二重構造や協働、チーム形成について考える。	星
	6	ＩＰＷにおけるファシリテーションスキル；チーム形成や問題解決に求められるファシリテーターの役割とスキルについて考える。	大町
	7	ＩＰＷにおける葛藤とリフレクションの意義；チーム形成及び問題解決に向けた過程での葛藤とリフレクションの重要性について考える。	宮越
	8	多職種連携について；地域包括ケアに求められるIPWについて考える。	宮脇、樋貝
	9	グループワーク1：相互理解～他者紹介などを通して他者理解と説明スキルを学ぶ。KJ法を用いた問題解決法について学ぶ。	星
	10	グループワーク2：事例検討～院生の業務事例を通して多職種連携を検討する	星、大町、宮越
	11	グループワーク3：事例検討～院生の業務事例を通して多職種連携を検討する	星、大町、宮越
	12	グループワーク4：ＩＰＷ研究論文考察	星、宮脇、樋貝
	13	グループワーク5：ＩＰＷ研究論文考察	星、宮脇、樋貝
	14	グループワーク6：リフレクション～本科目修了にあたって自己の受講活動と自己の業務活動や社会活動を振り返る。	星
	15	まとめ	星

テキスト・参考図書	テキスト：指定しない 参考図書：ＩＰＷを学ぶ；利用者中心の保健医療福祉連携（中央法規出版社） Patient-Centered Medicine Transforming the Clinical Method(CRC Press)	
成績評価基準	グループワーク参加状況、プレゼンテーションやレポート内容等の総合評価	
授業時間外の学習情報	事前学習	ＩＰＷに関する事項を、職場や生活環境の中で検索情報収集すること。
	事後学習	新たに得た知識を整理しておくこと。
その他（履修上の留意点）	俯瞰的視点から自分自身の生活行動や社会情報を考察し、積極的な議論ができるように準備し授業に臨むこと。	
キーワード	ＩＰＷ、保健医療福祉、地域連携、多職種協働、地域包括ケア、リハビリテーション、利用者中心主義	

旧

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	医療コミュニケーション論			共通・専門科目の別	共通
担当教員	中島　八十一、井部　俊子、外里冨佐江、川崎千恵、大町かおり、奥村信彦				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	１．出来事を即座に日本語で書き、他人に理解させることができるようになる。 ２．多くの人を対象に等しく同じような理解に至るように日本語で話すことができるようになる。 ３．他人の考えていることを適切に引き出し、記録することができるようになる。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的基礎知識と技能の修得に関連する。				
授業科目の概要	本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにより、医療・保健領域において患者、市民といったさまざまな個人・集団に向けて適切なコミュニケーションを可能にすることにある。その結果として医療・保健情報を正しく伝えるだけでなく、正しく情報収集することに役立てることにある。本講義では、医療、公衆衛生分野における効果的なコミュニケーションのために（1）コミュニケーションの基本理論（2）コミュニケーションの具体的方法とスキル（3）コミュニケーションの評価と分析方法等を対象とする。受講により職業人としてのコミュニケーション能力に格段の改善を図ることができる。				

授業計画	回	内容	担当
	1	医療コミュニケーション概論	中島
	2	科学技術コミュニケーション-最新科学を一般の人に伝える。	中島
	3	臨床コミュニケーション ①-疾病を患者・家族に理解させる。	中島
	4	臨床コミュニケーション②-個人の病態を本人・家族に伝える。	井部
	5	ヘルスライティング①-患者・家族に向けた支援文書作成	井部
	6	ヘルスライティング②-保健医療文書の作成	中島
	7	ヘルスライティング③-発表会・総合討論	中島
	8	ヘルスコミュニケーション①-個人の行動変容を促すコミュニケーション	外里
	9	ヘルスコミュニケーション②-集団の行動変容を促すコミュニケーション	川崎
	10	ヘルスコミュニケーション③-他職種連携コミュニケーション	大町
	11	ヘルスコミュニケーション④-外国人患者とのコミュニケーション	奥村
	12	ヘルスコミュニケーション⑤-まとめと発表会	中島
	13	グループ組織のコミュニケーション	井部
	14	患者・市民の啓発	外里
	15	まとめとグループ討論	中島

テキスト・参考図書	Athena du Pre. Communicating about health - Current Issues and Perspectives, 5th ed. 2016	
成績評価基準	討議状況、プレゼンテーションの内容等の総合評価 評価配分：レポート80%、プレゼンテーションの内容等 20%	
授業時間外の学習情報	事前学習	医療コミュニケーションについて情報を検索し、基本的な用語の意味を知っておくこと。
	事後学習	専門職としての自らの職分にあって得た知識をどのように活用するか考えること。
その他（履修上の留意点）	適切なコミュニケーションのために自らが日本語で話すこと、書くことに細心の注意を払うこと。	
キーワード	コミュニケーション、会話、文書作成、会議、日本語	

旧

保健学研究科保健学専攻　シラバス案

授業科目	保健医療マネジメント論	共通・専門科目の別	共通
担当教員	井部　俊子　　中島　八十一　　水嵜　知子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択	１年次	前期	１５回	２単位	講義

授業の到達目標	1. わが国における社会保障制度の特性を理解する。 2. 人口減少時代における保健医療福祉制度・政策を理解する。 3. 高度実践家にもとめられるマネジメント論を学習する。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの、高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力に関連する。
授業科目の概要	本講義の目的は、人口減少の現代、保健医療領域で高度専門実践者として必要なマネジメントの知識を体系的に学ぶ。まず、わが国における保健医療制度・政策を理解し、保健医療に関連した法規と倫理を学ぶ。さらに、財務会計・管理会計と診療報酬制度・介護報酬制度を概観する。そして、保健医療福祉サービスを提供する人材開発・人材育成を学び、保健医療福祉における質を考察する。

授業計画

回	内容	担当
1	人口減少時代における社会保障	中島
2	保健医療福祉制度・政策　Ⅰ	中島
3	保健医療福祉制度・政策　Ⅱ	中島
4	保健医療福祉に関連した法規　Ⅰ	中島
5	保健医療福祉に関連した法規　Ⅱ	中島
6	保健医療福祉における倫理　Ⅰ	水嵜
7	保健医療福祉における倫理　Ⅱ	水嵜
8	診療報酬制度と財務会計・管理会計　Ⅰ	中島
9	診療報酬制度と財務会計・管理会計　Ⅱ	中島
10	介護報酬制度と財務会計・管理会計　Ⅰ	中島
11	介護報酬制度と財務会計・管理会計　Ⅱ	中島
12	医療の質保証と医療安全	井部
13	人材開発と経験学習	井部
14	リーダーシップとマネジメント	井部
15	組織開発の手法	井部

テキスト・参考図書	随時、提示する。	
成績評価基準	評価配分：レポート100％	
授業時間外の学習情報	事前学習	授業内容に関する文献を検索し、読んでおくこと。
	事後学習	新たに得た知識を整理しておくこと。
その他（履修上の留意点）	時事問題に関心を持ち、授業で発言すること。	
キーワード	保健医療制度、保健医療政策、マネジメント	

旧

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	応用統計学			共通・専門科目の別	共通
担当教員	熊本　圭吾　　林　邦彦　　井手野　由季　　長井　万恵				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	1. 統計学の基礎的な事項が理解できる。 2. 医学統計（疫学統計、生物統計）の概念と解析結果が理解できる。 3. 心理統計（多変量解析、尺度構成）の概念と解析結果が理解できる。 4. 表計算ソフト、統計解析ソフトの基本的な使用法がわかる。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	ディプロマポリシー1,2に関連（科学的な根拠に基づき実践する能力、高度専門職業人に必要な広範な知識と質の高い専門職業務を実践できる能力）				
授業科目の概要	本講義は、保健・医療の分野において科学的根拠に基づいた実践を行うために、科学的情報の理解に必要となる統計知識を習得すること、および保健医療分野の研究を進める上で有用となる統計処理が行えるようになることを目的とする。そのため、統計学の基礎を理解し、医学統計および心理統計の手法について学ぶとともに、表計算ソフトおよび統計解析ソフトによる統計解析の手順や出力結果の読み方についても学ぶ。				

授業計画	回	内容	担当
	1	オリエンテーション　データ処理と機器類の準備	熊本
	2	記述統計、尺度水準	熊本
	3	推測統計、検定の基礎	熊本
	4	医学統計・医学研究における統計学概説	林
	5	医学統計・観察研究の研究計画における統計学	林
	6	医学統計・観察研究のデータ解析における統計学	井手野
	7	医学統計・介入研究の研究計画における統計学	長井
	8	医学統計・介入研究のデータ解析における統計学	長井
	9	医学統計・メタアナリシス	井手野
	10	心理統計・テスト理論　信頼性	熊本
	11	心理統計・テスト理論　妥当性　項目の分析	熊本
	12	心理統計・尺度構成	熊本
	13	心理統計・質問紙調査　テキストマイニング	熊本
	14	心理統計・構造方程式モデリング	熊本
	15	まとめ　統計手法の適用	熊本

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	授業における課題の理解度と達成度で評価する	
授業時間外の学習情報	事前学習	授業で指定するテキスト類を読了する。自身で使用可能なデータを授業用に準備する。
	事後学習	授業で課された課題を行う。
その他（履修上の留意点）	PCの基本的な操作はできること。	
キーワード	介入研究、観察研究、メタアナリシス、尺度、信頼性、妥当性	

保健学研究科保健学専攻　シラバス案

授業科目	英語文献講読			共通・専門科目の別	共通
担当教員	伊原　巧、奥村信彦				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	大部分がギリシャ語またはラテン語に由来する英語の医学用語の構造的特徴を、音韻、形態素、語彙に関して理解し、やさしい英語で書かれた人体の構造、機能、疾病について読めるようになった後に、英語で書かれた医療分野の文献をESP（English for Specific Purposes：専門分野別英語）の観点も踏まえ、構成と論理に注目しながら的確に理解できるようになることを目標とする。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの、高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力に関連する。				
授業科目の概要	医療・医学に関する英語文献を講読し、その読解力を養うとともに、医療・医学に関わる基礎的・専門的知識およびその英語特有の規則等も学ぶ。特に前半は基礎的な内容の英語を規則等にも注目して読み、後半はリハビリテーション学と看護学に関する論文紹介のプレゼンテーションをグループで行うことによりクリティカルに読む姿勢を養う。				

授業計画	回	内容	担当
	1	医学用語の構成要素をつなぐ規則を理解し、Cell, Organ, and Systemを読む。	伊原
	2	ラテン語またはギリシャ語に由来する複数形の作り方を理解し、Circulatory Systemを読む。	伊原
	3	Respiratory Systemを読み、呼吸器系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。	伊原
	4	Digestive Systemを読み、消化器系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。	伊原
	5	Urinary Systemを読み、泌尿器系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。	伊原
	6	Nervous SystemとMusculoskeletal Systemを読み、神経系と筋骨格系に関する語根、接頭辞、接尾辞、単語を理解する。	伊原
	7	英語文献について、アブストラクト、本文、文献リストの構成および結論が導かれるプロセスを理解するとともに、ESPの観点から医療分野に特有の語彙、表現についても学ぶ。また、文献検索の方法も学ぶ。	奥村
	8	保健学分野の基本的な英語文献1編を読み、前回の内容を具体的に確認、理解する。	奥村
	9	前回扱った論文について授業担当者のプレゼンテーションを聴き、理解を深めるとともに、内容についてディスカッションする。	奥村
	10	作業療法学分野の英語文献1編を語彙・表現・構成に注目しながら読み、内容を理解する。	奥村
	11	前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。	奥村
	12	理学療法学分野の英語文献1編を語彙・表現・構成に注目しながら読み、内容を理解する。	奥村
	13	前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。	奥村
	14	看護学分野の英語文献1編を語彙・表現・構成に注目しながら読み、内容を理解する。	奥村
	15	前回扱った論文についてグループによるプレゼンテーションを行い、相互に評価する。	奥村

テキスト・参考図書	テキスト：Introduction to Medical English、 英語文献については適切かつ可能な限り新しいものを選択し、初回に配布する。 参考図書：「APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール」前田樹海・江藤裕之著：医学書院	
成績評価基準	評価配分：テキストの練習問題の解答提出40%（伊原）、 プレゼンテーションの内容を学生が相互に、また授業担当者が観点別に評価し、総合点を60%とする。（奥村）	
授業時間外の学習情報	事前学習	初回に配布される論文を事前に読んでおくこと。（奥村）
	事後学習	毎週の復習として練習問題の解答を提出すること。（伊原）
その他（履修上の留意点）	人体の構造と機能・疾病に関する医学英語の用語を覚えること。 和文・英文を問わず、関心のある医療分野の論文を精読し、アブストラクトを含め論文の構成に慣れること。	
キーワード	Medical English	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健医療教育論			共通・専門科目の別	共通
担当教員	土井　進、外里　冨佐江、福谷　保、樋貝　繁香、林　かおり				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	学部での基礎教育、卒後教育、現任教育における保健医療教育の歴史的変遷、並びに保健医療教育の理論と実践についての基礎的知識を修得する。この理論と実践の学びを通して、保健医療教育の原理を探究し、人間理解を深める。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健医療の高度専門職に求められる高い倫理観を陶冶するとともに、保健医療教育に関する基礎的知識と科学的知見を修得し、保健医療の専門職養成機関における、高度専門職としての教育者にふさわしい人格識見を涵養する。				
授業科目の概要	教育学の視点から保健医療専門教育の理論と実践の検証、古典にみる養生思想の現代的意義の考察に立って、今日の保健医療専門職教育の原理を探究し、教育技法、教材などについて理解を深める。				

授業計画

回	内容	担当
1	保健医療教育における「目的・目標論」と「内容・方法論」	土井
2	保健医療教育における「教授の三角形」、教育者・学習者・保健医療の基礎的知識	土井
3	保健医療教育における看護の実践と理論	土井、樋貝、林
4	保健医療教育における理学療法の実践と理論	土井、福谷
5	保健医療教育における作業療法の実践と理論	土井、外里
6	生涯学習社会における保健医療教育の役割	土井
7	貝原益軒の道徳教育論と養生思想の現代的意義	土井
8	西洋における養生思想『サレルノ養生訓』の現代的意義	土井
9	仏教的人間像に見る「知の教師」・「情の教師」・「意の教師」	土井
10	いじめ問題への指導力を高める『塵劫記』の「三容器の協力関係」の問題	土井
11	内村鑑三が代表的日本人として評価した二宮尊徳の保健医療の実学思想	土井
12	「田定規」の問題を通して課題の把握、解法の発見、応用の問題解決の流れを掴む	土井
13	物心一如”もの”と”こころ”の相即の妙を”もの”を通して洞察する実物教育	土井
14	学生が主体的・対話的で深い学びを実現するアクティブ・ラーニングの開発	土井
15	大学と地域社会が連携した保健医療教育の実践による大学院生の力量形成	土井

テキスト・参考図書	テキスト：土井進『唐澤富太郎と教育博物館の研究』（2020）ジダイ社、土井進・塩原孝茂編著『実践から学ぶ総合的な学習の時間の指導と授業づくり』（2019）ジダイ社 参考図書：貝原益軒『養生訓・和俗童子訓』2001、岩波書店、 大槻真一郎『サレルノ養生訓』とヒポクラテス―医療の原点』2017、星雲社
成績評価基準	毎授業時の事前事後学習200字原稿30枚の考察（50点）、800字小論文（50点）、合計100点（担当土井）
授業時間外の学習情報	事前学習：毎回、テキストの1章づつを読み、心に残った箇所を引用し、200字原稿に考察を書く。 事後学習：本日の授業による「まなび」を200字原稿に記述する。
その他（履修上の留意点）	毎回、事前学習と事後学習の200字原稿をグループで読み合わせ、小コメントを相互に欄外に書き署名する。
キーワード	保健医療教育論、教職倫理観、実践と理論

旧

保健学研究科保健学専攻　シラバス案 3次案

授業科目	保健医療教育実践論	共通・専門科目の別	共通
担当教員	土井　進、外里　冨佐江、福谷　保、樋貝　繁香、林　かおり		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択	１年次	前期	１５回	２単位	講義

授業の到達目標	本講義では、保健医療専門職を目指す人々を指導できる教育力を身に付けるために、保健医療教育の様々な実践事例における教育方法の特色を理解し、活用できるようになる。また、実践事例における保健医療の専門知識を理解し、教授できる指導力を修得する。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健医療の高度専門職に求められる高い倫理観を陶冶するとともに、保健医療教育に関する基礎的知識と科学的知見を修得し、保健医療の専門職養成機関において、高度専門職を養成する教育者にふさわしい人格識見を涵養する。
授業科目の概要	学部での基礎教育、卒業後の教育、保健医療教育の歴史的変遷、ならびに保健医療教育の理論と実践について、実践例を通して学ぶ。 本講義では、保健医療の専門職養成機関において高度専門職の養成に当たる教育者に求められる、保健医療の専門的知識を教授できる指導力を身に付ける。

授業計画

回	内容	担当
1	シラバス(授業計画)作成の意義、授業の到達目標、ディプロマポリシーとの関連等	土井
2	総合的な学習の手法、大学院教育の目標を踏まえた保健医療教育の指導計画の作成	土井
3	保健医療専門科目における単元の指導計画、本時の指導過程	土井、外里、福谷、樋貝、林
4	〃	土井、外里、福谷、樋貝、林
5	保健医療専門科目における本時の指導案の作成、教材構成、板書計画、評価方法	土井、外里、福谷、樋貝、林
6	〃	土井、外里、福谷、樋貝、林
7	教育者の要件、温故知新、声・腰・脚、ソクラテスの青年との問答法	土井
8	保健医療教育実践におけるアクティブ・ラーニングの構想をグループで練り上げる。	土井
9	3種類の学習形態、個別学習形態・相互学習形態・一斉学習形態	土井
10	学習評価の三段階、診断的評価・形成的評価・総括的評価、到達度評価	土井
11	ルーブリック評価、パフォーマンス評価、省察による実践と理論の往還作業	土井
12	高度専門職を養成する教育者の力量、教材の本質・学生の内面がみえる慧眼	土井
13	保健医療を担う「高度専門職」を育成する上で欠かせない学生との「事上錬磨」	土井
14	直観の原理、自発性の原理、内発的動機づけの理論、練習(ドリル)の原理	土井
15	自ら開発した各種教材を活用した模擬授業を1人15分実践する。	土井、外里、福谷、樋貝、林

テキスト・参考図書	テキスト：土井進『唐澤富太郎と教育博物館の研究』2020、ジダイ社、土井進・塩原孝茂編著『実践から学ぶ総合的な学習の時間の指導と授業づくり』2019、ジダイ社、 参考図書：貝原益軒『養生訓・和俗童子訓』2001、岩波書店、 大槻真一郎『サレルノ養生訓』とヒポクラテス―医療の原点』2017、星雲社
成績評価基準	毎授業時の事前事後学習200字原稿30枚の考察（50点）、800字小論文（50点）、合計100点（担当土井）

授業時間外の学習情報		
	事前学習	毎回、テキストの1章づつを読み、心に残った箇所を引用し、200字原稿に考察を書く。
	事後学習	本日の授業による「まなび」を200字原稿に記述する。

その他（履修上の留意点）	毎回、事前学習と事後学習の200字原稿をグループで読み合わせ、小コメントを相互に欄外に書き署名する。
キーワード	保健医療教育実践論、シラバス（授業計画）、教育者の力量

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健医療研究法			共通・専門科目の別	共通
担当教員	熊本　圭吾　川崎　千恵　　高嶋　孝倫　　水嵜　知子　　林　邦彦　　麻原　きよみ				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義
授業の到達目標	1. 保健医療分野における実践と研究との関連性を理解し研究の意義を述べることができる。 2. 研究に必要となる過程を理解し述べることができる。 3. 研究における文献の意義を理解し、検索、入手し批判的に吟味することができる。 4. 研究方法の相違点を理解し、研究目的に合わせた適用について述べることができる。 5. 研究倫理について理解し、研究計画書作成における留意点を述べることができる。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	ディプロマポリシーの、科学的な根拠に基づき実践する能力に関連する。				
授業科目の概要	本講義は、保健医療分野の実践の場において研究活動を行うために必要となる基礎的な知識、態度、手順を修得することを目的とする。そのために、保健医療分野における研究を実践する上で活用される多様な研究法について紹介し、その基礎と特徴を学ぶ。また、保健医療分野における研究の過程について、研究テーマと研究デザインの検討、研究における倫理的配慮、研究の実施と報告までの一連の流れを学ぶ。				

授業計画

回	内容	担当
1	授業の概要：研究の目的、実践との関連	熊本
2	エビデンスベースドメディスン（Evidence Based Nedicine: EBM）	林
3	責任ある研究活動：研究倫理と行動規範	熊本
4	文献検討の方法：文献の位置づけ、文献検索、論文の種類と構成	水嵜
5	研究のプロセス、研究テーマ、研究デザイン	川崎
6	研究方法論1：実験研究	高嶋
7	研究方法論2：調査研究	熊本
8	研究方法論3：疫学研究	林
9	研究方法論4：質的研究1	麻原
10	研究方法論5：質的研究2	麻原
11	研究方法論6：質的研究3	麻原
12	研究方法論7：質的研究4	麻原
13	文献クリティークの方法	水嵜
14	研究計画書：作成上の注意	熊本
15	まとめ　研究の計画に向けて	熊本

テキスト・参考図書	テキスト：適宜紹介する。 参考図書：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方　第2版、医歯薬出版株式会社	
成績評価基準	グループワークの参加状況、プレゼンテーションやレポート内容等を総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	参考図書の関連箇所を読んでくる。
	事後学習	新たな知識を整理する。
その他（履修上の留意点）	特になし	
キーワード	研究方法、文献検討、研究方法、研究デザイン、研究計画書	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学総論	共通・専門科目の別	専門
担当教員	中島八十一、金物壽久、井部俊子、外里冨佐江、坂口けさみ、高嶋孝倫、福谷保、熊本圭吾、樋貝繁香、川崎千恵、宮越幸代、星文彦、中村秀一、野見山哲生		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義

授業の到達目標	1.　医学、医療の動向を説明できる。 2.　看護学、リハビリテーション科学の学理と動向を理解する。 3.　各発達段階における健康課題を理解する。 4.　障害者の健康について説明できる。 5.　地域社会の健康課題について説明できる。 6.　多職種連携チームの構成、活動、マネジメントについて理解する。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	地域社会が抱える課題を適切に把握し、医療福祉に係る制度を理解した上で高度専門職業人として課題解決の道筋を立てる能力を身に付ける。 保健学研究科ディプロマポリシーの、高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力に関連する。
授業科目の概要	「誰一人として取り残さない地域社会」の構築を志向する保健医療福祉関連職に必要となる基礎知識を学ぶ

授業計画

回	内容	担当
1	今日の医学：生物医学の進歩とその臨床応用　現状と課題	中島
2	今日の医療：EBM、生命医療倫理、患者中心医療、医療事故防止（ヒューマンエラー）	金物
3	保健医療福祉制度と政策：制度の現在と課題ならびに政策の動向	中村
4	看護学の現在	井部
5	リハビリテーション科学の現在１；リハビリテーション医学、理学療法学、作業療法学	中島、福谷、外里
6	リハビリテーション科学の現在２：支援工学、ケースワーク、臨床心理	高嶋、熊本
7	女性の健康：women’s health、reproductive health	坂口
8	小児・学童の健康：母子、児童、学校保健の現状と課題	樋貝
9	働き世代の健康：産業医学・衛生、健診事業、労働安全、働き方改革、両立支援	野見山
10	高齢者の健康：加齢と高齢者の心身機能特性	川崎
11	障害者の健康：障害種別と障害特性、医学的、社会的、職業リハビリテーション	中島
12	地域社会の健康：家族、住まい、住民の健康状態、自治体などによる健康増進活動	川崎
13	災害と健康	宮越
14	介護：介護保険制度、各種施設、介護保険外施設、利用者の現状と課題	中島
15	多職種協働：チームの構成、活動目標設定、プログラム管理、マネジメント	星

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	レポート80%、グループワークの内容20%により総合評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	参考図書の関連箇所を読んでくる。
	事後学習	新たな知識を整理する。
その他（履修上の留意点）	特になし	
キーワード	研究方法、文献検討、研究方法、研究デザイン、研究計画書	

旧

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	ケア提供システム特論			共通・専門科目の別	専門
担当教員	井部　俊子　　中島　八十一　　水嵜　知子				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義

授業の到達目標	1. わが国における保健医療福祉の制度・政策を理解する。 2. ケア提供システムを構築し、機能させるためのサービスマネジメントを理解する。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの、２. 高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力、及び３. 地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動による後進育成、職場でのマネジメント向上を通じて地域に貢献できる能力に関連する。
授業科目の概要	わが国における保健医療福祉制度・政策を理解し、ケアの組織化を実践するために必要なサービスマネジメント論を学ぶ。さらに、地域包括ケアのコンセプトを実現し、顧客のニーズにもとづいたケア提供体制を構築し、リーダーシップを発揮し効率的なマネジメント手法を学ぶ。

授業計画

回	内容	担当
1	人口減少時代の社会保障	中島
2	保健医療福祉制度と政策	中島
3	保健医療福祉に関連した法規	中島
4	サービスマネジメント論	井部・水嵜
5	組織論と組織管理　Ⅰ	井部・水嵜
6	組織論と組織管理　Ⅱ	井部・水嵜
7	人材育成とマネジメント　Ⅰ	井部・水嵜
8	人材育成とマネジメント　Ⅱ	井部・水嵜
9	資源管理と効率化　Ⅰ	井部・水嵜
10	資源管理と効率化　Ⅱ	井部・水嵜
11	質の保証　Ⅰ	井部・水嵜
12	質の保証　Ⅱ	井部・水嵜
13	地域包括ケアシステムの理念	井部・水嵜
14	多職種協働論	井部・水嵜
15	まとめ	井部・水嵜

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	討議状況、プレゼンテーションの内容等の総合評価 評価配分：レポート80%、プレゼンテーションの内容等 20%	
授業時間外の学習情報	事前学習	組織管理について情報を検索し、資料等を読んでおくこと
	事後学習	新たな知識を整理しておくこと
その他（履修上の留意点）	組織管理に関連した記事、ニュースなど最新の社会的知見に触れ、積極的にディスカッションに参加できるよう心掛けること	
キーワード	保健医療制度、保健医療政策、人材育成、組織管理	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	ケア提供システム演習Ⅰ	共通・専門科目の別	専門
担当教員	井部　俊子　　水嵜　知子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールドと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定義・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの２.高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力、及び３.地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動による後進育成、職場でのマネジメント向上を通じて地域に貢献できる能力に関連する。
授業科目の概要	テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手して自らの研究テーマの抽出につなげる。選択した課題を実証的に検証する方法について検討し、研究を進めるための条件を整える。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （井部俊子、水嵜知子）（共同） 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	課題の明確化とその範囲の特定	井部、水嵜
	5～10	関心のある領域の系統的文献レビュー	井部、水嵜
	11～16	研究テーマに適した研究方法の検討	井部、水嵜
	17～22	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化	井部、水嵜
	23～30	研究デザインを元にプロトコルの作成	井部、水嵜

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	課題のプレゼンテーションとディスカッションの内容に基づき、総括的に評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	関連文献を事前に概観したうえで授業に臨む。
	事後学習	授業の中で疑問を感じたり、自身の智識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復讐するよう取り組む。
その他（履修上の留意点）	自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組む。	
キーワード	看護管理学、看護政策・行政、看護倫理学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	ケア提供システム演習Ⅰ	共通・専門科目の別	専門
担当教員	中島　八十一		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールドと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定義・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの２.高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力、及び３.地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動による後進育成、職場でのマネジメント向上を通じて地域に貢献できる能力に関連する。
授業科目の概要	テーマに沿った研究論文の系統的なレビューにより情報収集能力と分析力を高め、内外の最新知見を入手して自らの研究テーマの抽出につなげる。選択した課題を実証的に検証する方法について検討し、研究を進めるための条件を整える。 本演習は研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （中島八十一） 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	課題の明確化とその範囲の特定	中島
	5～10	関心のある領域の系統的文献レビュー	中島
	11～16	研究テーマに適した研究方法の検討	中島
	17～22	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化	中島
	23～30	研究デザインを元にプロトコルの作成	中島

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	課題のプレゼンテーションとディスカッションの内容に基づき、総括的に評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	関連文献を事前に概観したうえで授業に臨む。
	事後学習	授業の中で疑問を感じたり、自身の智識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復讐するよう取り組む。
その他（履修上の留意点）	自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組む。	
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、脳計測科学、神経生理学、神経内科学、精神神経科学、	

旧

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	ケア提供システム演習Ⅱ	共通・専門科目の別	専門
担当教員	井部　俊子　　水嵜　知子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1.　自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2.　研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3.　研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4.　人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5.　研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの２.高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力、及び３.地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動による後進育成、職場でのマネジメント向上を通じて地域に貢献できる能力に関連する。
授業科目の概要	学生が選択した自己の研究課題について、研究計画書を完成させて、研究倫理審査を受ける。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （井部俊子、　水嵜知子）（共同） 医療現場において組織を動かすことに及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成	井部、水嵜
	5～8	研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化	井部、水嵜
	9～18	研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練	井部、水嵜
	19～24	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成	井部、水嵜
	25～30	研究計画書の作成	井部、水嵜

テキスト・参考図書	随時、提示する。	
成績評価基準	研究計画書の完成度。 課題のプレゼンテーションとディスカッションの内容に基づき、総括的に評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	関連文献を事前に概観したうえで授業に臨む。
	事後学習	授業の中で疑問を感じたり、自身の智識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復讐するよう取り組む。
その他（履修上の留意点）	自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組む。	
キーワード	看護管理学、看護政策・行政、看護倫理学	

旧

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	ケア提供システム演習Ⅱ	共通・専門科目の別	専門
担当教員	中島　八十一		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1.　自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2.　研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3.　研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4.　人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5.　研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの２.高度専門職業人に必要な広範な知識を持ち、質の高い専門職業務を実践できる能力、及び３.地域社会が抱える問題を適切に把握し、臨床・研究・教育活動による後進育成、職場でのマネジメント向上を通じて地域に貢献できる能力に関連する。
授業科目の概要	学生が選択した自己の研究課題について、研究計画書を完成させて、研究倫理審査を受ける。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （中島八十一） 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成	中島
	5～8	研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化	中島
	9～18	研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練	中島
	19～24	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成	中島
	25～30	研究計画書の作成	中島

テキスト・参考図書	随時、提示する。
成績評価基準	研究計画書の完成度。 課題のプレゼンテーションとディスカッションの内容に基づき、総括的に評価する。
授業時間外の学習情報	事前学習：関連文献を事前に概観したうえで授業に臨む。 事後学習：授業の中で疑問を感じたり、自身の智識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復讐するよう取り組む。
その他（履修上の留意点）	自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組む。
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、脳計測科学、神経生理学、神経内科学、精神神経科学、

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア特論	共通・専門科目の別	専門
担当教員	外里冨佐江、金物壽久、高嶋孝倫、坂口けさみ、樋貝繁香、宮脇利幸、 福谷保、大町かおり、林かおり、福田恵美子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義

授業の到達目標	１．人間の発達過程を述べることができる。 ２．リプロダクティブヘルス・ライツに関する主要概念と臨床的課題について述べることができる。 ３．乳幼児期の発達において重視すべき課題について多様な側面から述べることができる。 ４．生涯発達の視点から青年期、成人期の発達課題について多様な側面から述べることができる。 ５．高齢期における発達課題と社会とのかかわりについて述べることができる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達とは、分化（Specialization）と統合（Integration）が繰り返されて進展し、相互作用をもって特定の方向に向かう変化である。人間の発達とは、生物として地球上に存在し、社会の生活者として、心理・社会的任務を遂行しながら、未来に向けて生涯成長していくことである。 本講義は、妊娠・出産期における家族、母性、乳幼児期、青年期、成人期、高齢期それぞれの時期により迎える課題に対して、社会環境を含めて医学、看護、リハビリテーションの側面から講義し、科学的根拠に基づく研究につなげる。（オムニバス方式／全15回）

授業計画

回	内容	担当
1	オリエンテーション　環境と人間発達	外里
2	生涯発達の概要と青年期、成人期及における発達課題	外里
3	肢体不自由を中心とした発達過程における障害の医学的理解	金物
4	肢体不自由を中心とした発達過程における障害の支援機器論的理解	高嶋
5	リプロダクティブヘルス・ライツにおける臨床的課題	坂口
6	乳幼児期における発達課題①：健全な発達を支えること。	樋貝
7	乳幼児期における発達課題②：障がいをもって生活すること。	樋貝
8	青年期、成人期における発達課題①：青年期における発達課題（学校生活と心身の変化）	大町
9	青年期、成人期における発達課題②：成人期における発達課題（産業保健的視点から）	福谷
10	発達障害児支援の地域の取り組みの紹介①	福田
11	発達障害児支援の地域の取り組みの紹介②	福田
12	高齢期における心理機能、身体機能の低下や障害について	宮脇
13	高齢期における課題：高齢期の社会生活のあり方	宮脇
14	発達過程における特徴的な感染症とその予防	林
15	まとめ	外里

テキスト・参考図書	テキスト：適宜紹介する 参考図書：福田恵美子監修　人間発達学第5版　中外医学社	
成績評価基準	討議状況、プレゼンテーションの内容等の総合評価 評価配分：レポート80%、プレゼンテーションの内容等 20%	
授業時間外の学習情報	事前学習	生涯人間発達について情報を検索し、資料等に眼を通すこと。
	事後学習	新たな知識を整理すること。
その他（履修上の留意点）	新聞記事、ニュースなど最新の社会的な知見に触れ、積極的に議論できるように授業に臨むこと。	
キーワード	生涯人間発達　ウィメンズヘルス　障害科学　リハビリテーション　保健活動　環境	

旧

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	金物壽久		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 （金物壽久） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	課題の明確化とその範囲の限定	金物
	5～10	関連文献のレビュー	金物
	11～16	臨床フィールドワークの着手	金物
	17～22	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化	金物
	23～26	研究デザインと研究計画	金物
	27～28	デザインの選択	金物
	29～30	介入のためのプロトコル作成	金物

テキスト・参考図書	随時紹介する。各学生の研究テーマに関連する理論を用いる。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	整形外科学、スポーツ科学、医療社会学、肢体不自由	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	高嶋孝倫		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 （高嶋孝倫） 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	課題の明確化とその範囲の限定	高嶋
	5～10	関連文献のレビュー	高嶋
	11～16	臨床フィールドワークの着手	高嶋
	17～22	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化	高嶋
	23～26	研究デザインと研究計画	高嶋
	27～28	デザインの選択	高嶋
	29～30	介入のためのプロトコル作成	高嶋

テキスト・参考図書	随時紹介する。各学生の研究テーマに関連する理論を用いる。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	生活支援技術、義肢装具、運動解析、福祉用具・支援機器	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）			共通・専門科目の別	専門
担当教員	福谷保				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習
授業の到達目標	１．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。				
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 （福谷保） 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～4	課題の明確化とその範囲の限定			福谷
	5～10	関連文献のレビュー			福谷
	11～16	臨床フィールドワークの着手			福谷
	17～22	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化			福谷
	23～26	研究デザインと研究計画			福谷
	27～28	デザインの選択			福谷
	29～30	介入のためのプロトコル作成			福谷
テキスト・参考図書	随時紹介する。各学生の研究テーマに関連する理論を用いる。				
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性の観点から評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学				

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	大町かおり		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 （大町かおり） 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	課題の明確化とその範囲の限定	大町
	5～10	関連文献のレビュー	大町
	11～16	臨床フィールドワークの着手	大町
	17～22	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化	大町
	23～26	研究デザインと研究計画	大町
	27～28	デザインの選択	大町
	29～30	介入のためのプロトコル作成	大町

テキスト・参考図書	随時紹介する。各学生の研究テーマに関連する理論を用いる。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	金物壽久		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （金物壽久） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成	金物
	5～8	研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化	金物
	9～18	研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練	金物
	19～24	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成	金物
	25～30	研究計画書の作成	金物

テキスト・参考図書	適宜紹介する。
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。

授業時間外の学習情報		
	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。

その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。
キーワード	整形外科学、スポーツ科学、医療社会学、肢体不自由

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	高嶋孝倫		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （高嶋孝倫） 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成	高嶋
	5～8	研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化	高嶋
	9～18	研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練	高嶋
	19～24	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成	高嶋
	25～30	研究計画書の作成	高嶋

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	生活支援技術、義肢装具、運動解析、福祉用具・支援機器	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	福谷保		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （福谷保） 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成	福谷
	5～8	研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化	福谷
	9～18	研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練	福谷
	19～24	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成	福谷
	25～30	研究計画書の作成	福谷

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（理学療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	大町かおり		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における理学療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （大町かおり） 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成	大町
	5～8	研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化	大町
	9～18	研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練	大町
	19～24	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成	大町
	25～30	研究計画書の作成	大町

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	外里冨佐江		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における作業療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 （外里冨佐江） 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	課題の明確化とその範囲の限定	外里
	5～10	関連文献のレビュー	外里
	11～16	臨床フィールドワークの着手	外里
	17～22	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化	外里
	23～24	研究デザインと研究計画	外里
	25～26	デザインの選択	外里
	27～30	介入のためのプロトコル作成	外里

テキスト・参考図書	随時紹介する。各学生の研究テーマに関連する理論を用いる。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	作業療法の介入と効果、脳機能と作業療法、超高齢化社会における社会参加、メディカルスタッフによる多職種連携の効果	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（作業療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	宮脇利幸		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における作業療法学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、演習や学生支援を行う。 （宮脇利幸） 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学に関連する研究課題について、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	課題の明確化とその範囲の限定	宮脇
	5～10	関連文献のレビュー	宮脇
	11～16	臨床フィールドワークの着手	宮脇
	17～22	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化	宮脇
	23～24	研究デザインと研究計画	宮脇
	25～26	デザインの選択	宮脇
	27～30	介入のためのプロトコル作成	宮脇

テキスト・参考図書	随時紹介する。各学生の研究テーマに関連する理論を用いる。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	外里冨佐江		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における作業療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （外里冨佐江） 作業療法の介入と効果の研究領域、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成	外里
	5～8	研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化	外里
	9～18	研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練	外里
	19～24	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成	外里
	25～30	研究計画書の作成	外里

テキスト・参考図書	適宜紹介する。
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。

授業時間外の学習情報		
	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。

その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。
キーワード	作業療法の介入と効果、脳機能と作業療法、超高齢化社会における社会参加、メディカルスタッフによる多職種連携の効果

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（作業療法学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	宮脇利幸		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における作業療法学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （宮脇利幸） 人間の発達過程、特に、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学に関連する研究課題ついて、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	研究デザインの選択と介入のためのプロトコル作成	宮脇
	5～8	研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化	宮脇
	9～18	研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練	宮脇
	19～24	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成	宮脇
	25～30	研究計画書の作成	宮脇

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	坂口けさみ、林かおり		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、講義や学生支援を行う。 （坂口けさみ、林かおり） 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	課題の明確化とその範囲の限定	坂口
	5～10	関連文献のレビュー	坂口
	11～16	臨床フィールドワークの着手	林
	17～22	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化	坂口
	23～26	研究デザインと研究計画	坂口
	27～28	データ分析の予備的検討	林
	29～30	介入のためのプロトコル作成	坂口

テキスト・参考図書	随時紹介する。各学生の研究テーマに関連する理論を用いる。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	リプロダクティブヘルス・ライツ、母性看護学、助産学、感染症予防	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅰ（母子看護学）			共通・専門科目の別	専門
担当教員	樋貝繁香				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習
授業の到達目標	１．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、レビューレポートの書き方を理解し、レビューレポートを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールド調整方法を理解し、フィールと調整することができる。 ４．自己の研究課題の枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にする方法を理解し、概念的定期・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、プロトコルの作成のプロセスを理解し、プロトコルを作成できる。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。				
授業科目の概要	発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、臨床のフィールドワーク、研究枠組みの明確化と概念定義、仮設の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習は、担当教員が専門とする研究・実務経験を活かして、講義や学生支援を行う。 （樋貝繁香） 乳幼児期・小児期に関連する研究課題に取り組もうとする者に、研究・実務経験を活かして演習を行う。				
授業計画	回	内容			担当
	1～4	課題の明確化とその範囲の限定			樋貝
	5～10	関連文献のレビュー			樋貝
	11～16	臨床フィールドワークの着手			樋貝
	17～22	枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化			樋貝
	23～26	研究デザインと研究計画			樋貝
	27～28	デザインの選択			樋貝
	29～30	介入のためのプロトコル作成			樋貝
テキスト・参考図書	随時紹介する。各学生の研究テーマに関連する理論を用いる。				
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性の観点から評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。			
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。			
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。				
キーワード	小児看護学、家族看護学				

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	坂口けさみ、林かおり		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （坂口けさみ、林かおり） 発達過程におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題に取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成	坂口
	5～8	研究する変数の測定法の特定　量的研究の場合のデータ解析手法の修得	林
	9～18	研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合の面接・観察手法及び内容分析方法の修得	坂口
	19～24	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成	坂口
	25～30	研究計画書の作成	坂口

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	リプロダクティブヘルス・ライツ、母性看護学、助産学、感染症予防	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	人間発達ケア演習Ⅱ（母子看護学）	共通・専門科目の別	専門
担当教員	樋貝繁香		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	1. 自己の研究課題について、研究デザインの選択と精密な介入プロトコル又はフィールドワークの計画について学び、自己の課題に係る計画を作成できる。 2. 研究対象となる母集団を特定する過程を学び、自己の課題に係る母集団を特定できる。 3. 研究する変数の測定法の特定の過程を学び、自己の課題に係る変数の測定法を特定できる。 4. 人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 5. 研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	発達過程における小児・母子を中心とした看護学に関連する研究課題の中から学生が選択した自己の研究課題について、研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を取り上げる。 本演習は、研究課題に基づき、担当する教員の指導により進める。 （樋貝繁香） 乳幼児期・小児期に関連する研究課題取り組もうとする者に、実践的研究手法に結び付ける演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1～4	研究デザインの選択と介入のためのプロコル作成	樋貝
	5～8	研究対象となる母集団の特定、選考基準と除外基準の明確化	樋貝
	9～18	研究する変数の測定法の特定　質的研究の場合は、面接・観察法の訓練	樋貝
	19～24	研究倫理について依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成	樋貝
	25～30	研究計画書の作成	樋貝

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	講義は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	小児看護学、家族看護学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	健康コミュニティ特論	共通・専門科目の別	専門
担当教員	川崎　千恵、熊本　圭吾、宮越　幸代、春原　るみ		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	前期	１５回	２単位	講義

授業の到達目標	１．コミュニティにおける包摂的な（inclusive)支援のあり方を述べることができる ２．コミュニティにおける包摂的な（inclusive)支援を展開する上で必要な理論、方法論を述べることができる ３．コミュニティ・人々がもつ特性を述べることができる ４．コミュニティの健康課題と関連要因を述べることができる
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する
授業科目の概要	本講座では、コミュニティの特性や健康課題を踏まえた、協働による包摂的な（inclusive)支援や、コミュニティに暮らす人々（特定集団）の健康への支援と、それらに関連する研究を行ううえで必要な理論と方法論を学修し、関心領域の研究につなげる。 プレゼンテーション演習を通して、特定のコミュニティ・対象集団についての理解を深め、コミュニティにおける包摂的な（inclusive)支援の実践と協働のあり方、コミュニティの人々の健康に関連する社会的要因を考慮した支援のあり方などを探求する。

授業計画	回	内容	担当
	1	オリエンテーション	川崎
	2	コミュニティにおける包摂的な支援とは	熊本
	3	コミュニティと人々の特性 -多様性と多文化共生社会-	宮越
	4	コミュニティの人々の健康と社会的要因	川崎
	5	コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援 -コミュニティ・アセスメントの理論、モデル、方法論等-	川崎
	6	コミュニティの健康課題に基づく包摂的支援 -事業化・施策化/施策提言-	川崎
	7	協働による包摂的支援（１）-パートナーシップの形成-	宮越
	8	協働による包摂的支援（２）-チーム・ビルディング-	宮越
	9	協働による包摂的支援（３）-コミュニティの人々と資源を総動員したコミュニティ組織化とコミュニティオーガニゼーション-	熊本
	10	講義・事例検討　-在宅療養者・生活上困難を抱えた住民への包摂的な支援-	春原
	11	講義・事例検討　-関係機関や住民との協働による包摂的な支援-	川崎
	12	講義・事例検討　-災害時における協働と住民支援（応急対策期・復興復旧期）	宮越
	13	プレゼンテーションのオリエンテーション	川崎、熊本、宮越、春原
	14	演習（プレゼンテーション準備）	〃
	15	プレゼンテーション、ディスカッション、まとめ	〃

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	出席状況、授業における課題レポート、プレゼンテーションの内容	
授業時間外の学習情報	事前学習	健康支援に関する情報を検索整理し、プレゼンテーション、ディスカッションで積極的に発言すること
	事後学習	新たな知識を整理すること
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	コミュニティ、包摂的支援（Inclusive support)、コミュニティ・アセスメント、協働、臨床科学、統計科学、社会福祉学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	健康コミュニティ演習Ⅰ	共通・専門科目の別	専門
担当教員	川崎　千恵　　熊本　圭吾		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．自己の研究課題を明確にするステップを理解し、自己の研究課題を明確にできる。 ２．自己の研究課題に関連する文献を収集し、文献レビューを作成できる。 ３．自己の研究課題の研究フィールドの必要要件、除外要件を明確化し、フィールドと調整することができる。 ４．研究枠組みを明確にし、概念的定義・仮説を明確にできる。 ５．研究デザインを選択し、自己の研究を遂行するためのプロトコルを作成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題を明確化し、関連文献のレビュー、フィールドワーク、研究枠組みの明確化、概念定義および仮説の明確化、研究デザインの選定、プロトコルの作成までを学修する。 本演習では、公衆衛生学の視点からの研究および社会調査や評価指標の開発などの手法を用いた研究を対象とするため、開講前に学生の研究課題もしくは関心のある課題についてヒアリングし、該当する課題を研究する教員を中心に進める。

授業計画

回	内容	担当
1	オリエンテーション	川崎、熊本
2	課題の明確化とその範囲の限定	川崎
3	〃	熊本
4～6	関連文献のレビュー	川崎
7～10	〃	熊本
11～14	フィールドワーク（プレ調査、フィールドの選定と確保）	川崎
15～17	〃	熊本
18～20	研究枠組みの明確化と概念的定義・仮説の明確化	川崎
21～24	〃　　最終報告	川崎、熊本
25～28	研究デザインの選定と研究プロトコルの作成	川崎
29～30	〃　　最終報告	川崎、熊本

テキスト・参考図書	随時紹介する。各学生の研究テーマに関連するテキストを用いる。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、倫理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	演習は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修することで、目標到達を目指す。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	公衆衛生看護学、保健師現任教育、社会的包摂、健康の社会的決定要因、 臨床心理学、統計科学、社会福祉学	

旧

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	健康コミュニティ演習Ⅱ	共通・専門科目の別	専門
担当教員	川崎　千恵　　熊本　圭吾		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
選択必修	１年次	後期	３０回	２単位	演習

授業の到達目標	１．自己の研究課題について研究デザインを選択し、自己の課題に係る計画を作成できる。 ２．人権擁護・倫理的配慮を検討する過程を学び、自己の課題に係る人権擁護と倫理的配慮を検討できる。 ３．研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成する過程を学び、自己の課題に係る研究計画書と研究倫理審査委員会への提出資料を完成できる。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健学研究科ディプロマポリシーの専門的知識と技能の習得に関連する。
授業科目の概要	本演習では、健康上の問題を抱える人々あるいは障害を持つ人々の、コミュニティにおける包摂的(inclusive)な支援プログラムの開発や実践に関連する研究課題の中から、学生が選択した自己の研究課題について、公衆衛生学の視点や社会調査や評価指標の開発などの手法を用い、演習Ｉで研究プロトコルを検討した研究の研究計画を仕上げ、研究倫理審査までの過程を学修する。本演習は、人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、学生自身の研究・実務経験を活かして演習を行う。

授業計画	回	内容	担当
	1	オリエンテーション	川崎、熊本
	2～3	研究目的、研究対象者（選考基準、除外基準）の特定	川崎
	4	〃	熊本
	5～6	研究デザインの特定と研究プロトコルの作成	川崎
	7～8	〃	熊本
	9～14	研究方法の具体化(測定法、	川崎
	15～20	〃	熊本
	21～22	研究倫理について:依頼及び説明文書、同意文書、同意撤回文書の作成	川崎
	23～24	〃	熊本
	25～27	研究計画書の作成	川崎
	28～29	〃	熊本
	30	研究計画書の発表	川崎、熊本

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	学生の研究計画立案に当たって、論理性、妥当性、新規性の観点から評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	演習は、学生と教員とでのディスカッションにより進めるので、学生が予習に必要な時間を確保する。
	事後学習	プレゼンテーションやディスカッションの内容を整理し、さらに必要となる知識を学修する。
その他（履修上の留意点）	質問、相談は、授業時だけでなく、メールでも随時受け付ける。	
キーワード	公衆衛生看護学、保健師現任教育、社会的包摂、健康の社会的決定要因、 臨床心理学、統計科学、社会福祉学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究	共通・専門科目の別	専門
担当教員	井部俊子　　水嵜知子		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	２年次	通期	―	10単位	演習

授業の到達目標	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解
授業科目の概要	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （井部俊子） 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。 （水嵜知子） 医療現場において組織を動かすこと及びケア提供における倫理・コミュニケーションに関連した研究課題の研究過程において、文献調査、先行研究の整理、収集したデータの分析についての研究を補助する。

授業計画	回	内容	担当
		研究計画書に基づく研究の実施	井部
		データの収集、データの入力及びデータの解析	水嵜
		データ結果の取りまとめ	水嵜
		論文作成	井部
		プレゼンテーションの準備	井部
		修士論文の提出	井部

テキスト・参考図書	適宜紹介する。
成績評価基準	研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。

授業時間外の学習情報		
	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。

その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。
キーワード	看護管理学、看護政策・行政、看護倫理学

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	金物　壽久				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	２年次	通期	―	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解				
授業科目の概要	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （金物尋久） 肢体不自由を中心とした人間の発達過程における障害に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。				

授業計画	回	内容	担当
		研究計画書に基づく研究の実施	金物
		データの収集、データの入力及びデータの解析	〃
		データ結果の取りまとめ	〃
		論文作成	〃
		プレゼンテーションの準備	〃
		修士論文の提出	〃

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。	
キーワード	整形外科学、スポーツ科学、医療社会学、肢体不自由	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	中島　八十一				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	２年次	通期	―	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解				
授業科目の概要	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （中島八十一） 後遺障害を持ちながら社会参加する人々の健康支援に関する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。				

授業計画	回	内容	担当
		研究計画書に基づく研究の実施	中島
		データの収集、データの入力及びデータの解析	〃
		データ結果の取りまとめ	〃
		論文作成	〃
		プレゼンテーションの準備	〃
		修士論文の提出	〃

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。	
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学、脳計測科学、神経生理学、神経内科学、精神神経科学、	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	外里　冨佐江				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	２年次	通期	―	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解				
授業科目の概要	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （外里冨佐江） 作業療法の介入と効果、脳機能と作業療法に関する研究領域、超高齢化社会における社会参加に関する研究領域、メディカルスタッフによる多職種連携の効果に関する研究領域に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。				
授業計画	回	内容			担当
		研究計画書に基づく研究の実施			外里
		データの収集、データの入力及びデータの解析			〃
		データ結果の取りまとめ			〃
		論文作成			〃
		プレゼンテーションの準備			〃
		修士論文の提出			〃
テキスト・参考図書	適宜紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	作業療法の介入と効果、脳機能と作業療法、超高齢化社会における社会参加、メディカルスタッフによる多職種連携の効果				

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	坂口けさみ　　林かおり				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	２年次	通期	―	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解				
授業科目の概要	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （坂口けさみ） リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題題について、論文作成するための研究指導を行う。 （林かおり） リプロダクティブヘルス・ライツ、および発達過程での感染症の実態と予防（ＨＩＶ含む）に関連する研究課題の研究過程において、文献調査、先行研究の整理、収集したデータの分析についての研究を補助する。				

授業計画	回	内容	担当
		研究計画書に基づく研究の実施	坂口
		データの収集、データの入力及びデータの解析	林
		データ結果の取りまとめ	林
		論文作成	坂口
		プレゼンテーションの準備	坂口
		修士論文の提出	坂口

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。	
キーワード	リプロダクティブヘルス・ライツ、母性・女性看護学、助産学、感染症予防	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	高嶋　孝倫				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	２年次	通期	―	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解				
授業科目の概要	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （高嶋孝倫） 人間の発達過程における障害に関する支援機器の役割等に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。				
授業計画	回	内容			担当
		研究計画書に基づく研究の実施			高嶋
		データの収集、データの入力及びデータの解析			〃
		データ結果の取りまとめ			〃
		論文作成			〃
		プレゼンテーションの準備			〃
		修士論文の提出			〃
テキスト・参考図書	適宜紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	生活支援技術、義肢装具、運動解析、福祉用具・支援機器				

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	宮脇　利幸				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	２年次	通期	―	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解				
授業科目の概要	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （宮脇利幸） 人間の発達過程、特に、、高齢期のリハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学に関連する研究課題ついて、論文作成するための研究指導を行う。				
授業計画	回	内容			担当
		研究計画書に基づく研究の実施			宮脇
		データの収集、データの入力及びデータの解析			〃
		データ結果の取りまとめ			〃
		論文作成			〃
		プレゼンテーションの準備			〃
		修士論文の提出			〃
テキスト・参考図書	適宜紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	リハビリテーション科学・福祉工学，応用健康科学				

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	熊本　圭吾				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	２年次	通期	―	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解				
授業科目の概要	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （熊本圭吾） 人々の健康への支援のための社会調査に関連する研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。				

授業計画	回	内容	担当
		研究計画書に基づく研究の実施	熊本
		データの収集、データの入力及びデータの解析	〃
		データ結果の取りまとめ	〃
		論文作成	〃
		プレゼンテーションの準備	〃
		修士論文の提出	〃

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。	
キーワード	臨床科学、統計科学、社会福祉学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	樋貝　繁香				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	２年次	通期	―	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解				
授業科目の概要	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （樋貝繁香） 乳幼児期・小児期に関連する研究課題について、論文作成するための研究指導を行う。				

授業計画	回	内容	担当
		研究計画書に基づく研究の実施	樋貝
		データの収集、データの入力及びデータの解析	〃
		データ結果の取りまとめ	〃
		論文作成	〃
		プレゼンテーションの準備	〃
		修士論文の提出	〃

テキスト・参考図書	適宜紹介する。	
成績評価基準	研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。	
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。	
キーワード	小児看護学、家族看護学	

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究			共通・専門科目の別	専門
担当教員	川崎　千恵				
必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	２年次	通期	―	10単位	演習
授業の到達目標	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。				
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解				
授業科目の概要	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （川崎千恵） 公衆衛生の視点から人々の健康への支援に関連する研究課題ついて、論文作成のための研究指導を行う。				
授業計画	回	内容			担当
		研究計画書に基づく研究の実施			川崎
		データの収集、データの入力及びデータの解析			〃
		データ結果の取りまとめ			〃
		論文作成			〃
		プレゼンテーションの準備			〃
		修士論文の提出			〃
テキスト・参考図書	適宜紹介する。				
成績評価基準	研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。				
授業時間外の学習情報	事前学習	自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。			
	事後学習	最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。			
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。				
キーワード	コミュニティ、包摂的支援（Inclusive support）、コミュニティ・アセスメント、協働				

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究	共通・専門科目の別	専門
担当教員	福谷　保		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	２年次	通期	―	10単位	演習

授業の到達目標	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解
授業科目の概要	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （福谷保） 理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学に関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。

授業計画	回	内容	担当
		研究計画書に基づく研究の実施	福谷
		データの収集、データの入力及びデータの解析	〃
		データ結果の取りまとめ	〃
		論文作成	〃
		プレゼンテーションの準備	〃
		修士論文の提出	〃

テキスト・参考図書	適宜紹介する。
成績評価基準	研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。
授業時間外の学習情報	事前学習　自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習　最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。
キーワード	理学療法学の運動療法学、組織学、骨格筋生理学

保健学研究科保健学専攻　シラバス

授業科目	保健学特別研究	共通・専門科目の別	専門
担当教員	大町　かおり		

必修・選択等の別	配当年次	配当学期	年間授業回数	単位数	授業の方法
必修	２年次	通期	―	10単位	演習

授業の到達目標	1. 研究計画書に基づき、研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を修得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を修得する。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）	保健・医療・福祉の専門分野に関する研究課題に高い倫理観をもち科学的な根拠に基づいて実践することの理解
授業科目の概要	共通科目、保健学総論及び専門科目の特論の履修により学んだ学識と技能を用いて、指導教員による直接指導のもとに、専門科目の演習において作成し倫理審査を経た研究プロトコルに沿って研究を実施し、成果を論文としてまとめ、論文審査を受けて論文発表を行う。論文作成過程を通じて、高度な知識・技術の集大成を図る。 （大町かおり） 理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドロームに関連した研究課題について、論文作成のための研究指導を行う。

授業計画	回	内容	担当
		研究計画書に基づく研究の実施	大町
		データの収集、データの入力及びデータの解析	〃
		データ結果の取りまとめ	〃
		論文作成	〃
		プレゼンテーションの準備	〃
		修士論文の提出	〃

テキスト・参考図書	適宜紹介する。
成績評価基準	研究計画を実行できれば「水準にある（可）」、加わえて正確なデータ分析ができれば「やや上にある（良）」、結果に基づき研究結果を口頭発表できれば「かなり上にある（優）」、論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している（秀）」と評価する。
授業時間外の学習情報	事前学習　自身が設定した課題を事前に把握して授業に臨む。
	事後学習　最新の論文を参照し、学修内容と照らし合わせて理解を深める。
その他（履修上の留意点）	日程については、個別相談の上調整する。
キーワード	理学療法学の動作解析、運動機能評価、運動機能維持、ロコモティブシンドローム

別紙12　新

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
教　授	博 士	人	人	人	5 人	1 人	1 人	6 人	13 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	人	1 人	1 人	人	人	2 人	
	修 士	人	人	人	人	2 人	人	人	2 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博 士	人	人	人	6 人	2 人	1 人	6 人	15 人	
	修 士	人	人	人	人	2 人	人	人	2 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

別紙12　旧

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
教　授	博 士	人	人	人	5 人	2 人	1 人	5 人	13 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	修 士	人	人	人	人	2 人	人	人	2 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博 士	人	人	人	6 人	2 人	1 人	5 人	14 人	
	修 士	人	人	人	人	2 人	人	人	2 人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

別紙13 新

教育課程等の概要

（保健科学部リハビリテーション学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
教養科目	導入科目	大学基礎セミナー	1前		1		○			3	1	4	2		
		理学療法基礎セミナー	1後		1			○		4	1	2	1		共同
		作業療法基礎セミナー	1後		1			○		3	1	3	2		共同
		アカデミックリテラシー	1前	1			○								兼1
		自然科学の基礎	1前	2			○								兼2 オムニバス
		情報リテラシー	1前	2				○		1					
	人文科学	心理学	1前	2			○								兼1
		倫理学	1前		2		○								兼1
		文化人類学	1前		2		○								兼1
		異文化理解	1前		2		○			1					
		信州学	1後		1		○								兼1
	社会科学	社会福祉学	1前	2			○			1					
		教育学	1後	2			○								兼1
		社会学	1前		2		○								兼1
		日本国憲法・法学	2前		2		○								兼1
	自然科学	物理学	1後		2		○								兼1
		統計学	1後	2			○			1					
		生物学	1後		2		○								兼1
		生化学	2前		2		○								兼1
	体育学	体育実技	1後	1					○						兼1
		体育学	1後	1			○								兼1
	外国語	英語Ⅰ	1前	1			○			1					兼2 共同
		英語Ⅱ	1後	1			○			1					兼1 共同
		英語Ⅲ	3前		1		○			1					
		医学英語Ⅰ	2前	1			○			1					兼1 共同
		医学英語Ⅱ	2後	1			○			1					
		医学英語Ⅲ	3後		1		○			1					
		ハングル	1後		2		○								兼1
		中国語	1後		2		○								兼1
		スペイン語	1後		2		○								兼2 オムニバス
	小計（30科目）		―	19	28		―			9	2	5	3		兼22
専門基礎科目	基礎医学	解剖学Ⅰ（総合）	1前	1			○								兼1
		解剖学Ⅱ（総合）	1後	1			○								兼1
		解剖学実習（人体解剖観察）	1後	1					○						兼3 共同
		解剖学演習Ⅰ（骨格系）	1前		2			○					1		
		解剖学演習Ⅱ（筋・神経系）	1後		1			○		1					
		運動器系解剖学Ⅰ	1前		1		○			1			1		オムニバス
		運動器系解剖学Ⅱ	1後		1		○			1			1		オムニバス
		体表解剖学演習	2前		1			○		1			1		共同
		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのための人体構造（運動器）	3前		1		○			1					
		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのための人体構造（神経系）	3前		1		○			1					
		生理学Ⅰ	1前	1			○								兼1
		生理学Ⅱ	1後	1			○								兼1
		生理学実習	2前	2				○		1	1	1	2		兼1
		理学療法基礎運動学Ⅰ	1後		1		○					1			
		理学療法基礎運動学Ⅱ	2前		1		○				1				
		作業療法基礎運動学Ⅰ	1後		1		○			1					
		作業療法基礎運動学Ⅱ	2前		1		○			1					
		運動学実習	2後		2			○		3	1	1	2		オムニバス・共同
		人間発達学	1後	1			○			1					兼1 オムニバス
専門基礎科目	臨床医学	病理学	2前	1			○								兼1
		医用画像解析学	3前	1			○			1					兼1 オムニバス
		臨床薬理学	3前	1			○								兼1
		栄養管理学	3後	1			○								兼1
		救急救命医学	3後	1			○								兼1
		リハビリテーション医学	2後	1			○			3					兼5 オムニバス

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	臨床医学	外科学	2後	1			○								兼1	
		整形外科学Ⅰ	2前	1			○			1						
		整形外科学Ⅱ	2後	1			○			1						
		内科学・老年学Ⅰ	2前	1			○								兼1	
		内科学・老年学Ⅱ	2後	1			○								兼1	
		神経内科学	2後	1			○			1						
		脳神経外科学	2前	1			○								兼1	
		小児科学・小児神経科学	2前	1			○								兼1	
		精神医学Ⅰ	2前	1			○								兼1	
		精神医学Ⅱ	2後		1		○								兼1	
		臨床心理学	3後	1			○								兼2	オムニバス
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	障害科学Ⅰ	1後	1			○			3					兼2	オムニバス
		障害科学Ⅱ	2前	1			○			1					兼6	オムニバス
		公衆衛生学	3後	1			○				1				兼3	オムニバス
		生命倫理	2後		1		○								兼1	
		人間関係論	2後		1		○				1	1				共同
		言語聴覚療法概論	4前		1		○								兼1	
		看護学概論	4前		1		○								兼1	
		介護学概論	4前		1		○								兼1	
	小計（44科目）		－	27	20		－			9	2	3	2		兼38	
専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ（導入論）	1前		1		○			1					兼1	共同
		理学療法概論Ⅱ（理学療法トピックス）	4前		1		○			1						
		病態運動学Ⅰ	2後		1		○			1						
		病態運動学Ⅱ	3前		1		○			1						
		理学療法総合演習Ⅰ	2後		1			○		1						
		理学療法総合演習Ⅱ	3前		1			○		1						
		理学療法総合演習Ⅲ	4後		1			○		1						
		理学療法研究法Ⅰ	3前		1		○			1						
		理学療法研究法Ⅱ	3後		1		○			4	1	2	1			共同
		理学療法研究法演習（卒業研究）	4通		2			○		4	1	2	1			共同
	理学療法倫理・管理	理学療法倫理・管理学	3後		2		○			1						
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	1後		1		○			1						
		理学療法評価学Ⅰ（関節機能系検査）	1後		1		○				1					
		理学療法評価学Ⅱ（筋機能系検査）	2前		1		○						1			
		理学療法評価学Ⅲ（各種検査と測定）	2前		2			○				1				
		理学療法評価学Ⅳ（模擬症例）	2後		1			○		1						
		理学療法評価学Ⅴ（実症例）	3前		2			○				1				
		理学療法評価学Ⅵ（高次脳機能検査）	3前		1		○			1						
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ（関節機能系）	2前		1		○						1			
		運動療法学Ⅱ（筋・神経機能系）	2後		1		○						1			
		運動療法学演習	3後		1			○		1						
		物理療法学Ⅰ	2前		1		○					1				
		物理療法学演習	2後		2			○				1				
		物理療法学Ⅱ（マッサージ）	3前		1		○				1					
		理学療法系義肢装具学Ⅰ	3前		1		○			1						
		理学療法系義肢装具学Ⅱ	3後		1		○			1						
		日常生活活動学Ⅰ（概論）	2後		2		○			1						
		日常生活活動学Ⅱ（各論）	3前		2			○		1						
		理学療法治療学Ⅰ（脳血管障害）	3前		1			○		1						
		理学療法治療学Ⅱ（運動器障害）	3前		2			○		1	1					オムニバス
		理学療法治療学Ⅲ（神経系障害）	3後		1			○				1				
		理学療法治療学Ⅳ（内部障害）	3前		1			○				1				
		理学療法治療学Ⅴ（発達障害）	3後		1			○				1			兼1	
専門科目	理学療法治療学	理学療法治療学Ⅵ（スポーツ障害）	3後		1		○				1					
		関節モビライゼーション	4前		1			○			1					
		認知理論に基づく運動療法	4前		1			○				1				
		固有受容性神経筋促通手技	4前		1			○							兼1	
		スポーツマッサージ	4前		1			○			1					
		呼吸理学療法	4前		1			○				1				
		発達学的視点に基づく運動療法	4前		1			○		1						
		感覚統合療法	4前		1			○				1				
		予防理学療法	4前		1			○		1						

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	地域理学療法学	地域理学療法学Ⅰ（概論）	2後		1		○			1					
		地域理学療法学Ⅱ（各論）	3前		1		○			2			1		オムニバス
		地域理学療法学Ⅲ（演習）	3後		1			○		2			1		オムニバス
		生活環境学	3後		1		○			1					
	理学療法臨床実習	臨床見学実習	1前		1				○	4	1	2	1		
		理学療法臨床評価実習Ⅰ	2後		3				○	4	1	2	1		
		理学療法臨床評価実習Ⅱ	3前		4				○	4	1	2	1		
		地域理学療法実習	4前		1				○	4	1	2	1		
		理学療法臨床実習Ⅰ	4前		8				○	4	1	2	1		
		理学療法臨床実習Ⅱ	4後		8				○	4	1	2	1		
	作業療法学	作業療法概論	1前		1		○			1					
		基礎作業療法学	1前		1		○				1				
		基礎作業学Ⅰ（基本・技法）	1前		1			○		1		2			共同
		基礎作業学Ⅱ（作業分析）	3前		1			○		1	1	1			共同
		作業療法研究法Ⅰ	3前		1		○			1					
		作業療法研究法Ⅱ	3後		1		○			3	1	3	2		共同
		作業療法研究法演習（卒業研究）	4通		2			○		3	1	3	2		共同
	作業療法倫理・管理	作業療法管理学	4前		2		○			1		3			オムニバス
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	1後		1		○			1					兼2 オムニバス
		身体系作業療法評価学	2前		1		○					1	2		共同
		精神系作業療法評価学	2前		1		○				1	1			共同
		発達系作業療法評価学	2前		1		○					1			
		作業療法評価学演習（総合）	2後		2			○		1	1	3	2		共同
	作業療法評価学	身体系作業療法学	2後		1		○					1	2		共同
		身体系作業療法治療学Ⅰ	3前		2		○					1	2		共同
		身体系作業療法治療学Ⅱ	3後		2		○			1		1	2		オムニバス
		精神系作業療法学	2後		1		○				1	1			共同
		精神系作業療法治療学Ⅰ	3前		2		○				1	1			兼1 オムニバス
		精神系作業療法治療学Ⅱ	3後		2		○				1	1			兼1 オムニバス
		発達系作業療法学	2後		1		○					1			
		発達系作業療法治療学Ⅰ	3前		2		○					1			
		発達系作業療法治療学Ⅱ	3後		2		○					1			
		高次脳機能系作業療法学Ⅰ	3前		2		○			1					
		高次脳機能系作業療法学Ⅱ	3後		1		○			1					
		高齢期作業療法学Ⅰ	2後		1		○			1					
		高齢期作業療法学Ⅱ	3前		1		○			1					
		日常生活活動学Ⅰ	2後		1			○				1	1		共同
		日常生活活動学Ⅱ	3前		1			○				1			
		作業療法系義肢装具学Ⅰ	3前		1		○			1					
		作業療法系義肢装具学Ⅱ	3後		1		○			1					
		職業前評価・治療学	3後		1		○				1				
		作業療法治療学演習(総合)	4前		1			○		3	1	3	2		共同
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	3前		2		○			1	1	2			共同
		地域作業療法学Ⅱ	3後		2		○			1	1	2			共同

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目	作業療法臨床実習	臨床見学実習	1前		1				○	3	1	3	2		
		作業療法臨床評価実習Ⅰ	2後		2				○	3	1	3	2		
		作業療法臨床評価実習Ⅱ	3前		3				○	3	1	3	2		
		地域作業療法実習	4前		1				○	3	1	3	2		
		作業療法臨床実習Ⅰ	4前		9				○	3	1	3	2		
		作業療法臨床実習Ⅱ	4後		9				○	3	1	3	2		
	関連科目 IPE	ヒューマンケア論	1前	1			○			3					兼2 オムニバス
		IPW論	2前	1			○			1					兼1 共同
		IPW演習Ⅰ	3前	1				○		3		1			兼16 共同
		IPW演習Ⅱ	4前	1				○		3		1			兼16 共同
	小計（96科目）		―	4	150		―			12	2	5	3		兼22
合計（170科目）			―	50	198		―			13	2	5	3		兼78

学位又は称号	学士（理学療法学） 学士（作業療法学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
〈理学療法学専攻〉 必修科目48単位、教養科目の選択科目から7単位以上（大学基礎セミナー、理学療法基礎セミナーを含む。）、専門基礎科目の選択科目7単位以上（解剖学演習Ⅰ（骨格系）、解剖学演習Ⅱ（筋・神経系）、理学療法基礎運動学Ⅰ、理学療法基礎運動学Ⅱ、運動学実習を含む。）、専門科目の選択科目から72単位以上を修得し、134単位以上修得すること。 〈作業療法学専攻〉 必修科目48単位、教養科目の選択科目から7単位以上（大学基礎セミナー、作業療法基礎セミナー含む。）、専門基礎科目の選択科目から8単位以上（運動器系解剖学Ⅰ、運動器系解剖学Ⅱ、体表解剖学演習、作業療法基礎運動学Ⅰ、作業療法基礎運動学Ⅱ、運動学実習を含む。）、専門科目の選択科目から75単位以上を修得し、138単位以上を修得すること。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別紙13 旧

教育課程等の概要

（保健科学部リハビリテーション学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養科目	導入科目	理学	大学基礎セミナー	1前		1		○					1				
			理学療法基礎セミナー	1後		1			○		4	1	2	1			共同
		作業	大学基礎セミナー	1前		1		○			3	1	3	2			共同
			作業療法基礎セミナー	1後		1			○		3	1	3	2			共同
	導入科目		アカデミックリテラシー	1前	1			○								兼1	
			自然科学の基礎	1前	2			○								兼2	オムニバス
			情報リテラシー	1前	2				○		1						
	人文科学		心理学	1前	2			○								兼1	
			倫理学	1前		2		○								兼1	
			文化人類学	1前		2		○								兼1	
			異文化理解	1前		2		○			1						
			信州学	1後		1		○								兼1	
	社会科学		社会福祉学	1前	2			○			1						
			教育学	1後	2			○								兼1	
			社会学	1前		2		○								兼1	
			日本国憲法・法学	2前		2		○								兼1	
	自然科学		物理学	1後		2		○								兼1	
			統計学	1後	2			○			1						
			生物学	1後		2		○								兼1	
			生化学	2前		2		○								兼1	
	体育学		体育実技	1後	1					○						兼1	
			体育学	1後	1			○								兼1	
	外国語		英語Ⅰ	1前	1			○			1					兼2	共同
			英語Ⅱ	1後	1			○			1					兼1	共同
			英語Ⅲ	3前		1		○			1						
			医学英語Ⅰ	2前	1			○			1					兼1	共同
			医学英語Ⅱ	2後	1			○			1						
			医学英語Ⅲ	3後		1		○			1						
			ハングル	1後		2		○								兼1	
			中国語	1後		2		○								兼1	
			スペイン語	1後		2		○								兼2	オムニバス
小計（31科目）				－	19	29		－			9	2	5	3		兼22	
専門基礎科目	基礎医学		解剖学Ⅰ（総合）	1前	1			○								兼1	
			解剖学Ⅱ（総合）	1後	1			○								兼1	
			解剖学実習（人体解剖観察）	1後	1					○						兼3	共同
			生理学Ⅰ	1前	1			○								兼1	
			生理学Ⅱ	1後	1			○								兼1	
			生理学実習	2前	2				○		1	1	1	2		兼1	
			人間発達学	1後	1			○			1					兼1	オムニバス
	基礎医学	理学療法	解剖学演習Ⅰ（骨格系）	1前		2			○					1			
			解剖学演習Ⅱ（筋・神経系）	1後		1			○		1						
			理学療法基礎運動学Ⅰ	1後		1		○					1				
			理学療法基礎運動学Ⅱ	2前		1		○				1					
			運動学実習	2後		2			○		2	1	1	1			オムニバス
		作業療法	運動器系解剖学Ⅰ	1前		1		○			1			1			オムニバス
			運動器系解剖学Ⅱ	1後		1		○			1			1			オムニバス
			体表解剖学演習	2前		1			○		1			1			共同
			ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのための人体構造（運動器）	3前		1		○			1						
			ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝのための人体構造（神経系）	3前		1		○			1						
			作業療法基礎運動学Ⅰ	1後		1		○			1						
			作業療法基礎運動学Ⅱ	2前		1		○			1						
			運動学実習	2後		2			○		1			1			共同

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門基礎科目	臨床医学	病理学	2前	1			○								兼1
		医用画像解析学	3前	1			○			1					兼1 オムニバス
		臨床薬理学	3前	1			○								兼1
		栄養管理学	3後	1			○								兼1
		救急救命医学	3後	1			○								兼1
		リハビリテーション医学	2後	1			○			3					兼5 オムニバス
		外科学	2後	1			○								兼1
		整形外科学Ⅰ	2前	1			○			1					
		整形外科学Ⅱ	2後	1			○			1					
		内科学・老年学Ⅰ	2前	1			○								兼1
		内科学・老年学Ⅱ	2後	1			○								兼1
		神経内科学	2後	1			○			1					
		脳神経外科学	2前	1			○								兼1
		小児科学・小児神経科学	2前	1			○								兼1
		精神医学Ⅰ	2前	1			○								兼1
		精神医学Ⅱ	2後		1		○								兼1
		臨床心理学	3後	1			○								兼2 オムニバス
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	障害科学Ⅰ	1後	1			○			3					兼2 オムニバス
		障害科学Ⅱ	2前	1			○			1					兼6 オムニバス
		公衆衛生学	3後	1			○				1				兼3 オムニバス
		生命倫理	2後		1		○								兼1
		人間関係論	2後		1		○				1	1			共同
		言語聴覚療法概論	4前		1		○								兼1
		看護学概論	4前		1		○								兼1
		介護学概論	4前		1		○								兼1
	小計（45科目）		―	27	22		―			9	2	3	2		兼38
専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ（導入論）	1前		1		○			1					兼1 共同
		理学療法概論Ⅱ（理学療法トピックス）	4前		1		○			1					
		病態運動学Ⅰ	2後		1		○			1					
		病態運動学Ⅱ	3前		1		○			1					
		理学療法総合演習Ⅰ	2後		1			○		1					
		理学療法総合演習Ⅱ	3前		1			○		1					
		理学療法総合演習Ⅲ	4後		1			○		1					
		理学療法研究法Ⅰ	3前		1		○			1					
		理学療法研究法Ⅱ	3後		1		○			4	1	2	1		共同
		理学療法研究法演習（卒業研究）	4通		2			○		4	1	2	1		共同
	理学療法倫理・管理	理学療法倫理・管理学	3後		2		○			1					
	理学療法評価学	理学療法評価学総論	1後		1		○			1					
		理学療法評価学Ⅰ（関節機能系検査）	1後		1		○				1				
		理学療法評価学Ⅱ（筋機能系検査）	2前		1		○						1		
		理学療法評価学Ⅲ（各種検査と測定）	2前		2			○				1			
		理学療法評価学Ⅳ（模擬症例）	2後		1			○		1					
		理学療法評価学Ⅴ（実症例）	3前		2			○				1			
		理学療法評価学Ⅵ（高次脳機能検査）	3前		1		○			1					
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ（関節機能系）	2前		1		○						1		
		運動療法学Ⅱ（筋・神経機能系）	2後		1		○						1		
		運動療法学演習	3後		1			○		1					
		物理療法学Ⅰ	2前		1		○					1			
		物理療法学演習	2後		2			○				1			
		物理療法学Ⅱ（マッサージ）	3前		1		○				1				
		理学療法系義肢装具学Ⅰ	3前		1		○			1					
		理学療法系義肢装具学Ⅱ	3後		1		○			1					
		日常生活活動学Ⅰ（概論）	2後		2		○			1					
		日常生活活動学Ⅱ（各論）	3前		2			○		1					
		理学療法治療学Ⅰ（脳血管障害）	3前		1			○		1					
		理学療法治療学Ⅱ（運動器障害）	3前		2			○		1	1				オムニバス
		理学療法治療学Ⅲ（神経系障害）	3後		1			○				1			
		理学療法治療学Ⅳ（内部障害）	3前		1			○				1			
		理学療法治療学Ⅴ（発達障害）	3後		1			○				1			兼1
		理学療法治療学Ⅵ（スポーツ障害）	3後		1		○				1				

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	理学療法治療学	関節モビライゼーション	4前		1			○			1					
		認知理論に基づく運動療法	4前		1			○				1				
		固有受容性神経筋促通手技	4前		1			○							兼1	
		スポーツマッサージ	4前		1			○			1					
		呼吸理学療法	4前		1			○				1				
		発達学的視点に基づく運動療法	4前		1			○		1						
		感覚統合療法	4前		1			○				1				
		予防理学療法	4前		1			○		1						
	地域理学療法学	地域理学療法学Ⅰ（概論）	2後		1		○			1						
		地域理学療法学Ⅱ（各論）	3前		1		○			2			1			オムニバス
		地域理学療法学Ⅲ（演習）	3後		1			○		2			1			オムニバス
		生活環境学	3後		1		○			1						
	理学療法臨床実習	臨床見学実習	1前		1				○	4	1	2	1			
		理学療法臨床評価実習Ⅰ	2後		3				○	4	1	2	1			
		理学療法臨床評価実習Ⅱ	3前		4				○	4	1	2	1			
		地域理学療法実習	4前		1				○	4	1	2	1			
		理学療法臨床実習Ⅰ	4前		8				○	4	1	2	1			
		理学療法臨床実習Ⅱ	4後		8				○	4	1	2	1			
	作業療法学	作業療法概論	1前		1		○			1						
		基礎作業療法学	1前		1		○				1					
		基礎作業学Ⅰ（基本・技法）	1前		1			○		1		2				共同
		基礎作業学Ⅱ（作業分析）	3前		1			○		1	1	1				共同
		作業療法研究法Ⅰ	3前		1		○			1						
		作業療法研究法Ⅱ	3後		1		○			3	1	3	2			共同
		作業療法研究法演習（卒業研究）	4通		2			○		3	1	3	2			共同
	作業療法倫理・管理	作業療法管理学	4前		2		○			1		3				オムニバス
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	1後		1		○			1					兼2	オムニバス
		身体系作業療法評価学	2前		1		○					1	2			共同
		精神系作業療法評価学	2前		1		○				1	1				共同
		発達系作業療法評価学	2前		1		○					1				
		作業療法評価学演習（総合）	2後		2			○		1	1	3	2			共同
	作業療法評価学	身体系作業療法学	2後		1		○					1	2			共同
		身体系作業療法治療学Ⅰ	3前		2		○					1	2			共同
		身体系作業療法治療学Ⅱ	3後		2		○			1		1	2			オムニバス
		精神系作業療法学	2後		1		○				1	1				共同
		精神系作業療法治療学Ⅰ	3前		2		○				1	1			兼1	オムニバス
		精神系作業療法治療学Ⅱ	3後		2		○				1	1			兼1	オムニバス
		発達系作業療法学	2後		1		○					1				
		発達系作業療法治療学Ⅰ	3前		2		○					1				
		発達系作業療法治療学Ⅱ	3後		2		○					1				
		高次脳機能系作業療法学Ⅰ	3前		2		○			1						
		高次脳機能系作業療法学Ⅱ	3後		1		○			1						
		高齢期作業療法学Ⅰ	2後		1		○			1						
		高齢期作業療法学Ⅱ	3前		1		○			1						
		日常生活活動学Ⅰ	2後		1			○				1	1			共同
		日常生活活動学Ⅱ	3前		1			○				1				
		作業療法系義肢装具学Ⅰ	3前		1		○			1						
		作業療法系義肢装具学Ⅱ	3後		1		○			1						
		職業前評価・治療学	3後		1		○				1					
		作業療法治療学演習(総合)	4前		1			○		3	1	3	2			共同
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	3前		2		○			1	1	2				共同
		地域作業療法学Ⅱ	3後		2		○			1	1	2				共同

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
専門科目	作業療法臨床実習	臨床見学実習	1前		1				○	3	1	3	2		
		作業療法臨床評価実習Ⅰ	2後		2				○	3	1	3	2		
		作業療法臨床評価実習Ⅱ	3前		3				○	3	1	3	2		
		地域作業療法実習	4前		1				○	3	1	3	2		
		作業療法臨床実習Ⅰ	4前		9				○	3	1	3	2		
		作業療法臨床実習Ⅱ	4後		9				○	3	1	3	2		
	関連科目 IPE	ヒューマンケア論	1前	1			○			3					兼2 オムニバス
		IPW論	2前	1			○			1					兼1 共同
		IPW演習Ⅰ	3前	1				○		3		1			兼16 共同
		IPW演習Ⅱ	4前	1				○		3		1			兼16 共同
	小計（96科目）		－	4	150		－			12	2	5	3		兼22
合計（172科目）			－	50	201		－			13	2	5	3		兼78

学位又は称号	学士（理学療法学） 学士（作業療法学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（リハビリテーション関係）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
〈理学療法学専攻〉 必修科目48単位、教養科目の選択科目から7単位以上（大学基礎セミナー、理学療法基礎セミナーを含む。）、専門基礎科目の選択科目7単位以上（解剖学演習Ⅰ（骨格系）、解剖学演習Ⅱ（筋・神経系）、理学療法基礎運動学Ⅰ、理学療法基礎運動学Ⅱ、運動学実習を含む。）、専門科目の選択科目から72単位以上を修得し、134単位以上修得すること。 〈作業療法学専攻〉 必修科目48単位、教養科目の選択科目から7単位以上（大学基礎セミナー、作業療法基礎セミナー含む。）、専門基礎科目の選択科目から8単位以上（運動器系解剖学Ⅰ、運動器系解剖学Ⅱ、体表解剖学演習、作業療法基礎運動学Ⅰ、作業療法基礎運動学Ⅱ、運動学実習を含む。）、専門科目の選択科目から75単位以上を修得し、138単位以上を修得すること。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

長野保健医療大学大学院研究科委員会規程（案）

別紙 14 新

（目的）

第１条　この規程は、長野保健医療大学大学院学則第 23 条第 2 項の規定に基づき、保健学研究科（以下「本研究科」という。）の重要事項を審議するため、研究科委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

（構成）

第２条　委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1)　研究科長

(2)　研究指導教員

(3)　前各号に掲げる者のほか、研究科長が必要と認める者

２　前項（3）の委員の任期は、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第３条　委員会に委員長をおき、研究科長をもってあてる。

（招集）

第４条　委員長は、委員会を招集してその議長となる。

２　議長に事故あるときは、あらかじめ議長が指名した委員がその職務を代行する。

（会議）

第 5 条　委員会は、構成員の過半数の出席により成立する。

２　委員会の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。ただし、修士論文及び最終試験の合否について議決するには、委員会構成員の３分の２以上の出席を必要とし出席委員の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

３　委員会は原則として月１回開催する。

４　議長が必要と認めるときは、臨時の委員会を招集することができる。

５　議長が必要と認めるときは、構成員以外を会議に参加させることができる。

（審議事項）

第６条　委員会は、次の事項を審議する。

(1)　学生の入学及び課程の修了に関する事項

(2)　修士論文及び最終試験の合否に関する事項

(3)　教育課程の編成に関する事項

(4)　研究に関する事項

(5)　学生の身分に関する事項

(6)　本研究科の運営に関する重要な事項
(7)　その他学長が委員会の意見を聴くことが必要と定める事項

（議事録）
第７条　委員会の議事については、議事録を作成し、議長及び出席した教員の中から議長が指名した者２名が署名押印する。次回以降の委員会において、その内容を確認する。

（事務）
第８条　委員会の事務は事務局において処理する。

（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の意見を聴いて、学長が定める。

（改廃）
第 10 条　この規程の改廃は、委員会の発議により、教授会の議を経て、運営会議の議決により行う。

附則
この規程は、令和３年４月１日から施行する。

長野保健医療大学大学院研究科委員会規程（案）

別紙 14 旧

（目的）

第１条　この規程は、長野保健医療大学大学院学則第 23 条第 2 項の規定に基づき、保健学研究科（以下「本研究科」という。）の重要事項を審議するため、研究科委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

（構成）

第２条　委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1)　研究科長

(2)　研究指導教員

(3)　前各号に掲げる者のほか、研究科長が必要と認める者

２　前項（3）の委員の任期は、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第３条　委員会に委員長をおき、研究科長をもってあてる。

（招集）

第４条　委員長は、委員会を招集してその議長となる。

２　議長に事故あるときは、あらかじめ議長が指名した委員がその職務を代行する。

（会議）

第 5 条　委員会は、構成員の過半数の出席により成立する。

２　委員会の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。ただし、修士論文及び最終試験の合否について議決するには、委員会構成員の３分の２以上の出席を必要とし出席委員の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

３　委員会は原則として月 1 回開催する。

４　議長が必要と認めるときは、臨時の委員会を招集することができる。

５　議長が必要と認めるときは、構成員以外を会議に参加させることができる。

（審議事項）

第６条　委員会は、次の事項を審議する。

(1)　学生の入学及び課程の修了に関する事項

(2)　修士論文及び最終試験の合否に関する事項

(3)　教育課程の編成に関する事項

(4)　研究に関する事項

(5)　学生の身分に関する事項

(6)　本研究科の運営に関する重要な事項
(7)　その他学長が委員会の意見を聴くことが必要と定める事項

（議事録）
第７条　委員会の議事については、議事録を作成し、議長及び出席した教員の中から議長が指名した者２名が署名押印する。次回以降の委員会において、その内容を確認する。

（事務）
第８条　委員会の事務は事務局において処理する。

（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の意見を聴いて、学長が定める。

（改廃）
第 10 条　この規程の改廃は、委員会の発議により、教授会の議を経て、運営委員会の議決により行う。

附則
この規程は、令和３年４月１日から施行する。

別紙 15 資料 11　新

長野保健医療大学大学院履修規程（案）

（令和 3 年 4 月 1 日）

(趣旨)

第 1 条　この規程は、長野保健医療大学大学院(以下「本大学院」という。)学則第 16 条に基づき、授業科目の履修に関し必要な事項を定める。

(授業科目等)

第 2 条　授業科目、配当年次、単位数、必修・選択の別、修了要件は、本大学院学則別紙 1 のとおりとする。

(指導教員)

第 3 条　授業科目の履修指導及び研究の指導を行うために、学生ごとに指導教員を定める。

(履修登録)

第 4 条　学生は、履修しようとする授業科目については、指導教員の承認を受け、各学期当初の所定の期日までに履修登録をしなければならない。

2　履修届を提出した後に履修科目の変更または取消をしようとする場合は、別に定める「授業科目履修変更届」を所定の期日までに、学長に提出しなければならない。

3　次に掲げる授業科目は履修することができない。

(1)既に単位を修得した授業科目

(2)授業時間が重複する授業科目

(3)複数開講されている同一の授業科目

(学部授業科目の聴講)

第 5 条　指導教員が本学学部授業科目の聴講をすることが必要と認めるときは、授業科目の科目担当者の承諾の下に、学部正規課程の学生の教育に支障のない場合に限り、研究科委員会の議を経て、学長が許可することができる。

2　聴講科目の単位は付与しない。

(欠席届)

第 6 条　病気その他やむを得ない理由により授業を受けることができなかった者は、欠席届(履修様式第〇号)を当該科目の担当教員に提出することができる。

2　前項により提出された欠席届による成績の評価への取扱いは、当該科目の担当教員の判断によるものとする。

3　忌引きによる欠席の場合は、欠席届の提出により、次の範囲内で欠席の扱いとしない。

一親等(父・母・子)及び配偶者　連続する 7 日間(休日を含む)
二親等(兄弟姉妹・祖父母)連続する　3 日間(休日を含む)
三親等(叔(伯)父・叔(伯)母)　1 日間(休日を含む)

(交通機関の不通等に伴う休講)
第 7 条　次の各号いずれかに該当する時、授業は原則として休講とする。
(1)事故、地震、積雪、ストライキ等により篠ノ井線・しなの鉄道線、飯山線・北しなの線が不通の時
ただし、バス等による振替輸送がある場合は不通とみなさない。
(2)県内に暴風、大雪、暴風雪、特別警報(以下「警報」という)発令時
2　前項により休講となった場合でも、篠ノ井線・しなの鉄道線、飯山線・北しなの線が復旧した場合、または警報が解除された場合は次のとおり授業を行う。

復旧(警報解除)時間	授業実施時限
7:00 現在で復旧(警報が解除)された場合	1 時限から実施
11:00 現在で復旧(警報が解除)された場合	3 時限から実施

3　前項に定める場合のほか、学長は災害その他緊急と認める場合は、授業を休講とすることができる。

(試験)
第 8 条　試験には、定期試験、追試験及び再試験がある。
2　定期試験は、原則として当該授業が終了する学期末に期間を定めて行う。
3　前項のほか当該授業の学期中に担当教員の判断により期間を定めず、随時に試験を行うことができる。
4　定期試験に代えて、論文、報告書(レポート)、口述を課すことができる。

(受験資格)
第 9 条　次のいずれかに該当する者は、試験を受けること、試験に代わる論文、報告書(レポート)を提出することができない。
(1)履修登録をしていない者
(2)原則として、試験科目の出席時間数が授業時間数の 3 分の 2 に満たない者。
(3)当該科目の試験時間の 3 分の 1 を超えて遅参した者
2　前項第 2 号にかかわらず、当該科目の担当教員が欠席の事情をやむを得ないと認めた場合は試験を受けること、又は試験に代わる論文、報告書(レポート)を提出することができる。

(成績評価の基準・成績評価)
第 10 条　成績はシラバスに定めた基準により判定する。
2　成績評価については、本大学院学則第 22 条に基づき、下表のとおりとする。

評価	評点	グレードポイント GP	単位の授与
秀（S）	90 点以上	4	授与
優（A）	80 点以上～90 点未満	3	
良（B）	70 点以上～80 点未満	2	
可（C）	60 点以上～70 点未満	1	
不可（D）	60 点未満	0	不授与
放棄（O）	評価不能	0	評価対象外
辞退（／）	評価不能	算定しない	不授与

3　秀、優、良及び可は合格、不可は不合格とする。
4　評点を付さない授業科目は、授与、不授与をもって表わし、GP には算定しない。
5　放棄の評価の登録単位数は、GPA の登録単位数に加算する。
6　履修登録を辞退した場合、その授業科目の登録単位数は GPA の登録単位数に加算しない。
7　再試験において単位を授与する場合の評価・評点は可(60 点))とする。
8　単位を授与されなかった科目は、再履修することができる。

(追試験)
第 11 条　忌引、疾病、その他やむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった者は、当該授業科目について追試験を受けることができる。
2　前項の追試験を受けようとする者は、別に定める「追試験申請書(履修様式第〇号)」に疾病の場合は、医師の診断書、その他の場合は、証明書または理由書を添え、原則として当該科目の試験の日から所定の期日までに学長に提出し、その許可を受けなければならない。
3　追試験の成績評価は、89 点を限度とする。

(再試験)
第 12 条　定期試験及び追試験で成績が合格点に達しなかった場合は必要に応じて科目担当教員等の判断により再試験を行うことができる。
2　再試験を許可された者は、「再試験願(履修様式第〇号)」に再試験料を添えて提出しなければならない。
3　再試験で合格した場合の成績は、「可」とする。

(再履修)
第 13 条　不合格または評価対象外とされた必修の授業科目は、再度履修(以下「再履修」という。)しなければならない。
2　再履修とされた科目は、原則として、授業を再度受講のうえ、試験を受けなければならな

い。

(修士論文または研究成果の提出)

第 14 条　学生は、指導教員の承認を得て、研究科委員会の定める期日までに修士論文または研究の成果(以下、併せて「論文等」という。)を提出しなければならない。

2　論文等に関する具体的な事項については、長野保健医療大学大学院学位規程に定める。

(既修得単位の認定)

第 15 条　本大学院学則第 19 条、20 条にある既修得単位の認定を受けようとする者は、所定の書式に成績証明書及び当該授業科目のシラバスを添えて提出し、研究科委員会の審査に基づき、研究科委員会の議を経て、学長が認定するものとする。

2　認定された単位の成績表示は、「N」とする。

3　既修得単位の認定による修業年限の短縮は行わない。

(進級)

第 16 条　研究科で指定した授業科目の単位を修得しなければ、進級又は研究科で指定した科目の履修ができない場合がある。

(不正行為)

第 17 条　定期試験及びこれに準じる試験において、不正行為があったと認められた揚合は、当該科目を不合格とする。なお、本大学院学則第 50 条に定める懲戒の対象とすることがある。

(改廃)

第 18 条　この規程の改廃は、研究科委員会の発議により、教授会の議を経て、運営会議の議決により行う。

附　則

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

別紙 15 資料 11　旧

長野保健医療大学大学院履修規程（案）

（令和 3 年 4 月 1 日）

(趣旨)

第 1 条　この規程は、長野保健医療大学大学院(以下「本大学院」という。)学則第 16 条に基づき、授業科目の履修に関し必要な事項を定める。

(授業科目等)

第 2 条　授業科目、配当年次、単位数、必修・選択の別、修了要件は、本大学院学則別紙 1 のとおりとする。

(指導教員)

第 3 条　授業科目の履修指導及び研究の指導を行うために、学生ごとに指導教員を定める。

(履修登録)

第 4 条　学生は、履修しようとする授業科目については、指導教員の承認を受け、各学期当初の所定の期日までに履修登録をしなければならない。

2　履修届を提出した後に履修科目の変更または取消をしようとする場合は、別に定める「授業科目履修変更届」を所定の期日までに、学長に提出しなければならない。

3　次に掲げる授業科目は履修することができない。

(1)既に単位を修得した授業科目

(2)授業時間が重複する授業科目

(3)複数開講されている同一の授業科目

(学部授業科目の聴講)

第 5 条　指導教員が本学学部授業科目の聴講をすることが必要と認めるときは、授業科目の科目担当者の承諾の下に、学部正規課程の学生の教育に支障のない場合に限り、研究科委員会の議を経て、学長が許可することができる。

2　聴講科目の単位は付与しない。

(欠席届)

第 6 条　病気その他やむを得ない理由により授業を受けることができなかった者は、欠席届(履修様式第〇号)を当該科目の担当教員に提出することができる。

2　前項により提出された欠席届による成績の評価への取扱いは、当該科目の担当教員の判断によるものとする。

3　忌引きによる欠席の場合は、欠席届の提出により、次の範囲内で欠席の扱いとしない。

一親等(父・母・子)及び配偶者　連続する 7 日間(休日を含む)
二親等(兄弟姉妹・祖父母)連続する　3 日間(休日を含む)
三親等(叔(伯)父・叔(伯)母)　1 日間(休日を含む)

(交通機関の不通等に伴う休講)
第 7 条　次の各号いずれかに該当する時、授業は原則として休講とする。
(1)事故、地震、積雪、ストライキ等により篠ノ井線・しなの鉄道線、飯山線・北しなの線が不通の時
ただし、バス等による振替輸送がある場合は不通とみなさない。
(2)県内に暴風、大雪、暴風雪、特別警報(以下「警報」という)発令時
2　前項により休講となった場合でも、篠ノ井線・しなの鉄道線、飯山線・北しなの線が復旧した場合、または警報が解除された場合は次のとおり授業を行う。

復旧(警報解除)時間	授業実施時限
7:00 現在で復旧(警報が解除)された場合	1 時限から実施
11:00 現在で復旧(警報が解除)された場合	3 時限から実施

3　前項に定める場合のほか、学長は災害その他緊急と認める場合は、授業を休講とすることができる。

(試験)
第 8 条　試験には、定期試験、追試験及び再試験がある。
2　定期試験は、原則として当該授業が終了する学期末に期間を定めて行う。
3　前項のほか当該授業の学期中に担当教員の判断により期間を定めず、随時に試験を行うことができる。
4　定期試験に代えて、論文、報告書(レポート)、口述を課すことができる。

(受験資格)
第 9 条　次のいずれかに該当する者は、試験を受けること、試験に代わる論文、報告書(レポート)を提出することができない。
(1)履修登録をしていない者
(2)原則として、試験科目の出席時間数が授業時間数の 3 分の 2 に満たない者。
(3)当該科目の試験時間の 3 分の 1 を超えて遅参した者
2　前項第 2 号にかかわらず、当該科目の担当教員が欠席の事情をやむを得ないと認めた場合は試験を受けること、又は試験に代わる論文、報告書(レポート)を提出することができる。

(成績評価の基準・成績評価)
第 10 条　成績はシラバスに定めた基準により判定する。
2　成績評価については、本大学院学則第 22 条に基づき、下表のとおりとする。

評価	評点	グレードポイント GP	単位の授与
秀（S）	90 点以上	4	授与
優（A）	80 点以上～90 点未満	3	
良（B）	70 点以上～80 点未満	2	
可（C）	60 点以上～70 点未満	1	
不可（D）	60 点未満	0	不授与
放棄（O）	評価不能	0	評価対象外
辞退（／）	評価不能	算定しない	不授与

3　秀、優、良及び可は合格、不可は不合格とする。
4　評点を付さない授業科目は、授与、不授与をもって表わし、GP には算定しない。
5　放棄の評価の登録単位数は、GPA の登録単位数に加算する。
6　履修登録を辞退した場合、その授業科目の登録単位数は GPA の登録単位数に加算しない。
7　再試験において単位を授与する場合の評価・評点は可(60 点))とする。
8　単位を授与されなかった科目は、再履修することができる。

(追試験)
第 11 条　忌引、疾病、その他やむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった者は、当該授業科目について追試験を受けることができる。
2　前項の追試験を受けようとする者は、別に定める「追試験申請書(履修様式第〇号)」に疾病の場合は、医師の診断書、その他の場合は、証明書または理由書を添え、原則として当該科目の試験の日から所定の期日までに学長に提出し、その許可を受けなければならない。
3　追試験の成績評価は、89 点を限度とする。

(再試験)
第 12 条　定期試験及び追試験で成績が合格点に達しなかった場合は必要に応じて科目担当教員等の判断により再試験を行うことができる。
2　再試験を許可された者は、「再試験願(履修様式第〇号)」に再試験料を添えて提出しなければならない。
3　再試験で合格した場合の成績は、「可」とする。

(再履修)
第 13 条　不合格または評価対象外とされた必修の授業科目は、再度履修(以下「再履修」という。)しなければならない。
2　再履修とされた科目は、原則として、授業を再度受講のうえ、試験を受けなければならな

い。

(修士論文または研究成果の提出)

第 14 条　学生は、指導教員の承認を得て、研究科委員会の定める期日までに修士論文または研究の成果(以下、併せて「論文等」という。)を提出しなければならない。

2　論文等に関する具体的な事項については、長野保健医療大学大学院学位規程に定める。

(既修得単位の認定)

第 15 条　本大学院学則第 19 条、20 条にある既修得単位の認定を受けようとする者は、所定の書式に成績証明書及び当該授業科目のシラバスを添えて提出し、研究科委員会の審査に基づき、研究科委員会の議を経て、学長が認定するものとする。

2　認定された単位の成績表示は、「N」とする。

3　既修得単位の認定による修業年限の短縮は行わない。

(進級)

第 16 条　研究科で指定した授業科目の単位を修得しなければ、進級又は研究科で指定した科目の履修ができない場合がある。

(不正行為)

第 17 条　定期試験及びこれに準じる試験において、不正行為があったと認められた揚合は、当該科目を不合格とする。なお、本大学院学則第 50 条に定める懲戒の対象とすることがある。

(改廃)

第 18 条　この規程の改廃は、研究科委員会の発議により、教授会の議を経て、運営委員会の議決により行う。

附　則

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。